

Syllabus

外国語学部

外国学科

2019～2020 年度入学生

吉備国際大学

授業科目名	吉備国際大から世界へ			履修期	2020年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	GE-KE-1-001	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>受講者には海外留学、またその先の社会への出立に際して、国際人としてもつべき基本的な知識や態度、吉備国際大学の出身者として身に付けて欲しい気概を理解していただきたい。そのうえで、世界の中にある自らの存在理由を問う人へと一歩を踏み出すこと、これが本講義の到達目標である。外国学科がどのような理想を持ち、どのような意図で運営されているのか。地域社会の中で、いかなる存在として認められたいのか。世界に飛翔する、あるいは一隅にあっても常に世界をも射程に入れておくために有用な知見を伝えたい。</p>						
概要	<p>卒業生をして社会に有為な人材たらしめんと希求する吉備国際大学の建学の理念は、世界への飛翔を見据えたものである。本講義は日本から世界をという視座、世界の特定の国、地域からという視座、これらの二つの視座から現在を考える素材を提供する。日本人教師による海外体験、そこから振り返った日本の姿、外国人教師による日本体験、母国の暮らしや社会・文化の諸事情は受講者の立脚点を照らす好素材となろう。吉備国際大から世界へ、講師全員がこのテーマに沿って受講者を世界へと誘うことが、自らの生活の基盤である地域社会へと向かう意識を覚醒させることになるように心がけたい。</p> <p>この講義シリーズを通じて、受講生には、世界と日本の社会と文化を理解してもらいたい。地域社会における日本人と外国人との共生、近年注目を集める日本の入国管理政策、在留外国人施策は、講義の中で触れると共に、各講師の考察を紹介する。</p> <p>実務経験教員：本科目の担当教員全員は、多かれ少なかれ、海外留学、海外勤務、研修生・留学生の受入れ、学生の留学送りだし、留学生と共に地域振興の取組みを経験している。</p>						
評価方法	各講義時にレポート(50%)を提出する。単位認定試験(50%)と共に評価の対象となる。						
履修条件・注意事項	講師依頼の都合上、一部変更があるかもしれない。掲示に留意されたい。						
自己学習	予習復習、自ら考えるために課題が指示される。毎回2時間の予習復習を行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日3限目、4限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1 吉備国から世界へ	講義	加計美也子					
2 西洋と日本の絵画	講義	大下浩司					
3 Make Yourself Heard!	講義	フォーセット					
4 インドの暮らし 都市と農村	講義	大下朋子					
5 南フランスの光と風ープロヴァンスからラングドックへ	講義	加藤健次					
6 American Customs & Japanese-English	講義	ガルシア					
7 World Englishes－English as a Means of Communication	講義	金沢真弓					
8インドの社会課題と改善に向けての取り組み NGOの役割	講義	橋本由紀子					
9 Global environmental issues and the impacts on Japan	講義	メルビオ					
10 Foreign Travel Tips	講義	ウォーナー					
11 吉備から世界へー私のアフリカ経験ー	講義	畝 伊智朗					
12 “you”は”あなた”それとも”お前”	講義	高橋正巳					
13 アメリカ合衆国の大学体験	講義	高木秀明					
14 留学体験をどう生かすか?	講義	池上真由美					
15世界の国々のいろいろな単位	講義	佐藤 匡					
教科書 1	予習復習の課題とは別に参考文献として適宜指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	地域学概論			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	GE-KE-1-002
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:岡山地域の歴史・文化・福祉社会・経済動向</p> <p>現代の社会経済の流れと平行した地域を媒介とした人びとの生活は、人びととの関係が希薄化してきたことに象徴されるように、生き方の基盤ともなるべき文化創造と密接不可分である。山川草木としての自然との接触からの乖離、あるいは地域の資源を活かした仕事づくりからの後退、そして地域を媒介にした近隣でなされていた助け合いや援助の衰退など、これらを再創造する必要性が現在では大きくなっている。そこで、本講義では、それぞれ地域での生活を成り立たせようと企画・計画し、現地でそれを生かそうと活躍する方々を講師を招き話をしてもらうことで、学生が地域社会の現状を把握できるようになることを目的としている。もちろん、これは講師の話に対する、聴く力、疑問をもつ力、尋ねる力、そして自分で調べる力、さらにはそれらを文章にまとめてレポートする力を身に付けることでもある。</p>						
概要	<p>岡山地域と一口にいても、文化問題から社会経済問題、もっと具体化して言えば、歴史や伝統、文化芸術やそれらの資源、あるいは福祉や健康などまでがある。そこで、ここでは直接に現場に足を運ぼう。そして、諸君らはそれを見ながら専門家の説明を聞こう。あるいは岡山市役所では、今市民のためにどんなことを計画したり市民サービスをやっているだろうか。地域をどう動かしているのか、それを施策する行政の立場から諸君らに考えてもらいたいことを訴えてもらおうと思う。もちろん、諸君らにも考えたことを報告してもらおう。</p> <p>* 実務経験のある教員による授業科目:この科目は、研究所、博物館、美術館など、それぞれ専門研究に従事する外部講師のところへ出掛けて、現成や課題、それを解決するために必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。</p>						
評価方法	<p>講義において問題に答え感想や意見、提言を書く日常的な参加態度が重要となるので50点。持ち帰りレポート(小論文)に30点、期末の単位認定試験に20点の配点で、これらを総合して評価する。単位認定試験は、原則として講義の最終日に実施するが、各時間の感想や意見、提言および「持ち帰りレポート」(400字×5枚以上)の小論文を提出しなければ、単位を認定しないことがあるので要注意のこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>講義に関する感想や意見、提言などをまとめて提出してもらおう。持ち帰りレポートを単位認定試験と一緒に提出することを条件とするので、講義に関する書籍等も読みまとめておくこと。また、学外に出掛けたり講師を招いたりして話をしてもらうので、先生に対する対応(挨拶、私語の禁止、感謝の言葉など)がよくできること。また、美術館、博物館、あるいは史跡などに出掛けるので参加が必要だが、交通費や拝観料などは実費負担となる。</p>						
自己学習	<p>毎回の講義で配布したプリント資料をよく読んで整理しておき、仲間と討論できるように予習と復習をしておくこと。また、新聞やテレビのニュースが話を聞くのに欠かせないので、それを読んだり聞いたりしてノートに整理しまとめておくこと。</p>						
オフィスワ-	<p>* 実務経験のある教員による授業科目:この科目は、経済経営に関する経営実務のある外部講師を招き、現成や課題、それを解決するために必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.せとうちの風土が生んだ芸術家 3.せとうちの自然環境と古代生物 4.なぜカブトガニが笠岡湾中心か 5.岡山県の問題発見 6.岡山県の医療福祉 7.岡山地域の問題解決 8.後楽園のある岡山 9.後楽園と借景文化 10.池田家の家宝と備前文化 11.学芸員は岡山をどう企画する 12.岡山市の男女共同参画 13.岡山市の最新の雇用事情 14.高梁の武家屋敷を歩く 15.寺院の文化と坐禅の体験 16.期末単位認定試験 			<p>講義 学外 学外 学外 講義 講義 講義 学外 学外 学外 学外 講義 講義 学外 学外 レポート試験</p>	<p>高橋 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 高橋</p>
教科書 1	必要に応じて随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	地域貢献ボランティア			履修期	2020年度 春学期	
担当者	大下 朋子、池上 真由美				NO.	GE-KE-2-003
配当学科	外国			年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態 実習
テーマと到達目標	「地域貢献ボランティア活動を通して地域社会に積極的に参加できる人材となること」をテーマとする。外国学科のディプロマポリシーの一つとして、学生が卒業するまでに「海外の人々に自分と自国について自信を持って語り、失敗を恐れず未来に向かってチャレンジし続ける態度」を身に付けることを目標としている。本科目は、その目標を達成する一助として位置づけられた科目である。具体的には、フジアーノ岡山のホームゲーム活動、前日準備、スタッフ交流イベントにおけるボランティア活動への参加である。学生は、ボランティアを通して、地域の人々と共にふれあい、活動することで、地域社会に貢献しようとする心や姿勢を持ち、地域社会の一員として積極的に活動できる人材の育成を到達目標とする。					
概要	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアを行う。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学ぶ。その後、フジアーノ岡山のホームゲーム活動、前日準備、スタッフ交流イベントにおけるボランティア活動を11コマ分(22時間以上)行なう。受講生はボランティア活動の予定表(5月～12月末まで)から活動時間合計22時間以上になるよう選択し、活動を行う。学期毎に、活動報告会を設けプレゼンテーションを行う。ボランティア活動内容について活動報告書(1,000字以上)を作成する。 【実務経験のある教員による授業】 地域貢献に関する実務経験者を外部講師とし、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義を学ぶ。					
評価方法	ボランティア活動の内容および活動報告書、発表会内容等により、授業の到達目標についての達成度をトータルで評価する。具体的には、ボランティア活動状況60%、プレゼンテーション20%、活動報告書20%のウエイトにより評価する。					
履修条件・注意事項	本科目の履修希望者は、必ず初回のオリエンテーションに参加すること。履修登録までに、大学が加盟する任意保険(学生教育研究災害傷害保険「学研災」)に加入すること。ボランティア活動時は、ボランティアカードと学生証を携帯し、受入れ事業者の指示に従い、事故に注意すること。ボランティア終了時には、活動時間を記入し、事業者に終了確認印を受領すること。					
自己学習	ボランティア活動に参加する前に、参加するボランティア活動の内容についてインターネットなどを活用して調べておくこと。また、ボランティア終了後にはその都度活動の内容について振り返りを行い、記録を整理しておくこと。予習及び復習には各2時間程度を要する。					
オフィスワ-	〔春学期〕毎週火曜日2時限(池上)／毎週●曜日●時限(大下) 〔秋学期〕毎週火曜日2時限(池上)／毎週●曜日●時限(大下)					
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者	
1. ボランティア活動の基礎的理解 2. ボランティア活動の注意点と活動計画作成 3. ボランティア活動 4. ボランティア活動 5. ボランティア活動 6. ボランティア活動 7. ボランティア活動 8. 活動報告①	講義 演習・AL 実習 実習 実習 実習 実習 演習・AL	池上・大下 外部講師・池上・大下 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 池上・大下	9. ボランティア活動 10. ボランティア活動 11. ボランティア活動 12. ボランティア活動 13. ボランティア活動 14. ボランティア活動 15. 活動報告② 16. 試験(活動報告書)	実習 実習 実習 実習 実習 演習・AL 演習・AL	外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 池上・大下 池上・大下	
教科書 1	資料を適宜配布					
教科書 2						
参考書 1	ボランティア論 著者:柴田謙治他 出版社:みらい ISBN:978-4-86015-206-2					
参考書 2						

授業科目名	キャリア開発 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	高木 秀明				NO.	GE-CG-1-001	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ:ディプロマポリシーの「態度」を達成するために、在学中に国内外の社会について関心を持つようとする態度を育み、卒業後の進路、社会的・経済的自立を見据えた学生生活の建設的計画を考える。</p> <p>到達目標:教養・コミュニケーション力・自立性・責任感・判断力など社会が求めている人間像について考え、各自が具体的な目標を掲げて学生生活を過ごすことのできる基礎力を身につけること。</p>						
概要	<p>卒業後を見据え、学生生活を有意義におくるための意識づくりをする授業である。大学生としての授業の受け方、自己の現在の学力を知るための基礎学習講座、実社会を理解するための新聞などのメディアを読み解く授業を織り交ぜながら、自己形成に第一歩踏み出す。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、メンタルヘルスについての実務経験のある外部講師を招き、大学生が学修や課外活動などの場面においてメンタルヘルスを保つための方法などについての学生の理解を深める。</p>						
評価方法	発言回数などの授業への参加度＋授業毎の提出物:60%、単位認定試験40%						
履修条件・注意事項	キャリア開発Iでは、学外から講師の先生をお招きして、外国学科での大学生活を有意義にする様々な知識や習慣を身につけられる授業を行う回もある。自己学修はもとより、真摯な態度で授業を聴講すること。						
自己学習	毎回の授業内容のノートテイク、配布資料の整理をしっかりと行うこと。ノートに記録した事項を十分に咀嚼して次回の授業に望むこと。その次の授業前には、前回までの学習内容がきちんと頭に入っていることが重要である。復習と併せ、授業前には予習の代わりともなる社会の話題把握に努め、授業に臨むこと。						
オフィスワ-	火曜日2時限114研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 基礎学習講座 3. メンタルヘルス 4. 自分を知る 5. 大学生のキャリア開発 6. 新聞活用・世の中を知る 7. なぜ敬語を使うのか 8. 留学×キャリア 9. 他者との協力・共有 10. 労働関係法規セミナー 11. 自分を伝える 12. コミュニケーションする難しさ 13. 基礎学習講座2回目 14. キャリアマインドを育成する 15. 単位認定試験		演習 講義 講義 AL AL AL AL AL AL AL AL 演習 AL 演習 演習 演習 演習 演習 レポート	高木 高木 高木・森信 高木 高木・外部講師 高木・外部講師 高木・外部講師 高木・外部講師 高木 高木・外部講師 高木 高木 高木 高木				
教科書 1	各回、プリント等を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	情報処理 I			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	佐藤 匡					NO.	GE-IT-1-001
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義と演習
テーマと到達目標	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限のコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。						
概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。この科目は、企業における情報システム管理部門としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、現場において実践的に役立つ授業を実施する。講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習をおこなう。						
評価方法	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明を求める。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度を30%の重みづけで評価する。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定(到達目標)の判断基準とする。						
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。講義は指定されたクラス・講義室で受講すること(受講者数はパソコン教室の定員以内とする)。オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」を実施する。このシート未受験者の履修は認めない。高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。授業計画の内容は、進捗の状況に応じて変更になることがある。						
自己学習	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明を求め、その状況を積極的な参加態度として成績評価の得点とする。						
オフィスワ-	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回 オリエンテーション(クラス・教科書、ログイン等確認) 第2回 パソコンのハードウェアと周辺機器 第3回 デジタルデータのしくみ(ビット/バイト・標準化・コード) 第4回 OSとアプリケーション 第5回 ファイルシステム操作 第6回 文書作成(ワープロソフト)操作 第7回 文書作成(ワープロソフト)課題 第8回 表計算ソフト操作 第9回 表計算ソフト課題 第10回 プレゼンテーションソフト操作 第11回 プレゼンテーションソフト課題 第12回 ネットワークとインターネット 第13回 インターネットによる情報検索・情報セキュリティ 第14回 コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決 第15回 情報モラルと社会問題、まとめ・質疑 第16回 単位認定試験	講義・演習 講義 講義 講義 講義・演習 演習 講義・演習 講義・演習 演習 講義・演習 演習 講義・演習 講義 AL・演習 講義 講義 実技試験	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤		
教科書 1	情報リテラシー 入門編<改訂版>FPT1716 出版社:FOM出版 ISBN:978-4-86510-345-8						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	情報処理 I			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高木 秀明				NO.	GE-IT-1-001	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義と演習
テーマと到達目標	<p>高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限のコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。</p> <p>コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。</p>						
概要	<p>情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。</p> <p>この科目は、企業における情報システム管理部門としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p> <p>講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習をおこなう。</p>						
評価方法	<p>「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明を求める。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度を30%の重みづけで評価する。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定(到達目標)の判断基準とする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>教科書は必ず初回の講義から持参すること。</p> <p>講義は指定されたクラス・講義室で受講すること(受講者数はパソコン教室の定員以内とする)。</p> <p>オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」を実施する。このシート未受験者の履修は認めない。</p> <p>高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。</p> <p>授業計画の内容は、進捗の状況に応じて変更になることがある。</p>						
自己学習	<p>各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。</p> <p>また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。</p> <p>授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。</p> <p>予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明を求め、その状況を積極的な参加態度として成績評価の得点とする。</p>						
オフィスワ-	1号棟1階個人研究室にて、金曜日2時限に実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回オリエンテーション(クラス・教科書、ログイン等確認) 第2回パソコンのハードウェアと周辺機器 第3回デジタルデータのしくみ(ビット/バイト・標準化・コード) 第4回 OSとアプリケーション 第5回ファイルシステム操作 第6回文書作成(ワープロソフト)操作 第7回文書作成(ワープロソフト)課題 第8回表計算ソフト操作 第9回表計算ソフト課題 第10回プレゼンテーションソフト操作 第11回プレゼンテーションソフト課題 第12回ネットワークとインターネット 第13回インターネットによる情報検索・情報セキュリティ 第14回コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決 第15回情報モラルと社会問題、まとめ・質疑 第16回単位認定試験	講義・演習 講義 講義 講義・演習 演習・演習 講義・演習 演習 講義・演習 演習 講義・演習 講義 AL・演習 講義 講義 筆記試験	高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木		
教科書 1	情報リテラシー 入門編 <改訂版> FPT1716 出版社:FOM出版 ISBN:978-4-86510-345-8						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	フランス語 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	加藤 健次				NO.	GE-LF-1-001	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」をテーマとし、大学で始めて第二外国語としてフランス語を学ぶ学生が、初歩的なコミュニケーション技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ。日常的によく使われるフランス語の例文を覚えて話せるようになることを目標とする。						
概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が説明され、できるだけ実用的な語彙が自然に覚えらるようになっていく。						
評価方法	「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験(40%)、授業への積極的な参加態度(20%)、単位認定試験(40%)を合計して総合評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。なお、評価のために実施した口頭試験の課題は、各授業で繰り返し練習することになるが、筆記試験としての単位認定試験までに書けるようにしておくこと求められる。						
履修条件・注意事項	毎授業の終わりに「次週の暗唱例文」が課題として示されるので、これらがスムーズに発話できるように予習してくる。また、単位認定試験に向けてそれらを書けるように練習すること。耳と口と手で繰り返し練習することが求められるので要注意。						
自己学習	毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。その成果は、各週の口頭試験と最終週の単位認定試験(筆記)で問われる。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. Leçon 0「あいさつの」の基本、フランス人の名前 2. Leçon 1アルファベ、綴り記号、発音の規則(1) 3. Leçon 2名詞の性数、冠詞、VoisiとVoilà 4. Leçon 2数、発音の規則(2)、指示形容詞、前置詞 5. Leçon 3主語、er動詞の活用、C'est, Ce sont 6. Leçon 3etreの活用、所有形容詞 7. Leçon 4avoirの活用、Il y a 構文、否定形 8. Leçon 4ir動詞の活用、否定疑問、命令形 9. Leçon 5形容詞の性数一致、allerの活用、近接未来 10. Leçon 5特殊な変化をする形容詞、venirの活用、近接過去 11. Leçon 6 疑問副詞、疑問代名詞、 12. Leçon 6様々な不規則動詞、所有代名詞 13. Leçon 7直説法複合過去、疑問形容詞 14. Leçon 7受動態、人称代名詞の強勢形 15. 単位認定試験		講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 筆記試験	加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次				
教科書 1	ゼロからスタート フランス語 会話編 著者:鈴木文恵 出版社:Jリサーチ出版 ISBN:978-4-86392-103-0						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	フランス語Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期				
担当者	加藤 健次						NO.	GE-LF-1-002		
配当学科	外国				年次	1				
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習			
テーマと到達目標	「フランス語で会話を楽しむことができる」をテーマとし、フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語技能検定5級に合格するレベルを到達目標とする。									
概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、検定問題も念頭に置いて教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことで本気で語彙力や発話力を身につけ、検定試験に合格しよう。									
評価方法	「フランス語で会話を楽しむことができる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験(30%)、授業への積極的な参加態度(20%)、単位認定試験(50%)を合計して総合評価する。									
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰを履修していること。									
自己学習	予習復習は各2時間程度行うこと。予習は、毎授業の終わりに「次週の暗唱例文」が課題として示されるので、これらがスムーズに発話できるようにしてくることである。復習は、そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。復習の結果は、各週の小テストや最終週の単位認定試験で問われる。									
オフィスワ-	岡山キャンパス1号棟2階個人研究室火曜日2限。									
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者					
			1. 発音と綴字の復習 2. 直説法半過去 3. 比較級と最上級 4. 補語人称代名詞 5. 代名動詞、関係代名詞 6. 直説法単純未来 7. 非人称表現、数(100まで) 8. 現在分詞 9. ジェロンディフ 10. 不定詞 11. 強調構文 12. 条件法 13. 接続法 14. 話法 15. まとめの問題 16. 単位認定試験	講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 筆記試験	加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次					
教科書 1	ゼロからスタート フランス語 会話編 著者:鈴木文恵 出版社:Jリサーチ出版 ISBN:978-4-86392-103-0									
教科書 2										
参考書 1										
参考書 2										

授業科目名	ドイツ語 I				履修期	2020年度 春学期		
担当者	大原 秀行					NO.	GE-LG-1-001	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	初めてドイツ語に接する受講者にとって、まずドイツ語の楽しさを肌で吸収してもらいます。ドイツ語だけではなく、ドイツ語を話す国々の社会情勢も学んでもらいます。基本的な文法を学びながら、まず自分の耳で聞くドイツ語、自分の口で話すドイツ語を身に付けてもらいます。そして自己紹介をドイツ語で行えるようにします。							
概要	もしあなたがドイツへ旅行に行ったり、ドイツの大学に短期留学しても、恐らく英語が出来れば問題なく過ごせるでしょう。しかし、もしあなたが簡単なドイツ語を理解しているならば、簡単なドイツ語を話せたら、きっとたくさんの友達が出来て、あなたのドイツ生活は素晴らしいものになりますよ。							
評価方法	出欠状況、受講態度、授業中の質疑応答、最終試験等を総合して評価する。なお、出席率が2/3に達していない者は、履修放棄とみなしE判定となる。							
履修条件・注意事項	授業は必ず出席してください。 ドイツ語の辞書を購入してください。試験時にはドイツ語の辞書のみ持ち込みを可とします。							
自己学習	授業の予習・復習は当然のことですが、新聞やテレビ、或いはインターネットで見ることが出来る、ドイツやその周辺の国々に関連するニュースに興味を持ってください。							
オフィスアワー	基本的に木曜日の授業前をオフィスアワーにあてますが、事前に連絡をいただければ木曜日の昼休みもオフィスアワーといたします。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション。ドイツ語は楽しい。 2. ドイツ語のアルファベットと発音。まず耳から聴いてみよう。 3. ドイツ語の数字について。 4. 今何時？ドイツ語では？ 5. ドイツの社会情勢。 6. 動詞の人称変化。 7. Ich lerne Deutsch. 視聴覚授業。 8. ドイツ語の名詞には男性名詞、女性名詞、中性名詞の3つがある。 9. der, des, dem, den, 10. 動詞の人称変化、例えば「fahren」 11. ドイツ語のテキストを使った簡単な会話。自分で声を出して覚える。 12. 英語の1H5W はドイツ語だと6W 13. 接続詞について。 14. ドイツ語のテキストより。 15. ドイツ語で自己紹介をしてみよう。 16. 定期試験		演習	大原秀行					
教科書 1	教員がその都度用意します。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	ドイツ語Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期			
担当者	大原 秀行					NO.	GE-LG-1-002	
配当学科	外国			年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	ドイツ語Ⅰで学んだ初歩のドイツ語から更に上の段階を目指して、基本的な文法を踏まえて簡単な会話ができるようにする。そしてドイツ語Ⅱでは、「ドイツ語を書く」ことにトライしてもらい、最終的にドイツ語で志願書を書けるようにします。							
概要	ドイツ語Ⅰの授業をベースにして、ドイツの社会事情・教育事情などの講義を交えて、簡単なドイツ語の会話だけではなく、ドイツ語による文書の作成を行います。							
評価方法	出欠状況、受講態度、授業中の質疑応答、最終試験等を総合して評価する。 また時々行われる授業内での小テストの評価点も参考にする。 なお、出席率が2/3に達していない者は、履修放棄とみなしE判定となりますのでご注意ください。							
履修条件・注意事項	ドイツ語Ⅰを履修し、単位を取得した者が履修できる。 時々授業内で小テストを行い、これは最終評価の参考にするため、授業には必ず出席すること。							
自己学習	自発的にドイツおよびその周辺の国々に関心を持つこと。							
オフィスアワー	木曜日の授業前。事前に連絡があれば、木曜日の昼休みに行う。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			1. ドイツ語1のおさらい。 2. ドイツの教育事情 3. 復習、英語⇒ドイツ語 4. ドイツ語のテキストから視聴覚で、例えば分離動詞。 5. 数字、曜日、月、等をドイツ語で書く練習。 6. 再びドイツ語のテキストより視聴覚。 7. ドイツ語を書く。 8. 命令形、過去形、完了形。 9. ドイツ語のテキストより 10. 小テスト 11. クリスマスカード・年賀状をもちろんドイツ語で書いてみましょう。 12. ドイツ人について 13. 自分の家族のことをドイツ語でフリーディスカッション 14. 自分の趣味についてフリーディスカッション 15. 友達にドイツ語で手紙を書く 16. 定期試験				演習	大原秀行
教科書1	その都度教員が資料を配布します。							
教科書2								
参考書1								
参考書2								

授業科目名	中国語 I				履修期	2020年度 春学期			
担当者	路 玉昌					NO.	GE-LC-1-001		
配当学科	外国学科				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	中国語によるコミュニケーション技能の習得(入門編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。中国語 I では、初めて中国語を学ぶ学生諸君を対象に、聞く・話す・読む・書くといった、総合的な中国語力の基礎づくりを目標とする。まず発音を完全にマスターする。その後、発音の練習と並行して、初級文法、簡単な日常会話、応用のきく文型などを習得する。本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。								
概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。								
評価方法	日頃のテスト、予習、復習、発言などの参加姿勢(30%)、単位認定試験の成績(70%)で評価する。詳しい評価方法は初回の授業時に説明する。なお、実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、次の学習に生かしておくこと。								
履修条件・注意事項	必ずテキストを購入し、それを毎回教室に持ってくる。持ってくるのを忘れた場合は、誰かから借りて該当部分をコピーして教室に持ってくる。								
自己学習	予習として、毎回の授業計画に記載されている部分について事前に繰り返しCDを聴きながら単語や本文などを覚えたり、文法事項を理解したりして授業を受けること。復習として、出された課題をしっかりとやってきて次回の授業時に提出したり(または発表したり)すること。予習および復習には、各2時間程度を要する。								
オフィスワ-	授業終了後、休憩時間								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1.オリエンテーション 2.第1課(発音Ⅰ 声調、単母音、複母音) 3.第2課(発音Ⅱ 子音、そり舌音) 4.第3課(発音Ⅲ 鼻音を伴う母音) 5.第4課(動詞述語文、人称代名詞など) 6.第4課(会話の練習と復習) 7.第5課(指示代名詞、疑問詞疑問文など) 8.第5課(会話の練習と復習) 9.第6課(“有”の用法、連動式文など) 10.第6課(会話の練習と復習) 11.第7課(動作の進行を表す“在”など) 12.第7課(完了を表す“了”など) 13.第7課上(会話の練習と復習) 14.前期内容の復習 15.筆記試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌					
教科書 1	ベーシック 友子の北京ライフ 著者:李志華・文南 出版社:白帝社 ISBN:978-4-89174-905-7								
教科書 2									
参考書 1	初回の授業時に紹介する。								
参考書 2									

授業科目名	中国語Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	路 玉昌					NO.	GE-LC-1-002
配当学科	外国学科			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	中国語によるコミュニケーション技能の習得(基礎編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋学期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅱでは、春学期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことを目標とする。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。						
概要	基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。毎回必ず課題として出された単語や基本構文を暗唱したり、練習したりする。						
評価方法	日頃のテスト、予習、復習、発言などの参加姿勢(30%)、単位認定試験の成績(70%)で評価する。なお、実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、次の学習に生かしておくこと。						
履修条件・注意事項	必ずテキストを購入し、それを毎回教室に持ってくる。持ってくるのを忘れた場合は、誰かから借りて該当部分をコピーして教室に持ってくる。						
自己学習	予習として、毎回の授業計画に記載されている部分について事前に繰り返しCDを聴きながら単語や本文などを覚えたり、文法事項を理解したりして授業を受けること。復習として、出された課題をしっかりとやってきて次回の授業時に提出したり(または発表したり)すること。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.オリエンテーション(前期の総括) 2.第8課(時刻の言い方、連動式文など) 3.第8課(会話と復習) 4.第8課(会話と復習) 5.第9課(“是～的”文、経験を表す“過”など) 6.第9課(会話と復習) 7.第9課(会話と総合練習) 8.中国映画の鑑賞 9.第10課(持続を表す“着”、動詞の重ね型の文など) 10.第10課(会話と復習) 11.第10課(会話と復習) 12.第11課(助動詞“会”“能”“可以”など) 13.第11課(会話と復習) 14.第11課(会話と復習) 15.秋学期内容の復習 16.筆記試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌 路玉昌
教科書 1	ベーシック 友子の北京ライフ 著者:李 志華・文南 出版社:白帝社 ISBN:978-4-89174-905-7						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本語 I A			履修期	2020年度 春学期		
担当者	小西 真弓					NO.	GE-LJ-1-005
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	日本語初中級、中級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は他の日本語関連科目と併せて、初中級、中級の「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を習得することができる。到達目標は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。生活や仕事など日常的话题や新聞、雑誌、日本事情、エッセイ、広告など様々なジャンルを幅広く扱った問題を解く。練習問題を通して、日本語能力試験の出題傾向を知り、問題パターンに慣れるよう指導する。言語知識と併せて、初中級、中級レベルの文章表現を学び、事物、事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2合格を目指す。						
評価方法	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価						
履修条件・注意事項	遅刻・欠席はしないこと。もしやむを得ずそうする場合は、必ず事務室に事前連絡すること。これを履修の条件とする。						
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 内容理解(短文) 3. 内容理解(短文) 4. 内容理解(短文) 5. 内容理解(中文) 6. 内容理解(中文) 7. 内容理解(中文) 8. 内容理解(長文) 9. 内容理解(長文) 10. 内容理解(長文) 11. 内容理解(長文) 12. 情報検索 13. 情報検索 14. 情報検索 15. 単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西					
教科書 1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N3 読解 著者: 渡邊亜子・菊池民子 共著 出版社: Jリサーチ出版 ISBN: ISBN978-4-86392-034-7						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本語 I A			履修期	2020年度 春学期		
担当者	大下 朋子				NO.	GE-LJ-1-001	
配当学科	全学共通(留学生)			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目 I と併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
概要	この講義は「文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
評価方法	授業評価は、試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)によって総合的に行う。 ① 2015年度以降の入学生…上述の総合評価に加え、日本語能力試験N2の可否結果を加味し、成績評価を行う。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。N2合格しなければ、2年次開講の日本語関連科目 II を履修することができない。 ② 2014年度以前の入学生…上述の基準で評価する。日本語関連科目 I を履修中に、N2合格を目指すこと。						
履修条件・注意事項	2年生以上の再履修生は5クラス(再履修クラス)を履修すること。 ① 2015年度以降の入学生…N1またはN2を取得していない学生は、日本語関連科目 I の単位が認定されないで、本講義の受講中に必ずN2に合格すること。N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目 II の全科目を履修できないので注意すること。 ② 2014年度以前の入学生…N1またはN2を取得していない学生は、2年次開講の日本語関連科目 II を受講するまでに、必ずN2を受験しなければならない。N2を受験していない場合は、日本語関連科目 II の履修はできない場合があるので注意すること。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題(N2対策を含む)に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスワ-	授業後、教室にて。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.オリエンテーション 2.1課:～とき・～直後に 3.2課:～している(進行中) 4.3課:～後で 5.4課:範囲の始まりと終わり・その間 6.5課:～だけ 7.1～5課の復習 8.N2対策問題と解説(1) 9.N2対策問題と解説(2) 10.N2対策問題と解説(3) 11.6課:～だけではなく・それに加えて 12.7課:～について・～を相手にして 13.8課:～を基準にして 14.9課:～に関連して・～に対応して 15.単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下					
教科書 1	新完全マスター文法 日本語能力試験N2 著者:友松悦子 出版社:スリーエーネットワーク						
教科書 2	新完全マスター語彙 日本語能力試験N2 著者:伊能裕晃/本田ゆかり/来栖里美他 出版社:スリーエーネットワーク						
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本語 I B			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	小西 真弓				NO.	GE-LJ-1-002	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	日本語初中級、中級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は他の日本語関連科目と併せて、初中級、中級の「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を習得することができる。到達目標は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである						
概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。生活や仕事など日常的な話題や新聞、雑誌、日本事情、エッセイ、広告など様々なジャンルを幅広く扱った問題を解く。練習問題を通して、日本語能力試験の出題傾向を知り、問題パターンに慣れるよう指導する。言語知識と併せて、初中級、中級レベルの文章表現を学び、事物、事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2合格を目指す。						
評価方法	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価						
履修条件・注意事項	遅刻・欠席はしないこと。もしやむを得ずそうする場合は、必ず事務室に事前連絡すること。これを履修の条件とする。						
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスワ-	授業終了後、休憩時間、教室にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. オリエンテーション 2. 内容理解(短文) 3. 内容理解(短文) 4. 内容理解(中文) 5. 内容理解(長文) 6. 日本語能力試験対策 7. 日本語能力試験対策 8. 日本語能力試験対策 9. 日本語能力試験対策 10. 内容理解(長文) 11. 統合理解 12. 統合理解 13. 情報検索 14. 情報検索 15. 総括 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西
教科書 1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N3 読解 著者:渡邊亜子・菊池民子 共著 出版社:Jリサーチ出版 ISBN:ISBN978-4-86392-034-7						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本語 I B				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	大下 朋子				NO.	GE-LJ-1-002	
配当学科	全学共通				年次	1	
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目 I と併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
概要	この講義は「文法」を中心に学習を進める。講義内で小テストなどを導入し、日本語能力試験N2レベルの言語知識(文字語彙・文法など)を修得する。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
評価方法	授業評価は、試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)によって総合的に行う。 ① 2015年度以降の入学生…最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目 I が単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目 II を履修することができる。 ② 2014年度以前の入学生…原則として、試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)によって総合的に行う。日本語関連科目 I を履修中に、日本語能力試験N2以上を受験し、N2以上合格を目指すこと。						
履修条件・注意事項	再履修生は6クラス(再履クラス)を履修すること。入学年度によって履修条件が異なるので注意すること。 ① 2015年度入学生の場合…N2を取得していない学生は、2年次に開講される日本語関連科目 II の全科目を履修できないので、本講義の受講中にN2を取得すること。 ② 2014年度入学生の場合…日本語関連科目 I が単位修得済みでなければ、2年次に開講される日本語関連科目 II の各科目を履修できない。また、本講義の受講中にN2の取得を目指してほしい。 いずれの学生もラーニングサポートセンターのN2対策講座を利用しながら実力の涵養に努めてほしい。 なお、日本語能力試験N1の取得者でプレメントテストにて日本語科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスワ-	授業後、教室にて。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.11課 ～に関係なく・無視して 3.12課 強く否定する・強く否定しない 4.13課 ～(話題)は 5.14課 ～けれど 6.15課 もしそうなら・たとえそうでも 7.【中間テスト】11～15課 8.中間テストの解説 9.16課 ～だから(理由)(1) 10.17課 ～だから(理由)(2) 11.18課 できない・困難だ・できる 12.19課 ～を見て評価すると・～の立場で評価すると 13.20課 結果はどうなったか 14.21課 強く言う・軽く言う 15.22課 ～だろうと思う 16.単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下		
教科書 1	新完全マスター文法 日本語能力試験N2 著者:友松悦子 出版社:スリーエーネットワーク						
教科書 2	新完全マスター語彙 日本語能力試験N2 著者:伊能裕晃/本田ゆかり/来栖里美他 出版社:スリーエーネットワーク						
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本語ⅡA			履修期	2020年度 春学期		
担当者	小西 真弓					NO.	GE-LJ-2-003
配当学科	全学共通(留学生)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	日本語上級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目と併せて、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を習得することができる。到達目標は、日本語能力試験N1レベルの実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。幅広い話題について書かれた200字から1000字程度の生活や仕事などの日常的話題、新聞、雑誌、日本事情、エッセイ、広告など様々なジャンルを幅広く扱った問題を解く。練習問題を通して、日本語能力試験の出題傾向を知り、問題パターンに慣れるよう指導する。言語知識と併せて、上級レベルの文章表現を学び、事物、事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N1合格を目指す。						
評価方法	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
履修条件・注意事項	N2を取得していない学生は、2年次に開講される本講義を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。						
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 内容理解(短文) 3. 内容理解(短文) 4. 内容理解(中文) 5. 内容理解(中文) 6. 内容理解(長文) 7. 内容理解(長文) 8. 統合理解 9. 統合理解 10. 主張理解(長文) 11. 主張理解(長文) 12. 情報検索 13. 情報検索 14. 情報検索 15. 単位認定試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西				
教科書 1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N1 読解 著者: 菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾 出版社: Jリサーチ出版 ISBN: ISBN978-4-86392-075-0						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本語ⅡB			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	小西 真弓					NO.	GE-LJ-2-004
配当学科	全学共通(留学生)			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験N1程度の実力を習得することができる。						
概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。講義内で小テストなどを導入し、日本語能力試験N1レベルの語彙力・読解力を修得する。						
評価方法	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
履修条件・注意事項	N2を取得していない学生は、2年次に開講される本講義を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。						
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. オリエンテーション 2. 内容理解(短文) 3. 内容理解(短文) 4. 内容理解(中文) 5. 内容理解(長文) 6. 日本語能力試験対策 7. 日本語能力試験対策 8. 日本語能力試験対策 9. 日本語能力試験対策 10. 内容理解(長文) 11. 統合理解 12. 統合理解 13. 情報検索 14. 情報検索 15. 総括 16. 単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西		
教科書 1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N1 読解 著者:菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾 出版社:Jリサーチ出版 ISBN:ISBN978-4-86392-075-0						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	応用日本語 I A				履修期	2020年度 春学期			
担当者	小西 真弓					NO.	GE-LJ-1-005		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	日本語中級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目と併せて、中級の「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を習得することができる。到達目標は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。								
概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。生活や仕事などの日常的话题や新聞、雑誌、日本事情、エッセイ、広告など様々なジャンルを幅広く扱った問題を解く。練習問題を通して、日本語能力試験の出題傾向を知り、問題パターンに慣れるよう指導する。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物、事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2合格を目指す。								
評価方法	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価								
履修条件・注意事項	遅刻・欠席はしないこと。もしやむを得ずそうする場合は、必ず事務室に事前連絡すること。これを履修の条件とする。								
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。								
オフィスワ-	授業終了後、休憩時間、教室にて								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 内容理解(短文) 3. 内容理解(短文) 4. 内容理解(短文) 5. 内容理解(中文) 6. 内容理解(中文) 7. 内容理解(中文) 8. 統合理解 9. 統合理解 10. 主張理解(長文) 11. 主張理解(長文) 12. 情報検索 13. 情報検索 14. 情報検索 15. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西					
教科書 1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N2 読解 著者:小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵 出版社:Jリサーチ出版 ISBN:ISBN978-4-86392-058-3								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	応用日本語 I B				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	小西 真弓					NO.	GE-LJ-1-006
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	本講義では、中級、中上級学習者に必要な文章を読む技術を学ぶ授業である。多面的な読み方の力をつけるために、様々なジャンルの文章を理解するとともに、文字、語彙、表現などを身につける。文章を読んで何が書いてあるのかをとらえるといった「読解」の力を伸ばすことができる。日本語能力試験でも十分に力が発揮できるようになる。						
概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。新聞、雑誌、様々なジャンルの読み物の中でも、特に日本事情に関するテーマを取り上げる。200字程度の短い文章から1000字を超える長文をテキスト、新聞、雑誌の記事など幅広く扱い、学習していく。日本事情を理解しながら、自国との比較、文章作成、発表なども行い、お互いの理解を深める。						
評価方法	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価						
履修条件・注意事項	遅刻・欠席はしないこと。もしやむを得ずそうする場合は、必ず事務室に事前連絡すること。これを履修の条件とする。						
自己学習	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. オリエンテーション 2. 内容理解(短文) 3. 内容理解(短文) 4. 内容理解(中文) 5. 内容理解(長文) 6. 日本語能力試験対策 7. 日本語能力試験対策 8. 日本語能力試験対策 9. 日本語能力試験対策 10. 内容理解(長文) 11. 統合理解 12. 統合理解 13. 情報検索 14. 情報検索 15. 総括 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西 小西
教科書 1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N2 読解 著者:小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵 共著 出版社:Jリサーチ出版 ISBN:ISBN978-4-86392-058-3						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	応用日本語ⅡA				履修期	2020年度 春学期	
担当者	池上 真由美					NO.	GE-LJ-2-007
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 日本語教師に必要な基礎的な言語学 到達目標: 日本語教師として日本語を教えるために必要な基礎的な言語学の知識を理解する。</p>						
概要	<p>日本語を教えるにあたり必要とされる言語学の基礎的知識を、身近な日本語を題材にし、問題をときながら学習する。言語学のはじまりから、最新の認知言語学まで言語学発展の歴史に沿って、基礎的な内容を理解していく。</p>						
評価方法	<p>[試験]60%(授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。) [提出物]20%(レポート課題、コメント用紙等により評価する。レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。) [授業への参画状況]20%(発表及び発言内容、演習への意欲や態度等を総合的に評価する。)</p>						
履修条件・注意事項	<p>演習、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。</p>						
自己学習	<p>前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄を整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。</p>						
オフィスアワー	毎週火曜日3限をオフィスアワーとする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
第1回: 言語学の歴史 第2回: 言語学の基礎知識 第3回: 音声学 第4回: 日本語の音声の特徴 第5回: 超文節素 第6回: 音韻論 第7回: 日本語の音素 第8回: 形態論 第9回: 日本語述語の活用 第10回: 統語論 第11回: チョムスキーの言語理論 第12回: 意味論 第13回: 語用論 第14回: 認知言語学 第15回: 定期試験	講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 筆記試験	池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上					
教科書 1	日本語教師のための入門言語学―演習と解説― 著者: 原沢伊都夫 出版社: スリーエーネットワーク ISBN: 4883197395						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	応用日本語ⅡB			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	池上 真由美				NO.	GE-LJ-2-008	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>テーマ: 日本語教育法及び日本語教育プログラムの理解と実践 到達目標: 日本語教育に関する基礎理論を理解し、その指導法、教材作成に関する実施方法を習得する。</p>						
概要	日本語教育において、日本語を教えるため必要な基礎理論(教育法・教材等)を学び、模擬授業を行って実践的な指導力を身に付ける。						
評価方法	<p>[模擬授業]40%(授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。) [課題提出]30%(レポート課題、コメント用紙等により評価する。レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。) [授業への参画状況]30%(発表及び発言内容、演習への意欲や態度等を総合的に評価する。)</p>						
履修条件・注意事項	演習、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
自己学習	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	火曜日3時限目をオフィスアワーとする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回: 日本語教師の資質・能力 第2回: 音声を教える 第3回: 文字・語彙を教える 第4回: 文法を教える 第5回: 聞くことを教える 第6回: 話すことを教える 第7回: 読むことを教える① 第8回: 読むことを教える② 第9回: 書くことを教える 第10回: 初級・中級を教える 第11回: 上級を教える・師範授業 第12回: 模擬授業① 第13回: 模擬授業② 第14回: 模擬授業③ 第15回: 模擬授業④ 第16回: まとめ	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上		
教科書 1	適宜印刷物を配付						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本語研究 I A				履修期	2020年度 春学期			
担当者	加藤 健次					NO.	GE-LJ-1-009		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	<p>● Goals and Theme The theme of this course is "Let's enjoy Japanese culture", and the goals are to,</p> <ul style="list-style-type: none"> • Understand more profoundly Japanese culture, • Speak more smoothly and effortlessly Japanese in everyday life, • Become to feel it fun to read and speak Japanese. 								
概要	<p>● Course Outline The course is designed with 15 lessons of basic Japanese Language for beginners and mid level students who do not understand the correct usage of Particles, Intransitive verbs and Transitive verbs. Japanese culture is introduced within the framework of the language and during lectures to enhance the students' learning experiences.</p>								
評価方法	<p>● How to evaluate Your final grade will be calculated according to the following process: Final examination (50%), and Attendance-Participation (50%). The final grade will be determined by the total amount of points obtained according to the following scale: S: 90-100, A: 80-89, B: 70-79, C: 60-69, F:0-59.</p>								
履修条件・注意事項	<p>● Notice for students This course will be taught in Japanese. Some memorizations are involved as well as some preparations. This is the only way you will make progress. I will provide handouts for you to read at home, and prepare. This type of preparation is really designed to help you benefit from the class.</p>								
自己学習	<p>● Message to students We highly recommend to prepare each lecture by reading the beginning of the corresponding chapter in the textbook.</p>								
オフィスワ-	Thursday, the 4rd hour at Kenji's Office (no.123) in Okayama Campus.								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. Greetings			AL	Kenji Kato					
2. Understand the correct usage of Particles			AL	Kenji Kato					
3. Intransitive and Transitive Verbs Usage Rule 1			AL	Kenji Kato					
4. Usage of "wa" and "ga" from general rules to particular cases			AL	Kenji Kato					
5. How are they different "wa" and "ga"?			AL	Kenji Kato					
6. How to join Particles to each other			AL	Kenji Kato					
7. Presentation by students about Japanese culture (1)			AL	Kenji Kato					
8. Intransitive and Transitive Verbs Usage Rule 2			AL	Kenji Kato					
9. Learning Intransitive and Transitive verbs from pictures			AL	Kenji Kato					
10. Intransitive and Transitive Verbs Usage Rule 3			AL	Kenji Kato					
11. Learning Intransitive and Transitive verbs from their pronunciation			AL	Kenji Kato					
12. Intransitive and Transitive Verbs Usage Rule 4			AL	Kenji Kato					
13. Learning Intransitive and Transitive Verbs by their meaning			AL	Kenji Kato					
14. Presentation by students about Japanese culture (2)			AL	Kenji Kato					
15. Final examination			Examination	Kenji Kato					
教科書 1	Step by Step Japanese Exercises Book-Particles Step by Step Japanese Exercises Book-Intransitive and Transitive verbs, 著者: Setuko Matumoto 出版社: Unicom ISBN: 978-4-89689-505-6 978-4-89689-503-2								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	日本語研究 I B				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	加藤 健次					NO.	GE-LJ-1-010
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>● Goals and Theme The theme of this course is "Let's enjoy Japanese culture", and the goals are to,</p> <ul style="list-style-type: none"> • Understand more profoundly Japanese culture, • Speak more smoothly and effortlessly Japanese in everyday life, • Become to feel it fun to read and speak Japanese. 						
概要	<p>● Course Outline The course is designed with 15 lessons of basic Japanese Language for beginners and mid level students who do not understand the correct usage of Particles, Intransitive verbs and Transitive verbs. Japanese culture is introduced within the framework of the language and during lectures to enhance the students' learning experiences.</p>						
評価方法	<p>● How to evaluate Your final grade will be calculated according to the following process: Final examination (50%), and Attendance-Participation (50%). The final grade will be determined by the total amount of points obtained according to the following scale: S: 90-100, A: 80-89, B: 70-79, C: 60-69, F:0-59.</p>						
履修条件・注意事項	<p>● Notice for students This course will be taught in Japanese. Some memorizations are involved as well as some preparations. This is the only way you will make progress. I will provide handouts for you to read at home, and prepare. This type of preparation is really designed to help you benefit from the class.</p>						
自己学習	<p>● Message to students We highly recommend to prepare each lecture by reading the beginning of the corresponding chapter in the textbook.</p>						
オフィスワ-	Thursday, the 4rd hour at Kenji's Office (no.123) in Okayama Campus.						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. Orientation	AL	Kenji Kato		
			2. Introduce yourself	AL	Kenji Kato		
			3. Expressions for giving and receiving things	AL	Kenji Kato		
			4. Usage of 「agemasu・yarimasu」 「moraimasu」 「kuremasu」	AL	Kenji Kato		
			5. Usage of 「〜te agemasu・〜te yarimasu」 「〜te moraimasu」 「〜te kuremasu」	AL	Kenji Kato		
			6. Usage of 「sashiageru」 「itadaku」 「kudasaru」	AL	Kenji Kato		
			7. Giving and Receiving Expressions relating to many people	AL	Kenji Kato		
			8. Presentation by students about Japanese culture (1)	AL	Kenji Kato		
			9. Find the beauty of Japanese nature and garden	AL	Kenji Kato		
			10. Usage of Passive Form	AL	Kenji Kato		
			11. Usage of Causative Form	AL	Kenji Kato		
			12. Usage of Causative Passive Form	AL	Kenji Kato		
			13. Watching a Japanese movie : Ysuziro ozu - writing your feelings	AL	Kenji Kato		
			14. Hobbies, weather and seasons	AL	Kenji Kato		
			15. Presentation by students about Japanese culture (2)	AL	Kenji Kato		
			16. Final examination	AL	Kenji Kato		
				Examination	Kenji Kato		
教科書 1	Step by Step Japanese Exercises Book-Giving and Receiving Phrases Step by Step Japanese Exercises Book-Passive Form/Causative Form/Causative Passive Form 著者: Setuko Matumoto 出版社: Unicom ISBN: 978-4-89689-502-5 978-4-89689-504-9						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本語研究ⅡA			履修期	2020年度 春学期		
担当者	加藤 健次				NO.	GE-LJ-2-011	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	この講義のテーマは「日本語教育の歴史と現状」です。到達目標は、日本語と日本語教育の歴史を理解することによって、日本文化をより深く理解できるようになることです。						
概要	<p>日本文化について多少ともその本質に触れるような勉強をしようとおもえば、日本の歴史を学んでいなければいけません。それと同じように、日本語教育について知ろうとおもえば、日本語教育がどのような発展経緯を経て今日に至ったのかを学ぶ必要があります。この講義はそのような観点から、次のような6つのパートで構成されています。</p> <p>①日本語教育史 ②言語文化論 ③言語政策論 ④日本文化の本質としての禅 ⑤世界と日本の日本語教育事情 ⑥現代に生きる禅文化</p> <p>将来、日本語教員として国内外で活躍したいと考えている学生が、最低限知っていなければいけない日本語と日本文化に関する基礎知識とはどういうものなのか、それを学びましょう。</p>						
評価方法	授業にどのように参加したかが重視されます。課題がだされるので、次週までに練習し、授業で討論、発表します。教科書に沿って少しずつ進みます。日本語を声に出して音読して下さい。次には、教科書を見ないで言えるようにしましょう。うまく言えないときは、日本人の先生がたの研究室を訪ねてみましょう。単位認定試験では、読んで暗唱してきた日本語に関するいくつかの設問で構成されます。評価配分は、授業参加度(50%)、単位認定試験(50%)です。						
履修条件・注意事項	遅刻・欠席はしないこと。もしやむを得ずそうする場合は、必ず事務室に事前連絡すること。これを履修の条件とします。						
自己学習	予習復習毎日2時間程度。読む練習。発表する練習。先生に聞いてもらったり、友達同士で暗唱しあったり、日常的に自己学習をしてください。						
オフィスワ-	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 日本語の時代区分 2. 座禅と禅 3. 音韻・仮名遣いの変遷 4. 沈黙と禅 5. アクセント・文字の変遷 6. 色即是空 7. 敬語・語彙の変遷 8. 空即是色 9. 文体論 10. 日本語と日本の禅師 11. 近代語の成立 12. 墨絵の世界 13. 茶道と能 14. キリンタンの日本語学習法 単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次					
教科書 1	<p>①『日本語史／日本語教育史』 ②『日本語教育史研究所説』 ③『禅—現代に生きるもの』 著者:①真田信治・原土洋 ②関正照 ③紀野一義 出版社:①アルク ②スリーエーネットワーク ③日本放送出版協会 ISBN:②4-88319-086-2 ③1315-001035-6023</p>						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本語研究ⅡB			履修期	2020年度 秋学期	
担当者	加藤 健次				NO.	GE-LJ-2-012
配当学科	外国			年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態 演習
テーマと到達目標	この講義のテーマは「日本語教育の歴史と現状」です。到達目標は、日本語と日本語教育の歴史を理解することによって、日本文化をより深く理解できるようになることです。					
概要	<p>日本文化について多少ともその本質に触れるような勉強をしようとおもえば、日本の歴史を学んでいなければいけません。それと同じように、日本語教育について知ろうとおもえば、日本語教育がどのような発展経緯を経て今日に至ったのかを学ぶ必要があります。この講義はそのような観点から、次のような6つのパートで構成されています。</p> <p>①日本語教育史 ②言語文化論 ③言語政策論 ④日本文化の本質としての禅 ⑤世界と日本の日本語教育事情 ⑥現代に生きる禅文化</p> <p>将来、日本語教員として国内外で活躍したいと考えている学生が、最低限知っていなければいけない日本語と日本文化に関する基礎知識とはどういうものなのか、それを学びましょう。</p>					
評価方法	授業にどのように参加したかが重視されます。課題がだされるので、次週までに練習し、授業で討論、発表します。教科書に沿って少しずつ進みます。日本語を声に出して音読して下さい。次には、教科書を見ないで言えるようにしましょう。うまく言えないときは、日本人の先生がたの研究室を訪ねてみましょう。単位認定試験では、読んで暗唱してきた日本語に関するいくつかの設問で構成されます。評価配分は、授業参加度(50%)、単位認定試験(50%)です。					
履修条件・注意事項	遅刻・欠席はしないこと。もしやむを得ずそうする場合は、必ず事務室に事前連絡すること。これを履修の条件とします。					
自己学習	予習復習毎日2時間程度。読む練習。発表する練習。先生に聞いてもらったり、友達同士で暗唱しあったり、日常的に自己学習をしてください。					
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。					
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者	
			<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 標準語と共通語 3. 無明の中に蠢くもの 4. 現代日本語の動態 5. 虚しさと空 6. 本居宣長と日本語研究史 7. ことばは杭のごとく立つ 8. 西洋言語学の移入 9. 芭蕉一夏の夜の怪異 10. 植民地の日本語教育 11. 無限の桃花水を逐うて流る 12. 台湾と教授法の開発 13. 学道の人には貧なるべし 14. 韓国・朝鮮での日本語教育 15. 終戦詔勅と山本玄峰 16. 単位認定試験 	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次	
教科書 1	<ol style="list-style-type: none"> ①『日本語史／日本語教育史』 ②『日本語教育史研究所説』 ③『禅—現代に生きるもの』 著者:①真田信治・原土洋 ②関正照 ③紀野一義 出版社:①アルク ②スリーエーネットワーク ③日本放送出版協会 ISBN:②4-88319-086-2③1315-001035-6023 					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名	文章表現入門			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 朋子					NO.	GE-CH-0-001
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	大学生や社会人に求められる日本語表現力について学び、その文章表現を身に付けることができる。レポートの書き方、就職試験向けの作文・小論文の書き方の基礎を身に付けることを目指す。とりわけ文と文、あるいは語彙と語彙との接続的な文章表現、起承転結といった文章の構成などを理解し、実際に文章を書く訓練を行う。						
概要	日本語の文章表現の基礎を身につけるだけでなく、文章の組み立て方、推敲の仕方などについて学習する。レポートや就職試験向け作文の書き方などについて学ぶ。文の構成、語と語の対応、文と文の関わりなどを意識して、論理的に文章を書く訓練を行う。また、学生は書籍、新聞、雑誌などを素材に、ブレインストーミングを行い、主題を設定し、自分でも文章化してみる。人に意見や趣旨が明確に伝わる文章表現、論理的な文章の書き方などを修得する。						
評価方法	講義への出席を含めて話の聞き方、意見の出し方などを平常点として20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験が50点、そして単位認定試験を30点として、これらを総合した100点満点で評価する。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験(400字×5枚以上)の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
自己学習	毎週の講義内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスワ-	木曜日2限目(1号館121研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. オリエンテーション 2. 大学生・職業人にはどういう日本語表現能力が求められるか 3. 明文を書くためのスキルを磨こう 4. 正確な文、明快な文を書くためには 5. 簡潔な文を書くためには 6. パラグラフ・ライティングの基本 7. パラグラフ・ライティングの練習 8. パラグラフ・ライティングからレポート作成へ 9. 観察しよう—その構成と書き方① 10. 観察しよう—その構成と書き方② 11. 準備しよう—意見と根拠① 12. 準備しよう—意見と根拠② 13. 小論文作成・総合演習① 14. 小論文作成・総合演習② 15. 手紙の書き方 16. 単位認定試験	講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 筆記試験・レポート試験	大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)		
教科書 1	文章力・論理力を高める日本語トレーニング 著者:松谷 英明 出版社:学事出版 ISBN:978-4761919481						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	文学への招待				履修期	2020年度 春学期	
担当者	加藤 健次					NO.	GE-CH-0-002
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	「日本の文学を聴いて発音してみる」をテーマとします。これまで日本人に親しまれてきた名作の英文対訳アンソロジーを参照しながら、日本人のこころにやどる美意識が、それぞれの時代に、どのように言語化されてきたか、それを理解することが目標です。						
概要	<p>例えば川端康成は、ノーベル賞受賞式スピーチで、日本人のこころを</p> <p>春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて 冷しかりけり</p> <p>という道元のことばで世界の人々に伝えました。これは英語で、</p> <p>In the spring, cherry blossoms, in the summer the cuckoo. In autumn, the moon, and in winter the snow, clear, cold.</p> <p>と訳されます。英語になるとなにかピンときません。しかし海外ではよく尋ねられます。日本人のこころとは何か？と。本講義では、その問いにどう答えるかについても考えてみることになります。</p>						
評価方法	授業にどのように参加したかが重視されます。課題がだされるので、次週までに情報収集し、授業で討論、発表します。その指針として教科書を使います。日本語と英語で、音読して下さい。英語で読むときには、ネイティブの先生がたの研究室を訪ねてみましょう。単位認定試験では、読んで鑑賞してきた文章を書いてみましょう。できれば、自分の言葉で「日本人のこころ」を表現してみましょう。評価配分は、授業参加度(50%)、単位認定試験(50%)です。						
履修条件・注意事項	遅刻・欠席はしないこと。もしやむを得ずそうする場合は、必ず事務室に事前連絡すること。これを履修の条件とします。						
自己学習	予習復習各2時間程度。読む練習。発表する練習。先生に聞いてもらったり、友達同士で暗唱しあったり、日常的に自己学習をしてください。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 走れメロス(太宰治) 2. 吾輩は猫である(夏目漱石) 3. 源氏物語「若紫」(紫式部) 4. 枕草子(清少納言) 5. 奥の細道(松尾芭蕉) 6. 金魚のお使い(与謝野晶子) 7. こんぎつね(新美南吉) 8. 雨ニモマケズ(宮沢賢治) 9. 人でなしの恋(江戸川乱歩) 10. 蜜柑(芥川龍之介) 11. 風の歌を聴け① 12. 村上春樹の比喩表表現 13. 風の歌を聴け② 14. 現代詩入門 15. 単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次 加藤健次					
教科書 1	英語朗読でたのしむ日本文学 著者:青谷 優子, ジュリエット・W・カーペンター (著) 出版社:アルク ISBN:978-4757433342						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生涯スポーツ論				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	國佐 栞					NO.	GE-CH-1-005	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	スポーツ振興法では「国民の誰もが、それぞれの体力や年齢やきょうみとう目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する」としている。近年生涯スポーツの在り方も変貌している。この中で学生が生涯スポーツに関する基礎的な知識と教養を身に付け、自分なりの考えを持つこと、また実生活で活用できることを到達目標とする。							
概要	生涯余暇時間の増大はスポーツの社会性や生活の質がもめられる時代である。スポーツの果たす役割はますます増していくと思われる。スポーツはルールを尊重してフェアプレーの精神の育成に貢献する。またスポーツはコミュニケーションの機会の増大し能力を育成する。この講義は、今後のスポーツの在り方解決策を導き出す能力が身につくように討論を主体に行う。							
評価方法	定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験(60%)、講義内容について小レポート(20%)課題発表(10%)、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度(10%)を合計して総合評価する							
履修条件・注意事項	プリントを配布するので、初回授業よりファイルを用意する事。							
自己学習	事前の課題に対し調べてきた事により自分の考えをまとめ発言できる予習が大切である。							
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			1. オリエンテーション 2. 生涯スポーツとは 3. ライフステージとスポーツ 4. 体力とは 5. スポーツトレーニング 6. スポーツの魅 遊びとスポーツ 7. スポーツとルール 8. フェアプレーと武士道 9. 古代オリンピック 10. パラリンピック・スペシャルオリンピック 11. スポーツと娯楽 12. スポーツと体罰 13. 政治とスポーツ 14. スポーツリーダー 15. スポーツ倫理(ドーピング) 16. 試験				講義	國佐
教科書 1	使用しない(プリントを配布する)							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	哲学				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	GE-GA-0-001	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>テーマ:哲学は言葉がよく使えること。人はすべて「哲学」する。それは人が「考える」からである。「考えない人」も「考えている」のである。いずれにしろ人は言葉を使って他とコミュニケーションするだけでなく、自分のことにしても「考える」のだから。すでに言葉を使うとき、人は「哲学」をしている。そこで、ここでは、われわれが「言葉」を使うとき、それも意味の深き言葉が利用できるとき「哲学」している、というのがわかることを目標とする。</p>							
概要	<p>何かあることを他によく理解してもらおうとすると言葉は難しい。この難しい言葉がよく使えるようになろう。そこで哲学的に難しい日本語が理解できる力を身に付けたいが、それにはそれを使った哲学者の文章を利用したい。難解な哲学的な文章を理解できるよう説明しながら、「哲学」とは何かを諸君と一緒に考える。</p>							
評価方法	<p>講義において質問に回答したり意見を述べたりする日常的な参加度合いに20点、課題テーマに対する小論文の持ち帰り試験に50点、そして期末の単位認定試験に30点で、これらを総合して評価する。単位認定試験は講義の最終日に実施するが、諸君の興味や関心参加度合いをも考慮する。持ち帰り試験(400字×10枚以上)の小論文を書き提出すること。</p>							
履修条件・注意事項	<p>講義における問題や課題、それに関する質問に対して応答や質疑が可能なようにプリント資料をよく読んでおくこと。また、仲間と話し合ったり自分で考えたりが大切となるが、それには課題となる現代の問題とは何かという諸君の考え方が必要になるので、新聞や雑誌、あるいはテレビなどのニュースなどを読んだり見たりしておくこと。さらに文章を整理して書くことが条件となる。</p>							
自己学習	<p>講義で配布したプリント資料をよく読んで整理しておき、仲間と討論できるようにしておくこと。また、新聞やテレビのニュースが話を聞くのに欠かせないので、それを読んだり聞いたりしてノートに整理しまとめておくこと。予習と復習も欠かせない。</p>							
オフィスワ-	1号棟2階の124研究室にて、毎週木曜日昼+3限目							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			(1) 哲学とは何か (2) 世界と人生 (3) 自然と精神 (4) 意志することと経験 (5) 経験と感情を持つこと (6) 感情とよきこと (7) 意志することと価値 (8) 経験とそのまま知ること (9) そのまま知ることと価値 (10) よきとよく生きること (11) そのまま知ることと意志 (12) よきことと行為 (13) よきことは自分からするのか (14) よきことは倫理的なことか (15) よきことと人格的なこと (16) 期末単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋	
教科書 1	必要に応じて随時指定する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	心理学				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	畝 伊智朗					NO.	GE-GA-0-002	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>心理学とはどのような学問領域なのか、それを学ぶことがこの科目のテーマである。哲学、社会学、精神医学などどのように異なるのか、理解する。</p> <p>心理学は人間の心の働きを研究する学問領域である。人が生活している環境から、どのように情報を取り入れ、蓄積、活用するのか、如何に人間関係の中で適応的に生きていくのか、などに関し学び、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。</p> <p>また、その学びの中で、心理学を学ぶ楽しさを感じてもらいたい。</p>							
概要	<p>心理学は知覚、発達、社会、性格などの領域においてさまざまな研究が行われている。本講義では、それら領域における研究成果、知見などの説明を講義形式で行う。さらに、学生の留学や留学生の受入れへの積極的な取組みとして、異文化受容や異文化への適応を心理学的な側面から考察を行う。言語学習(日本語、英語)における学習・教育の情意的側面につき、学習理論などをもとに考察を行う。</p>							
評価方法	講義毎の課題提出(50%)、課題レポートの内容(40%)及び受講態度など(10%)から総合的に評価する。							
履修条件・注意事項	<p>教科書を活用して講義を行うので、準備すること。購入できない場合は、担当教員に相談すること。</p> <p>将来、留学をすることも見据え、各講義の後半においては、心理学の基本用語や概念などを英語で説明する。</p>							
自己学習	<p>予習復習が不可欠です。</p> <p>講義の前に、教科書の該当章を読み、知らない用語などを調べてくること。(2時間)</p> <p>復習として、講義後、簡単な課題をとして、次の講義の際、提出すること。(1時間)</p> <p>英語の基礎用語や概念は暗記するまで音読すること。(1時間)</p>							
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
				(1)日常生活の中の心理学 (2)教育についての心理学 (3)発達についての心理学 (4)認知についての心理学 (5)学習(言語学習を含む)の心理学 (6)犯罪についての心理学 (7)性格についての心理学 (8)臨床心理学(異文化受容・不適応を含む) (9)判断と意志決定の心理学 (10)産業心理学 (11)組織心理学 (12)消費者行動と心理学 (13)心理学的測定 (14)心理学研究法 (15)心理学の歴史 (16)単位認定試験			講義AL 講義AL 講義AL 講義AL 講義AL 講義AL 講義AL 講義AL 講義AL 講義AL 講義AL 講義AL 講義AL 講義AL レポート	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝
教科書 1	心理学概論 著者:星 薫、森 津太子 出版社:放送大学教育振興会 ISBN:978-4-595-31338-7							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	多文化理解				履修期	2020年度 春学期	
担当者	加藤 健次					NO.	GE-GA-0-003
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:異文化を受信し、日本文化を発信することで、多文化共生の生き方をさぐる。 到達目標:人、モノ、おカネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。日本と異なる文化への理解が避けて通れない。同時に日本的なるものを世界に伝えないと日本は世界の中で埋没する。自分自身の考えを常に国際社会の中でとらえ、判断できるようにすることを到達目標とする。</p>						
概要	<p>グローバル化によって世界はフラットになったと言われる。しかし、一方では各地の地域紛争、民族間の対立は深まるばかりだ。異文化理解がいかに難しいか、そして大切な事例をあげて研究する。欧米文化の普遍性、中国の価値観、イスラムとの共生などについて、グループ討論、各自の意見のプレゼンテーションなどを交えながら、参加型学習で進める。</p>						
評価方法	定期試験の成績(80%)と授業での積極性など平常点(20%)による総合評価						
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。毎週、世界で起こっていることに関して、各自発表する。						
自己学習	各週の国際ニュースについて、ウォッチすること。また予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスワ-	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.はじめにーそもそも文化って何 2.日本の常識は世界の非常識 3.フェアが最も大切:アメリカ編 4.レディーファーストとセクハラ 5.伝統と多様性:ヨーロッパ編 6.結論ファースト 7.相手との関係重視:中国編 8.「自分が、自分が」の自己主張 9.世界人口の3分の1:イスラム編 10.戒律厳守主義 11.日本人にとって身近なベトナム 12.多様性ことが強み:アジア編 13.台湾とシンガポール 14.自己主張が強いインド編 15.単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート試験	加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤					
教科書 1	異文化理解の全テクニック 著者:斎藤隆次 出版社:KADOKAWA ISBN:978-4-04-604564-5						
教科書 2							
参考書 1	①異文化理解 ②文明の衝突 ③異文化はおもしろい 著者:①青木保著 ②サミュエル・ハンチントン著 ③選書メチエ編集部編 出版社:①岩波新書 ②集英社 ③講談社 ISBN:①ISBN4-00-430740-6 ②ISBN4-08-773292-4 ③ISBN4-06-258227-9						
参考書 2							

授業科目名	日本国憲法				履修期	2020年度 春学期	
担当者	入江 祥子					NO.	GE-SI-0-001
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p><到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p><テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>						
概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>*実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>						
評価方法	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること(特に私語、授業途中の入退室等)は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。						
自己学習	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。						
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回:なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか		講義	入江				
第2回:法とは何か、法はなぜ必要か、法と道德の違い		講義	入江				
第3回:法源とは何か、成文法、不文法		講義	入江				
第4回:憲法とは何か、実質的意味の憲法、立憲的意味の憲法		講義	入江				
第5回:憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法、成立背景、特徴		講義	入江				
第6回:国民主権の意味、その役割		講義	入江				
第7回:戦争の放棄、「戦争」の意味、「戦力」の意味		講義	入江				
第8回:人権の享有主体性、外国人の人権		講義	入江				
第9回:私人間効力の問題		講義	入江				
第10回:人権保障の限界、「公共の福祉」の意味		講義	入江				
第11回:「権力分立」の意味、権力的契機、正当性の契機		講義	入江				
第12回:国会の制度意義、その構成及び役割		講義	入江				
第13回:内閣の制度意義、その構成と役割		講義	入江				
第14回:裁判所の制度意義、その構成及び役割		講義	入江				
第15回:地方自治、財政		講義	入江				
第16回:試験		試験	入江				
教科書 1	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。						
教科書 2							
参考書 1	六法						
参考書 2							

授業科目名	民法				履修期	2020年度 秋学期			
担当者	入江 祥子					NO.	GE-SI-0-002		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	民法を具体的事例をまじえ概括的に講義する。社会生活において陥りがちな法的トラブルを認知し、未然に回避するもしくは自ら解決するためのスキルを身につけることを達成目標とする。								
概要	民法全体のアウトラインを事例、判例をまじえ講義する。私法全体に共通する基本原理を中心に解説する。 *実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。								
評価方法	毎回授業後に実施する理解度チェック小テストの結果:40% 最終評価試験結果:60% により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。								
履修条件・注意事項	授業の進行上、授業計画より前後する可能性があります。 出欠数及び配布物の管理は各自で行ってください。 公欠は学校所定の手続きを行ったうえで、申し出てください。								
自己学習	予習としては、教科書の該当箇所を必ず一読しておくこと。 復習は、習得した知識の定着につとめ、時事問題についても考察できるよう発展させること。								
オフィスアワー	質問等は講義時間前後に講義室にて受けます。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					第1回:民法とは何か 第2回:民法の基本原則 第3回:民法における権利と義務 第4回:法律行為とは何か 第5回:代理制度 第6回:時効制度 第7回:契約 第8回:所有権・その他物権 第9回:民法における不法行為 第10回:事務管理・不当利得 第11回:弁済・債務不履行 第12回:家族法 第13回:親子関係にかかわる制度 第14回:相続制度 第15回:法人制度 第16回:最終評価試験			講義	入江
教科書 1	『民事法入門』(第6版) 著者:野村豊弘[著] 出版社:有斐閣 ISBN:978-4-641-22029-4								
教科書 2									
参考書 1	六法								
参考書 2									

授業科目名	経済学			履修期	2020年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	GE-SI-0-003
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	[テーマ: お金とゲームと世界経済] 「株が高い低い」とか「円が安くなった」とか、あるいは「石油の値段が高止まり」とか、なぜそんなニュースがほぼ毎日流されるのだろうか。たとえばトランプ大統領が中国製品に高額な関税を課したって！ それはいったいなぜだろうか。もちろん、それは米国人の会社やそこで働く人びとに仕事を与えたいからだ。もし「円が安い」となれば日本の会社は海外の国へ商品を売りやすい。海外の会社は日本へ商品がなかなか売り難い。われわれが海外から輸入される商品が高くなってあまり買わなくなるからだ。こんな出来事で、われわれの生活が世界の経済の動きと一緒に成り立っているのだ。お金から経済を見ると世界の動きも理解できる。お金はゲームと同じだからだ。そこで、ここでは経済の世界での動きをマネーゲームとして理解することを到達目標とする。						
概要	「安ければ買う、高ければ売る」というのが経済の基本だ。利益が出て儲かるからだ。だから、われわれが生活しているこの世界では、マネーであるお金が活躍しているマネーゲームの登場である。お金がモノの取引と同じように扱われるようになった。売るか買うかは冒険でギャンブルで、儲かるかどうかは運次第のカジノである。「カジノ資本主義」と世界経済をギャンブル場に例えた人までがいる。これを知らないと世界経済の動きだけでなく、われわれ自身の生活が明日どうなるのかまでわからないことになる。そこで、ここではお金とゲーム、そしてそれで動く世界経済を取り上げて、難しい用語は解説しながら、諸君と一緒にわれわれの世界を経済的に考えよう。						
評価方法	講義において問題に答え感想を書く日常的な参加態度に10点、課題テーマとして「持ち帰り試験」(小論文)に60点、期末の単位認定試験に30点の配点で、これらを総合して評価する。単位認定試験は、原則として講義の最終日に実施するが、「持ち帰り試験」(400字×10枚以上)の小論文を提出しなければ、単位を認定しないことがあるので要注意のこと。						
履修条件・注意事項	講義に関する意見や感想などをまとめて提出してもらう。持ち帰り試験を単位認定試験と一緒に提出することを条件とするので、講義に関する書籍等も読みまとめておくこと。また、外部から招聘講師に、毎月一度来て話してもらうので、先生に対する対応(挨拶、私語の禁止、感謝の言葉など)がよくできること。評価のために課した小テスト等はフードバックするので、試験までに復習すること。						
自己学習	講義で配布したプリント資料をよく読んで整理しておき、仲間と討論できるようにしておくこと。また、新聞やテレビのニュースが話を聞くのに欠かせないので、それを読んだり聞いたりしてノートに整理しまとめておくこと。予習と復習も欠かせない。						
オフィス	1号棟2階の124研究室にて、毎週木曜日昼+3限目。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
(1)オリエンテーション (2)お金はゲーム (3)カジノと金融 (4)どこへ行く世界経済 (5)ゲームの始まり (6)マネーゲームの夜明け (7)お金が世界的に溢れる (8)お金の取引と為替相場 (9)お金リスクとそのヘッジ (10)企業活動の国際化 (11)金利とその変動(12)金利と中央銀行 (13)資源はマネー (14)市場と国家 (15)単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋					
教科書 1	必要に応じて随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	社会学				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 朋子					NO.	GE-SI-0-004	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	社会学は受講者自身が生活する場所と、生活そのものを見直す学問である。社会学を知る。これがテーマである。学問分野として社会に浸透しているため基礎概念や独自の発想を理解することも大切である。有り体に言えば、公務員試験などの受験科目になっているからである。従って、到達目標は社会学の基礎知識の取得である。社会学的思考法について知ることも目標の一つとしておきたい。							
概要	社会学それ自体の形成(社会学史)、これには自然法概念のような法学、政治学、経済学などの基礎となった概念の理解も必要となるが、について述べるが、今日、社会学はまた実践的な仮題を担う応用科学でもある。その基礎となる理論社会学、実践的なテーマに基づいて産業、経営、地域、福祉などへの社会学的アプローチについて学ぶ。							
評価方法	単位認定試験による。							
履修条件・注意事項	レポートなどの課題を出すことがある。そのための予習復習が必要である。							
自己学習	毎時、指示するが調べる、読むなど、相応の予習時間を確保する必要がある。							
オフィスアワー	水曜3限 115研究室 講義の前後、研究室							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			1	社会学という学問	講義	大下		
			2	そもそも「社会」とは何だろう	講義	大下		
			3	役割から考える	講義	大下		
			4	地位もある	講義	大下		
			5	機能という概念	講義	大下		
			6	構造という概念	講義	大下		
			7	社会システム	講義	大下		
			8	コミュニティとアソシエーション	講義	大下		
			9	集団の社会学	講義	大下		
			10	経営の社会学	講義	大下		
			11	生活の社会学	講義	大下		
			12	家族の社会学	講義	大下		
			13	都市と地域の社会学	講義	大下		
			14	国際社会学	講義	大下		
			15	総合社会学1	講義	大下		
			16	単位認定試験	試験	大下		
教科書 1	適宜、参考文献を指示する。講義用のレジュメを配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	環境科学			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 浩司				NO.	GE-NM-0-001	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとして、地球環境全般に関わる知識を修得して科学的に理解し、論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。						
概要	身の回りから地球規模の環境に関わる諸問題に対し、大学生が身につけておくべき知識を修得して理解する。このために、問題に含まれる諸課題を整理して、言語的な情報を非言語的なイメージで表現し、これらの関係性を論理的に理解する。そして、環境に関わる諸問題について、授業担当者を含めた受講者らとディスカッションする。これらを学生が主体となって取り組めるように授業を行なう。						
評価方法	地球環境を科学的に理解し論理的に思考する力を確認するための単位認定試験(80%)、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度(20%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、問題を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 身の回りの環境を考える 2. 地球環境と人々の生活の変化 3. 地球上の物質・有用資源 4. 汚染物質・有害物質の種類と濃度 5. エネルギー 6. 化石燃料とバイオマス 7. 温暖化の原因と今後 8. 地球上の水 9. 酸性雨 10. 電磁波 11. 紫外線・可視光線・赤外線の光 12. 屋外・屋内の環境 13. 地球環境のために私たちができることについて情報収集 14. 地球環境のために私たちができることについて発表資料の作成 15. 地球環境のために私たちができることについて発表とディスカッション 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験	大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩)
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1	トコトンやさしい環境汚染の本 著者:大岩敏男、大木久光、高堂彰二、保坂義男 出版社:日刊工業新聞社 ISBN:978-4-526-07300-7						
参考書 2	トコトンやさしい地球科学の本 著者:地球科学研究会 出版社:日刊工業新聞社 ISBN:978-4-526-05524-9						

授業科目名	物理学				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高木 秀明					NO.	GE-NM-0-002	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	身の回りにある物品や事象を平易な物理学の知識を使って理解することをテーマとする。到達目標は、それぞれの事象が物理学のどの分野に相当するのか、おおよその数値で把握できるようになることとする。							
概要	身の回りにある物品や事象は物理学の知識に基づいて説明できる。たとえば、虹はなぜ七色(日本では)なのか?なぜ、夏と冬で音の伝わり方違うのか?真夏のエアコンの効き具合等々。内容として、力学・波・熱・電磁気の各分野について、高等学校で物理を学んでいない学生も対象として授業を構成している。アクティブラーニングとして、数回の演示実験を交えながら授業を進めていく。							
評価方法	単位認定試験80%、課題・ポートフォリオの提出物の内容20%。							
履修条件・注意事項	授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。 試験では、到達目標の理解度を見るため、特に復習が必要である。 到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。							
自己学習	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。							
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて金曜日2時限に実施。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. 数と物理量 2. 速度・加速度 3. 力と運動 4. 振動と波 5. 音と波動現象 6. 光と色 7. 光と色の演示実験 8. 物質の構造と性質 9. 仕事、エネルギー、エントロピー 10. さまざまなエネルギー 11. 熱力学法則に関する演示実験 12. 電気と磁気 13. 電磁気 14. 古典物理学と現代物理学 15. 量子物理学 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 AL 講義 講義 講義 AL 講義 講義 講義 講義 筆記試験	高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木	
教科書 1	ゼロからわかる物理 著者:志村忠夫 出版社:丸善出版株式会社 ISBN:ISBN978-4-621-08432-8							
教科書 2								
参考書 1	PHISICS FOR FUTURE PRESIDENTS –THE SCIENCE BEHIND THE HEADLINES 著者:Richard A. MULLER 出版社:W. W. NORTON ISBN:ISBN 978-0-393-33711-2							
参考書 2								

授業科目名	化学				履修期	2020年度 春学期			
担当者	高木 秀明					NO.	GE-NM-0-003		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	身の回りにある物品の成り立ちや効能を化学の知識を使って理解することをテーマとする。到達目標は、それぞれが化学のどの分野に相当するのかを把握できるようになることとする。								
概要	身の回りにある物品は、化学の知識に基づいてつくられている。古来から日常生活の便宜性を向上させることと一緒に学問が確立してきた。もちろん、錬金術のように思い通りの成果が出なかったものもある。 あえて縦書きの教科書を使用し、記述されている項目の記憶を目的とするのではなく、予習・復習を超えた自修によって、イメージとしてつかんでもらう。そのため、授業では、様々な資料を提示し、理解を深めるような内容とする。								
評価方法	単位認定試験80%、課題・ポートフォリオの提出物の内容20%。								
履修条件・注意事項	授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。 試験では、到達目標の理解度を見るため、特に復習が必要である。 到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。								
自己学習	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。参考書は、教科書の原著で、著者は、著名な科学者で科学エッセイのベストセラー作家でもあるPeter ATKINS氏である。英文表現に興味ある学生は、精読を勧める。								
オフィスワ-	1号棟1階個人研究室にて火曜日2時限に実施。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 化学の起源 2. 化学の対象・成り立ち 3. 周期表と原子・電子 4. 化学結合 5. 熱力学と反応 6. 自由エネルギー・エントロピー 7. 化学平衡 8. 化学反応の進みかた 9. 基本の化学反応 10. 物質をみる 11. 物質を操作してつくる 12. 化学と自然 13. 化学製品 14. 化学と人間活動 15. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木					
教科書 1	サイエンス・パレット104 化学－美しい原理と恵み 著者:渡辺 正 訳 出版社:丸善出版株式会社 ISBN:ISBN978-4-621-08809-8								
教科書 2									
参考書 1	What is chemistry ? 著者:Peter Atkins 出版社:Oxford University Press ISBN:ISBN978-0-19-968398-7								
参考書 2									

授業科目名	統計学			履修期	2020年度 春学期		
担当者	佐藤 匡					NO.	GE-NM-0-004
配当学科	全学共通			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義と演習
テーマと到達目標	自然現象や社会現象についての量的データを統計的に整理したり分析したりすることは、計画立案や意思決定に有用なものである。つまり、社会ではデータを整理し分析する能力が求められるとも言え換えることができる。本講義では、その統計学の入門をテーマとして、目的達成のためにどのようなデータを集め、それをどのように整理して、分析結果をどのように読み取るかという能力を涵養するのが到達目標である。						
概要	統計学はむずかしいと感じる人も多いかもしれないが、身近なことに統計学がうまく応用されて役立っていることも多い。統計学の手法を使って数値データを分析することにより、あいまいな事柄に科学的な説得力を持たせることができるのである。本講義では、その分析に必要な知識である、Excelを活用してのデータの入力、度数分布表、ヒストグラム、平均と分散、仮説検定、散布図と相関係数などについて学習する。この科目は、企業における情報システム管理部門としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、現場において実践的に役立つ授業を実施する。講義内容に対応してパソコンを使用して適宜演習を行う。						
評価方法	「統計の基礎的知識の理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明を求める。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度を30%の重みづけで評価する。また、課題等の提出物30%、記述統計を中心とした理解度を問う試験の成績を40%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定(到達目標)の判断基準とする。						
履修条件・注意事項	第1回のオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認めないことがあるので十分注意すること。受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。授業計画の内容は、進捗の状況に応じて変更になることがある。2020年4月28日追記…当初は90分授業×15回で行うことにしていたが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受けて、2020年度春学期は100分授業×14回で下記の講義内容を学修する。また講義はテレビ会議システムを利用したオンライン形式で行う。						
自己学習	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明を求め、その状況を積極的な参加態度として成績評価の得点とする。						
オフィスワ-	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回 スキル確認テスト・統計処理の概要		講義	佐藤				
第2回 Excelの操作		講義・演習	佐藤				
第3回 度数分布表		講義・演習	佐藤				
第4回 ヒストグラム		講義・演習	佐藤				
第5回 データの散らばり具合		講義・演習	佐藤				
第6回 平均と分散		講義・演習	佐藤				
第7回 標準偏差		講義・演習	佐藤				
第8回 乱数とシミュレーション		講義・演習	佐藤				
第9回 検定の考え方		講義・演習	佐藤				
第10回 検定の実際		講義・演習	佐藤				
第11回 いろいろなグラフ		講義・演習	佐藤				
第12回 散布図		講義・演習	佐藤				
第13回 相関関係と因果関係		講義・演習	佐藤				
第14回 相関係数		講義・演習	佐藤				
第15回 回帰分析、まとめ		講義・演習	佐藤				
第16回 単位認定試験		筆記試験	佐藤				
教科書 1	統計学の図鑑 著者: 浦井良幸・浦井貞美 出版社: 技術評論社						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	数学				履修期	2020年度 春学期		
担当者	大下 浩司					NO.	GE-NM-0-005	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	論理的な思考をテーマとして、大学生として修得しておくべき基礎的な数学に関する知識と問題を解法するための力を養い、多種多様な物事を論理的に思考するための能力を身につける。 このテーマを実現するために、同一数式を対象とした異なる解法に関する検討、言語情報から非言語情報への変換に関する検討、諸課題の整理と論理的思考による解法に関する検討ができるようになることを到達目標とする。							
概要	基礎的な数学の内容に対し、定型的な解法にとどまらず、従来の発想にない解法を探る。このために、問題に含まれる諸課題を整理して非言語的なイメージで表現したり、諸課題の関係性を論理的に整理し数式に表現する。そして、導いた数式を簡潔に解法するために複数の方法を検討する。これらを学生が主体となって取り組めるように授業を行なう。							
評価方法	論理的思考力と解法力を確認するための単位認定試験(80%)、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度(20%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、問題を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、問題を配布するので、予習時には問題の内容を理解し幾つかの解法を検討しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ問題を再度解法し、新たな解法についても検討しておくこと。							
オフィスワ-	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスワ-の時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1. 濃度を題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
2. 速さ・距離・時間を題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
3. ものの値段と個数、定価・原価・利益を題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
4. 割合と値段、仕事算を題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
5. 表の読み取りを題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
6. 資料の読み取りを題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
7. 順列・組み合わせを題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
8. 確率のとりえ方を題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
9. 集合を題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
10. 推論を題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
11. ものの流れと比率を題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
12. ブラックボックスを題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
13. グラフの領域を題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
14. 論証を題材として論理的思考力を身につける	講義	大下(浩)						
15. 単位認定試験	試験	大下(浩)						
教科書 1	予習、復習しやすいよう配慮しながら、適宜、資料を配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	日本のことば			履修期	2020年度 春学期		
担当者	大下 朋子				NO.	FS-FS-1-002	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	日本語を母語としない人に日本語を教える教員を養成するために必要とされる「言語政策とことば」「日本語の構造」(日本語分析、音韻・音声体系、文字と表記、形態・語彙体系、文法体系、意味体系、語用論的規範など)の教育内容の理解を目指す。また、ことばは、特定民族の文化、価値体系、世界観などと深くかかわって形作られており、日本語について社会言語学的な視点から理解を深める。学生は、日本語の特徴を学び、日本人が長い歴史の中で培ってきた言語感覚について理解するとともに、それを教授することができるようになることを到達目標とする。						
概要	言葉を話すことは人間が人間であることの本質とかかわり、長い歴史の中で、日本人は日本語、あるいはやまとことばを生み出した。その特徴を理解することによって、日本人の発想の原点やその価値体系や世界観を知ることができる。ときに英語などのインド・ヨーロッパ語と比較しながら、日本語が成り立つ背景を理解し、季節・年齢・立場などによって区別される表現や言語感覚の習得を目指す。						
評価方法	講義への出席を含めて話の聞き方、意見の出し方などを平常点として20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験が50点、そして単位認定試験を30点として、これらを総合した100点満点で評価する。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験(400字×10枚以上)の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
自己学習	毎週の講義内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスワ-	毎週木曜日2限目(1号棟2階 212研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. ことばの文化的文脈とコミュニケーション 3. ことばの意味確定度不十分性とコンテキスト 4. 日本人の言語意識と行動様式 5. ヨーロッパ諸語の自称詞と対称詞 6. 日本語における自称詞と対称詞の構造 7. 日本人の価値体系とことば 8. 言語政策とことば 9. 日本語教育のための日本語分析 10. 日本語教育のための音韻・音声体系 11. 日本語教育のための文字と表記 12. 日本語教育のための形態・語彙体系 13. 日本語教育のための文法体系 14. 日本語教育のための意味体系・語用論的規範 15. 単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 筆記試験・レポート試験	大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下					
教科書 1	テキストは使用しない。資料を配付し、講読すべき文献は適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本の芸術				履修期	2020年度 春学期	
担当者	山崎 仙狹、高木 秀明					NO.	FS-FS-1-003
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>「外国の人々に伝えるための日本の芸術を理解する。」をテーマとして、国際交流の場面でもよく話題にあがる茶の道と関連する香・庭・花・道具について歴史的な背景と現代の作法などを学び、外国の人々に伝える場面において自ら考え、行動に結びつけるための能力を身につける。英語力がつけば、本講義で身につけたことを英語で表現できるようになる。</p> <p>具体的には、本講義を単位修得したのち、2年次秋学期には英語で本講義で得た知識を外国の人々に説明できるようになることを到達目標とする。</p>						
概要	<p>外国の人々に日本固有の(美)とはどのようなものかと尋ねられたら、どう答えたらよいのだろうか。本講義では、日本人が創造してきた(美)に関するものから日本の茶の道を中心にそれを取り巻く菓子・香・庭・花・道具そして心がけや立居振舞について学び、日本人に共通して流れている美的感性とそれに基づく心がけや立居振舞について考えながら、幅広い教養としての日本の芸術に関する知識を身につける。そして、この科目で得た能力をさらに英語で表現できるようになることも念頭において、授業に取り組んでいただく。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、茶道・華道・禅を実践している実務家による科目である。また、それらを海外でも実践されている。地域・日本・海外という場における日本の芸術文化を実践・体系的に学ぶことができる科目である。</p>						
評価方法	<p>発言頻度や発言内容等、授業への取り組み度によって達成度を評価する。また、最終到達目標が、英語で説明できるようになるためには、全15回の内容は、理解できていないといけな。したがって、成績評価は、授業内での質問に対する応答(50%)、内容確認のための単位認定試験(50%)のウエイトにより評価する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には減点する。</p>						
履修条件・注意事項	<p>実践的な作法等を学ぶ授業が主であるので、真摯な姿勢で受講すること。特に和室での授業もあるので、毎回、ソックス等を着用するなど、身支度にも気を付けること。</p> <p>授業で使用する懐紙、茶、菓子、花など、各自で使用・制作した教材は必ず自宅に持ち帰ること。</p> <p>学外で授業を土日に行う場合がある。</p>						
自己学習	<p>予習として、日本の文化について、日々の生活の中でも疑問をもちそれを解決するよう調べることを勧める。授業内容を正確に理解するために、ノート作成と復習が必要である。</p>						
オフィスワ-	月曜日1時限高木研究室で行う。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. 茶の来た道	講義	山崎					
2. 中国・日本の茶の歴史	講義	山崎					
3. 栄西について	AL	山崎					
4. 栄西踊りについて	AL	山崎					
5. 栄西とお茶	AL	山崎					
6. 菓子のこと-ルーツから現在まで(菓子の歴史)	講義	山崎					
7. 菓子のこと-ルーツから現在まで(1500年代の菓子をつくる)	AL	山崎					
8. 香のこと(香の歴史・種類・目的)	講義	山崎					
9. 庭のこと(庭から露路への歴史)	AL	山崎					
10. 花のこと(花の歴史)	講義	山崎					
11. 花のこと(花をアレンジする)	AL	山崎					
12. 道具のこと(茶碗・食事の仕方)	講義	山崎					
13. 染のこと(紅花で布をそめる)	AL	山崎					
14. 心がけ-日本人として知っておきたい文化と常識	AL	山崎					
15. 立居振舞(和室にて菓子と抹茶について)	AL	山崎					
16. 単位認定試験	筆記試験	山崎					
教科書 1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本の歴史			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	國方 久史					NO.	FS-FS-2-004
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	我々は、高度に発達しつつ、なおも不安定な現代社会に生きている。この混沌として不確実な社会の中で生活していくには、一定の指針を持たなければならない。茫洋たる大海に船を発進させるとき、高性能で堅牢な羅針盤が必要となる。そこで、歴史を正しく、しかも貪欲に学習してほしい。吸収した知識を有効に活用していけば、羅針盤は自ずと手に入るであろう。歴史はそれ自体そっくり繰り返しはしない。しかし、過去を真剣に吟味することによって、私たちは啓発的な遺産や教訓に目を開かされることになる。						
概要	日本の歴史を先史・古代から現代までを、いくつかのテーマを選んで講義する。それにより、日本の歴史の大きな流れを把握することが可能となるように配列したつもりである。大いなる好奇心と豊かな想像力をもって授業に取り組むならば、上に述べた羅針盤を手に入れることができるであろう。それにより、物事を自ら考え判断できる自立した主体となることが可能となるであろう。						
評価方法	この科目では、知識の修得程度を確認するための試験(50%)、自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポート(50%)で評価する。評価のために実施した課題は、授業中にフィードバックするので、単位認定試験までに必ず見直しを行うこと。						
履修条件・注意事項	授業の三分の一以上を欠席した者は、単位認定試験を受験できないので注意すること。『日本の歴史ノート』を準備するので毎時間持参し、整理すること。						
自己学習	課題の作成には教科書の予習・復習(各30時間)が必要である。						
オフィスアワー	火曜日の昼休み。事務室。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1、旧石器時代～農耕社会の成立 2、古墳とヤマト政権 3、改革の時代 4、律令国家の展開 5、摂関政治と院政 6、鎌倉幕府の成立と衰退 7、室町幕府の成立～戦国時代へ 8、幕藩体制の確立 9、幕藩体制の展開 10、幕藩体制の動揺 11、近代国家の成立 12、近代日本とアジア 13、近代日本と世界 14、占領下の日本～高度成長の時代へ 15、激動する世界と日本 16、単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方
教科書 1	使用しない						
教科書 2							
参考書 1	詳説日本史B 著者:石井・五味他 出版社:山川出版社 ISBN:4-634-70240-0						
参考書 2							

授業科目名	日本の経済				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-2-005	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>「日本経済のグローバル化と社会経済の変化」をテーマに、ここでは世界の中における日本経済の置かれた位置や立場を考える。そこで、現在の経済・財政・金融で使われている、ちょっと難しそうなお言葉に慣れることから始めたい。経済や財政、そして金融のデータやグラフを見て、それからどんなことが読み取れるかも一緒に考えよう。また、現在、世界的に経済が不安定であるが、それはどうしてなのか、その原因はどこにあるのかなどを考える力も身に付けよう。そして、日本と世界とが経済的にどうつながっているのかを、入門編として、それを理解し考えられるのを到達目標とする。</p>							
概要	<p>経済、その言葉を人々はどんな意味で使っているのだろうか。誤解を恐れず言うならば、「食べる」である。人の生活をなり立たせることである。われわれは現代の日本に生きているので、現代日本の経済の仕組みや成り立ちの中で生活している。そのために新聞やテレビでは、財政とか金融とかの言葉が使われる。そこで前半はそれらが理解できるようにする。石油の値段とか、株の価格とか、あるいは国債の値段とか、それらがなぜニュースの話題になるかが分かるようになる。そこで後半は、日本経済のグローバル化を中心に諸君と話し合おう。</p>							
評価方法	<p>講義において問題に答え感想を書く日常的な参加態度に10点、課題テーマとして「持ち帰り試験」(小論文)に60点、期末の単位認定試験に30点の配点で、これらを総合して評価する。単位認定試験は、原則として講義の最終日に実施するが、「持ち帰り試験」(400字×10枚以上)の小論文を提出しなければ、単位を認定しないことがあるので要注意のこと。</p>							
履修条件・注意事項	<p>講義に関する意見や感想などをまとめて提出してもらおう。持ち帰り試験を単位認定試験と一緒に提出することを条件とするので、講義に関する書籍等も読みまとめておくこと。また、外部から招聘講師に毎月一度来て話してもらおうので、先生に対する対応(挨拶、私語の禁止、感謝の言葉など)がよくできること。</p>							
自己学習	<p>一度聞いたり問題を解いたりしただけではすぐに忘れるかもしれない。理解を深めて自分のものにするには復習が必要となる。また、現代の社会や経済の変化も理解できるように、新聞を読みテレビのニュースを見て、自分で気づいたことや関心をもったことをノートに整理しまとめておくこと。</p>							
オフィスアワー	1号棟2階の124研究室にて、毎週月曜日4限目。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 農業経済から工業経済へ 3. 日本と世界の経済 4. 成長経済と定常経済 5. インフレーションとデフレーション 6. 景気変動と社会変化 7. 日本経済の行へは? 8. 信用制度と日本銀行の役割 9. 日本政府の財政政策 10. 日本の金融政策と社会問題 11. 現代の社会経済の変化 12. 経済のグローバル化とは何か 13. 「ローン経済」のグローバル化 14. 今後の日本経済の歩み方 15. 現代日本の自由貿易とは何か 16. 単位認定試験 			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋	
教科書 1	必要に応じて随時指定する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	クールジャパン論			履修期	2020年度 春学期		
担当者	イアン・ウォーナー、カルロス・ガルシア、金沢 真弓、ジョン・フォーセット				NO.	FS-FS-2-006	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	This course of (English language) lectures is designed to educate Japanese students (who, in most cases, have spent little or no time overseas and, at best, only very limited time with non-Japanese persons) how they themselves can formally and informally speak (and, by extension, write) compellingly, and at length – in English – about Japan and things Japanese. Specifically, it is designed to improve student awareness in regard to ‘good’ and ‘positive’ Japan-centered topics that are likely to appeal to, interest, impress, inform, educate and potentially benefit non-Japanese English language users (of all ages and backgrounds).						
概要	Each weekly lecture, and all related practical activities, will focus on one or more specific ‘things Japanese’ that the lecturer – drawing on his / her own personal knowledge gained inside and outside of Japan – contends to be ‘positive, impressive, cool and thus noteworthy’ in an objective, international comparative sense. In other words, he / she will talk about choice aspects and facets of current Japanese civilization (be they in the realm of governance, public policy, administration, business, education, R&D and / or the liberal arts, etc) that appear to be ‘positive, impressive, cool and thus noteworthy’ by international standards, AND which are likely to be entirely unknown or barely familiar to all but tiny minorities of non-Japanese persons.						
評価方法	100% = Coursework (Including homework and mini-tests, etc) Students will be continuously appraised regarding coursework. Each lecturer will check attendance and general student lesson-time performance. He / she will award 25% (max.) of each student’s final (overall) grade score.						
履修条件・注意事項	Students should be mature and ‘PROACTIVE’ at all times and thus: 01) be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand – and successfully master – all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with – and listen to – their teacher and classmates, in English.						
自己学習	Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials ‘as much as possible’; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible.						
オフィスワ-	Please visit or contact the teacher that you want to talk to and get help and advice from.						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
Week 01 – Fawsitt – Lecture and related activities; Landscape	Lecture Lecture Lecture Lecture	Fawsitt Fawsitt Fawsitt [Fawsitt]					
Week 02 – Fawsitt – Lecture and related activities; Animals	Lecture Lecture Lecture Lecture	Kanazawa Kanazawa Kanazawa [Kan.]					
Week 03 – Fawsitt – Lecture and related activities; Fruit	Lecture Lecture Lecture Lecture	Garcia Garcia Garcia [Garcia]					
Week 04 – Fawsitt – Lecture and related activities; Flowers	Lecture Lecture Lecture Lecture	Warner Warner Warner [Warner]					
Week 05 – Kanazawa – What’s ‘Cool Japan’?	Lecture Lecture Lecture Lecture	Warner Warner Warner [Warner]					
Week 06 – Kanazawa –	Lecture Lecture Lecture Lecture	Warner Warner Warner [Warner]					

<p>Do you agree these things are cool or not? - Service at a restaurant, Capsule Hotels;</p> <p>Week 07 - Kanazawa - Discussion: Let's find out 'Cool Japan' around us;</p> <p>Week 08 - Kanazawa - Group presentation;</p> <p>Week 09 - Garcia - People and Customs</p> <p>Week 10 - Garcia - Items Unique to Japan</p> <p>Week 11- Garcia - Technology</p> <p>Week 12 - Garcia - Group Presentations</p> <p>Week 13 - Warner - Transportation [Lecture and related activities]</p> <p>Week 14 - Warner - Places & Environment [Lecture and related activities]</p> <p>Week 15 - Warner - Products, Companies and additional Cool Things [Lecture and related activities]</p>	Lecture	[Warner]			
教科書 1	Each instructor will supply students with all necessary (printed and / or digital format) study materials and information - in hand-out form - on a weekly basis, before, during and / or after each lesson. 出版社: Please see opposite. ISBN: See above, left.				
教科書 2	出版社: See above, left. ISBN: See above, left.				
参考書 1	DK Eyewitness Travel Guide: Japan Paperback (June 2019 or earlier / older) Students do NOT have to BUY this book. This book is in the KIU Okayama Campus Library. 出版社: Publisher: DK Eyewitness Travel; Revised Edition: /06/2019 ISBN: ISBN-10: 978-0241256756 ISBN-13: 978-0241256756 ASIN: 0241256755				
参考書 2					

授業科目名	英語学 I				履修期	2020年度 春学期			
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-1-101		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	<p>テーマ:英語学的見地から「英語」を理解し、英語の未来を考察する。 到達目標:1)わたしたちが使っている現代英語は、どこからきて、どのようにして変化してきたのかを探究し、理解できるようにする。2)英語が発展してきた背景を学ぶとともに、英語学的見地から、英語の音、スペル、文法の変化を学習し、説明できるようにする。3)様々な国で使われている英語の違いを理解できるようにする。</p>								
概要	<p>国際語としての英語は、どのようにして生まれ変化してきたのか、その社会的・文化的背景から探っていくと共に幅広い知識を身につける。また、音声記号や文字記号と意味の生成についても考察する。テキスト以外の資料を読むことが必要であり、受講者は英語学におけるテーマを決めて発表する。</p>								
評価方法	学期末試験(50%),発表(30%),授業参加度(20%)								
履修条件・注意事項	<p>予習・復習 授業計画の内容は進捗状況に応じて変更が生じる場合がある</p>								
自己学習	テーマに関する資料を読むこと。								
オフィスアワー	火曜日 4時限目(15:10 - 16:40)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(授業の目標、進め方について説明) 英語学とは 2. 言葉の起源と言語研究 3. 英語の発音とスペリング 4. 英語の語彙の多様性と標準英語の成立 5. 英語のバリエーション 6. 言葉と音声 7. 単語ができるしくみ 8. 文ができるしくみ 9. 意味の拡張 10. ことばの意味とコンテキスト 11. 英語と文化、ことばと社会 12. 日本の英語教育と教授法 13. 発表 14. 発表 15. 試験 			講義	金沢真弓					
教科書 1	はじめての英語学 出版社: 研究社								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	英語学Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-1-102	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:英語の基礎である文法・構文の知識を確実に定着させ、自己表現のための土台を強化する。 到達目標:文法の基本事項の定着。</p>							
概要	<p>英文法・英語構文の基本事項を復習し、関連例文をとおしてポイントの内容をさらに深く理解します。多種多様な多くの設問に取り組み、不確かな文法・構文の知識を確実にしていきます。さらに、最後に短いエッセイを読みながら文構造や文法の応用学習にすすみます。エッセイの中の英語表現を使って英文作成にもチャレンジします。</p>							
評価方法	定期試験(40%) 中間試験(30%) 小テスト(30%)							
履修条件・注意事項	予習・復習をすること。辞書持参。							
自己学習	各ユニットの単語学習, 文法の練習をすること。							
オフィスアワー	月曜日4時限目(15:10-16:40)							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 文の要素と基本5文型 2. 動詞の種類 3. 動詞の時制 4. 助動詞 5. 名詞 6. 代名詞 7. 冠詞 8. 不定詞 9. 分詞 10. 動名詞 11. 接続詞 12. 関係詞 13. 前置詞 14. 比較 15. 条件文と仮定法 16. 期末試験 				講義と演習	金沢真弓
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1	マーフィーのケンブリッジ英文法 出版社:Cambridge							
参考書 2								

授業科目名	英語学Ⅲ				履修期	2020年度 春学期			
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-2-103		
配当学科	外国				年次	2			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習		
テーマと到達目標	<p>テーマ： 英語の多文化性の需要と相互理解を図る</p> <p>到達目標： 1) 英語の国際的普及がもたらした英語文化の多様化について理解し、またそれによって生じた新しい問題の提起と解決策を見つけ出していく。2) 世界の英語に関する事情や情報を知り、英語による円滑なコミュニケーションの方法を考えることができるようにする。</p>								
概要	現代の英語の国際性や多様性に関するデータや事例、エピソードを英語で読み、内容理解だけでなく、使用されている語句を学習する。テーマに基づいて、ペアやグループによるディスカッションによる意見交換、または口頭で発表する。								
評価方法	プレゼンテーション(40%),レポート(30%), 課題(30%)								
履修条件・注意事項	<p>受講に際し予習・復習が必要。</p> <p>課題の期限は守る。</p> <p>授業計画の内容は進捗状況に応じて変更が生じる場合がある。</p>								
自己学習	配布資料を前もって読んでおくこと。								
オフィスアワー	火曜日 4時限目(15:10 - 16:40)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. English as an International Language 2. What is English as an International Language? 3. Why is English so important? 4. World Englishes 5. More non-native speakers than native speakers 6. English as an Asian Language 7. The official language of Singapore is Singlish 8. English in India 9. Internationalization and Diversification 10. English as a multicultural language and diversity management 11. Different Communication Style 12. English as a Japanese Language for international communication 13. Discussion 14. Presentation 15. Presentation			講義と演習	金沢真弓					
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1	Understanding English across Cultures 出版社: Kinseido								
参考書 2									

授業科目名	英語文学 I				履修期	2020年度 春学期			
担当者	今林 修					NO.	FS-FS-2-105		
配当学科	外国学科				年次	2			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	文学理論と文体論を援用しながら、英語で書かれた代表的な児童文学を丹念に読み込むことにより、文学に特有な英語表現に親しみ、深い読解力の涵養と多様な文化の理解を促し、真の国際人としての文学研究の重要性を説く。								
概要	代表的な英語で書かれた児童文学をテキストにして、文学理論と文体論を援用しながら、丹念に読み込むことにより、文学特有の英語表現に親しみ、多様な文化理解に役立て、文学研究の重要性を理解させる。また、学習者の立場から教育者の立場に立つと英語文学がどのように違って見えるのかという点も考察させたい。								
評価方法	授業での発表(40%)とレポート(60%)								
履修条件・注意事項	授業中の私語は厳禁。								
自己学習	授業で一部を取り上げた文学作品は、できるだけ最後まで読むようにしましょう。								
オフィスワ-	授業終了後								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回:導入 英語文学と英語教育 第2回:Eric Carle, The Very Hungry Caterpillar 第3回:Eric Carle, The Very Quiet Cricket 第4回:Beatrix Potter, The Tale of Peter Rabbit 第5回:Beatrix Potter, The Tale of Two Bad Mice 第6回:W. Awdry, Thomas the Tank Engine 第7回:W. Awdry, Henry the Green Engine 第8回:A.A. Milne, Winnie the Pooh 第9回:A.A. Milne, The House at Pooh Corner 第10回:C.S. Lewis, The Lion, the Witch and the Wardrobe 第11回:C.S. Lewis, The Last Battle 第12回:J.K. Rowling, Harry Potter and the Philosopher's Stone 第13回:J.K. Rowling, Harry Potter and the Sorcerer's Stone 第14回:Lewis Carrol, Alice's Adventures in Wonderland 第15回:Lewis Carrol, Through the Looking-Glass 第16回:まとめとレポート			演習	今林 修					
教科書 1	毎回、ハンドアウトを配布する。								
教科書 2									
参考書 1	毎回配布するハンドアウトに随時記載する。								
参考書 2									

授業科目名	英語文学Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期			
担当者	今林 修					NO.	FS-FS-2-106	
配当学科	外国学科			年次	2			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	文学理論と文体論を援用しながら、英語で書かれたキャンンと称される代表的な文学テキストを丹念に読み込むことにより、文学特有の英語表現に親しみ、深い読解力の涵養と多様な文化理解を促し、正しい文学批評の能力を身につけ、現代の国際人としての文学研究の重要性とそれの教育への応用を学ぶ。							
概要	文学理論と文体論を援用しながら、年代順に英語で書かれたキャンンと称される代表的な英文学テキストを文学特有の英語表現、多様な文化に注目しながら、丹念に読み込む。できるだけ多くの代表的な英文学のテキストに触れることにより、各テキストの独自性に気づかせる。							
評価方法	授業での発表(40%)とレポート(60%)							
履修条件・注意事項	授業中の私語は厳禁。							
自己学習	授業で一部を取り上げた文学作品は、できるだけ最後まで読むようにしましょう。							
オフィスアワー	授業終了後							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
				第1回: 英語文学史とキャンン 第2回: Geoffrey Chaucer, General Prologue to the Canterbury Tales 第3回: Edmund Spenser, The Faerie Queene 第4回: William Shakespeare, Romeo and Juliet 第5回: William Shakespeare, Hamlet 第6回: Richard Brinsley Sheridan, The Rivals 第7回: Oliver Goldsmith, She Stoops to Conquer 第8回: Oliver Goldsmith, The Vicar of Wakefield 第9回: Daniel Defoe, Robinson Crusoe 第10回: Jonathan Swift, Gulliver's Travels 第11回: Jane Austen, Pride and Prejudice 第12回: Jane Austen, Mansfield Park 第13回: Charles Dickens, Oliver Twist 第14回: Charles Dickens, Great Expectations 第15回: 精読とは 第15回: まとめとレポート			演習	今林 修
教科書 1	毎回、ハンドアウトを配布する。							
教科書 2								
参考書 1	毎回配布するハンドアウトに随時記載する。							
参考書 2								

授業科目名	英語音声学 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-1-107
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>Theme: Maximizing student English language pronunciation competency by ensuring thorough basic phonological understanding (and – in so doing – enhancing listening comprehension / aural competency).</p> <p>Aim: To make student pronunciation of English language words 'sufficiently accurate' and thus 'correct' – or at least 'functional' and 'acceptable' vis-a-vis 1 and 2-way oral communication and especially the reading of familiar and unfamiliar (typed / printed) common words (both aloud and silently, to oneself).</p>						
概要	<p>The course will center on the study of English vowel and consonant sounds in order to help students become effective and efficient English language users. It will necessarily entail optimally extensive and intensive weekly pronunciation practice intended to bring student pronunciation performance as near as possible to 'received' and / or internationally accepted pronouncing 'norms', 'best practices' and 'ideals'. 'Sufficiently accurate' and thus 'correct' – or at least 'functional' and 'acceptable' – pronunciation, in line with such norms, best practices and 'ideals', is a vital skill that all 'non-native' students of English must strive to acquire and develop to an advanced degree. Those who fail to pronounce words in a 'sufficiently accurate' and thus 'correct' – or at least 'functional' and 'acceptable' – manner will frequently not be understood (in full or part) – and be misunderstood by their interlocutors – especially by non-compatriot users of English. Moreover, such a failing – in the worst scenario – is likely to impede and limit the general development of all 4 core language skills (Listening, Reading, Speaking and Writing). In sum, English as foreign language (EFL) students must develop and retain the capacity to 'correctly' identify and produce the component syllable sounds of most commonly used words (regardless of whether their definitional meanings are known or unknown), whenever they are 'correctly' or 'acceptably' i) typed and printed or ii) pronounced by others. In other words, such students must be assisted in their efforts to become competent and proficient (visual and aural) identifiers and (oral) utterers of individual whole words, their component speech sounds (i.e. phonemes) and respective corresponding grapheme representations.</p>						
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or recording assignment, depending on student numbers). [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p>						
履修条件・注意事項	<p>Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.</p> <p>Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus:</p> <p>01) be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand – and successfully master – all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with – and listen to – their teacher and classmates, in English; 05) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, often at some length; 06) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 07) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 08) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 09) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 10) strive to complete all classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well AND to finish and submit them 'on time', before specified deadlines; 11) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 12) communicate with – and request help from – their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 13) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 14) tell the teacher immediately if they think that any lesson-related activity is / was too easy or difficult; 15) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times;</p>						
自己学習	<p>In addition to completing all homework assignments, students SHOULD:</p> <p>a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;</p> <p>The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand – and 'master' – all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.</p>						
オフィスワ-							

	<p>In Ian Warner's office - Room 133</p> <p>Mondays - 3, 4, 5, 6, 7 Tuesdays - 4, 5, 6, 7 Wednesdays - N/A Thursdays - 3, 4, 5, 6, 7 Fridays - Periods 4, 5, 6, 7</p> <p>* = Unless at staff meetings</p> <p>Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.</p>				
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回:母音vowels 1~3[æ][ʌ][ɑ] 第2回:母音vowels 4~6[a:][a:r][ə:r] 第3回:母音vowels 7~9 [ə][ɜ:r][i: 第4回:母音vowels 10~12[i:][u: 第5回:母音vowels 13~15[e:][ɔ: 第6回:母音vowels 16~18[ai][aiə 第7回:母音vowels 19~21[auə 第8回:母音vowels 22~24[ou]rju: 第9回:母音vowels 25~26 [uə 第10回:子音 consonants 1~5[l][r] 第11回:子音 consonants 6~10[d] 第12回:子音 consonants 11~15[n] 第13回:子音 consonants 16~20[z] 第14回:子音 consonants 21~24[t] 第15回:定期試験 Final Exam.	Lecture 01 Lecture 02 Lecture 03 Lecture 04 Lecture 05 Lecture 06 Lecture 07 Lecture 08 Lecture 09 Lecture 10 Lecture 11 Lecture 12 Lecture 13 Lecture 14 Final Exam.	Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner			
教科書 1	a) Clear Speech [4th Edition] (2012) b) English Pronunciation in Use - Intermediate (2014) 著者: 1) Judy B. Gilbert === 2) Martin Hewings 出版社:Cambridge University Press ISBN:ISBN-10: 1107682959 ISBN-13: 978-1107682955 == ISBN-10: 1108403697 ISBN-13: 978-1108403696				
教科書 2	Pronouncing Dictionary [18th Edition] (2011) Students do NOT need to buy this book. Certain specific pages will be used in lesson time. 著者:Daniel Jones 出版社:Cambridge University Press ISBN:ISBN-10: 0521152550 ISBN-13: 978-0521152556				
参考書 1	Ship or Sheep? [3rd Edition] (2006) Certain specific pages will be used in lesson time. 著者:Ann Baker 出版社:Cambridge University Press ISBN:ISBN-10: 052160673X ISBN-13: 978-0521606738				
参考書 2	A large number of suitably challenging English language news reports and journalistic articles - sourced mainly from major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will be utilized on a weekly basis. 著者:Additional supplementary reading, listening (audio) and speaking materials and activities will be supplied (weekly) by the teacher.				

授業科目名	英語音声学Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-1-108
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>Theme: For intonation and rhythm: linking, elision, assimilation, dropping of sound</p> <p>Aim: Building on progress made in English phonetics I, the aim of this course is to provide students with a greater, more comprehensive understanding and mastery of English language pronunciation.</p>						
概要	<p>From the viewpoint of suprasegmental features, this course will focus on syllables, stress, rhythm and intonation etc. of English to learn natural English pronunciation. This course will emphasize practical aspect so that students can communicate in English with natural pronunciation in oral communication.</p> <p>'Sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable'- pronunciation, in line with such norms, best practices and 'ideals', is a vital skill that all 'non-native' students of English must strive to acquire and develop to an advanced degree. Those who fail to pronounce words in a 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' - manner will frequently not be understood (in full or part) - and be misunderstood by their interlocutors - especially by non-compatriot users of English. Moreover, such a failing - in the worst scenario - is likely to impede and limit the general development of all 4 core language skills (Listening, Reading, Speaking and Writing). In sum, English as foreign language (EFL) students must develop and retain the capacity to 'correctly' identify and produce the component syllable sounds of most commonly used words (regardless of whether their definitional meanings are known or unknown), whenever they are 'correctly' or 'acceptably' i) typed and printed or ii) pronounced by others. In other words, such students must be assisted in their efforts to become competent and proficient (visual and aural) identifiers and (oral) utterers of individual whole words, their component speech sounds (i.e. phonemes) and respective corresponding grapheme representations.</p>						
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p>						
履修条件・注意事項	<p>Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.</p> <p>Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus:</p> <p>01) be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with - and listen to - their teacher and classmates, in English; 05) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, often at some length; 06) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 07) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 08) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 09) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 10) strive to complete all classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well AND to finish and submit them 'on time', before specified deadlines; 11) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 12) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 13) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 14) tell the teacher immediately if they think that any lesson-related activity is / was too easy or difficult; 15) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times;</p>						
自己学習	<p>1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor.</p> <p>2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face.</p> <p>3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments.</p> <p>In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should:</p> <p>a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first</p>						

language is;
g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;

The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand – and 'master' – all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.

<p>オアイアア-</p>	<p>Mondays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Tuesdays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Wednesdays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Thursdays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Fridays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5</p> <p>* = Unless at staff meetings</p> <p>Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings – and meetings after 6:20pm – are also possible.</p>
---------------	---

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			<p>第1回: Syllables 第2回: Vowels and Vowel Rules 第3回: Word Stress and Vowel Length 第4回: Word Stress and Vowel Clarity 第5回: Word Stress Patterns 第6回: Sentence Focus: Emphasizing Content Words 第7回: Sentence Focus: De-Emphasizing Structure Words 第8回: Choosing the Focus Word 第9回: Emphasizing Structure Words 第10回: Constituents and Stops: /s/ and /t/ 第11回: Constituents and Stops: /r/ and /d/; /l/ and /d/ 第12回: Voicing 第13回: Voicing and Syllable Length Aspiration 第14回: Sibilants 第15回: Thought Groups 第16回: Final Exam.</p>	<p>Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture</p>	<p>Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner</p>
<p>教科書 1</p>	<p>1) Clear Speech [4th Edition] (2012) 2) English Pronunciation in Use - Intermediate (2014) 著者:1) Judy B. Gilbert</p> <p>===</p> <p>2) Martin Hewings 出版社: Cambridge University Press ISBN: ISBN-10: 1107682959 ISBN-13: 978-1107682955 === ISBN-10: 1108403697 ISBN-13: 978-1108403696 </p>				
<p>教科書 2</p>	<p>Pronouncing Dictionary [18th Edition] (2011) Students do NOT need to buy this book. Certain specific pages will be used in lesson time. 著者: Daniel Jones 出版社: Cambridge University Press ISBN: ISBN-10: 0521152550 ISBN-13: 978-0521152556 </p>				
<p>参考書 1</p>	<p>Ship or Sheep? [3rd Edition] (2006) Certain specific pages will be used in lesson time. 著者: Ann Baker 出版社: Cambridge University Press ISBN: ISBN-10: 052160673X ISBN-13: 978-0521606738</p>				
<p>参考書 2</p>	<p>A large number of suitably challenging English language news reports and journalistic articles – sourced mainly from major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines – will be utilized on a weekly basis. 著者: Additional supplementary reading, listening (audio) and speaking materials and activities will be supplied (weekly) by the teacher.</p>				

授業科目名	英語リーディング I				履修期	2020年度 春学期			
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-1-201		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	This course will focus on reading comprehension with critical thinking and vocabulary practice. Through various exercises, we will try to develop reading skills and overall language ability. The aim is for students to understand the main idea and details of a text, summarize it in their own words, answer questions, and give their opinion on the topic.								
概要	Classes will have in-class reading, questions and answers, and topic discussions of homework. We will learn by studying topics and situations. Students can share their own opinions on many issues.								
評価方法	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam								
履修条件・注意事項	Students should prepare for each class by doing the homework assignments, checking vocabulary, and background information. Vocabulary will be a big part of understanding text, so it is suggested that students study the vocabulary words from each unit, as well as any unknown words in the text.								
自己学習	Students should look through the unit to become familiar with the content, and get an idea what types of topics and vocabulary words will be used. Doing digital book exercises are encouraged because students can check their answers and work at their own pace. Finding books at an appropriate level to read for pleasure is highly encouraged.								
オフィスアワー	Wednesday: 9:00 am – 11:00 am, or by appointment.								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1) Course introduction			Lecture	GARCIA					
2) Facts and opinions			Lecture	GARCIA					
3) Main idea			Lecture	GARCIA					
4) Identifying reference words			Lecture	GARCIA					
5) Identifying the topic			Lecture	GARCIA					
6) Inferring meaning			Lecture	GARCIA					
7) Identifying time order			Lecture	GARCIA					
8) Guessing meaning from content			Lecture	GARCIA					
9) Collocations			Lecture	GARCIA					
10) Recognizing parts of speech			Lecture	GARCIA					
11) Suffixes			Lecture	GARCIA					
12) Prefixes			Lecture	GARCIA					
13) Identifying cause & effect			Lecture	GARCIA					
14) Synonyms			Lecture	GARCIA					
15) Content/semester review			Lecture	GARCIA					
16) Final Exam			Lecture	GARCIA					
教科書 1	Reading Keys 1 著者:Miles Craven 出版社:Macmillan								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	英語リーディングⅡ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-1-202
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>Theme: Helping students to further develop their Reading Comprehension skills (and thus vocabulary, pronunciation and syntactic / grammar) knowledge-awareness.</p> <p>Main Aims / Objectives: The aim of this course is to further develop student ability to accurately and otherwise efficiently understand and 'digest' a diverse range of texts (of appropriate length and complexity) within comparatively short(er) periods of time. By the end of this course, students should therefore be better able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> ascertain and understand the information contained within (mostly teacher assigned) study texts; ascertain and understand the gist, 'messages' and thus likely main intended 'purpose(s)' of (mostly teacher assigned) study texts; comprehensively summarize (verbally and in writing) study text content; comprehensively describe and explain (verbally and in writing) study text content; express their own opinions and responses regarding study text content; 						
概要	<p>Students will be expected, encouraged and helped to read, analyze, explain and provide personnel, opinion-based critical assessments of assigned study texts verbally and in writing. Students will thus be given ample weekly opportunities to talk, discuss and write about assigned study text content and relevant related topics.</p> <p>Students will be given – on a weekly basis – ample opportunity to practice and thereby improve not only their vocabulary / word recognition, pronunciation and syntactic / grammar knowledge-awareness but also their Oral Communication (OC) and Writing communication skills, as they attempt to determine the gist and / or full meaning and intent of assigned study texts.</p> <p>Students will be expected, encouraged and helped to engage wholeheartedly, enthusiastically and intellectually with assigned reading materials and to be eager to describe and comment on them in appropriate detail and for an appropriate length of time. In other words, students will be expected, encouraged and helped to say and / or write 'enough' words and sentences in the time available (and thus to avoid being too slow, hesitant, unforthcoming or reticent).</p> <p>Student comprehension performance will be constantly assessed via appraisal of oral / verbal and written reports and verbal and written answers to the teacher's verbal and written questioning.</p> <p>For verbal reporting, pronunciation, intonation, audibility, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.</p> <p>For written reporting, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.</p>						
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p>						
履修条件・注意事項	<p>Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.</p> <p>Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus:</p> <ol style="list-style-type: none"> be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; try to fully understand – and successfully master – all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; come to each lesson ready and eager to speak with – and listen to – their teacher and classmates, in English; be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, often at some length; be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; strive to complete all classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well AND to finish and submit them 'on time', before specified deadlines; REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; communicate with – and request help from – their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; tell the teacher immediately if they think that any lesson-related activity is / was too easy or difficult; use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times; 						
自己学習	1)						

Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor.

2)

Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face.

3)

Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments.

In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should:

- a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently;
- b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible';
- c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible;
- d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible;
- e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible;
- f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is;
- g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;

The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.

オフィスワ-	<p>In Ian Warner's office - Room 133</p> <p>Mondays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Tuesdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Wednesdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Thursdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Fridays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5</p> <p>* = Unless at staff meetings</p> <p>Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.</p>
--------	---

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			Week 01 = U-01 (Main Text, etc) Week 02 = U-02 (Main Text, etc) Week 03 = U-03 (Main Text, etc) Week 04 = U-04 (Main Text, etc) Week 05 = U-05 (Main Text, etc) Week 06 = U-06 (Main Text, etc) Week 07 = U-07 (Main Text, etc) Week 08 = U-08 (Main Text, etc) Week 09 = U-09 (Main Text, etc) Week 10 = U-10 (Main Text, etc) Week 11 = U-11 (Main Text, etc) Week 12 = U-12 (Main Text, etc) Week 13 = U-13 (Main Text, etc) Week 14 = U-14 (Main Text, etc) Week 15 = U-15 (Main Text, etc) Week 16 = Final Exam.	Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Final Exam.	Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner
教科書 1	Reading Pass - Intro (2013) 著者: Andrew E. Bennett 出版社: Nan'un-Do Co., Ltd. ISBN: ISBN-10: 4523177201 ISBN-13: 978-4-523-17720-3				
教科書 2	Suitably challenging English language texts (including news reports and journalistic articles) sourced from books and major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will also be utilized on a weekly basis.				
参考書 1	Reader's Forum: Preface Simply English An Introduction to Today's Key Concepts (2017) 著者: Jim Knudsen 出版社: Nan'un-Do Co., Ltd. ISBN: ISBN9784523178293				
参考書 2					

授業科目名	エクステンシブ・リーディング				履修期	2020年度 秋学期			
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-2-203		
配当学科	外国				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	One goal of this course is to expose students to different types of reading material they may encounter in the real world. Students should become familiar with and understand different kinds of material, and have a high level of comprehension. Another goal is to help students become faster and more fluid readers.								
概要	Students will be introduced to various materials and have to understand the content enough to answer detailed questions about it. Students may be asked to verbally summarize an article, or write their opinion of the reading material. The focus will be reading, but other skills will be integrated as well.								
評価方法	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam								
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and do all homework. The in class activities and homework serve as practice, so it is advised that students do these to help improve their writing skills. Asking questions in class or visiting office hours to get help will also be very beneficial. Extra reading for pleasure is encouraged to help become a faster, more confident, and better overall reader.								
自己学習	Reading for pleasure at an appropriate level will be very beneficial. Also, review the material before and after class to help you retain the information from class. Doing the exercises in the digital book will also help as you can check your answers and try them repeatedly.								
オフィスワ-	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1) Course overview 2) Guessing meaning from context 3) Identifying text organization 4) Inferring meaning 5) Antonyms 6) Words with different meanings 7) Prefixes 8) Identifying reference words 9) Skimming 10) Separating fact from fiction 11) Suffixes 12) Synonyms 13) Selecting key information 14) Word groups 15) Course review 16) Final Exam			Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture	GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA
教科書 1	Reading Keys 2 著者: Miles Craven 出版社: Macmillan								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	メディア英語			履修期	2020年度 春学期		
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-2-204
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	The main goal of this class will be to give students the chance to use English in various media platforms. Students will use the four English skills (reading, writing, listening, speaking) to present their ideas and interact with each other.						
概要	Students will use websites, apps, blogs, video, social media, and others forms of media to react and interact with each other and share ideas. Depending on the experience, interest, and capability of students, we will decide what types of projects and activities we want to do or learn in class. The hope is that students learn to use English across different platforms to communicate with others.						
評価方法	Students will be evaluated by class participation, assignments, and projects. 1) 80%: assignments, homework, participation. 2) 20%: Final Project						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, make good use of class time, and do all assignments. The in-class activities and activities will require both in-class and out of class time, so it is advised that students keep up with assignments. Students are encouraged to ask questions in class or visit office hours to get help if needed. Students should engage in kind, courteous, and respectful netiquette.						
自己学習	Because many projects and activities may require time outside of class, it is best if students start early and ask questions often. Dealing with technology always has the chance to encounter problems, so practicing and experimenting with apps and websites is encouraged.						
オフィスワ-	Wednesday: 9:00 am - 11:00 am, or by appointment.						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1) Course Overview 2) Creating a blog 3) Making a teaching video 4) Print ad 5) Product commercial 6) Webpage design 7) Slide presentation 8) Interview video 9) Chain story 10) Action story 11) Voice over 12) Voice thread 13) Creating an interactive survey 14) Creating game review 15) Project planning 16) Final Project	Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture	GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA					
教科書 1	No Book						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	英語ライティング I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	ジョン・フォーセット					NO.	FS-FS-1-205
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	Writing is good because we create language that we can use for speaking also. We can learn about our grammar and practice using new words. In this we will try to communicate our ideas and opinions faster. We also will try to learn 500 new words.						
概要	In each class there will be a vocabulary quiz and practice. We will discuss and research topics we think are interesting. We will read model writing and then try to write our own texts.						
評価方法	Final exam 40% Course work 60%: Quizzes, written work, and cooperation with other students will all receive points.						
履修条件・注意事項	In order to practice it is good to write a lot. Don't try to write perfect English. Try to write YOUR English.						
自己学習	Vocabulary is extremely important and is vital to every aspect of your learning. As soon as possible design a portable vocabulary study program that you can access quickly and easily whether in public or private spaces.						
オフィスアワー	1700-1800 except Fridays.						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1 about me 2 my friends 3 my home town 4 my school 5 my dream 6 food 7 sport 8 jobs 9 nature 10 travel 11 festivals 12 health 13 mistakes 14 regrets	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt Fawsitt					
教科書 1	English Writing Manual 著者:David Baker 出版社:BTB Press ISBN:9.78491E+12						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	英語ライティングⅡ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-1-206
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	This course will help students develop basic English writing skills, understand writing as a process, and build a foundation for becoming an independent writer. Students will learn paragraph structure, as well as how to express personal ideas clearly. We will have textbook, workbook, free writing, and online practice to help give students a variety of writing practice.						
概要	We will do a variety of exercises and practice that help students focus on and improve their writing skills. Students will be expected to write at a higher level than the previous semester, but the ability to communicate clearly is preferable to making perfect grammatical sentences. This class will focus on writing, but some activities and exercises will integrate other skills (reading, listening, and speaking) to help students' overall improvement.						
評価方法	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and submit all homework on time. Writing activities and homework will be a combination of hand written and typed. We will also do some practice in English typing skills, so practicing on your own will be beneficial.						
自己学習	It will be helpful for students to look through the book before each class. To get a better understanding of the material and vocabulary, it is recommended that students study and practice the vocabulary taught in each unit. Homework, digital book exercises, and in class practice provide valuable practice, so students are encouraged to do all of these things to help improve their skills. Students are encouraged to ask questions in class, or visit office hours to get help if needed.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
				1) Paragraph formatting 2) Sentence structure 3) Nouns, subject pronouns 4) Topic sentences 5) Writing complete sentences 6) Phrasal verbs 7) Prepositions of time, capitalization 8) Supporting sentences 9) Present progressive / simple present tense 10) Simple and compound sentences 11) Concluding sentences 12) Sentence fragments 13) Adverbs of probability 14) Sentences with future time 15) Run-on sentences 16) Final Exam		Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture	GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA
教科書 1	Longman Academic Writing Series 1 著者:Linda Butler 出版社:Pearson						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	プラクティカル・ライティング				履修期	2020年度 春学期	
担当者	ジョン・フォーセット					NO.	FS-FS-2-207
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	To become familiar with and be able to create or complete various documents and texts that are used in business, official and academic fields, as well as those that are commonly needed in everyday life.						
概要	We will read examples of forms, documents, emails, reports and letters among other texts and create scenarios linked to students' lives that require the creation of similar texts.						
評価方法	Prompt and complete submission of papers.						
履修条件・注意事項	As vocabulary is absolutely vital for written communication, students must be prepared to participate in a vocabulary building, involving regular practice and quizzes.						
自己学習	Students must learn and practice vocabulary in their free time.						
オフィスワ-	1700~1800 generally evenings are best, except for Friday when I sometimes go home earlier.						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1 texts or SMS 2 online forms: filling them out 3 online forms: creating them 3 posts: appropriate expressions 4 engagement versus trolling 5 research forms 6 reports 8 summaries 9 letters of enquiry 10 evaluations 11 requests 12 thanks 13 complaints 14 felicitations		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット				
教科書 1	Samples of various text styles will be viewed digitally or in paper format.						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	アカデミック・ライティング				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-2-208
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	This course mainly aims to improve the linguistic and cultural competence of students with special focus on writing skills in English. 海外研修や英語での学修にとって必要な言語的および文化的な英語の素養を習得し、大学生としてふさわしい知的水準の文章を英語で書けるようになることを到達目標とする。						
概要	さまざまなテーマについて英語で論述できるように、実践的な英語ライティングの向上を図る。特にボキャブラリーの強化を図り、自らの見解を英語で明確かつ正確に表現できるようになることが期待される。						
評価方法	In-class activities (授業での積極性 20%, how actively you participate in classroom sessions), comprehension of reading assignments (英語ライティングの課題の達成度20%, you should be ready for writing assignments in English), mid-term report with short presentation (中間レポートとその内容のプレゼンテーション30%, you will be advised how to prepare for the mid-term report and presentation), final presentations and class discussion (最終プレゼンテーションとその内容についてのクラス討論30%). なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業では多くの英語テキストを読み、自ら英語で文章を書くことが基本である。したがって、受講に際しては、必ず予習・復習に取り組む、疑問点は教員に確認すること。授業で用いる言語は英語のみである。真摯に自らの英語力の向上を目指す受講生を歓迎する。 In the classroom you should not use other language than English. You are expected to really serious to improve your English proficiency, especially writing skills in English.						
自己学習	受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. Guidance to this course 2. variety of texts 3. writing reflections 4. essays and discussions 5. vocabulary exercises 6. grammar exercises 7. writing short essays 8. summarizing journal articles 9. presentation exercises 10. individual essay writing 11. presenting your essay 12. academic writing 13. essays and academic writing 14. debates on essay contents 15. presentation of your text 16. final test	exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises exercises test	Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö		
教科書 1	BBC News http://www.bbc.com/news						
教科書 2	New York Times https://www.nytimes.com/						
参考書 1	National Geographic https://www.nationalgeographic.com/						
参考書 2							

授業科目名	英語オーラルコミュニケーション I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-1-209
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation.</p> <p>Target: This course is intended to improve student English speaking ability. The objective of this course is to increase the capacity and willingness of students to express themselves in a reasonably articulate, correct and comprehensive, yet lucid and succinct manner. By the end of the course, students should be better able to communicate effectively and carry on general conversation about common topics, above all those familiar to them. This course should help students to attain up to and / or beyond CEFR A2 level competency.</p>						
概要	<p>Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent oral communication competency.</p>						
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p>						
履修条件・注意事項	<p>Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.</p> <p>Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus:</p> <p>01) be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand – and successfully master – all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with – and listen to – their teacher and classmates, in English; 05) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, often at some length; 06) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 07) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 08) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 09) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 10) strive to complete all classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well AND to finish and submit them 'on time', before specified deadlines; 11) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 12) communicate with – and request help from – their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 13) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 14) tell the teacher immediately if they think that any lesson-related activity is / was too easy or difficult; 15) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times;</p>						
自己学習	<p>1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor.</p> <p>2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face.</p> <p>3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments.</p> <p>In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should:</p> <p>a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;</p>						

The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.

オフィスアワー

In Ian Warner's office - Room 133

Mondays - 3, 4, 5, 6, 7

Tuesdays - 4, 5, 6, 7

Wednesdays - N/A

Thursdays - 3, 4, 5, 6, 7

Fridays - Periods 4, 5, 6, 7

* = Unless at staff meetings

Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp

Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
Week 01 = Unit 01 Family Week 02 = Unit 02 Friends Week 03 = Unit 03 Culture Week 04 = Unit 05 Sport, Hobbies Week 05 = Unit 06 Work Week 06 = Unit 07 Food Week 07 = Unit 09 Health Week 08 = Unit 10 Movies Week 09 = Unit 11 Traveling Week 10 = Unit 12 Music Week 11 = Unit 14 Shopping Week 12 = Unit 15 Internet Week 13 = Unit 16 Weather Week 14 = Unit 17 Feelings / The Future Week 15 = Final Exam.	Lecture 01 Lecture 02 Lecture 03 Lecture 04 Lecture 05 Lecture 06 Lecture 07 Lecture 08 Lecture 09 Lecture 10 Lecture 11 Lecture 12 Lecture 13 Lecture 14 Final Exam.	Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner			
教科書 1	English Listening and Speaking Patterns 1 (2017) 著者: Andrew E. Bennett 出版社: Nan'un-do ISBN: ISBN:9784523178422				
教科書 2					
参考書 1	Collins Easy Learning English Conversation: Book 1 (2015) 出版社: Harper Collins Publishers ISBN: ISBN-10: 0008101744 ISBN-13: 978-0008101749				
参考書 2	Talk Time 2: Everyday English Conversation (2006) 著者: Susan Stempleski 出版社: Oxford University Press ISBN: Talk Time 2: Everyday English Conversation				

授業科目名	英語オーラルコミュニケーションⅡ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-1-210
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	The goal of this class will be to develop confidence with conversation skills. Communicating with confidence means expressing yourself accurately, fluently, and appropriately. Students will do various speaking tasks in class to maximize speaking opportunities.						
概要	Students will participate in a variety of speaking activities and assignments that will help improve speaking speed, understandability, and fluidity. Worksheets, videos, online practice, websites, computer apps, games, and partner activities will all serve to give students plenty of practice. Other skills include, but are not limited to, pronunciation, intonation, rhythm, stress, and speed. Emphasis will be placed on overcoming shyness and hesitation to communicate clearly.						
評価方法	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, activities, participation. 2) 20%: Final Exam						
履修条件・注意事項	Students are expected to be ready and willing to speak and communicate in English. Because there will be a lot of pair work in this class, students are expected to participate and give their best effort at all times. Unwillingness to participate will affect other students.						
自己学習	Speaking is hard to “study”, but you can practice by speaking as much as possible in class, and stop by office hours of any native teacher a few times a week to practice speaking. The more you speak, the better you will become.						
オフィスワ-	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1) Formal and informal language 2) Reduction of ‘to’ 3) Asking for repetition 4) Intonation in question tags 5) Expressing preferences 6) Contrastive stress in returning questions 7) Talking about time 8) asking/giving opinions 9) Final ‘s’ sounds 10) Personality traits 11) giving/receiving compliments 12) Listen for descriptions 13) Reduction of ‘do you’ 14) Asking follow-up questions 15) Sequence markers 16) Final Exam			Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture	GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA
教科書 1	No Book						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	プレゼンテーション英語				履修期	2020年度 春学期	
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-2-213
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	The main purpose of this class will be to help students learn to communicate information effectively through presentations. The focus will not only be on what you say, but how you say it.						
概要	Students will learn techniques to become better, more interesting presenters, as well as the PowerPoint skills to making and using slides effectively. Attention will be paid to what is being said, but the focus of the class will be on how the information is presented both visually and verbally.						
評価方法	Students will be evaluated by class participation, assignments, and projects. 1) 80%: assignments, homework, peer feedback, and participation. 2) 20%: Final Project						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class and stay on task, and make good use of their class time. The content covered in class will be expected to be applied in presentation, demonstrating a knowledge of the skills. Asking questions in class or visiting office hours to get help will also be very beneficial. Practicing at home is encouraged to help become a calmer, more confident, and better overall presenter.						
自己学習	Taking time to experiment with PowerPoint and presenting skill will be important to improving. Some recommended tips are getting feedback from peers, recording yourself for evaluation, and asking for help when you need it.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1) Course overview 2) Reading off slides 3) Bullet points and text 4) Eye contact and interaction 5) Use of pictures 6) Overcoming nerves 7) Font color and size 8) Using time efficiently 9) Use of animation and transitions 10) Understanding your audience 11) Displaying data 12) Making it personal, story telling 13) Using body language and gestures 14) Speaking with passion 15) Slide control 16) Final Exam	Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture	GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA					
教科書 1	No Book						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	アクティブ英語 I				履修期	2020年度 春学期		
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-2-301	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>Theme: Fostering comprehensive communication skills Goal: To make it possible to use vocabulary and basic expressions with high frequency and to use them in conversation. Extend non-verbal communication skills such as gestures through pairs or group activities with classmates. This course should help students to attain up to CEFR B1 level.</p>							
概要	<p>In order to effectively communicate in English, students must focus on improving “speaking” and “listening” fluency. However, all 4 core language skills and will be required, practiced and further developed in these classes to ensure comprehensive English ability enhancement. This course will make it possible for students to better convey their thoughts in English about familiar, interesting and important topics and things. Students will also be able to learn more about basic cultural norms and manners of English speaking countries.</p>							
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p>							
履修条件・注意事項	<p>Students should be 'PROACTIVE' at all times and thus (1) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; (2) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; (3) be alert, focussed and highly motivated throughout each / every lesson; (4) be ready to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally at some length; (5) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; (6) study (relevant) textbook pages – and all teacher-distributed materials – as much as possible before, during and after each lesson; (6) Aim to fully understand – and 'master' – everything that their teacher tells them they are likely to be tested on during (end-of-term) examinations; (7) Bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; (8) Finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; (9) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; (10) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; (11) tell the teacher immediately if they think any textbook or lesson activity is / was too easy or difficult; (12) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another.</p>							
自己学習	<p>1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor.</p> <p>2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face.</p> <p>3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments.</p> <p>In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;</p> <p>The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand – and 'master' – all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.</p>							
オフィスアワー	<p>In Ian Warner's office – Room 133</p> <p>Mondays – 3, 4, 5, 6, 7 Tuesdays – 4, 5, 6, 7 Wednesdays – N/A Thursdays – 3, 4, 5, 6, 7 Fridays – Periods 4, 5, 6, 7</p> <p>* = Unless at staff meetings</p> <p>Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings – and meetings after 6:20pm – are also possible.</p>							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	

<p>Week 1 Unit 01 - "I'm looking for Old Main Hall" [Talking to a stranger; understanding directions.]</p> <p>Week 2 Unit 02 - "I have an appointment" [Asking personal questions; giving personal information; offering assistance.]</p> <p>Week 3 Unit 03 - "Are you looking for a place to stay?" [Making a suggestion; inviting; showing interest]</p> <p>Week 4 - "I'll be glad to room with you guys?" [Introducing someone; making an offer; giving a house tour; accepting an offer.]</p> <p>Week 5 Unit 05 - "The experience is really important." (An internship described). [Talking about the future; explaining routines; asking for details.]</p> <p>Week 6 Unit 06 - "I'll get right on (to) it." (An internship experienced). [Giving a compliment; giving instructions]</p> <p>Week 7 Unit 07 - "Just tell me." [Making a suggestion; confirming; apologising in casual situations / circumstances.]</p> <p>Week 8 Unit 08 - "Don't worry about it." [Apologising in serious situations / circumstances; responding to an apology.]</p> <p>Week 9 Unit 09 - "Come here and give me a hug." [Making a proposal, etc.]</p> <p>Week 10 Unit 10 - "I love you Mom." [Taking one's leave; inviting; declining an offer.]</p> <p>Week 11 Unit 11 - "I deserve a better grade." [Making an appointment; making and argument; compromising.]</p> <p>Week 12 Unit 12 - "Any other questions?" [Confirming; giving advice; making a request.]</p> <p>Week 13 = Review: Units 1-6 Week 14 = Review: Units 7-12 Week 15 = Examination</p>	<p>Lecture 01 Lecture 02 Lecture 03 Lecture 04 Lecture 05 Lecture 06 Lecture 07 Lecture 08 Lecture 09 Lecture 10 Lecture 11 Lecture 12 Lecture 13 Lecture 14 Final Exam.</p>	<p>Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner</p>			
教科書 1	Hiroto Ohyagi / Masako Taura, Campus Encounters - Understanding American University Life, (Macmillan Language House, 2011) 著者: Students do NOT need to buy this book. Certain specific photocopied pages will be supplied by the teacher for use during lesson time.				
教科書 2					
参考書 1					
参考書 2					

授業科目名	アクティブ英語Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-2-302	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:様々な場面・状況に応じて、英語でコミュニケーションをとる 到達目標:日本または海外におけるいろいろな状況の中で、その場面に相応しい英語表現を使うことができる。また、国によって異なる英語の発音やリズムに慣れ、理解し、対応することができる。英語運用能力CEFR B1レベル以上を目標とする。</p>							
概要	<p>授業では、CD・DVDを活用し、様々な国籍・業種に携わる人々のインタビューをとおして、実社会で使用されている英語を聴きとり、理解する。また、役に立つ英語表現を使い、ペア・ワークやグループ・ワークにてスピーキングの練習をする。あらゆる業種について書かれた簡単な英文パッセージを読んで、素早く要点を理解し、グループ活動で自分の意見を言い表す。最後に、職業における自分の希望・意見などを発表する。</p>							
評価方法	レポート(20%)、課題(30%)、発表(30%)、小テスト(20%)							
履修条件・注意事項	課題提出の期限厳守							
自己学習	予習・復習が必要。前もってテキストを読み理解しておくこと。							
オフィスアワー	月曜日4時限目(15:10-16:40)							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			第1回: Sales can be like acting. (イギリス) 第2回: Travel opens up the world. (アラビア) 第3回: Love sells cars. (イタリア) 第4回: Translating is more than words. (アメリカ) 第5回: Serve up the best possible service. (ベトナム) 第6回: Toast your success. (日本) 第7回: Teaching is helping others perform their best. (ニュージーランド) 第8回: Build a happy life. (ドイツ) 第9回: Life is like riding a bicycle. (日本) 第10回: Trade ideas for positive change. (オーストラリア) 第11回: Connect workers with companies. (台湾) 第12回: Necessity is the mother of invention. (インド) 第13回: What's the recipe for success. (フランス) 第14回: Help animals for a better society. (イギリス) 第15回: 発表 第16回: Report submission				演習	金沢真弓
教科書 1	「Working in Japan」 著者: Alice Gordenker / John Rucynski 出版社: Cengage Publishing							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	TOEICストラテジー I				履修期	2020年度 秋学期			
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-1-307		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	テーマ:英語力の向上とTOEICの問題の解き方に精通する 到達目標:TOEIC400-500								
概要	TOEIC問題形式を使い、パート別に問題形式に慣れることから始める。問題の特徴とその解き方を学び、練習問題を重ねていく。テストに出る頻出単語や英語表現を学習し、シャドーイングなどでリスニングのスキルアップ、速読の練習などを行う。								
評価方法	定期試験(50%)、小テスト(20%) 課題(30%)								
履修条件・注意事項	学内実施のTOEIC IP受験								
自己学習	テキストの音読、単語の学習								
オフィスワ-	月曜日4時限目(15:10-16:40)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. ガイダンス Unit 1 人物の動作と状態 2. Unit 2 疑問視を使った疑問文 3. Unit 3 日常場面での会話 4. Unit 4 アナウンス・ツアー 5. Unit 5 物の状態と位置 6. Unit 6 基本構文 7. Unit 7 電話での会話 8. Unit 8 ラジオ放送・宣伝 9. Unit 9 Yes/No疑問文 10. Unit 10 オフィスでの会話 11. Unit 11 留守番電話 12. Unit 12 オフィスでの会話2 13. Unit 13 復習 14. Unit 14 スピーチ・会議 15. Unit 15 復習 16. 定期試験			演習	金沢真弓
教科書 1	Mastery Drills for The TOEIC L&R Test All in One 出版社: 桐原書店								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	TOEICストラテジー II	履修期	2020年度 春学期			
担当者	カルロス・ガルシア				NO.	FS-FS-2-308
配当学科	外国			年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態 演習
テーマと到達目標	<p>The TOEIC listening and reading test measures the everyday listening and reading skills of people working in an international workplace environment. The test consists of four different kinds of listening passages, and four different kinds of reading sections.</p> <p>This course will focus on listening and reading in the style of the TOEIC questions. That includes listening and reading within a given time limit. Of course this course will slow down and examine individual questions to help students understand the content as well as the best techniques to answer the questions quickly and correctly.</p>					
概要	While the focus of the course will be on improving the overall TOEIC test score, there will also be a focus on practicing general reading and listening skills, as well as grammar skills and test taking techniques. The goal is to not only improve reading and listening for the TOEIC test, but for daily use in the future.					
評価方法	Students will be evaluated by class participation, quizzes, and exams. 1) 80%: assignments, quizzes, participation. 2) 20%: Final Exam					
履修条件・注意事項	Students are required to attend class on time. Students are encouraged to listen carefully, take notes, and participate in each class. This will help students engage with the material and concepts to aid in overall understanding and performance. The pace of class and the skills that are covered will be determined by the teacher according to the overall level of the class.					
自己学習	Try your best in each class, take notes, and review all material after each class. If you have questions, ask in class, or visit office hours.					
オフィスワ-	Wednesday 9:00 - 11:00, or by appointment.					
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者	
1. Course introduction 2. Using the photo to predict what you will hear. 3. Thinking about the meaning of factual questions. 4. Skimming to predict the context before listening. 5. Identifying parts of speech. 6. Using context to choose the correct verb form. 7. Scanning question to decide which to answer first. 8. Listening for the correct verb. 9. Answering direct questions. 10. Being aware of word distractors. 11. Different kinds of what questions. 12. Choosing gerunds and infinitives correctly. 13. Choosing the correct part of speech. 14. Using context to answer vocabulary questions. 15. Using what you learned to infer meaning. 16. Final Exam.	Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture	GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA				
教科書 1	Tactics for TOEIC Listen and Reading Test 著者: Grant Trew 出版社: Oxford University Press					
教科書 2						
参考書 1						
参考書 2						

授業科目名	ラーニング・スキルズ			履修期	2020年度 春学期		
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-2-309
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	Theme: Explore English learning strategies Goals: Develop the four essential English skills - Listening, Reading, Speaking and Writing						
概要	There are different ways to learn English. We will explore and try out the various learning strategies to improve the four essential four skills. Find out what kind of learner you are and them more feectively. You will learn how to set goals, select materials and tools, do the task, check and reflect on self-assessment. In the end of the course, you will share your learning strategies with your classmates through making presentation.						
評価方法	1. Presentation (30%), Report (30%), Learning log (20%), Weekly report (20%)						
履修条件・注意事項	Students are expected to participate actively in every class. Complete assignment on time. Changes in the lesson plan may occur depending on progress						
自己学習	Practice with the materials introduced in every class.						
オフィスワ-	Tuesday 15:10-16:40						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. What is learning skills? 2. Listening strategy-dictation 3. Listening strategy-overlapping, shadowing 4. Reading strategy-skimming, scanning 5. Reading strategy-paraphrasing 6. Speaking strategy-self-talking, rapid reading 7. Speaking strategy-role play, self-interpretng 8. Writing strategy- four-square writing 9. Writing-journaling 10. Making learning-plan sheet 11. Self-practice, check and record 12. Self-practice, check and record 13. Self-practice, check and record 14. Presentation 15. Presentation		演習	金沢真弓				
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1	British Cuoncil Learning English http://learnenglish.britishcouncil.org/en 出版社:British Council Learning English http://learnenglish.britishcouncil.org/en						
参考書 2							

授業科目名	リサーチ・スキルズ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-2-310
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	lecture and active learning (AL)
テーマと到達目標	Theme: research methods and methodology Goals: The students will acquire the basic knowledge about various research methods and methodology in order to conduct research by themselves.						
概要	This course introduces various alternatives for conducting research by studying distinctive features with respective research methods and methodology. This course will help the students to learn how different world views as methodological basis affect selection of specific method(s) in research activities.						
評価方法	Participation in discussion 20%, presentations 35%, and final test (written exam) 45%. なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修条件:授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件であるので留意すること。Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
自己学習	受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. introduction 2. variations of research methods 3. qualitative research 4. interviewer and interviewees 5. text analysis 6. discourse analysis 7. interpretations and analysis 8. quantitative research 9. questionnaires 10. statistical interpretations 11. what is methodology? 12. our worldview(s) 13. research question(s) 14. reflective research 15. concluding discussion 16. final test			lecture lecture AL AL AL lecture lecture AL AL lecture lecture AL AL AL test	Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio
教科書 1	Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods Approaches 著者:Creswell, John W. & Creswell, J. David 出版社:SAGE Publications ISBN:978-1506386768						
教科書 2							
参考書 1	How to Write a Research Proposal and Thesis: A Manual for Students and Researchers 著者:Hamid, Mohamed E. 出版社:Createspace Independent Publishing Platform ISBN:978-1482675054						
参考書 2							

授業科目名	色彩の科学				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-2-603	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	色彩に関する知識を身に付けることをテーマとして、この知識をもとに色彩について論理的に考える力を養うことを到達目標とする。							
概要	絵画や染織品、それらの科学調査をもとに、光によって生み出される色彩に関する知識を学び、この知識をもとに色彩の関わる現象について論理的に考える力を身に付けます。絵画や染織品の色彩と構図を題材とし、感性と理性によるプロファイリング手法についても理解を深めます。さらに、文献調査や発表、ディスカッションを通じて色彩の科学を学びます。							
評価方法	知識と論理的思考力を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料や課題を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者			
			1. 色彩の科学とビジュアルクリエイティングの概論 2. 絵画に対する理性と感性 3. 絵画の色彩と構図 4. 絵画をプロファイリングする 5. 絵画の科学調査事例 6. 科学の目で見える印象派絵画 7. 科学の目で見えるポスト印象派絵画 8. 科学の目で見える日本の染織品 9. 絵画紹介とディスカッショングループ1 10. 絵画紹介とディスカッショングループ2 11. 絵画紹介とディスカッショングループ3 12. 絵画紹介とディスカッショングループ4 13. 絵画紹介とディスカッショングループ5 14. 絵画紹介とディスカッショングループ6 15. 展覧会の企画とディスカッション 16. 単位認定試験	講義 AL AL 講義 講義 講義 講義 講義 AL AL AL AL AL AL AL AL AL 試験	大下(浩) 大下(浩)			
教科書 1	適宜、資料を配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	ロジカルシンキング				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-2-606	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	「論理思考能力を開発する。」をテーマとして、自分の持っている情報や意見を言語によって明快かつ効果的に相手に表現し、伝達できる能力を養うことを到達目標とする。							
概要	<p>論理的な思考の下に事象をとらえる論理学的方法を学ぶことで、事実関係に基づき、思考のつながり、推論の仕方や論証のつながりなどの筋道を明確にし、論理的に話す、書くことができるようになる。</p> <p>本講義では、短文などの例示を通して、論理的に思考し、それらを正確に伝える(「話す・書く」)方法を学ぶ。外部講師として招聘される、論理思考を実践している自然科学分野の研究者の講義(2回)も聴講する。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、自然科学分野の研究や教授をされている外部講師を招聘し、専門外の本学科の学生が分かりやすく、自然現象や自然科学のとらえ方を学び、論理的思考力を養う回を設けている。</p>							
評価方法	単位認定試験と参加型学習形態の授業の中での発言頻度や発言内容等、授業への参加態度、そして課題レポートにより総合評価する。成績評価は、試験(40%)、発言(40%)、課題レポート(20%)のウェイトにより評価する。ただし、議論が成立しないような他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には減点する。							
履修条件・注意事項	授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。 試験では、到達目標の理解度を見るため、特に復習が必要である。 到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。							
自己学習	事前に出した課題を元に、参加型学習形態で授業をおこなうため、課題作成の予習が必要である。具体的には教科書を先に読み、わからない用語は、参考書1「入門！論理学」あるいは図書館等で論理学の初歩的な書籍で調べる。							
オフィスワ-	1号棟1階個人研究室にて、金曜日2時限に実施。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			<ol style="list-style-type: none"> 1. ロジック(論理)とは 2. 外部講師の先生のお話ーロジック思考の実践 3. 論理的推論と説得的議論の検討 4. 論理的に考えるための基本 5. 論理学と日常言語の落差 6. 推論の実際 7. 三段論法 8. 立論と反論 9. 論証の型 10. レトリック的推論 11. 論証の型 12. 準論理的論証 13. 事実に論証 14. 誤謬推理と詭弁 15. 外部講師の先生のお話ーロジック実践の解説 16. 単位認定試験 			演習 AL 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 AL 筆記試験	高木 高木・外部講師 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木	
教科書 1	実践ロジカル・シンキング入門 著者:野内良三 出版社:大修館書店 ISBN:4-469-21276-8							
教科書 2								
参考書 1	入門！論理学 著者:野矢茂樹 出版社:中央公論新社 ISBN:4-12-101862-1							
参考書 2	Being Logical: A Guide to Good Thinking 著者:D. Q. McInerny 出版社: New York: Random House Trade Paperback ISBN:978-0812971156							

授業科目名	異文化理解			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	橋本 由紀子					NO.	FS-FS-1-608
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>Goals: This course is designed to initiate students into the principles and theories behind successful cross cultural communication through workshops. It aims at developing intellectual appreciation for cultural differences and sensitivity by learning various different cultures and values.</p> <p>到達目標: 異文化に対する深い理解と尊敬の念を養い、その社会的、経済的、政治的背景から、日本が学ぶべき文化的価値を発見できるようになる</p> <p>Theme: Cultural differences and Social interactions</p> <p>テーマ: 異文化を理解し、国際交流を促進するような積極的思考で物事を考えられる人材を目指す。</p> <p>1) コミュニケーションを円滑にするためのストラテジー、2) 独特の待遇・敬意表現、3) 言語・非言語行動の相違、4) 多言語多文化主義について 5) 異文化間教育の重要性、6) 異文化コミュニケーションの方法論、7) コミュニケーション教育の方法論以上をキーワードとして、講義を進める。</p>						
概要	<p>The course consists of reading, workshops, discussions and role plays. You will gain strategies for accessing cultural information needed which form the basis for behavior norms and receive hand-outs on cultural tips for various interactions. It will be immediately helpful in working and interacting with the people. Classes will be student-centered through interactive lectures and group discussion activities.</p> <p>主として異文化に関する英文を読み、討論し、ロールプレイを行い、日本文化と欧米の文化を深く理解する。そのうえで、異文化社会でどのように、コミュニケーションを図り、日本文化を伝え異文化との融合を測ればいいのかを習得できる。そのために学生主体の積極的参画、イニシアティブを必要とする授業展開となる。</p>						
評価方法	<p>Semester final exam : 40%, Participation : 30%: presentation 10%: communication 20%</p> <p>定期試験 40%、積極的参加度(発言、質問、コメントを含む)30%、クラス(グループ)への貢献度10%、プレゼンテーション20%</p>						
履修条件・注意事項	<p>テキストを必ず購入する。辞書を持参する。</p> <p>5回以上欠席の場合は受験資格なし</p> <p>1クラスになるべく発言する。</p> <p>教科書や配布資料を確認し、その回の重要ポイントを再度復習し、次回のテーマに関して独自に情報収集し予習しておく。</p>						
自己学習	<p>予習: 次回の単元の単語、意味などを調べておく</p> <p>復習: その日に理解したこと、できなかったことをまとめて次回に持参する。毎回先週の理解度をテストする。予習復習には最低限1時間ずつついやすこと。</p>						
オフィスアワー	水、木、金、のお昼休み、水曜日の2限をオフィスアワーとする						

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			SESSION 01: Course introduction and interested countries:	1. ディスカッション	1. 橋本
			SESSION 02: Home stay in Canada (student's presentation)	2. 演習	2. 橋本
			SESSION 03: Home stay in Australia (student's presentation)	3. 演習	3. 橋本
			コミュニケーションを円滑にするためのストラテジー		
			SESSION 04: Home stay in Britain (student's presentation)	4. 演習	4. 橋本
			SESSION 05: Internship in Singapore (student's presentation) 多言語多文化主義について	5. 演習	5. 橋本
			SESSION 06: Home stay in Ireland (student's presentation) 言語・非言語行動の相違	6. 演習	6. 橋本
			SESSION 07: Internship Programme in the USA (student's presentation) 独特の待遇・敬意表現、	7. 演習	7. 橋本
			SESSION 08: Questions about Canada (student's presentation)	8. 演習	8. 橋本
			SESSION 09: Questions about Australia (student's presentation)	9. 演習	9. 橋本
			SESSION 10: Questions about Britain (student's presentation)	10. 演習	10. 橋本
			SESSION 11: Questions about Singapore (student's presentation)	11. AL	11. 橋本
			SESSION 12: Questions about Ireland (student's presentation) 異文化間教育の重要性	12. AL	12. 橋本
			SESSION 13: Applying for an internship programme in Washington DC 異文化コミュニケーションの方法論	13. AL	13. 橋本
			SESSION 14: University and Dormitory life in Sweden コミュニケーション教育の方法論	14. AL	14. 橋本
			SESSION 15: Volunteer work in the Philippines	15. AL	15. 橋本
			16: Final exam	16. 筆記試験	16. 橋本

教科書 1	Let's get out of Japan 著者:川村義治・Gavin Lynch 出版社:南雲堂 ISBN:9.78452E+12
教科書 2	
参考書 1	
参考書 2	

授業科目名	インターンシップ I				履修期	2020年度 春学期			
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-2-701		
配当学科	外国				年次	2			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	実習		
テーマと到達目標	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。								
概要	<p>本学が協定を結んでいるD-INTERNSHIPの龍の仕事展に参加し、企業スタッフとなって企業文化展の会場で企業PRや物販を行う。この龍の仕事展でのインターンシップを通じて、地元を代表とする企業を知り、企業を通して地域の文化や歴史・風土を理解すると共に、地域戦略の思考を学び、社会人に求められる自己啓発力や自己教育力を育てる。</p> <p>※実務経験のある教員による授業 この科目は、地元企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>								
評価方法	実習先の担当者による評価(80%)と事前事後指導の評価(20%)をもとに評定する。								
履修条件・注意事項	インターンシップ I とインターンシップ II を必ず同時に履修すること。指定されたスケジュールに遅刻・欠席することなく出席すること。課題の提出は締め切りの期日を守ること。受講態度によっては中断することもある。								
自己学習	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。								
オフィスワ-	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
事前指導(担当者:大下浩司) 実習中の心構え等について指導する。 実習(担当者:実習先の担当者) D-INTERNSHIPの実習担当者から指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。 事後指導(担当者:大下浩司) 受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考えレポートにまとめる。 報告会にて発表する。 実習先と実習期間 龍の仕事展をインターンシップとして提供するD-INTERNSHIPのプログラムによる。					春学期授業計画を参照				
教科書 1	実習ノートおよび資料を配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	インターンシップⅡ				履修期	2020年度 春学期			
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-2-701		
配当学科	外国				年次	2			
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	60	授業形態	実習		
テーマと到達目標	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。								
概要	<p>本学が協定を結んでいるD-INTERNSHIPの龍の仕事展に参加し、企業スタッフとなって企業文化展の会場で企業PRや物販を行う。この龍の仕事展でのインターンシップを通じて、地元を代表とする企業を知り、企業を通して地域の文化や歴史・風土を理解すると共に、地域戦略の思考を学び、社会人に求められる自己啓発力や自己教育力を育てる。</p> <p>※実務経験のある教員による授業 この科目は、地元企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>								
評価方法	実習先の担当者による評価(80%)と事前事後指導の評価(20%)をもとに評定する。								
履修条件・注意事項	インターンシップⅠとインターンシップⅡを必ず同時に履修すること。指定されたスケジュールに遅刻・欠席することなく出席すること。課題の提出は締め切りの期日を守ること。受講態度によっては中断することもある。								
自己学習	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。								
オフィスワ-	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
事前指導(担当者:大下浩司) 実習中の心構え等について指導する。 実習(担当者:実習先の担当者) D-INTERNSHIPの実習担当者から指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。 事後指導(担当者:大下浩司) 受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考えレポートにまとめる。 報告会にて発表する。 実習先と実習期間 龍の仕事展をインターンシップとして提供するD-INTERNSHIPのプログラムによる。					春学期授業計画を参照				
教科書 1	実習ノートおよび資料を配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	スタディー・アブロード事前指導				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	畝 伊智朗、橋本 由紀子、池上 真由美					NO.	FS-FS-1-705
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	2年次より開講の「スタディー・アブロード I～IV」に向けての事前準備を行う。 実際に海外留学、インターンシップ、ボランティア、に参加するため必要となる基礎知識、情報、技能を習得する。 そして、十分に留学先・国状、大学や受け入れ先機関を理解し、積極的に留学計画をたて、有意義な留学体験ができるようになる。						
概要	留学体験のある本学卒業生、在学生の体験談を聞き、アドバイスをもらう。それによって、留学の意義、魅力を理解し、また、リスク管理を可能にし、安心して出かけられるようになる。また、必要書類、実務的な手続き、海外でのマナー等について理解を深め、留学に備える。 また、異文化理解のための講義、語学研修、リスク管理のシミュレーション、ワークショップによる課題発見、自己理解、留学計画書の作成、報告書の書き方等を習得する。各自の関心のある国に関して、自ら情報収集し、クラスで発表する。事前準備を徹底し、楽しんで留学に出かけられる体制を整える。 その後留学先を決定し、スタディー・アブロード I IIにつなげるべく個人対応を行う。 実務経験教員：担当教員3名は、学生時代、米国、カナダへの長期留学を経験しているのみならず、その後も、海外からの留学生、研修生、研修団などの受入れ経験が豊富である。						
評価方法	積極的な授業参加態度(20%)、授業記録(20%)、受講生のプレゼンテーション(30%)、留学計画書(30%)により評価を行う						
履修条件・注意事項	語学や、異文化理解、現地での計画を立てられるように、自分でも積極的に情報収集する。そして自分の調べたこと、留学、インターンシップ、ボランティア計画について発表する。 毎回ポートフォリオ用紙に記入し提出し、留学前ポートフォリオを完成させていく。 授業中しっかりと聞き理解を深め、書き留め、留学前ポートフォリオ完成を目指す。						
自己学習	予習として60分程度かけて毎回の授業内容を確認し、それに関する情報収集をし、質問を準備しておく。 復習として、60分程度かけて毎回の内容の理解度を確認し、ポートフォリオを確認しておく。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日3限目、4限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. オリエンテーション、受け入れ先、事前準備 2. 留学ワークショップ 3. 留学体験談と質疑応答 4. 職業調べ 5. 留学フェア 6. 語学力アップの方略 7. My Profile 作り① 8. My Profile 作り② 9. 留学先の決定 10. 留学準備計画の立案・発表準備① 11. 留学準備計画の立案・発表準備② 12. 学生による発表① 13. 学生による発表② 14. 学生による発表③ 15. 学生による発表④ 16. リスクマネジメント、2年生に向けて			講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義	全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員 全教員
教科書 1	適宜印刷物を配付 初回授業で配付する「ポートフォリオファイル」を毎回必ず持参のこと。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 春学期～秋学期		
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロード事前指導を単位修得していること。世界標準の英語能力テスト(TOEICなど)を受験していること。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日1限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。			実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I				履修期	2020年度 春学期		
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-2-706	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。							
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。							
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	スタディー・アブロード事前指導を単位修得していること。世界標準の英語能力テスト(TOEICなど)を受験していること。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。							
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。							
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者			
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習				
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 春学期～秋学期				
担当者	大下 朋子					NO.	FS-FS-2-706		
配当学科	外国			年次	2				
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習		
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をししたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。								
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。								
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。								
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。								
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。								
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。			実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 春学期～秋学期		
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロード事前指導を単位修得していること。世界標準の英語能力テスト(TOEICなど)を受験していること。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習			
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 春学期～秋学期		
担当者	池上 真由美					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をした、実践活動をした」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロード事前指導を単位修得していること。世界標準の英語能力テスト(TOEICなど)を受験していること。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、火曜日2限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。 			実習	
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I				履修期	2020年度 春学期～秋学期		
担当者	加藤 健次					NO.	FS-FS-2-706	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。							
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。							
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	スタディー・アブロード事前指導を単位修得していること。世界標準の英語能力テスト(TOEICなど)を受験していること。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。							
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。							
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。			実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 		
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロード事前指導を単位修得していること。世界標準の英語能力テスト(TOEICなど)を受験していること。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan. 留学先に応じて以上の内容を学び活動する			実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 春学期～秋学期			
担当者	佐藤 匡				NO.	FS-FS-2-706		
配当学科	外国			年次	2			
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「外国で学修活動をした、実践活動をした」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。							
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。							
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。							
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。							
オフィスアワー	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。				実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス				NO.	FS-FS-2-706	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロード事前指導を単位修得していること。世界標準の英語能力テスト(TOEICなど)を受験していること。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習			
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたる」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日1限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
				1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。		実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。			実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 	
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	大下 朋子					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をした、実践活動をした」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日1限目、2限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 			
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I				履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-2-706	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をした」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。							
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。							
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC, TOEFL, IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。							
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。							
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
				1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。			実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	池上 真由美				NO.	FS-FS-2-706	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をししたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、火曜日2限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> The host institution, location and locality Living conditions Language; local English vs your English Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals Health; water, food, medicine, disease Money; cost of living, common sense and etiquette Nature, weather, insects, animals Transport; public and private, traffic Local culture art and history Everyday customs Social relationships and interaction, gender, age, equality Values; norms, morality, religious taboos Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? When in Rome The travellers responsibilities What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習			
教科書 1	受入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	加藤 健次					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国学科			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と教育協定を結ぶ大学のなかで、受け入れ合意のできている大学へ留学し、英語を学修しながら、インターンシップやボランティアやフィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習			
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をししたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋		
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	佐藤 匡					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	岡山キャンパス131研究室：春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室：春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤		
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロード I			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-2-706
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	120	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたる」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習			
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 春学期～秋学期		
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。							
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。							
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。							
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。							
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日1限目をオフィスアワーにします。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。		実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-2-707
配当学科	外国				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	大下 朋子					NO.	FS-FS-2-707
配当学科	外国				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしったり、実践活動をしったりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と教育協定を結ぶ大学や諸機関のなかで、受け入れ合意のできている所へ留学し、英語を学修しながら、インターンシップやボランティアやフィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	岡山キャンパス個人研究室:月曜日4時限目 高梁キャンパス個人研究室:木曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。		実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習					
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 春学期～秋学期		
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。							
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。							
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。							
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。							
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。		実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	池上 真由美					NO.	FS-FS-2-707
配当学科	外国				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、火曜日2限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	加藤 健次					NO.	FS-FS-2-707
配当学科	外国				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたる」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-2-707
配当学科	外国				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋		
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ			履修期	2020年度 春学期～秋学期		
担当者	佐藤 匡				NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたる」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と教育協定を結ぶ大学や諸機関のなかで、受け入れ合意のできている所へ留学し、英語を学修しながら、インターンシップやボランティアやフィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。		実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤				
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-2-707
配当学科	外国				年次	2	
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたる」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	高木 秀明				NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日1限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。							
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。							
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。							
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。							
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習							
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	大下 朋子					NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしったり、実践活動をしったりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。							
概要	本学園と教育協定を結ぶ大学や諸機関のなかで、受け入れ合意のできている所へ留学し、英語を学修しながら、インターンシップやボランティアやフィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。							
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。							
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。							
オフィスアワー	岡山キャンパス個人研究室:月曜日4時限目 高梁キャンパス個人研究室:木曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。		実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	池上 真由美					NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「外国で学習活動をし、実践活動をし、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。							
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。							
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。							
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。							
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、火曜日2限目をオフィスアワーにします。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。			実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習		
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期			
担当者	加藤 健次					NO.	FS-FS-2-707		
配当学科	外国学科				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習		
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。								
概要	本学園と教育協定を結ぶ大学のなかで、受け入れ合意のできている大学へ留学し、英語を学修しながら、インターンシップやボランティアやフィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。								
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。								
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。								
自己学習	受け入れ先のプログラムに従う。								
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。			実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 	
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ				履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習	
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。							
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。							
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。							
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。							
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。							
オフィスワ-	1号棟2階の124研究室にて、毎週月曜日4限目。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋						
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	佐藤 匡				NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたる」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と教育協定を結ぶ大学や諸機関のなかで、受け入れ合意のできている所へ留学し、英語を学修しながら、インターンシップやボランティアやフィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスワ-	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money; safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。		実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤				
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ			履修期	2020年度 秋学期～2021年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス				NO.	FS-FS-2-707	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学習活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標としては、各自の実践活動計画を自分で立案し、それを着実に準備し、安全に実行できるようになる。また、旅行やビジネスやボランティアで、外国人と対等に渡り合えるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の想いが理解できるようになる。国際人としての認識と知見を身につけて、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の想いを理解し、自分の考えを論理的かつ簡潔に主張できる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人と対等に渡り合えるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	スタディー・アブロードⅠを同時履修または単位修得していること。スタディー・アブロードⅠの時間以外で実施されていることを条件とする。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. Geography; Where are you going? How to get there and back. 2. Connections between Japan and the destination. Embassies, trade and friendship societies, How is Japan viewed by ordinary people? 3. Language; local English vs your English 4. Communications; smartphones, wireless, social media, carriers, charges 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Nature; weather, insects, animals 7. Laws; your status, adult or child? driving 8. Emergencies; police, hospitals, insurance 9. Know the locality and host institution 10. Local culture and history 11. Social relationships, gender, age, equality 12. Values, norms, morality, religious taboos 13. Politics and crime 14. Money, safety, common sense, etiquette 15. When in Rome; The travelers responsibilities 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習			
教科書 1	受け入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習 I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-1-801
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習 I では、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びます。とはいえ、これらは4年間で身につくもの。本演習は、学生生活の入口で迷ったりしないように道筋をつけるのが目的です。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まりますが、その入り口として大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能を身につけると同時に、大学教師や仲間との接し方も学びましょう。						
概要	本演習では、まず、大学での「学び」「教養力」とは何か、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについて考えます。大学生になると、人の意見を聴いたり、話をまとめたりする力が必要になります。これらの力は、ある程度訓練しなければ身につけません。本演習を通して、講義の聴き方とノート取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを習得し、自分の意見を整理し、話せる力も訓練しましょう。基礎演習 I はその入門編と言ってよいでしょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習 I は、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を学びましょう。						
自己学習	演習の内容については毎回課題が提示されます。予習として、課題内容について事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週火曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 大学で学ぶこと 3. 教養力 4. 就職対策・キャリア教育について 5. 代表的な英語資格 6. 講義の聴き方とノートの取り方 7. 中間ふりかえり 8. 図書館の利用法と読書の仕方 9. 情報収集の仕方 10. TOEIC Bridge テスト 11. レポートの書き方 12. 発表の仕方(要旨をつかって発表する) 13. 集団討議(1) 14. 集団討議(2) 15. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験 演習 演習 レポート試験	全教員 高木 高木 高木 金沢 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木					
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習 I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-1-801
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習 I では、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びます。とはいっても、これらは4年間で身につくもの。本演習は、学生生活の入口で迷ったりしないように道筋をつけるのが目的です。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まりますが、その入り口として大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能を身につけると同時に、大学教師や仲間との接し方も学びましょう。						
概要	本演習では、まず、大学での「学び」「教養力」とは何か、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについて考えます。大学生になると、人の意見を聴いたり、話をまとめたりする力が必要になります。これらの力は、ある程度訓練しなければ身につかせません。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを習得し、自分の意見を整理し、話せる力も訓練しましょう。基礎演習 I はその入門編と言ってよいでしょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習 I は、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を学びましょう。						
自己学習	演習の内容については毎回課題が提示されます。予習として、課題内容について事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 大学で学ぶこと 3. 教養力 4. 就職対策・キャリア教育について 5. 代表的な英語資格 6. 中間ふりかえり 7. 講義の聴き方とノートの取り方 8. 図書館の利用法と読書の仕方 9. 情報収集の仕方 10. TOEIC Bridge テスト 11. レポートの書き方 12. 発表の仕方(要旨をつかって発表) 13. 集団討議(1) 14. 集団討議(2) 15. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 高木 金沢 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 金沢 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩)					
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習 I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	大下 朋子					NO.	FS-FS-1-801
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習 I では、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びます。とはいえ、これらは4年間で身につくもの。本演習は、学生生活の入口で迷ったりしないように道筋をつけるのが目的です。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まりますが、その入り口として大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能を身につけると同時に、大学教師や仲間との接し方も学びましょう。						
概要	本演習では、まず、大学での「学び」「教養力」とは何か、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについて考えます。大学生になると、人の意見を聴いたり、話をまとめたりする力が必要になります。これらの力は、ある程度訓練しなければ身につけません。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを習得し、自分の意見を整理し、話せる力も訓練しましょう。基礎演習 I はその入門編と言ってよいでしょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習 I は、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと考えて下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を学びましょう。						
自己学習	演習の内容については毎回課題が提示されます。予習として、課題内容について事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 大学で学ぶこと 3. 教養力 4. 就職対策・キャリア教育について 5. 代表的な英語資格 6. 中間ふりかえり 7. 講義の聴き方とノートの取り方 8. 図書館の利用法と読書の仕方 9. 情報収集の仕方 10. TOEIC Bridge テスト 11. レポートの書き方 12. 発表の仕方(要旨をつかって発表) 13. 集団討議(1) 14. 集団討議(2) 15. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験 演習 演習 演習 演習 レポート試験	大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 高木 金沢 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 金沢 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)					
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習 I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-1-801
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習 I では、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びます。とはいえ、これらは4年間で身につくもの。本演習は、学生生活の入口で迷ったりしないように道筋をつけるのが目的です。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まりますが、その入り口として大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能を身につけると同時に、大学教師や仲間との接し方も学びましょう。						
概要	本演習では、まず、大学での「学び」「教養力」とは何か、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについて考えます。大学生になると、人の意見を聴いたり、話をまとめたりする力が必要になります。これらの力は、ある程度訓練しなければ身につけません。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを習得し、自分の意見を整理し、話せる力も訓練しましょう。基礎演習 I はその入門編と言ってよいでしょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習 I は、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を学びましょう。						
自己学習	演習の内容については毎回課題が提示されます。予習として、課題内容について事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限、4限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 大学で学ぶこと 3. 教養力 4. 就職対策・キャリア教育について 5. 代表的な英語資格 6. 中間ふりかえり 7. 講義の聴き方とノートの取り方 8. 図書館の利用法と読書の仕方 9. 情報収集の仕方 10. TOEIC Bridge テスト 11. レポートの書き方 12. 発表の仕方(要旨をつかって発表) 13. 集団討議(1) 14. 集団討議(2) 15. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	畝 畝 畝 大下 高木 金沢 畝 畝 畝 畝 金沢 畝 畝 畝					
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習 I				履修期	2020年度 春学期		
担当者	池上 真由美					NO.	FS-FS-1-801	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習 I では、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びます。とはいっても、これらは4年間で身につくもの。本演習は、学生生活の入口で迷ったりしないように道筋をつけるのが目的です。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まりますが、その入り口として大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能を身につけると同時に、大学教師や仲間との接し方も学びましょう。							
概要	本演習では、まず、大学での「学び」「教養力」とは何か、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについて考えます。大学生になると、人の意見を聴いたり、話をまとめたりする力が必要になります。これらの力は、ある程度訓練しなければ身につかせません。本演習を通して、講義の聴き方とノート取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを習得し、自分の意見を整理し、話せる力も訓練しましょう。基礎演習 I はその入門編と言ってよいでしょう。							
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。							
履修条件・注意事項	基礎演習 I は、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を学びましょう。							
自己学習	演習の内容については毎回課題が提示されます。予習として、課題内容について事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。							
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者			
1. オリエンテーション 2. 大学で学ぶこと 3. 教養力 4. 就職対策・キャリア教育について 5. 代表的な英語資格 6. キャンパスライフの心得(1) 「かけがえのない生命」 7. キャンパスライフの心得(2) 「警察における犯罪被害者支援」 8. 講義の聴き方とノートの取り方 9. 図書館の利用法と読書の仕方 10. 情報収集の仕方 11. TOEIC Bridge テスト 12. レポートの書き方 13. 発表の仕方(要旨をつかって発表する) 14. 集団討議(1) 15. 集団討議(2) 16. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	全教員 大下(朋) 大下(朋) 高木 金沢 外部講師・池上 外部講師・池上 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 金沢 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)						
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	基礎演習 I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-1-801
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習 I では、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びます。とはいえ、これらは4年間で身につくもの。本演習は、学生生活の入口で迷ったりしないように道筋をつけるのが目的です。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まりますが、その入り口として大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能を身につけると同時に、大学教師や仲間との接し方も学びましょう。						
概要	本演習では、まず、大学での「学び」「教養力」とは何か、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについて考えます。大学生になると、人の意見を聴いたり、話をまとめたりする力が必要になります。これらの力は、ある程度訓練しなければ身につかせません。本演習を通して、講義の聴き方とノート取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを習得し、自分の意見を整理し、話せる力も訓練しましょう。基礎演習 I はその入門編と言ってよいでしょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習 I は、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を学びましょう。						
自己学習	演習の内容については毎回課題が提示されます。予習として、課題内容について事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	毎週火曜日4限目(1号棟2階 212研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 大学で学ぶこと 3. 教養力 4. 就職対策・キャリア教育について 5. 代表的な英語資格 6. キャンパスライフの心得帳 7. 講義の聴き方とノートの取り方 8. 図書館と利用法 9. 読書の仕方 10. 情報収集の仕方 11. レポートの書き方 12. 発表の仕方(要旨をつくる) 13. 要旨を用いての発表 14. 集団討議 15. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋					
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習 I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	佐藤 匡					NO.	FS-FS-1-801
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習 I では、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びます。とはいえ、これらは4年間で身につくもの。本演習は、学生生活の入口で迷ったりしないように道筋をつけるのが目的です。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まりますが、その入り口として大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能を身につけると同時に、大学教師や仲間との接し方も学びましょう。						
概要	本演習では、まず、大学での「学び」「教養力」とは何か、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについて考えます。大学生になると、人の意見を聴いたり、話をまとめたりする力が必要になります。これらの力は、ある程度訓練しなければ身につかせません。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを習得し、自分の意見を整理し、話せる力も訓練しましょう。基礎演習 I はその入門編と言ってよいでしょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習 I は、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を学びましょう。						
自己学習	演習の内容については毎回課題が提示されます。予習として、課題内容について事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスワ-	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 大学で学ぶこと 3. 教養力 4. 就職対策・キャリア教育について 5. 代表的な英語資格 6. 中間ふりかえり 7. 講義の聴き方とノートの取り方 8. 図書館の利用法と読書の仕方 9. 情報収集の仕方 10. TOEIC Bridge テスト 11. レポートの書き方 12. 発表の仕方(要旨をつかって発表) 13. 集団討議(1) 14. 集団討議(2) 15. 単位認定試験		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験 演習 演習 演習 演習 レポート試験	佐藤 佐藤 佐藤 高木 金沢 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 金沢 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤				
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習 I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	橋本 由紀子					NO.	FS-FS-1-801
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習 I では、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びます。とはいえ、これらは4年間で身につくもの。本演習は、学生生活の入口で迷ったりしないように道筋をつけるのが目的です。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まりますが、その入り口として大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能を身につけると同時に、大学教師や仲間との接し方も学びましょう。						
概要	本演習では、まず、大学での「学び」「教養力」とは何か、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについて考えます。大学生になると、人の意見を聴いたり、話をまとめたりする力が必要になります。これらの力は、ある程度訓練しなければ身につけません。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを習得し、自分の意見を整理し、話せる力も訓練しましょう。基礎演習 I はその入門編と言ってよいでしょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習 I は、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を学びましょう。						
自己学習	演習の内容については毎回課題が提示されます。予習として、課題内容について事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 大学で学ぶこと 3. 教養力 4. 就職対策・キャリア教育について 5. 代表的な英語資格 6. 中間ふりかえり 7. 講義の聴き方とノートの取り方 8. 図書館の利用法と読書の仕方 9. 情報収集の仕方 10. TOEIC Bridge テスト 11. レポートの書き方 12. 発表の仕方(要旨をつかって発表) 13. 集団討議(1) 14. 集団討議(2) 15. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	橋本 橋本 橋本 高木 金沢 橋本 橋本 橋本 橋本 金沢 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本					
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-1-802
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びますが、特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考えましょう。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まります。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目です。						
概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見しましょう。大学ではグループディスカッションもあり、自分の意見を発言する機会も増えます。自分の研究テーマに関する情報を収集したり、文献や論文の要旨をまとめたりする技術だけでなく、自分の意見を伝える力も身に付けます。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指しましょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を考えましょう。オムニバス授業は、教員の研究紹介となりますが、その講義終了後は必ず、チューターの研究室に行き、基礎知識の確認と振り返りを行うこと。						
自己学習	予習として、各担当教員の『基礎演習テキスト』を読み、事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1.オリエンテーション 2.私の研究テーマ「育てる！」 3.絵画・染織品の科学調査 4.トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー 5.君にお似合いの国 6.No attack, no chance. 7.化学→コンピュータ→電気工作 8.「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン 9.会計検査院に出向して 10.Art, as I see it 11.ゼミ分け説明会(全体)/研究テーマの発見(チューター) 12.研究テーマに関する情報収集(各研究室) 13.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 14.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 15.文献や論文の要旨の発表(各研究室) 16.単位認定試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	全員 池上 大下(浩) 大下(朋) 加藤 佐藤 高木 高橋(正) 畝 メルヴィオ 全員 高木 高木 高木 高木 高木
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-1-802
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びますが、特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考えましょう。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まります。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目です。						
概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見しましょう。大学ではグループディスカッションもあり、自分の意見を発言する機会も増えます。自分の研究テーマに関する情報を収集したり、文献や論文の要旨をまとめたりする技術だけでなく、自分の意見を伝える力も身に付けます。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指しましょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を考えましょう。オムニバス授業は、教員の研究紹介となりますが、その講義終了後は必ず、チューターの研究室に行き、基礎知識の確認と振り返りを行うこと。						
自己学習	予習として、各担当教員の『基礎演習テキスト』を読み、事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.私の研究テーマ「育てる！」 3.絵画・染織品の科学調査 4.トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー 5.君にお似合いの国 6.No attack, no chance. 7.化学→コンピュータ→電気工作 8.「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン 9.会計検査院に外向して 10.Art, as I see it 11.ゼミ分け説明会(全体)／研究テーマの発見(チューター) 12.研究テーマに関する情報収集(各研究室) 13.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 14.文献や論文の要旨のまとめ(各研究室) 15.文献や論文の要旨の発表(各研究室) 16.単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	全員 池上 大下(浩) 大下(朋) 加藤 佐藤 高木 高橋(正) 畝 メルヴィオ 全員 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩)		
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 朋子				NO.	FS-FS-1-802	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びますが、特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考えましょう。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まります。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目です。						
概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見しましょう。大学ではグループディスカッションもあり、自分の意見を発言する機会も増えます。自分の研究テーマに関する情報を収集したり、文献や論文の要旨をまとめたりする技術だけでなく、自分の意見を伝える力も身に付けます。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指しましょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を考えましょう。オムニバス授業は、教員の研究紹介となりますが、その講義終了後は必ず、チューターの研究室に行き、基礎知識の確認と振り返りを行うこと。						
自己学習	予習として、各担当教員の『基礎演習テキスト』を読み、事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.私の研究テーマ「育てる！」 3.絵画・染織品の科学調査 4.トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー 5.君にお似合いの国 6.No attack, no chance. 7.化学→コンピュータ→電気工作 8.「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン 9.会計検査院に外向して 10.Art, as I see it 11.ゼミ分け説明会(全体)／研究テーマの発見(チューター) 12.研究テーマに関する情報収集(各研究室) 13.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 14.文献や論文の要旨のまとめ(各研究室) 15.文献や論文の要旨の発表(各研究室) 16.単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	全員 池上 大下(浩) 大下(朋) 加藤 佐藤 高木 高橋(正) 畝 メルヴィオ 全員 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)		
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-1-802	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びますが、特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考えましょう。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まります。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目です。						
概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見しましょう。大学ではグループディスカッションもあり、自分の意見を発言する機会も増えます。自分の研究テーマに関する情報を収集したり、文献や論文の要旨をまとめたりする技術だけでなく、自分の意見を伝える力も身に付けます。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指しましょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を考えましょう。オムニバス授業は、教員の研究紹介となりますが、その講義終了後は必ず、チューターの研究室に行き、基礎知識の確認と振り返りを行うこと。						
自己学習	予習として、各担当教員の『基礎演習テキスト』を読み、事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.私の研究テーマ「育てる！」 3.絵画・染織品の科学調査 4.トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー 5.君にお似合いの国 6.No attack, no chance. 7.化学→コンピュータ→電気工作 8.「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン 9.会計検査院に外向して 10.Art, as I see it 11.ゼミ分け説明会(全体)／研究テーマの発見(チューター) 12.研究テーマに関する情報収集(各研究室) 13.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 14.文献や論文の要旨のまとめ(各研究室) 15.文献や論文の要旨の発表(各研究室) 16.単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	全員 池上 大下(浩) 大下(朋) 加藤 佐藤 高木 高橋(正) 畝 メルヴィオ 全員 畝 畝 畝 畝		
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	池上 真由美				NO.	FS-FS-1-802	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びますが、特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考えましょう。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まります。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目です。						
概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見しましょう。大学ではグループディスカッションもあり、自分の意見を発言する機会も増えます。自分の研究テーマに関する情報を収集したり、文献や論文の要旨をまとめたりする技術だけでなく、自分の意見を伝える力も身に付けます。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指しましょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を考えましょう。オムニバス授業は、教員の研究紹介となりますが、その講義終了後は必ず、チューターの研究室に行き、基礎知識の確認と振り返りを行うこと。						
自己学習	予習として、各担当教員の『基礎演習テキスト』を読み、事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週火曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.私の研究テーマ「育てる！」 3.絵画・染織品の科学調査 4.トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー 5.君にお似合いの国 6.No attack, no chance. 7.化学→コンピュータ→電気工作 8.「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン 9.会計検査院に外向して 10.Art, as I see it 11.ゼミ分け説明会(全体)／研究テーマの発見(チューター) 12.研究テーマに関する情報収集(各研究室) 13.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 14.文献や論文の要旨のまとめ(各研究室) 15.文献や論文の要旨の発表(各研究室) 16.単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	全員 池上 大下(浩) 大下(朋) 加藤 佐藤 高木 高橋(正) 畝 メルヴィオ 全員 池上 池上 池上 池上		
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	加藤 健次					NO.	FS-FS-1-802
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びますが、特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考えましょう。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まります。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目です。						
概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見しましょう。大学ではグループディスカッションもあり、自分の意見を発言する機会も増えます。自分の研究テーマに関する情報を収集したり、文献や論文の要旨をまとめたりする技術だけでなく、自分の意見を伝える力も身に付けます。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指しましょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を考えましょう。オムニバス授業は、教員の研究紹介となりますが、その講義終了後は必ず、チューターの研究室に行き、基礎知識の確認と振り返りを行うこと。						
自己学習	予習として、各担当教員の『基礎演習テキスト』を読み、事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.私の研究テーマ「育てる！」 3.絵画・染織品の科学調査 4.トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー 5.君にお似合いの国 6.No attack, no chance. 7.化学→コンピュータ→電気工作 8.「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン 9.会計検査院に外向して 10.Art, as I see it 11.ゼミ分け説明会(全体)／研究テーマの発見(チューター) 12.研究テーマに関する情報収集(各研究室) 13.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 14.文献や論文の要旨のまとめ(各研究室) 15.文献や論文の要旨の発表(各研究室) 16.単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	全員 池上 大下(浩) 大下(朋) 加藤 佐藤 高木 高橋(正) 畝 メルヴィオ 全員 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤		
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高橋 正己					NO.	FS-FS-1-802
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びますが、特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考えましょう。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まります。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目です。						
概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見しましょう。大学ではグループディスカッションもあり、自分の意見を発言する機会も増えます。自分の研究テーマに関する情報を収集したり、文献や論文の要旨をまとめたりする技術だけでなく、自分の意見を伝える力も身に付けます。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指しましょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を考えましょう。オムニバス授業は、教員の研究紹介となりますが、その講義終了後は必ず、チューターの研究室に行き、基礎知識の確認と振り返りを行うこと。						
自己学習	予習として、各担当教員の『基礎演習テキスト』を読み、事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の124研究室にて、毎週木曜日昼+3限目						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.私の研究テーマ「育てる！」 3.絵画・染織品の科学調査 4.トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー 5.君にお似合いの国 6.No attack, no chance. 7.化学→コンピュータ→電気工作 8.「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン 9.会計検査院に外向して 10.Art, as I see it 11.ゼミ分け説明会(全体)／研究テーマの発見(チューター) 12.大学生活の見直し 13.研究テーマに関する情報収集(各研究室) 14.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 15.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 16.単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	全員 池上真由美 大下 浩司 大下 朋子 加藤 健次 佐藤 匡 高木 秀明 高橋 正己 畝 伊智朗 メルヴィオ、ミカ・マルクス 全員 外部講師 高橋 高橋 高橋 高橋		
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス				NO.	FS-FS-1-802	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びますが、特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考えましょう。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まります。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目です。						
概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見しましょう。大学ではグループディスカッションもあり、自分の意見を発言する機会も増えます。自分の研究テーマに関する情報を収集したり、文献や論文の要旨をまとめたりする技術だけでなく、自分の意見を伝える力も身に付けます。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指しましょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	自主的に調べ学ぶことを楽しんでください。						
自己学習	受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「こんなはずじゃなかった！」～人生は選択の連続体～ 3. 絵画・染織品の科学調査 4. トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー 5. 君にお似合いの国 6. No attack, no chance. 7. 化学→コンピュータ→電気工作 8. 「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン 9. 国際機関で働くー経済協力開発機構(OECD)に出向した経験からー 10. Art, as I see it 11. 学生時代に身についた幾つかの役に立たなかったこと 12. ゼミ分け説明会 13. 研究テーマについて考える(各研究室) 14. 論文の読み方(各研究室) 15. 資料のまとめ方(各研究室) 16. 単位認定試験 	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	全員 池上真由美 大下 浩司 大下 朋子 加藤 健次 佐藤 匡 高木 秀明 高橋 正己 畝 伊智朗 MERVIÖ 湧田 英明 全員 担当教員 担当教員 担当教員 担当教員		
教科書 1	基礎演習テキストを配布する						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	基礎演習Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	橋本 由紀子					NO.	FS-FS-1-802
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びますが、特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考えましょう。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まります。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目です。						
概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見しましょう。大学ではグループディスカッションもあり、自分の意見を発言する機会も増えます。自分の研究テーマに関する情報を収集したり、文献や論文の要旨をまとめたりする技術だけでなく、自分の意見を伝える力も身に付けます。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指しましょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと考えて下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を考えましょう。オムニバス授業は、教員の研究紹介となりますが、その講義終了後は必ず、チューターの研究室に行き、基礎知識の確認と振り返りを行うこと。						
自己学習	予習として、各担当教員の『基礎演習テキスト』を読み、事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟3階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.私の研究テーマ「育てる！」 3.絵画・染織品の科学調査 4.トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー 5.君にお似合いの国 6.No attack, no chance. 7.化学→コンピュータ→電気工作 8.「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン 9.会計検査院に外向して 10.Art, as I see it 11.ゼミ分け説明会(全体)／研究テーマの発見(チューター) 12.研究テーマに関する情報収集(各研究室) 13.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 14.文献や論文の要旨のまとめ(各研究室) 15.文献や論文の要旨の発表(各研究室) 16.単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	全員 池上 大下(浩) 大下(朋) 加藤 佐藤 高木 高橋(正) 畝 メルヴィオ 全員 橋本 橋本 橋本 橋本 橋本		
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	高木 秀明				NO.	FS-FS-2-803	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習 I では、基礎演習 I と II で学んだ、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を基礎として、ゼミに所属しより深い学びを行います。2年生として、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた準備活動、つまり演習(ゼミ)が始まります。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマについて考え、ゼミで発表し、議論しましょう。						
概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。最終まとめでは、自らの研究テーマについても考えます。演習 I では、受講者が主体となって学修します。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週火曜日2時限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 演習 I の概説	演習	高木					
2. 生活に関する時事問題について情報収集	演習	高木					
3. 生活に関する時事問題について発表	演習	高木					
4. 生活に関する時事問題についてディスカッション	演習	高木					
5. 社会に関する時事問題について情報収集	演習	高木					
6. 社会に関する時事問題について発表	演習	高木					
7. 社会に関する時事問題についてディスカッション	演習	高木					
8. 経済に関する時事問題について情報収集	演習	高木					
9. 経済に関する時事問題について発表	演習	高木					
10. 経済に関する時事問題についてディスカッション	演習	高木					
11. 海外に関する時事問題について情報収集	演習	高木					
12. 海外に関する時事問題について発表	演習	高木					
13. 海外に関する時事問題についてディスカッション	演習	高木					
14. 最終まとめ(自らの研究テーマについて考える)	演習	高木					
15. 単位認定試験	試験	高木					
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習 I				履修期	2020年度 春学期		
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-2-803	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習 I では、基礎演習 I と II で学んだ、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を基礎として、ゼミに所属しより深い学びを行います。2年生として、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた準備活動、つまり演習(ゼミ)が始まります。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマについて考え、ゼミで発表し、議論しましょう。							
概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考えます。演習 I では、受講者が主体となって学修します。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
1. 演習 I の概説	演習	大下(浩)						
2. 生活に関する時事問題について情報収集	演習	大下(浩)						
3. 生活に関する時事問題について発表	演習	大下(浩)						
4. 生活に関する時事問題についてディスカッション	演習	大下(浩)						
5. 社会に関する時事問題について情報収集	演習	大下(浩)						
6. 社会に関する時事問題について発表	演習	大下(浩)						
7. 社会に関する時事問題についてディスカッション	演習	大下(浩)						
8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて考える)	演習	大下(浩)						
9. 経済に関する時事問題について情報収集	演習	大下(浩)						
10. 経済に関する時事問題について発表	演習	大下(浩)						
11. 経済に関する時事問題についてディスカッション	演習	大下(浩)						
12. 海外に関する時事問題について情報収集	演習	大下(浩)						
13. 海外に関する時事問題について発表	演習	大下(浩)						
14. 海外に関する時事問題についてディスカッション	演習	大下(浩)						
15. 単位認定試験	演習	大下(浩)						
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習 I				履修期	2020年度 春学期			
担当者	大下 朋子					NO.	FS-FS-2-803		
配当学科	外国				年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	外国学科の演習 I では、基礎演習 I と II で学んだ、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を基礎として、ゼミに所属しより深い学びを行います。2年生として、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた準備活動、つまり演習(ゼミ)が始まります。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマについて考え、ゼミで発表し、議論しましょう。								
概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考えます。演習 I では、受講者が主体となって学修します。								
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。								
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 演習 I の概説			演習	大下(朋)					
2. 生活に関する時事問題について情報収集			演習	大下(朋)					
3. 生活に関する時事問題について発表			演習	大下(朋)					
4. 生活に関する時事問題についてディスカッション			演習	大下(朋)					
5. 社会に関する時事問題について情報収集			演習	大下(朋)					
6. 社会に関する時事問題について発表			演習	大下(朋)					
7. 社会に関する時事問題についてディスカッション			演習	大下(朋)					
8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて考える)			演習	大下(朋)					
9. 経済に関する時事問題について情報収集			演習	大下(朋)					
10. 経済に関する時事問題について発表			演習	大下(朋)					
11. 経済に関する時事問題についてディスカッション			演習	大下(朋)					
12. 海外に関する時事問題について情報収集			演習	大下(朋)					
13. 海外に関する時事問題について発表			演習	大下(朋)					
14. 海外に関する時事問題についてディスカッション			演習	大下(朋)					
15. 単位認定試験			レポート試験	大下(朋)					
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	演習 I			履修期	2020年度 春学期			
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-2-803	
配当学科	外国			年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習 I では、基礎演習 I と II で学んだ、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を基礎として、ゼミに所属しより深い学びを行います。2年生として、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた準備活動、つまり演習(ゼミ)が始まります。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマについて考え、ゼミで発表し、議論しましょう。							
概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考えます。演習 I では、受講者が主体となって学修します。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
1. 演習 I の概説	演習	畝						
2. 生活に関する時事問題について情報収集	演習	畝						
3. 生活に関する時事問題について発表	演習	畝						
4. 生活に関する時事問題についてディスカッション	演習	畝						
5. 社会に関する時事問題について情報収集	演習	畝						
6. 社会に関する時事問題について発表	演習	畝						
7. 社会に関する時事問題についてディスカッション	演習	畝						
8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて考える)	演習	畝						
9. 経済に関する時事問題について情報収集	演習	畝						
10. 経済に関する時事問題について発表	演習	畝						
11. 経済に関する時事問題についてディスカッション	演習	畝						
12. 海外に関する時事問題について情報収集	演習	畝						
13. 海外に関する時事問題について発表	演習	畝						
14. 海外に関する時事問題についてディスカッション	演習	畝						
15. 単位認定試験	試験	畝						
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習 I				履修期	2020年度 春学期		
担当者	池上 真由美					NO.	FS-FS-2-803	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習 I では、基礎演習 I と II で学んだ、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を基礎として、ゼミに所属しより深い学びを行います。2年生として、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた準備活動、つまり演習(ゼミ)が始まります。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマについて考え、ゼミで発表し、議論しましょう。							
概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考えます。演習 I では、受講者が主体となって学修します。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週火曜日2限をオフィスアワーの時間とします。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
1. 演習 I の概説	演習	池上						
2. 生活に関する時事問題について情報収集	演習	池上						
3. 生活に関する時事問題について発表	演習	池上						
4. 生活に関する時事問題についてディスカッション	演習	池上						
5. 社会に関する時事問題について情報収集	演習	池上						
6. 社会に関する時事問題について発表	演習	池上						
7. 社会に関する時事問題についてディスカッション	演習	池上						
8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて考える)	演習	池上						
9. 経済に関する時事問題について情報収集	演習	池上						
10. 経済に関する時事問題について発表	演習	池上						
11. 経済に関する時事問題についてディスカッション	演習	池上						
12. 海外に関する時事問題について情報収集	演習	池上						
13. 海外に関する時事問題について発表,ディスカッション	演習	池上						
14. 最終まとめ(自らの研究テーマについて考える)	演習	池上						
15. 単位認定試験	試験	池上						
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習 I			履修期	2020年度 春学期			
担当者	加藤 健次					NO.	FS-FS-2-803	
配当学科	外国			年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習 I では、基礎演習 I と II で学んだ、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を基礎として、ゼミに所属しより深い学びを行います。2年生として、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた準備活動、つまり演習(ゼミ)が始まります。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマについて考え、ゼミで発表し、議論しましょう。							
概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考えます。演習 I では、受講者が主体となって学修します。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
1. 演習 I の概説	演習	加藤						
2. 生活に関する時事問題について情報収集	演習	加藤						
3. 生活に関する時事問題について発表	演習	加藤						
4. 生活に関する時事問題についてディスカッション	演習	加藤						
5. 社会に関する時事問題について情報収集	演習	加藤						
6. 社会に関する時事問題について発表	演習	加藤						
7. 社会に関する時事問題についてディスカッション	演習	加藤						
8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて考える)	演習	加藤						
9. 経済に関する時事問題について情報収集	演習	加藤						
10. 経済に関する時事問題について発表	演習	加藤						
11. 経済に関する時事問題についてディスカッション	演習	加藤						
12. 海外に関する時事問題について情報収集	演習	加藤						
13. 海外に関する時事問題について発表	演習	加藤						
14. 海外に関する時事問題についてディスカッション	演習	加藤						
15. 単位認定試験	試験	加藤						
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習 I			履修期	2020年度 春学期			
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-2-803	
配当学科	外国			年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習 I では、基礎演習 I と II で学んだ、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を基礎として、ゼミに所属しより深い学びを行います。2年生として、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた準備活動、つまり演習(ゼミ)が始まります。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマについて考え、ゼミで発表し、議論しましょう。							
概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考えます。演習 I では、受講者が主体となって学修します。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
1. 演習 I の概説	演習	高橋						
2. 生活に関する時事問題について情報収集	演習	高橋						
3. 生活に関する時事問題について発表	演習	高橋						
4. 生活に関する時事問題についてディスカッション	演習	高橋						
5. 社会に関する時事問題について情報収集	演習	高橋						
6. 社会に関する時事問題について発表	演習	高橋						
7. 社会に関する時事問題についてディスカッション	演習	高橋						
8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて考える)	演習	高橋						
9. 経済に関する時事問題について情報収集	演習	高橋						
10. 経済に関する時事問題について発表	演習	高橋						
11. 経済に関する時事問題についてディスカッション	演習	高橋						
12. 海外に関する時事問題について情報収集	演習	高橋						
13. 海外に関する時事問題について発表	演習	高橋						
14. 海外に関する時事問題についてディスカッション	試験	高橋						
15. 単位認定試験								
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習 I				履修期	2020年度 春学期		
担当者	佐藤 匡					NO.	FS-FS-2-803	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習 I では、基礎演習 I と II で学んだ、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を基礎として、ゼミに所属しより深い学びを行います。2年生として、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた準備活動、つまり演習(ゼミ)が始まります。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマについて考え、ゼミで発表し、議論しましょう。							
概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考えます。演習 I では、受講者が主体となって学修します。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。 2020年4月28日追記…当初は90分授業×15回で行うことにしていたが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受けて、2020年度春学期は100分授業×14回で下記の講義内容を学修する。また講義はテレビ会議システムを利用したオンライン形式で行う。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスワ-	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1. 演習 I の概説	演習	佐藤						
2. 生活に関する時事問題について情報収集	演習	佐藤						
3. 生活に関する時事問題について発表	演習	佐藤						
4. 生活に関する時事問題についてディスカッション	演習	佐藤						
5. 社会に関する時事問題について情報収集	演習	佐藤						
6. 社会に関する時事問題について発表	演習	佐藤						
7. 社会に関する時事問題についてディスカッション	演習	佐藤						
8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて考える)	演習	佐藤						
9. 経済に関する時事問題について情報収集	演習	佐藤						
10. 経済に関する時事問題について発表	演習	佐藤						
11. 経済に関する時事問題についてディスカッション	演習	佐藤						
12. 海外に関する時事問題について情報収集	演習	佐藤						
13. 海外に関する時事問題について発表	演習	佐藤						
14. 海外に関する時事問題についてディスカッション	演習	佐藤						
15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて考える)	演習	佐藤						
16. 単位認定試験	試験	佐藤						
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高木 秀明				NO.	FS-FS-2-804	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日2時限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 浩司				NO.	FS-FS-2-804	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩)
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 朋子					NO.	FS-FS-2-804
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-2-804	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	池上 真由美				NO.	FS-FS-2-804	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	加藤 健次				NO.	FS-FS-2-804	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスワ-	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤		
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高橋 正巳				NO.	FS-FS-2-804	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	佐藤 匡					NO.	FS-FS-2-804	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。							
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスワ-	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤	
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-2-804
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的な理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスワ-	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	英語科教育法 I				履修期	2020年度 春学期		
担当者	竹野 純一郎					NO.	TC-FS-2-001	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>テーマ:英語教授法と授業計画書の作成 到達目標:英語教育に係る基礎理論を理解し、その指導法、教材、学習者、教師、試験に関する実施方法の習得を目標とする。</p>							
概要	<p>本講義では、英語を教えるために必要な基礎理論(教育法・教材・学習者・指導者・授業案等)を体系的に学び、模擬授業を行って教育実習に役立つ実践力を身につけていけるようにする。さらに、中学校・高等学校学習指導要領が指定する英語科の指導目標・学習内容を理解したうえで、英語教員になるために必要な知識と英語教授法を把握し、教育の現場でそれぞれどのような英語授業を計画・実施していけばよいのか、どのような教師を目指すのかを、ディスカッション・タスクを交えて習得する。</p>							
評価方法	<p>テーマ「英語教授法と授業計画書の作成」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、単位認定試験の成績(50%)、日頃のテストや授業態度などの平常点(50%)による総合評価を行う。 なお、日頃のテストや発表については、授業中にフィードバックを行うので、単位認定に関する定期テストまでに見直しをしておくこと。</p>							
履修条件・注意事項	教職課程の履修者のみ							
自己学習	<p>課題が出された場合はしっかり準備をして授業に臨むこと。参加型の授業形態になるので問題意識を持って積極的に発言をし、授業後はきちんと復習をすること。発表や試験を実施するので真剣に取り組むこと。予習および復習、発表準備には、週当たり4時間以上を要する。</p>							
オフィスワ-	授業終了後							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回:はじめに:Introduction: Provision of overview of the course 第2回:英語教育と英語教育学 第3回:英語の国際化 第4回:日本の英語教育 第5回:学習指導要領(1)中学校学習指導要領 第6回:学習指導要領(2)高等学校学習指導要領 第7回:学習者 Individual differences, motivation, contexts, ages, etc 第8回:英語教員 Teacher qualities, teaching skills, knowledge, etc. 第9回:小学校における外国語(英語)活動 第10回:英語教授法CLT; Communicative Language Teaching 第11回:模擬授業(1) 1クラス 第12回:模擬授業(2) 2クラス 第13回:模擬授業(3) 3クラス 第14回:第二言語習得と英語教育 第15回:まとめ:英語授業の計画と実施に向けて what to prepare, how to use a lesson plan 単位認定試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 発表 発表 発表 講義 講義 筆記試験	竹野純一郎					
教科書 1	中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 出版社:文部科学省							
教科書 2	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 著者:望月昭彦 編著, 久保田章, 磐崎弘貞, 卯城祐司 著 出版社:大修館書店 ISBN:978-4-469-24558-5							
参考書 1	Teaching and Learning in the Language Classroom 著者:T.Hedge 出版社:Oxford University Press							
参考書 2								

授業科目名	英語科教育法Ⅱ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	竹野 純一郎					NO.	TC-FS-2-002
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:英語教授法と授業計画書の作成 到達目標:英語教育に関する理論を实践に活かして、英語の実践的な指導方法を具体的に学ぶことを目標とする。</p>						
概要	<p>本講義では、英語教育の意義と目的について考察し、模擬授業を行って英語の実践的な指導方法を身につける。「英語科教育法Ⅰ」で学んだ基礎理論を踏まえ、英語の「聴く」「読む」「話す」「書く」の4技能指導方法について学び、チーム・ティーチングや教科書・教材研究を通して、中学校・高等学校の学習指導要領への理解を深める。さらに理論を实践へつなげるべく、実際の授業について考察し、学習指導案を作成する。</p>						
評価方法	<p>テーマ「英語教授法と授業計画書の作成」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、単位認定試験の成績(50%)、日頃のテストや授業態度などの平常点(50%)による総合評価を行う。 なお、日頃のテストや発表については、授業中にフィードバックを行うので、単位認定に関する定期テストまでに見直しをしておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	教職課程の履修者のみ、「英語科教育法Ⅰ」を履修又は修得していること。						
自己学習	<p>課題が出された場合はしっかり準備をして授業に臨むこと。参加型の授業形態になるので問題意識を持って積極的に発言をし、授業後はきちんと復習をすること。発表や試験を実施するので真剣に取り組むこと。予習および復習、発表準備には、週当たり4時間以上を要する。</p>						
オフィスアワー	授業終了後						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回:コミュニケーション能力の育成		講義	竹野純一郎				
第2回:4技能の指導方法(1) リスニング		講義					
第3回:4技能の指導方法(2) スピーキング		講義					
第4回:4技能の指導方法(3) リーディング		講義					
第5回:4技能の指導方法(4) ライティング		講義					
第6回:語彙と辞書検索指導		講義					
第7回:文法の学習と指導		講義					
第8回:教科書と教材研究		講義					
第9回:模擬授業(1) 1クラス		発表					
第10回:模擬授業(2) 2クラス		発表					
第11回:模擬授業(3) 3クラス		発表					
第12回:授業運営の理論と方法		講義					
第13回:学習指導案の作成(1) 小学校		AL					
第14回:学習指導案の作成(2) 中学校		AL					
第15回:学習指導案の作成(3) 高等学校		AL					
単位認定試験		筆記試験					
教科書1	<p>中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 出版社:文部科学省</p>						
教科書2	<p>新学習指導要領にもとづく英語科教育法 著者:望月昭彦 編著, 久保田章, 磐崎弘貞, 卯城祐司 著 出版社:大修館書店 ISBN:978-4-469-24558-5</p>						
参考書1	<p>Teaching and Learning in the Language Classroom 著者:T.Hedge 出版社:Oxford University Press</p>						
参考書2							

授業科目名	教育原論			履修期	2020年度 春学期		
担当者	倉知 典弘					NO.	TC-FS-1-005
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>授業のテーマ:教育理念並びに教育に関する歴史及び思想を通じて、これからの教育のあり方について考えを持ち、教員になるための意欲を高め、実践的指導力の基盤づくりを行う</p> <p>授業の到達目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1:教育の理念並びに歴史、思想について理解し、それらを論理的に思考し、それを自分の言葉で表現することができるようになる 2:教育制度の展開について理解し、それをもとに制度化された教育の持つ意義・限界を述べることができるようになる 3:学校教育批判の思想について理解し、学校教育の今後について意見を述べられるようになる 4:学習記録の作成を通じて、学習を振り返る習慣をつけ、学習の理解を深められるようになる 						
概要	<p>本講義では、講義形式の学びを通じて教育の思想及び歴史を学んでいく。教育の歴史を学ぶことは、現代の教育をみつめる目を構築することである。教育に関する思想の歴史は、現在展開されている教育という営為の有効性とともに限界性を指し示すものである。この先人たちの思考をたどることで、教育に関する思考力を高めていく。</p> <p>本講義は以下の3つの段階に分かれて展開される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1:教育思想史の検討:ルソー、コメニウスなど近代教育を支えてきた諸理論を検討することによって、教育という行為にこめられた理念・目的を検討する。そのことで、教育の持つ多様性を理解するとともに、その意義及び限界を考える。 2:教育制度史の検討:学校制度を中心として、教育が社会の進展の影響を受けながら制度化されていく過程を検討する。その際に、教育の持つ「自由の保障」と「社会統制」の2面性を基軸として教育制度の持つ意味を検討する。 3:学校教育批判の検討:教育を批判的に検討した議論の検討を通じて、教育の意義と限界を明らかにする。学校教員を目指す学生にとって、教育の限界をもっとも端的に示そうとする議論ではあるが、批判的な検討をすることで教師の積極的な役割を考えることとした。 						
評価方法	学習記録(必須:15%)及び課題レポート(任意:15%)及び定期試験(必須:70%)で評価する。なお、学習記録の未提出者の成績評価は行わない。課題レポート及び試験の結果については学内掲示によって総括的なフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。初回の講義の際に成績評価に用いる学習記録用紙を配布するので必ず出席すること。						
自己学習	1)講義に関する基礎的な事項(歴史的事項)などを調べる。2)調べた事項をもとに講義に関する質問事項に答える(なお、2)については講義の最初にグループで報告をしてもらうので必ず予習すること。)3)講義における重要事項のまとめ及び講義に関する質問事項の記入。これらの事項を初回で配布する学習記録用紙に記入し、提出してもらう。3)に記入されたことを次回講義で取り上げることもあるので記入すること。2時間程度の予習・復習の時間を要する。						
オフィスワ-	倉知:火曜日2限 倉知研究室(9301)にて						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
第1回:教育の概念について	講義	倉知					
第2回:西洋教育史(1)古代ーギリシア・ローマの教育思想	講義	倉知					
第3回:西洋教育史(2)中世ーキリスト教世界と教育	講義	倉知					
第4回:西洋教育史(3)近世ールネッサンス・宗教改革と教育	講義	倉知					
第5回:西洋教育史(4)近代①ー実学主義・啓蒙主義・新人文主義の教育	講義	倉知					
第6回:西洋教育史(5)近代②ー市民革命・産業革命と公教育の組織化	講義	倉知					
第7回:西洋教育史(6)現代①ー新教育の時代	講義	倉知					
第8回:西洋教育史(7)現代②ー戦後の教育思想	講義	倉知					
第9回:日本教育史(1)明治以前ー明治以前の教育実態	講義	倉知					
第10回:日本教育史(2)明治時代ー明治政府の教育政策	講義	倉知					
第11回:日本教育史(3)大正時代ー大正自由教育運動を中心に	講義	倉知					
第12回:日本教育史(4)昭和初期ー戦争と教育	講義	倉知					
第13回:日本教育史(5)戦後の教育改革①ー80年代までの状況	講義	倉知					
第14回:日本教育史(6)戦後の教育改革②ー現代社会と教育	講義	倉知					
第15回:学校批判の教育学ー学校教育を相対化する	講義	倉知					
第16回:終講試験	試験	倉知					
教科書 1	教育思想史(有斐閣アルマ) 著者:今井 康雄 編 出版社:有斐閣 ISBN:978-4641123847						
教科書 2							
参考書 1	学習指導要領は国民形成の設計書ーその能力観と人間像の歴史的変遷 著者:水原 克敏 出版社:東北大学出版会 ISBN:978-4861631474						

授業科目名	教職論			履修期	2020年度 春学期		
担当者	池上 真由美				NO.	TC-PS-1-901	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	教職についての基礎的な知識(教職の歴史と社会的使命, 教員の職務, 教員養成と研修, 服務規程, 「チームとしての学校」の一員としての役割等)について理解するとともに, 教員としての自らの適性について考えることを目標とする。						
概要	教師, 教職, 人を教えるという行為など, 教育という営みをめぐる哲学的, 原理的な課題からはじまり, 学校教育, 教員の使命と役割, 学校における教員のさまざまな活動について理解する。また, これからの学校においては, 「チームとしての学校」の体制の中で, 一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに, グループ討議等を通して, 教員をめざすにあたり, 自分には求められる資質・能力があるか, 自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は, 小中学校教員としての実務経験を持つ教員が, その経験を活かし, 教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
評価方法	[試験]60%(授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。) [提出物]20%(レポート課題, コメント用紙等により評価する。レポート課題は, ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は, 次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて, フィードバックする。) [授業への参画状況]20%(発表及び発言内容, 教職への意欲や態度等を総合的に評価する。)						
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表, グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお, 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
自己学習	前時に示された予習課題をもとに, 目的意識をもって授業を受けること。 復習として, 授業で配付したプリントの内容を, 理解する事柄と記憶する事柄を整理して再確認すること。 なお, それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	月曜日2時限目をオフィスアワーとする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. 教師の歴史と教師論 2. 求められる教員の資質の変遷 3. 教育的諸問題と教職の課題 4. 教員の仕事と役割①(種類と職階, 関係づくり) 5. 教員の仕事と役割②(教科指導) 6. 教員の仕事と役割③(教科外指導) 7. 教員の仕事と役割④(進路指導) 8. 教員の仕事と役割⑤(学級経営・学校経営・校務分掌) 9. 教員の仕事と役割⑥(教育相談) 10. 教員の仕事と役割⑦(学級崩壊) 11. 教員の研修 12. 服務規程 13. 小中学校の教員 14. 高等学校・特別支援学校の教員, 教員養成と教職課程 15. 試験		講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 筆記試験	池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上				
教科書 1	教職論 教師を志すすべての人へ 第2版 著者:教職問題研究会 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-05305-6						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	教育行政学			履修期	2020年度 春学期		
担当者	倉知 典弘				NO.	TC-FS-1-007	
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。</p> <p>到達目標 1. 教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解する 2. 学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解する 3. 学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解する 4. 子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解する 5. 現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解する 6. 子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できるようになる</p>						
概要	<p>本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかとする(第1回)。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく(第2回～第7回)。</p> <p>以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい(第8回～第14回)。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる(第15回)。</p> <p>本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。</p>						
評価方法	学習記録の提出(15%)及びレポート課題(15%)及び定期試験(70%)で評価する。定期試験の結果及びレポート課題については掲示によって総括的なフィードバックを行う						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは学科等によって異なるので、必ず学生便覧を確認してから履修すること。なお、教員となるのにふさわしい態度で受講することが求められる。						
自己学習	予習として1) 講義に取り上げる予定の法令調べ 2) 講義にかかわる事項の調べ 3) テーマに関わる論述課題を課す(2時間程度)。論述課題の内容は講義でも取り上げる。 復習として1) 講義のキーワードのまとめ 2) 論述課題 3) 講義の振り返りを課す(2時間程度)						
オフィスアワー	金曜日昼休みに講師控室にて。なお、担当教員は高梁キャンパスに勤務しているため、授業日以外は不在である。急ぎの事態がある場合は、事務室を通じて連絡のこと						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
第1回: 公教育の基本原則と教育行政: 教育の公共性について	講義	倉知					
第2回: 教育の法制の概要: 教育の法律主義について	講義	倉知					
第3回: 教育行政の機構: 教育行政のガバナンス	講義	倉知					
第4回: 教育の中立性確保: 宗教的中立と政治的中立	講義	倉知					
第5回: 教育の義務制と機会均等: 教育福祉の観点から	講義	倉知					
第6回: 教育機関の設置・管理: 学校と社会教育・生涯学習	講義	倉知					
第7回: 教育職員に関わる法制: 養成・採用・服務を中心に	講義	倉知					
第8回: 学校の組織体制: チームとしての学校を中心に	講義	倉知					
第9回: 学校経営計画と評価: PDCAサイクル	講義	倉知					
第10回: 学校における教育活動: 教育課程	講義	倉知					
第11回: 学校における生徒指導: 「問題行動」とその制度的対応	講義	倉知					
第12回: 学校経営の諸課題(1) 地域社会との連携	講義	倉知					
第13回: 学校経営の諸課題(2) 学校安全・学校保健	講義	倉知					
第14回: 学校経営の諸課題(3) 子どもの現状とその制度的対応	講義	倉知					
第15回: 現代教育改革と教育行政・学校経営	講義	倉知					
第16回: 定期試験							
教科書 1	教育行政学: 子ども・若者の未来を拓く(改訂版) 著者: 横井敏郎編 出版社: 八千代出版 ISBN: 978-4842917092						
教科書 2							

参考書 1

教育小六法

著者:市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆

出版社:学陽書房

ISBN:978-4313011953

参考書 2

中学校学習指導要領(最新版) 高等学校学習指導要領(最新版)

授業科目名	教育課程論				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	池上 真由美					NO.	TC-FS-1-010	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	
テーマと到達目標	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する、また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。							
概要	教育課程とは何か、教育課程の変遷、教育課程の法体系と学習指導要領、新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する。また、編成した教育課程を実施・評価し改善するカリキュラム・マネジメントのプロセスを、実践例を通して学び、演習やグループワーク等を行うことで、カリキュラム・マネジメント力を養う。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。							
評価方法	[試験]60%(授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。) [提出物]20%(レポート課題、コメント用紙等により評価する。レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。) [授業への参画状況]20%(発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する。)							
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。							
自己学習	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄を整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。							
オフィスワ-	金曜日4時限目							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			第1回:教育課程とは何か 第2回:教育の目的と教育課程の編成 第3回:現代日本の教育課程の変遷 第4回:新学習指導要領等の改訂のポイント「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」「主体的・対話的で深い学び」 第5回:近年の教育改革の動向および今後の課題 第6回:幼稚園・小学校・中学校教育・高等学校教育における教育課程 第7回:教育課程の法と行政、実践・カリキュラム・マネジメント 第8回:定期試験			講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 筆記試験	池上 池上 池上 池上 池上 池上	
教科書 1	はじめて学ぶ教育課程 著者:広岡義之 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-07559-1							
教科書 2								
参考書 1	小学校学習指導要領・中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 著者:文部科学省							
参考書 2								

授業科目名	道徳教育の理論と方法				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	川上 はる江					NO.	TC-FS-2-011
配当学科	外国語学科			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 討論 模擬授業
テーマと到達目標	道徳教育について、基礎理論を理解し、併せて実践的指導力を養う。 基礎理論としては、道徳の本質、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳教育の役割と課題、道徳教育の授業理論について理解する。また、実践力については、道徳の時間の指導案作成、模擬授業、総合単元的な道徳学習の構想作成を通して、道徳の時間の指導法を身に付ける。						
概要	授業の概要 道徳教育の基礎知識である、道徳性の発達理論、教育理論、道徳教育の役割や意義をテキストを基に学修し、理解する。また、実践力の育成という意味から、学生の参加型授業を取り入れ、講義を行う。道徳資料を基に、道徳的価値について分析し、指導案を作成する。模擬授業後、学生の相互評価を行い、改善策を考え、指導案を修正したり、授業を練り直したりする。 ※実務経験のある教員による授業科目 教員としての実務経験を生かし、教育現場に役立つ実践的な授業を実施する。						
評価方法	理論的なものについては、テスト及びレポートで評価する。知識の習得については定期試験、実践的な目標については、発表態度、発表内容で評価する。授業では、テキストを熟読してくることを前提とする。 模擬授業(30%) 提出物(20%) 最終試験(50%) なお、実施した課題等については授業で補足説明する。						
履修条件・注意事項	毎時間の授業内容を効率的に理解し、発展できるようにするためにその時間の学習に必要な内容等について予習と復習が必須である。また、毎時間の授業の一部を使用して、その時間の学習の成果を創意・工夫を加えて、レポートとしてまとめる						
自己学習	予習 2時間 次回に学修する箇所を読んでくること 復習 2時間 学修した内容の課題を出すので要点をまとめておくこと						
オフィスワ-	木、金の4限目 昼休み(個人研究室10309)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
				第1回: 道徳教育を学ぶ視点 第2回: 人間と道徳,道徳教育とは 第3回: 戦前、戦後の道徳教育 第4回: 学習指導要領と道徳教育 第5回: 発達理論 第6回: 授業理論 第7回: 学校の道徳教育の構造 第8回: 道徳資料の読み方 第9回: 指導案の書き方 第10回: 教材研究、指導案作成 第11回: 模擬授業1(演習) 第12回: 模擬授業2(演習) 第13回: 総合単元的道徳学習 第14回: 構想表作成 第15回: 道徳教育における評価 第16回: 定期試験		講義 講義 講義 講義・演習 講義 講義 演習 講義・AL 講義・AL 講義・AL 演習 講義・演習 講義 講義 筆記試験	川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上
教科書 1	道徳教育を学ぶ人のために(四訂版) 著者:小寺正一 他編 出版社:世界思想社 ISBN:978-4-7907-0						
教科書 2	中学校学習指導要領解説 道徳編 平成29年告示 著者:文部科学省 出版社:日本文教出版 ISBN:978-4-536-59004-4						
参考書 1	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる 著者:横山利弘 牧崎幸夫他 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-07160-9						
参考書 2	私たちの道徳 著者:文部科学省 出版社:廣済堂あかつき株式会社 ISBN:978-4-331-75188-6						

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			履修期	2020年度 春学期		
担当者	川上 はる江				NO.	TC-FS-2-012	
配当学科	外国語学科			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 演習 AL
テーマと到達目標	<p>授業のテーマ及び到達目標 特別活動は、集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行う活動である。集団や社会の一員として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を持ちながら自主的、実践的な育てることを目標にしている。また、総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、総合的な学習を行い、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。これらの教育方法上の特徴ゆえに、教科指導とは異なる役割を担っている。 本授業では、下記の3点を目標に学修し、学級活動及び総合的な学習の時間の学習指導案や活動計画を書き、授業構成ができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、内容を理解する。 2. 特別活動の指導法を実践的に理解する。 3. 総合的な学習の時間の指導計画を作成し、指導と評価の考え方を理解する。 						
概要	<p>授業の概要 特別活動、総合的な学習の時間の特徴を考慮しながら、次の6点について学修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領における特別活動の目標、主な内容、教育課程における位置づけ 2. 学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質 3. 学級活動の指導案を作成し、模擬授業(別途実施)の実践と評価 4. 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標、主な内容、教育課程上の位置づけ 5. 総合的な学習の時間における年間指導計画作成の仕方、単元計画の作成の仕方 6. 総合的な学習の時間について指導と評価の方法、その留意点 <p>※実務経験のある教員による授業科目 教員としての実務経験を生かし、教育現場に役立つ実践的な授業を実施する。</p>						
評価方法	<p>授業では、テキストを事前に熟読してくることを大前提にする。授業でレポートを出すこともあるので、レポートの評価も授業への参画状況として考える。 評価は、授業での発表や発表をめぐる発言、討論など(20%)、授業への参画状況(20%)、最終試験(60%)とで行う。 なお、評価ために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので試験までに見直しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>授業前に、事前にテキストを読み込み、内容を理解するとともに、質問や疑問のなにかしかを携えた来ことを望む。理解を進める上で、予習(一読)は大切。</p>						
自己学習	<p>予習2時間 次回に学修する箇所を読んでくること 復習2時間 個別に課題を出すので少しずつまとめること</p>						
オフィスワ-	木、金の4限目 昼休み(個人研究室10309)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1:授業オリエンテーション、特別活動の教育課程上の位置づけと役割 2:特別活動の目標、主な内容 3:学級活動の特質 4:児童会、クラブ、学校行事 5:特別活動の評価、連携 6:年間計画 学習指導案書き方 7:学習指導案作成(学級活動) 8:模擬授業と評価 9:模擬授業と評価 10:模擬授業と評価 11:総合 教育課程上の位置づけ 12:総合的な学習 目標、内容 13:年間計画、単元計画 14:年間計画、単元計画の作成 15:評価と留意点 添削課題及び定期試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義・演習 講義・演習 模擬授業AL 講義 講義 筆記試験	川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上				
教科書 1	新しい教職教育講座9 特別活動 著者:中村豊/原 清治 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-08192-9						
教科書 2	中学校学習指導要領解説 特別活動編 著者:文部科学省 出版社:東山書房 ISBN:978-4-8278-1562-7						
参考書 1	中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間 著者:文部科学省 出版社:東山書房 ISBN:978-4-8278-1561-0						
参考書 2							

授業科目名	教育の方法と技術			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	倉知 典弘、佐藤 匡					NO.	TC-FS-2-013
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ: 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業設計を考え、実践できるようになる</p> <p>到達目標</p> <p>1: 教育方法に関する基礎的理論及び実践を理解している</p> <p>2: 授業を構成する諸要素について理解している</p> <p>3: 子どもたちの学習の観点から授業デザインをする方法を理解している</p> <p>4: 主体的・対話的で深い学びとは何か、それが求められる背景を理解している</p> <p>5: 情報機器を活用した効果的な授業方法について理解している</p> <p>6: 情報活用能力(メディアリテラシー)について理解し、その育成の手法を考えることができる</p> <p>7: 上記を活用して学習指導案を作成することが出来る</p>						
概要	<p>本講義では、今後の学校教育に求められる主体的・対話的で深い学びを考え、そのための具体的な手法を学ぶ。講義の前半では、授業に関わる様々な要素について学習を行う。特に、アクティブラーニングを中心に取り上げ、その背景にある社会観・教育観や学習理解を検討する(第1回～第6回)。この段階で適宜著名な教育実践についても触れる。後半では主に情報機器を活用した教育手法について実践的に学ぶ。最初は現代の教育課題の一つでもあるメディア社会への教育的対応という観点からメディアリテラシーについて生徒・教員双方の視点から学習する(第7回～第8回)。その後、実際に情報機器を使った授業実践のあり方を学んでいく(第9回～第13回)。実際に情報機器を使った教材を作成するという作業も行う予定である。そして、最後に講義で学んだことを活かした学習指導案を作成する(第14回～第15回)。</p>						
評価方法	<p>講義の途中で課すレポート課題(各回講義のまとめ、情報機器を使った教材、指導案)40%</p> <p>講義の最後に課すレポート課題60%で評価する。</p>						
履修条件・注意事項	<p>教職課程の履修者のみ。各回、講義内容をまとめ、それに対して意見を述べるレポートの提出を義務付け、レポートの提出を持って出席に代えるものとする。</p>						
自己学習	<p>反転授業を実施するので、反転授業の課題は必ず学習しておくこと。</p>						
オフィスアワー	<p>常駐教員ではない回については毎回講義終了後に対応する。</p> <p>常駐教員については、</p> <p>岡山キャンパス131研究室: 春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目</p> <p>高梁キャンパス254研究室: 春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目</p> <p>予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<p>第1回: 授業をデザインすること—教育目標・内容から考える(倉知)</p> <p>第2回: 授業を構成する要素—人・もの・空間(倉知)</p> <p>第3回: 学習方法の基礎理論—アクティブラーニングの方向へ(倉知)</p> <p>第4回: アクティブラーニングの手法(竹井)</p> <p>第5回: 授業のための基礎技能—板書・話法など(竹井)</p> <p>第6回: 学習評価と授業改善(竹井)</p> <p>第7回: メディアリテラシーを高めるための教育手法(竹井)</p> <p>第8回: 情報機器の活用能力育成のための教育手法(佐藤)</p> <p>第9回: 授業におけるマルチメディアの利用の現状(佐藤)</p> <p>第10回: LMSの種類とコンテンツ規格、コンテンツの種類と活用の現状(佐藤)</p> <p>第11回: デジタル教材の活用の現状(佐藤)</p> <p>第12回: 学習ソフトの活用の現状(佐藤)</p> <p>第13回: 情報機器を活用した教材作成の手法(佐藤)</p> <p>第14回: 学習指導案作成の手法(倉知)</p> <p>第15回: 講義内容の総括—講義内容を活かした学習指導案の作成(倉知)</p> <p>レポート</p>	<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>AL</p>	<p>倉知</p> <p>倉知</p> <p>倉知</p> <p>竹井</p> <p>竹井</p> <p>竹井</p> <p>竹井</p> <p>佐藤</p> <p>佐藤</p> <p>佐藤</p> <p>佐藤</p> <p>佐藤</p> <p>佐藤</p> <p>倉知</p> <p>倉知</p>		
教科書 1	<p>新しい時代の教育方法</p> <p>著者: 田中耕治、鶴田清司、橋本美保、藤村宣之</p> <p>出版社: 有斐閣、2014</p>						
教科書 2							
参考書 1	<p>『中学校学習指導要領解説 総則』(最新版)</p> <p>著者: 『高等学校学習指導要領解説 総則』(最新版)</p>						
参考書 2	<p>その他、有用な文献などは講義の中で紹介する</p>						

ISBN:978-4-87730-274-0

参考書 2

中学校学習指導要領(平成29年告示)
高等学校学習指導要領(平成30年告示)
著者:文部科学省
出版社:東山書房

授業科目名	介護等体験の研究				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	森井 康幸					NO.	TC-FS-1-020	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	
テーマと到達目標	介護等体験の意義・目的の理解がテーマであり、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることが到達目標である。							
概要	次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。様々な特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義していただく。							
評価方法	受講態度(40%)と毎回課されるレポート(60%)により評価する。							
履修条件・注意事項	介護等体験を行うことが義務づけられている小学校・中学校の教員免許状取得希望者には必修科目である。教員志望者に対する講義ということで、出席状況、受講態度等にはシビアである。講義予定回数は8回であり、実施日程にはくれぐれも注意すること。							
自己学習	予習:テキストの該当箇所を精読。授業で該当する施設について、図書館等で調べておくこと。(2時間) 復習・課題:外部講師の方のお話を整理してレポートにまとめること。(2時間) 日頃から、自分の教師適正について考えておくように。							
オフィスワ-	講義終了後、教室にて。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			1. 介護等体験の意義・目的(第1部1～3章) 2. 介護等体験の実際(第2部2章, 3章) 3. 高齢者福祉施設の概要と介護等体験(外部) 4. 児童福祉施設の概要と介護等体験(外部) 5. 知的障害者福祉施設と介護等体験(外部) 6. 特別支援学校(養護学校)の概要と介護等体験(外部) 7. 特別支援学校(盲学校)の概要と介護等体験(外部) 8. まとめ・今後の予定(第1部4章)				講義	森井
						講義	森井	
						講義	外部講師	
						講義	外部講師	
						講義	外部講師	
						講義	外部講師	
						講義	外部講師	
						講義	森井	
教科書 1	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版 著者: 現代教師養成研究会(編) 出版社: 大修館書店 ISBN: 4469268763							
教科書 2								
参考書 1	特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フィリア 著者: 全国特別支援学校長会 編 出版社: ジアース教育新社 ISBN: 978-4-86371-522-6							
参考書 2								

Syllabus

外国語学部

外国学科

2018 年度入学生

吉備国際大学

授業科目名	地域学概論			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	GE-KE-1-002
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ:岡山地域の歴史・文化・福祉社会・経済動向</p> <p>現代の社会経済の流れと平行した地域を媒介とした人びとの生活は、人びととの関係が希薄化してきたことに象徴されるように、生き方の基盤ともなるべき文化創造と密接不可分である。山川草木としての自然との接触からの乖離、あるいは地域の資源を活かした仕事づくりからの後退、そして地域を媒介にした近隣でなされていた助け合いや援助の衰退など、これらを再創造する必要性が現在では大きくなっている。そこで、本講義では、それぞれ地域での生活を成り立たせようと企画・計画し、現地でそれを生かそうと活躍する方々を講師を招き話をしてもらうことで、学生が地域社会の現状を把握できるようになることを目的としている。もちろん、これは講師の話に対する、聴く力、疑問をもつ力、尋ねる力、そして自分で調べる力、さらにはそれらを文章にまとめてレポートする力を身に付けることでもある。</p>						
概要	<p>岡山地域と一口にいても、文化問題から社会経済問題、もっと具体化して言えば、歴史や伝統、文化芸術やそれらの資源、あるいは福祉や健康などまでがある。そこで、ここでは直接に現場に足を運ぼう。そして、諸君らはそれを見ながら専門家の説明を聞こう。あるいは岡山市役所では、今市民のためにどんなことを計画したり市民サービスをやっているだろうか。地域をどう動かしているのか、それを施策する行政の立場から諸君らに考えてもらいたいことを訴えてもらおうと思う。もちろん、諸君らにも考えたことを報告してもらおう。</p> <p>* 実務経験のある教員による授業科目:この科目は、研究所、博物館、美術館など、それぞれ専門研究に従事する外部講師のところへ出掛けて、現成や課題、それを解決するために必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。</p>						
評価方法	<p>講義において問題に答え感想や意見、提言を書く日常的な参加態度が重要となるので50点。持ち帰りレポート(小論文)に30点、期末の単位認定試験に20点の配点で、これらを総合して評価する。単位認定試験は、原則として講義の最終日に実施するが、各時間の感想や意見、提言および「持ち帰りレポート」(400字×5枚以上)の小論文を提出しなければ、単位を認定しないことがあるので要注意のこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>講義に関する感想や意見、提言などをまとめて提出してもらおう。持ち帰りレポートを単位認定試験と一緒に提出することを条件とするので、講義に関する書籍等も読みまとめておくこと。また、学外に出掛けたり講師を招いたりして話をしてもらうので、先生に対する対応(挨拶、私語の禁止、感謝の言葉など)がよくできること。また、美術館、博物館、あるいは史跡などに出掛けるので参加が必要だが、交通費や拝観料などは実費負担となる。</p>						
自己学習	<p>毎回の講義で配布したプリント資料をよく読んで整理しておき、仲間と討論できるように予習と復習をしておくこと。また、新聞やテレビのニュースが話を聞くのに欠かせないので、それを読んだり聞いたりしてノートに整理しまとめておくこと。</p>						
オフィスワ-	<p>* 実務経験のある教員による授業科目:この科目は、経済経営に関する経営実務のある外部講師を招き、現成や課題、それを解決するために必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。</p>						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.せとうちの風土が生んだ芸術家 3.せとうちの自然環境と古代生物 4.なぜカブトガニが笠岡湾中心か 5.岡山県の問題発見 6.岡山県の医療福祉 7.岡山地域の問題解決 8.後楽園のある岡山 9.後楽園と借景文化 10.池田家の家宝と備前文化 11.学芸員は岡山をどう企画する 12.岡山市の男女共同参画 13.岡山市の最新の雇用事情 14.高梁の武家屋敷を歩く 15.寺院の文化と坐禅の体験 16.期末単位認定試験 			講義 学外 学外 学外 講義 講義 講義 学外 学外 学外 学外 講義 講義 学外 学外 レポート試験	高橋 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 高橋
教科書 1	必要に応じて随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	キャリア開発Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高木 秀明					NO.	GE-CG-3-002	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:自分に適している職業または進路を発見し、分析し、そして具体的に選択できるようになる。 到達目標:自分に適している職業または進路が選択できる。進路決定までの活動やその後の社会人活動において身につけるべき社会人基礎力が備わっていること。</p>							
概要	<p>就職や進学あるいはその後の社会人としての基礎力を身につけ、自分のキャリア形成をはかり、場合に応じて実践力を発揮できるようになる内容である。授業は外部講師によって構成されているが、社会で求められる人材とは何かを理解できるようになっている。グループワークなども取り入れられているが、受け身ではなく、自ら問いを立て、考えて実行する姿勢をもつことも最終目標とする。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、企業の活動について実務経験のある外部講師を招き、企業活動における現状や課題、必要とされる知識や能力について、実践的な観点から講義し、学生の理解を深める。</p>							
評価方法	授業中に求める課題(30%)、レポート試験(70%)で評価をおこなう。							
履修条件・注意事項	<p>授業の配布物は、自分の就職活動などでも必要となるので、ファイルを作成して綴じることと、受講者一人ひとりが、卒業後の進路という共有しがたい情報を各回で得ることになるので、自分でノートをつくること。各回で今までの回を振り返ることもあるので、1冊の専用ノートを用意することが望ましい。自己分析、業界分析を自ら行っておくこと。</p>							
自己学習	<p>予習として吉備国際大学が制作したキャリアハンドブック内の各回に対応する項目ところ熟読し、不明な点は調べておくこと。授業で配布した資料をもとに毎回必ず復習すること。近い将来、それらをもとに自分自身で単独で行動することになる。</p>							
オフィスワ-	金曜日2時限目1号棟1階114研究室にて実施。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. オリエンテーション	演習	高木			
			2. 業界・職種研究・就活とは	演習	高木・外部講師			
			3. 自己分析・自己PR	演習	高木・外部講師			
			4. エントリーシート攻略テスト	演習	高木・外部講師			
			5. 日常会話のスキルアップ	演習	高木・外部講師			
			6. 企業の社会的責任	演習	高木・外部講師			
			7. ビジネスに必要なマナー	演習	高木・外部講師			
			8. 一般常識の傾向と情報収集	演習	高木・外部講師			
			9. 履歴書の書き方	演習	高木・外部講師			
			10. エントリーシート攻略フォロー	演習	高木・外部講師			
			11. SPI対策(筆記試験対策)	演習	高木・外部講師			
			12. マナー講座(身だしなみ)	演習	高木・外部講師			
			13. 面接対策 グループディスカッション	演習	高木・外部講師			
			14. 面接対策・集団・個人	演習	高木・外部講師			
			15. まとめとふりかえり	演習	高木・外部講師			
			16. レポート試験	レポート試験	高木			
教科書 1	毎回、資料を配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	文章表現入門				履修期	2020年度 秋学期				
担当者	大下 朋子					NO.	GE-CH-1-001			
配当学科	外国				年次	1				
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義			
テーマと到達目標	大学生や社会人に求められる日本語表現力について学び、その文章表現を身に付けることができる。レポートの書き方、就職試験向けの作文・小論文の書き方の基礎を身に付けることを目指す。とりわけ文と文、あるいは語彙と語彙との接続的な文章表現、起承転結といった文章の構成などを理解し、実際に文章を書く訓練を行う。									
概要	日本語の文章表現の基礎を身につけるだけでなく、文章の組み立て方、推敲の仕方などについて学習する。レポートや就職試験向け作文の書き方などについて学ぶ。文の構成、語と語の対応、文と文の関わりなどを意識して、論理的に文章を書く訓練を行う。また、学生は書籍、新聞、雑誌などを素材に、ブレインストーミングを行い、主題を設定し、自分でも文章化してみる。人に意見や趣旨が明確に伝わる文章表現、論理的な文章の書き方などを修得する。									
評価方法	講義への出席を含めて話の聞き方、意見の出し方などを平常点として20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験が50点、そして単位認定試験を30点として、これらを総合した100点満点で評価する。									
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験(400字×5枚以上)の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。									
自己学習	毎週の講義内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。									
オフィスワ-	木曜日2限目(1号館121研究室)									
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者		
				<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 大学生・職業人にはどういふ日本語表現能力が求められるか 3. 明文を書くためのスキルを磨こう 4. 正確な文、明快な文を書くためには 5. 簡潔な文を書くためには 6. パラグラフ・ライティングの基本 7. パラグラフ・ライティングの練習 8. パラグラフ・ライティングからレポート作成へ 9. 観察しよう―その構成と書き方① 10. 観察しよう―その構成と書き方② 11. 準備しよう―意見と根拠① 12. 準備しよう―意見と根拠② 13. 小論文作成・総合演習① 14. 小論文作成・総合演習② 15. 手紙の書き方 16. 単位認定試験 			講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 筆記試験・レポート試験	大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)		
教科書 1	文章力・論理力を高める日本語トレーニング 著者:松谷 英明 出版社:学事出版 ISBN:978-4761919481									
教科書 2										
参考書 1										
参考書 2										

授業科目名	民法				履修期	2020年度 秋学期			
担当者	入江 祥子					NO.	GE-SI-1-002		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	民法を具体的事例をまじえ概括的に講義する。社会生活において陥りがちな法的トラブルを認知し、未然に回避するもしくは自ら解決するためのスキルを身につけることを達成目標とする。								
概要	民法全体のアウトラインを事例、判例をまじえ講義する。私法全体に共通する基本原理を中心に解説する。 *実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。								
評価方法	毎回授業後に実施する理解度チェック小テストの結果:40% 最終評価試験結果:60% により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。								
履修条件・注意事項	授業の進行上、授業計画より前後する可能性があります。 出欠数及び配布物の管理は各自で行ってください。 公欠は学校所定の手続きを行ったうえで、申し出てください。								
自己学習	予習としては、教科書の該当箇所を必ず一読しておくこと。 復習は、習得した知識の定着につとめ、時事問題についても考察できるよう発展させること。								
オフィスアワー	質問等は講義時間前後に講義室にて受けます。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
					第1回:民法とは何か 第2回:民法の基本原則 第3回:民法における権利と義務 第4回:法律行為とは何か 第5回:代理制度 第6回:時効制度 第7回:契約 第8回:所有権・その他物権 第9回:民法における不法行為 第10回:事務管理・不当利得 第11回:弁済・債務不履行 第12回:家族法 第13回:親子関係にかかわる制度 第14回:相続制度 第15回:法人制度 第16回:最終評価試験			講義	入江
教科書 1	『民事法入門』(第6版) 著者:野村豊弘[著] 出版社:有斐閣 ISBN:978-4-641-22029-4								
教科書 2									
参考書 1	六法								
参考書 2									

授業科目名	経済学			履修期	2020年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	GE-SI-0-003
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	[テーマ: お金とゲームと世界経済]「株が高い低い」とか「円が安くなった」とか、あるいは「石油の値段が高止まり」とか、なぜそんなニュースがほぼ毎日流されるのだろうか。たとえばトランプ大統領が中国製品に高額な関税を課したって！それはいったいなぜだろうか。もちろん、それは米国人の会社やそこで働く人びとに仕事を与えたいからだ。もし「円が安い」となれば日本の会社は海外の国へ商品を売りやすい。海外の会社は日本へ商品がなかなか売り難い。われわれが海外から輸入される商品が高くなってあまり買わなくなるからだ。こんな出来事で、われわれの生活が世界の経済の動きと一緒に成り立っているのだ。お金から経済を見ると世界の動きも理解できる。お金はゲームと同じだからだ。そこで、ここでは経済の世界での動きをマネーゲームとして理解することを到達目標とする。						
概要	「安ければ買う、高ければ売る」というのが経済の基本だ。利益が出て儲かるからだ。だから、われわれが生活しているこの世界では、マネーであるお金が活躍しているマネーゲームの登場である。お金がモノの取引と同じように扱われるようになった。売るか買うかは冒険でギャンブルで、儲かるかどうかは運次第のカジノである。「カジノ資本主義」と世界経済をギャンブル場に例えた人までがいる。これを知らないと世界経済の動きだけでなく、われわれ自身の生活が明日どうなるのかまでわからないことになる。そこで、ここではお金とゲーム、そしてそれで動く世界経済を取り上げて、難しい用語は解説しながら、諸君と一緒にわれわれの世界を経済的に考えよう。						
評価方法	講義において問題に答え感想を書く日常的な参加態度に10点、課題テーマとして「持ち帰り試験」(小論文)に60点、期末の単位認定試験に30点の配点で、これらを総合して評価する。単位認定試験は、原則として講義の最終日に実施するが、「持ち帰り試験」(400字×10枚以上)の小論文を提出しなければ、単位を認定しないことがあるので要注意のこと。						
履修条件・注意事項	講義に関する意見や感想などをまとめて提出してもらう。持ち帰り試験を単位認定試験と一緒に提出することを条件とするので、講義に関する書籍等も読みまとめておくこと。また、外部から招聘講師に、毎月一度来て話してもらうので、先生に対する対応(挨拶、私語の禁止、感謝の言葉など)がよくできること。評価のために課した小テスト等はフードバックするので、試験までに復習すること。						
自己学習	講義で配布したプリント資料をよく読んで整理しておき、仲間と討論できるようにしておくこと。また、新聞やテレビのニュースが話を聞くのに欠かせないので、それを読んだり聞いたりしてノートに整理しまとめておくこと。予習と復習も欠かせない。						
オフィス	1号棟2階の124研究室にて、毎週木曜日昼+3限目。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
(1)オリエンテーション (2)お金はゲーム (3)カジノと金融 (4)どこへ行く世界経済 (5)ゲームの始まり (6)マネーゲームの夜明け (7)お金が世界的に溢れる (8)お金の取引と為替相場 (9)お金のリスクとそのヘッジ (10)企業活動の国際化 (11)金利とその変動 (12)金利と中央銀行 (13)資源はマネー (14)市場と国家 (15)単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋					
教科書 1	必要に応じて随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	生き方			履修期	2020年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-3-001	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	「先達に学ぶ、人生のより良い『生き方』」をテーマとし、これまで日本を創ってきた人々、豊かで平和な社会を築いてきた人々の＜生＞の声を聞き、学生一人ひとりが、この国や社会のためにできることは何か、また自らが幸福な人生を送るために何をすればよいのか…等、それぞれが自分のあるべき将来について考える。そうすることで、今の自分を見つめ直すことができるようになる。また、自分の＜志＞を確認できるようになる。						
概要	国際社会に雄飛して、自分と自国について誇りをもって語れるような生き方、そして自分だけが幸せになるのではなく、周りにいる人々を幸せにするような生き方とは一体どういうものなのか。各分野の専門家から、どう生きるべきかを講義する。倫理学、哲学、物理学、科学思想、あらゆる学問の根底にある人生の問題が、この講義で語られるだろう。各講師は、若い頃、どのような＜志＞を抱き、夢にチャレンジし、失敗を繰り返し、目標に向かって歩んできたかを、具体的な体験を交えて語っていく。それらは、グローバル化時代の地域社会を担う次世代に向けての、貴重なメッセージとなるだろう。 実務経験教員： 本科目の教員は、すべて外部の経験豊富な講師を招聘する。ビジネス、文化芸術、保健医療などの分野における実務専門家である。						
評価方法	「自分を見つめ直すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生の＜気づき＞を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「自分の＜志＞を確認できるようになる」の到達度について、知識および認識力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験(30%)、授業への積極的な参加態度(20%)、単位認定試験(50%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	生きることの意味を問うことに興味を持っていること。						
自己学習	予習として、授業計画に記載されている各講師について、以下のことを下調べしなくてはならない。①略歴について、②専門分野について、③著作について、④講師が大切にしてきたこと、である。復習は、講師が書いた記事や著作、推薦した書物を読んでみることである。復習の成果は最終週の単位認定試験で問われる。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室において、毎週金曜日3限、4限をオフィスアワーとします。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回目の授業において、各回の講義テーマと講師名を含む授業計画を配布予定		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	加計美也子 大原謙一郎 室瀬和美 幸野源 黒住宗晴 伊勢佐木淳 伊藤謙介 栗栖基 原田正道 江原啓之 大藤剛宏 桑原裕 張嘉樹 難波健 松田正巳				
教科書 1	予習復習の課題とは別に参考文献として適宜指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	日本の歴史				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	國方 久史					NO.	FS-FS-2-004	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	我々は、高度に発達しつつ、なおも不安定な現代社会に生きている。この混沌として不確実な社会の中で生活していくには、一定の指針を持たなければならない。茫洋たる大海に船を発進させるとき、高性能で堅牢な羅針盤が必要となる。そこで、歴史を正しく、しかも貪欲に学習してほしい。吸収した知識を有効に活用していけば、羅針盤は自ずと手に入るであろう。歴史はそれ自体そっくり繰り返しはしない。しかし、過去を真剣に吟味することによって、私たちは啓発的な遺産や教訓に目を開かされることになる。							
概要	日本の歴史を先史・古代から現代までを、いくつかのテーマを選んで講義する。それにより、日本の歴史の大きな流れを把握することが可能となるように配列したつもりである。大いなる好奇心と豊かな想像力をもって授業に取り組むならば、上に述べた羅針盤を手に入れることができるであろう。それにより、物事を自ら考え判断できる自立した主体となることが可能となるであろう。							
評価方法	この科目では、知識の修得程度を確認するための試験(50%)、自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポート(50%)で評価する。評価のために実施した課題は、授業中にフィードバックするので、単位認定試験までに必ず見直しを行うこと。							
履修条件・注意事項	授業の三分の一以上を欠席した者は、単位認定試験を受験できないので注意すること。『日本の歴史ノート』を準備するので毎時間持参し、整理すること。							
自己学習	課題の作成には教科書の予習・復習(各30時間)が必要である。							
オフィスアワー	火曜日の昼休み。事務室。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			1、旧石器時代～農耕社会の成立 2、古墳とヤマト政権 3、改革の時代 4、律令国家の展開 5、摂関政治と院政 6、鎌倉幕府の成立と衰退 7、室町幕府の成立～戦国時代へ 8、幕藩体制の確立 9、幕藩体制の展開 10、幕藩体制の動揺 11、近代国家の成立 12、近代日本とアジア 13、近代日本と世界 14、占領下の日本～高度成長の時代へ 15、激動する世界と日本 16、単位認定試験				講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 筆記試験	國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方 國方
教科書 1	使用しない							
教科書 2								
参考書 1	詳説日本史B 著者:石井・五味他 出版社:山川出版社 ISBN:4-634-70240-0							
参考書 2								

授業科目名	日本論—ジャパノロジー			履修期	2020年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-3-007	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	「日本」を対象として論じようとするとき、客観的に観察する態度は不可欠である。受講者が日本という対象を論じるべく、客観的に日本を観察する態度を身に付けることにある。授業では内外の他者の日本論を概観するが、受講者に特定の事象を提示して考察してもらうこともある。学生自身の日本観を持ち、日本論を展開できる能力を身につけることを到達目標とする。						
概要	<p>「日本」を対象として論じようとするとき、客観的に観察する態度は不可欠である。アウトサイド・イン、インサイド・アウトといった立ち位置のことである。当授業の目的は受講者が日本という対象を論じるべく、かかる態度を身に着けることにある。授業では内外の他者の日本論を概観するが、受講者に特定の事象を提示して考察してもらうこともある。自身の日本観を持ち日本論を展開してもらいたい。</p> <p>実務経験教員：本科目の担当教員全員は、ビジネス、海外留学、海外勤務、研修生・留学生の受入れなどを通じて、日本とは何か？を日本人以外の人たちに説明並びに質問に対する回答をおこなうことを実務経験してきた者である。</p>						
評価方法	授業ごとの小レポート(30点)、最終レポート(40点)、発表など授業参加度(30点)						
履修条件・注意事項	積極的な授業参加を期待する。受け身の授業態度は避ける。						
自己学習	教員が紹介する日本論、日本人論などの論文、著作を読み込むこと。特定の分野で、日本とは何か？インド人にとっての日本とは？日本のよいところ、悪いところなどのテーマで、小論を書き自分の考えをまとめる。外国のニュース(BBCなど)などで、日本はどのように見られているのか、確認する。 授業前に1時間の予習、授業後に1時間の復習を必要とする。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて、金曜日5限目をオフィスアワーとします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回授業の際、講義計画を配布する。 1. オリエンテーション、日本とは？日本人とは？ 2. 近代日本史の視点(1) 3. 近代日本史の視点(2) 4. 近代日本史の視点(3) 5. 近代日本史の視点(4) 6. 近代日本史の視点(5) 7. アイルランド人の視点 8. 佐賀に住んで感じたこと 9. 京都に住んで感じたこと 10. 岡山に住んで感じたこと 11. 日本論(1) 12. 日本論(2) 13. 日本論(3) 14. 日本論(4) 15. 再考：日本とは？日本人とは？	講義・AL 講義 講義 講義 講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL レポート試験	畝・フォーセット 飛島 飛島 飛島 飛島 飛島 フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット 畝 畝 畝 畝 畝					
教科書 1	必要資料は配布する						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	英語学IV			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	ジョン・フォーセット					NO.	FS-FS-2-104
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	日本語と英語の文法もしくは言語的特徴を比較し、それぞれの言語がどのように異なるかを考察する。英語を第2言語として使用する日本および日英語圏の人にとって、何が理解しやすく、また逆に難しいかについて学習する。						
概要	毎回の授業において、英語の言語特徴を調べる(例えば単数形、複数形など)。その特徴は英語学習者の英語学習にどのような影響があるのかを考える。						
評価方法	定期試験の成績(40%)、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢(60%)						
履修条件・注意事項	学生達が自分で言語的な特徴を調べるからインターネットを使いながら積極的にメモをとるの必要がある。						
自己学習	学生がほとんどの授業に前の授業の課題のしらべの結果を發表しますので、学生が書いたメモの整理とまとめることが大事。						
オフィスアワー	1700~1800~ generally evenings are best, except for Friday when I sometimes go home earlier.						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
				授業計画 第1回:本の英語 第2回:米英語対英語? 第3回:五十音対アルファベット 第4回:単数形と複数形 第5回:「You」は日本語で? 第6回:感情をどう示すか 第7回:アクセント・ピッチ 第8回:中国の英語 第9回:呼吸とリズム 第10回:インドの英語 第11回:転音とシュワ 第12回:ヨーロッパのまちまちな英語 第13回:冠詞 第14回:時制 第15回:プレゼン「私と英語」 定期試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット
教科書 1	授業中に適宜資料を配付する						
教科書 2							
参考書 1	WORDS on the MOVE 著者:John McWhorter 出版社:PICADOR ISBN:978-1-250-14378-5						
参考書 2							

授業科目名	英語リーディング I				履修期	2020年度 春学期			
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-1-201		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	This course will focus on reading comprehension with critical thinking and vocabulary practice. Through various exercises, we will try to develop reading skills and overall language ability. The aim is for students to understand the main idea and details of a text, summarize it in their own words, answer questions, and give their opinion on the topic.								
概要	Classes will have in-class reading, questions and answers, and topic discussions of homework. We will learn by studying topics and situations. Students can share their own opinions on many issues.								
評価方法	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam								
履修条件・注意事項	Students should prepare for each class by doing the homework assignments, checking vocabulary, and background information. Vocabulary will be a big part of understanding text, so it is suggested that students study the vocabulary words from each unit, as well as any unknown words in the text.								
自己学習	Students should look through the unit to become familiar with the content, and get an idea what types of topics and vocabulary words will be used. Doing digital book exercises are encouraged because students can check their answers and work at their own pace. Finding books at an appropriate level to read for pleasure is highly encouraged.								
オフィスアワー	Wednesday: 9:00 am – 11:00 am, or by appointment.								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1) Course introduction			Lecture	GARCIA					
2) Facts and opinions			Lecture	GARCIA					
3) Main idea			Lecture	GARCIA					
4) Identifying reference words			Lecture	GARCIA					
5) Identifying the topic			Lecture	GARCIA					
6) Inferring meaning			Lecture	GARCIA					
7) Identifying time order			Lecture	GARCIA					
8) Guessing meaning from content			Lecture	GARCIA					
9) Collocations			Lecture	GARCIA					
10) Recognizing parts of speech			Lecture	GARCIA					
11) Suffixes			Lecture	GARCIA					
12) Prefixes			Lecture	GARCIA					
13) Identifying cause & effect			Lecture	GARCIA					
14) Synonyms			Lecture	GARCIA					
15) Content/semester review			Lecture	GARCIA					
16) Final Exam			Lecture	GARCIA					
教科書 1	Reading Keys 1 著者:Miles Craven 出版社:Macmillan								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	英語リーディングⅡ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-1-202
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>Theme: Helping students to further develop their Reading Comprehension skills (and thus vocabulary, pronunciation and syntactic / grammar) knowledge-awareness.</p> <p>Main Aims / Objectives: The aim of this course is to further develop student ability to accurately and otherwise efficiently understand and 'digest' a diverse range of texts (of appropriate length and complexity) within comparatively short(er) periods of time. By the end of this course, students should therefore be better able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ascertain and understand the information contained within (mostly teacher assigned) study texts; 2) ascertain and understand the gist, 'messages' and thus likely main intended 'purpose(s)' of (mostly teacher assigned) study texts; 3) comprehensively summarize (verbally and in writing) study text content; 4) comprehensively describe and explain (verbally and in writing) study text content; 5) express their own opinions regarding study text content; 						
概要	<p>Students will be expected, encouraged and helped to read, analyze, explain and provide personnel, opinion-based critical assessments of assigned study texts verbally and in writing. Students will thus be given ample weekly opportunities to talk, discuss and write about assigned study text content and relevant related topics.</p> <p>Students will be given – on a weekly basis – ample opportunity to practice and thereby improve not only their vocabulary / word recognition, pronunciation and syntactic / grammar knowledge-awareness but also their Oral Communication (OC) and Writing communication skills, as they attempt to determine the gist and / or full meaning and intent of assigned study texts.</p> <p>Students will be expected, encouraged and helped to engage wholeheartedly, enthusiastically and intellectually with assigned reading materials and to be eager to describe and comment on them in appropriate detail and for an appropriate length of time. In other words, students will be expected, encouraged and helped to say and / or write 'enough' words and sentences in the time available (and thus to avoid being too slow, hesitant, unforthcoming or reticent).</p> <p>Student comprehension performance will be constantly assessed via appraisal of oral / verbal and written reports and verbal and written answers to the teacher's verbal and written questioning.</p> <p>For verbal reporting, pronunciation, intonation, audibility, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.</p> <p>For written reporting, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.</p>						
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p>						
履修条件・注意事項	<p>Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.</p> <p>Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus:</p> <ol style="list-style-type: none"> 01) be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand – and successfully master – all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with – and listen to – their teacher and classmates, in English; 05) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, often at some length; 06) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 07) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 08) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 09) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 10) strive to complete all classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well AND to finish and submit them 'on time', before specified deadlines; 11) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 12) communicate with – and request help from – their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 13) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 14) tell the teacher immediately if they think that any lesson-related activity is / was too easy or difficult; 15) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times; 						
自己学習	1)						

Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor.

2)

Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face.

3)

Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments.

In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should:

- a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently;
- b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible';
- c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible;
- d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible;
- e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible;
- f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is;
- g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;

The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of-term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.

オフィスワ-	<p>In Ian Warner's office - Room 133</p> <p>Mondays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Tuesdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Wednesdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Thursdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Fridays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5</p> <p>* = Unless at staff meetings</p> <p>Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.</p>
---------------	---

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			Week 01 = U-01 (Main Text, etc) Week 02 = U-02 (Main Text, etc) Week 03 = U-03 (Main Text, etc) Week 04 = U-04 (Main Text, etc) Week 05 = U-05 (Main Text, etc) Week 06 = U-06 (Main Text, etc) Week 07 = U-07 (Main Text, etc) Week 08 = U-08 (Main Text, etc) Week 09 = U-09 (Main Text, etc) Week 10 = U-10 (Main Text, etc) Week 11 = U-11 (Main Text, etc) Week 12 = U-12 (Main Text, etc) Week 13 = U-13 (Main Text, etc) Week 14 = U-14 (Main Text, etc) Week 15 = U-15 (Main Text, etc) Week 16 = Final Exam.	Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Final Exam.	Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner
教科書 1	Reading Pass - Intro (2013) 著者: Andrew E. Bennett 出版社: Nan'un-Do Co., Ltd. ISBN: ISBN-10: 4523177201 ISBN-13: 978-4-523-17720-3				
教科書 2	Suitably challenging English language texts (including news reports and journalistic articles) sourced from books and major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will also be utilized on a weekly basis.				
参考書 1	Reader's Forum: Preface Simply English An Introduction to Today's Key Concepts (2017) 著者: Jim Knudsen 出版社: Nan'un-Do Co., Ltd. ISBN: ISBN9784523178293				
参考書 2					

授業科目名	英語オーラルコミュニケーション演習 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-3-211
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate.</p> <p>Target: This course is intended to improve student English speaking ability. Students who enroll on this course will therefore receive progressively more advanced – and demanding / challenging – briefs, instruction.</p> <p>At the end of the course, students should be:</p> <p>a) better able to more communicate effectively in all 'real-life' situations and; b) have more confidence regarding communicating effectively in all 'real-life' situations; c) better prepared to enroll on the similar but more advanced English Oral Communication Exercise II course.</p>						
概要	<p>English Oral Communication Exercises I will give students more time to practice Oral Communication. It will therefore compliment the main English Oral Communication courses.</p> <p>Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent oral communication competency.</p>						
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or monologue) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p> <p>Students should try to speak as much as possible, constantly think about 'what more' than can say / add, and give due consideration to pronunciation, vocabulary and syntax / sentence structure.</p>						
履修条件・注意事項	<p>Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.</p> <p>Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus:</p> <p>01) be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand – and successfully master – all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with – and listen to – their teacher and classmates, in English; 05) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, often at some length; 06) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 07) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 08) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 09) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 10) strive to complete all classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well AND to finish and submit them 'on time', before specified deadlines; 11) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 12) communicate with – and request help from – their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 13) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 14) tell the teacher immediately if they think that any lesson-related activity is / was too easy or difficult; 15) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times;</p>						
自己学習	<p>1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor.</p> <p>2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face.</p> <p>3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments.</p> <p>In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently;</p>						

b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible';
 c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible;
 d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible;
 e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible;
 f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is;
 g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;

The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.

オフィスワ-	<p>In Ian Warner's office - Room 133</p> <p>Mondays - 3, 4, 5, 6, 7 Tuesdays - 4, 5, 6, 7 Wednesdays - N/A Thursdays - 3, 4, 5, 6, 7 Fridays - Periods 4, 5, 6, 7</p> <p>* = Unless at staff meetings</p> <p>Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.</p>
--------	---

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
Week 01 = Various Topics Week 02 = Various Topics Week 03 = Various Topics Week 04 = Various Topics Week 05 = Various Topics Week 06 = Various Topics Week 07 = Various Topics Week 08 = Various Topics Week 09 = Various Topics Week 10 = Various Topics Week 11 = Various Topics Week 12 = Various Topics Week 13 = Various Topics Week 14 = Various Topics Week 15 = Final Exam.	Lecture 01 Lecture 02 Lecture 03 Lecture 04 Lecture 05 Lecture 06 Lecture 07 Lecture 08 Lecture 09 Lecture 10 Lecture 11 Lecture 12 Lecture 13 Lecture 14 Final Exam.	Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner			

教科書 1	<p>Various Oral Communication textbooks, other textbooks and printed matter, photographs and visual materials (provided by the teacher), as and when needed during each lesson.</p> <p>[Students should often select speaking topics of their own choosing.]</p>
教科書 2	
参考書 1	
参考書 2	

授業科目名	英語オーラルコミュニケーション演習Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-3-212
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate.</p> <p>Target: This course is intended to improve student English speaking ability. Students who enroll on this course will therefore receive progressively more advanced – and demanding / challenging – briefs, instruction.</p> <p>At the end of this course, students should:</p> <p>a) better able – and more willing – to communicate effectively in all 'real-life' situations; b) have more confidence regarding communicating effectively in all 'real-life' situations;</p> <p>This 'English Oral Communication Exercise II' course is intended primarily for students who have already completed the 'English Oral Communication Exercise I' course. Students who enroll on this 'English Oral Communication Exercise II' course will therefore receive more advanced and demanding / challenging briefs, instruction and advice compared to that given at the end of 'English Oral Communication Exercise I' course.</p>						
概要	<p>English Oral Communication Exercises II will give students more time to practice Oral Communication. It will therefore compliment the main English Oral Communication courses.</p> <p>Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to broaden and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and improve their existing key skills; ii) learn numerous new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand and participate in authentic, real-life, everyday English language conversation anywhere in the world. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining shortcomings.</p>						
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or monologue) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p> <p>Students should try to speak as much as possible, constantly think about 'what more' than can say / add, and give due consideration to pronunciation, vocabulary and syntax / sentence structure.</p>						
履修条件・注意事項	<p>Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.</p> <p>Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus:</p> <p>01) be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand – and successfully master – all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with – and listen to – their teacher and classmates, in English; 05) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, often at some length; 06) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 07) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 08) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 09) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 10) strive to complete all classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well AND to finish and submit them 'on time', before specified deadlines; 11) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 12) communicate with – and request help from – their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 13) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 14) tell the teacher immediately if they think that any lesson-related activity is / was too easy or difficult; 15) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times;</p>						
自己学習	<p>In addition to completing all homework assignments, students SHOULD:</p> <p>a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) Listen to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;</p>						

The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand – and 'master' – all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.

オフィスワ-	<p>In Ian Warner's office – Room 133</p> <p>Mondays* – Periods 6 Tuesdays* – Period 5 Wednesdays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Thursdays* – Period 5 Fridays* – Period 6</p> <p>* = Unless at staff meetings</p> <p>Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings – and meetings after 6:20pm – are also possible.</p>
--------	--

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
			Week 01 = Various Topics Week 02 = Various Topics Week 03 = Various Topics Week 04 = Various Topics Week 05 = Various Topics Week 06 = Various Topics Week 07 = Various Topics Week 08 = Various Topics Week 09 = Various Topics Week 10 = Various Topics Week 11 = Various Topics Week 12 = Various Topics Week 13 = Various Topics Week 14 = Various Topics Week 15 = Various Topics Week 16 = Final Exam.	Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Final Exam.	Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner
教科書 1	Various Oral Communication textbooks, other textbooks and materials (provided by the teacher), as and when needed. [Students should often select speaking topics of their own choosing.]				
教科書 2					
参考書 1					
参考書 2					

授業科目名	英語演習IV			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	ジョン・フォーセット					NO.	FS-FS-2-218
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	To work together to learn words that help us tell people about Japan, its culture, and its people. To go beyond 'delicious' and 'beautiful' and 'hot'. Above all to develop our ability to listen to and understand opinions expressed about Japan.						
概要	We will research different things about Japan and other countries. Listen to people speaking about the country and evaluate their opinions. We will learn words to talk about and respond to them. Also we will learn how to give people our original opinion.						
評価方法	Class 60%: participation 20%, effort 20%, product 20% Exam 40%						
履修条件・注意事項	There will be regular vocabulary and listening quizzes so be careful to practice daily. Sometimes there will be presentations again outside practice is necessary.						
自己学習	Decide what you want to say and practice saying it. Exact vocabulary is vital; make your own study sets and system. Check with the teacher if your selection is good or not.						
オフィスアワー	1700-1800 except Fridays						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1 Weather 2 Land 4 Wildlife 5 Jungle? 6 Fruits and flowers 7 People 8 Houses 9 Work 10 City life 11 Country life 12 Anime and cartoons 13 Religion 14 Food 15 In the world			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット
教科書 1	We will research and create our own materials.						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	アクティブ英語Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-2-302	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	<p>テーマ:様々な場面・状況に応じて、英語でコミュニケーションをとる 到達目標:日本または海外におけるいろいろな状況の中で、その場面に相応しい英語表現を使うことができる。また、国によって異なる英語の発音やリズムに慣れ、理解し、対応することができる。英語運用能力CEFR B1レベル以上を目標とする。</p>							
概要	<p>授業では、CD・DVDを活用し、様々な国籍・業種に携わる人々のインタビューをとおして、実社会で使用されている英語を聴きとり、理解する。また、役に立つ英語表現を使い、ペア・ワークやグループ・ワークにてスピーキングの練習をする。あらゆる業種について書かれた簡単な英文パッセージを読んで、素早く要点を理解し、グループ活動で自分の意見を言い表す。最後に、職業における自分の希望・意見などを発表する。</p>							
評価方法	レポート(20%)、課題(30%)、発表(30%)、小テスト(20%)							
履修条件・注意事項	課題提出の期限厳守							
自己学習	予習・復習が必要。前もってテキストを読み理解しておくこと。							
オフィスアワー	月曜日4時限目(15:10-16:40)							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			第1回: Sales can be like acting. (イギリス) 第2回: Travel opens up the world. (アラビア) 第3回: Love sells cars. (イタリア) 第4回: Translating is more than words. (アメリカ) 第5回: Serve up the best possible service. (ベトナム) 第6回: Toast your success. (日本) 第7回: Teaching is helping others perform their best. (ニュージーランド) 第8回: Build a happy life. (ドイツ) 第9回: Life is like riding a bicycle. (日本) 第10回: Trade ideas for positive change. (オーストラリア) 第11回: Connect workers with companies. (台湾) 第12回: Necessity is the mother of invention. (インド) 第13回: What's the recipe for success. (フランス) 第14回: Help animals for a better society. (イギリス) 第15回: 発表 第16回 定期試験				演習	金沢真弓
教科書 1	「Working in Japan」 著者: Alice Gordenker / John Rucynski 出版社: Cengage Publishing							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	インテグレイテッド・イングリッシュ I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	ジョン・フォーセット					NO.	FS-FS-3-303
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	Integrated English we will try to develop our language ability through combining and linking the several modes of expression and comprehension via varying available media. This will lead to mutual development and reinforcement of skills.						
概要	少人数グループで様々な国の英語を聞き、その内容をメモし、他のグループメンバーと相談の上で、その英語の内容を口頭もしくは文章で再現(作り直し)する。						
評価方法	定期試験の成績(40%)、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢(60%)						
履修条件・注意事項	As far as possible the class will be used for practice and preparation. Production and completion will be done outside the classroom. students will be expected to manage their own learning as far as possible. For example they must be ready to locate and repair their own weak areas and create and edit their own vocabulary lists. Students will use different language materials according to their needs.						
自己学習	It is important to schedule times every day for study. Making a vocabulary learning system that you like and that helps you learn as fast as possible is very important.						
オフィスワ-	17:00-18:00 on weekdays except Friday.						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回:日本の犯罪率が低いのはなぜ?		演習	Fawsitt				
第2回:スマホ時代のコミュニケーション		演習	Fawsitt				
第3回:喫煙天国の落とし穴		演習	Fawsitt				
第4回:危うい日本の食文化		演習	Fawsitt				
第5回:なぜ,有名人は離婚率が高いのか?		演習	Fawsitt				
第6回:スポーツは世界の共通言語?		演習	Fawsitt				
第7回:日本の道路をより安全にする方法		演習	Fawsitt				
第8回:男のいじめと女のいじめ		演習	Fawsitt				
第9回:同性愛とカミングアウト		演習	Fawsitt				
第10回:ジェンダーと男女差別		演習	Fawsitt				
第11回:親はいつまで子供と一緒に寝る?		演習	Fawsitt				
第12回:日本の人口問題		演習	Fawsitt				
第13回:パラサイトシングルは悪か?		演習	Fawsitt				
第14回:アイドルの涙		試験	Fawsitt				
教科書 1	PROVOKE A RESPONSE 出版社:NAN'UN-DO						
教科書 2							
参考書 1	授業中に適宜資料を配付する						
参考書 2							

授業科目名	インテグレイテッド・イングリッシュⅡ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-3-304
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	To teach listening, speaking, reading, writing, viewing, and presenting skills to prepare students for success in academic and professional life. This course aims to give a wide variety of activities and help students use all their skills together in order to be a better overall communicator.						
概要	In addition to the skills listed above, this course will use a textbook with digital exercises and videos for use and analysis. There are also a lot of listening passages for comprehension and discussion.						
評価方法	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, homework, participation. 2) 20%: Final Assignment						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and turn in homework. We will do in class activities, presentations, and group work, so students are expected to participate in order to improve their overall skills. Asking questions in class or visiting office hours to get help will also be very beneficial.						
自己学習	Students are encouraged to be active outside of class and take control of their learning. Listening to English music, writing English emails, watching English TV shows and movies, speaking English with friends or teachers, reading English books, reading English websites, etc., are all useful ways to engage with English in a fun way.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1) Using stress, intonation, and pauses 2) Describing details 3) Conversations and mingling 4) Understanding clues in text 5) Using phonetics 6) Live action skit 7) Listening with music 8) Using English for an interview 9) Listening dictation 10) Using follow-up questions 11) Asking the right questions 12) Making a music video 13) Understanding word analogies 14) Word games for quick recall 15) Accurate descriptions 16) Final Project			Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture Lecture	GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA GARCIA
教科書 1	No Book						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	ビジネス英語 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	橋本 由紀子				NO.	FS-FS-3-305	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	現在の多様化するビジネス環境に対応したビジネス英語の基礎から応用までを学び、「国際ビジネス環境に対処できる活きた英語を学ぶ」をテーマに、オフィスで外国人スタッフとともに業務を円滑に遂行するために必要とされるコミュニケーション技能を習得する。また各国の文化にも触れ、語学と文化のバリアを越えて対等に相手と交渉できるスキルを身につける。ビジネス通信、貿易英語の理解にも触れる。テキストを基本に進めるがプレゼンテーションをする機会もある。						
概要	テキストに従い、Speaking, Reading, Listening, Writing の4スキルを総合的に習得できるように、様々なメディア、企業のホームページ(英文)からビジネス特有の表現を学ぶ。テキストは多様化するビジネス環境に適応できる人材となれるように、国際取引の英語、雇用英語、ビジネス文書などに関するもので、世界的に活躍できる人材となれることを目指す。また担当教員独自のロンドンでの勤務経験からなまのアドバイスや、興味深い話も提供できる。学生の参加の機会を多く持ち、「新製品・サービスを開発紹介する」に関してプレゼンをしていただく。可能な限り学生主体に授業を進めていきたい。						
評価方法	テキストの内容理解度を小テストにより評価する。30% テーマに沿った、プレゼンテーションを必ず1度は行ってもらう。20% 積極的参加度(授業中の発言質問への応答)20%、定期試験30%						
履修条件・注意事項	英語の辞書必携 秋期に開講するビジネス英語Ⅱもなるべく履修する。						
自己学習	予習として各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み単語や意味を調べて、授業を受ける。復習として次回に小テストをするので、準備しておく。						
オフィスワ-	水曜日3限と、水木金のお昼休みを相談時間とする。場所は研究室						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション、この授業を履修した理由を話してもらう 2. ビジネス通信の基本、手紙、メール、Telephone Conversation 3. 社交関係の英語 面会の申し入れ、ホテルの予約 4. オフィスの移転通知、支店の開設案内 5. Reception invitation アンケートの依頼文 6. 資料送付依頼、慶喪 7. 社内の英語 会議の通知 8. 議事録 物品の購入 9. 社内研修の案内 社外研究の報告 10. 日程の調整と中間報告 11. プレゼンテーション(新商品・サービスの開発と紹介) 12. 海外・企業日本企業の紹介 13. presentation 続き 14. まとめとディスカッション 15. 定期試験		1. ディスカッション 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. AL 12. AL 13. AL 14. AL 15. 筆記試験	1. 橋本 2. 橋本 3. 橋本 4. 橋本 5. 橋本 6. 橋本 7. 橋本 8. 橋本 9. 橋本 10. 橋本 11. 橋本 12. 橋本 13. 橋本 14. 橋本 15. 橋本				
教科書 1	Essentials of Global Business English 著者:Satoru Toyoda 出版社:南雲堂 ISBN:978-4-523-17605-3						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	ビジネス英語Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	橋本 由紀子				NO.	FS-FS-3-306	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	現在の多様化するビジネス環境に対応したビジネス英語の基礎から応用までを学び、「国際ビジネス環境に対処できる活きた英語を学ぶ」をテーマに、オフィスで外国人スタッフとともに業務を円滑に遂行するために必要とされるコミュニケーション技能を習得する。また各国の文化にも触れ、語学と文化のバリアを越えて対等に相手と交渉できるスキルを身につける。ビジネス通信、貿易英語の理解にも触れる。テキストを基本に進めるがプレゼンテーションをする機会もある。						
概要	テキストに従い、Speaking, Reading, Listening, Writing の4スキルを総合的に習得できるように、様々なメディア、企業のホームページ(英文)からビジネス特有の表現を学ぶ。テキストは多様化するビジネス環境に適応できる人材となるように、国際取引の英語、雇用英語、ビジネス文書などに関するもので、世界的に活躍できる人材となれることを目指す。また担当教員独自のロンドンでの勤務経験からなまのアドバイスや、興味深い話も提供できる。学生の参加の機会を多く持ち、「もし自分が起業するなら」に関してプレゼンをしていただく。可能な限り学生主体に授業を進めていきたい。また、担当者の独自のロンドンでの勤務経験からなまのアドバイスや、興味深い話も提供できる。学生の参加の機会を多く持ち、可能な限り学生主体に授業を進めていきたい。初心者向けのビジネス実務や貿易英語も学習する						
評価方法	テキストの内容理解度を小テストにより行う。30% テーマに沿った、プレゼンテーションを必ず1度は行ってもらう。20% 積極的参加度(授業中の発言や応答)20%、定期試験30%						
履修条件・注意事項	英語の辞書必携 秋期に開講するビジネス英語Ⅰをなるべく履修する。 「起業するなら」のプレゼンを必ず行う。						
自己学習	予習として各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み単語や意味を調べて、授業を受ける。復習として次回に小テストをするので、準備しておく。						
オフィスワ-	水、木、金の昼休みを相談時間とする。空き時間ができた場合は追加・変更を通知する。場所は研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. オリエンテーション 2. 取引関係の英語 3. 引き合い とは 4. 引き合いのLetterの書き方 5. 注文の英語 6. 代金の回収 7. クレームと調整 8. 雇用関係の英語 9. 履歴書の書き方 10. 応募の手紙 11. 推薦状 12. プレゼンテーション 13. 面接。面接結果の通知 14. 退職願 15. ビジネスレターの書き方 英国とアメリカの違い 16. 定期試験	1. ディスカッション 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. AL 12. AL 13. AL 14. AL 15. AL 16. 筆記試験	1. 橋本 2. 橋本 3. 橋本 4. 橋本 5. 橋本 6. 橋本 7. 橋本 8. 橋本 9. 橋本 10. 橋本 11. 橋本 12. 橋本 13. 橋本 14. 橋本 15. 橋本 16. 橋本		
教科書 1	English Indicator 4 著者:Alson Kitzman 出版社:南雲堂 ISBN: 978-4-523-17854-5						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	専門英語 I				履修期	2020年度 春学期			
担当者	ジョン・フォーセット					NO.	FS-FS-3-311		
配当学科	外国				年次	3			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	The goal is to boost our professional communicative ability as much as possible. To do this we will try to find and repair our weak areas in grammar and vocabulary. We will analyse typical interactions and target the vocabulary needed.								
概要	In class students will create and practice their own vocabulary lists. They will prepare to do listenings at home by practicing grammar structures and vocabulary. Training and vocabulary tests will be frequent.								
評価方法	Term-end exams 40% Coursework 60% Coursework grades will be awarded on scores in homework, mini-tests, off-task behaviour, and teamwork								
履修条件・注意事項	As far as possible the class will be used for practice and preparation. Production and completion will be done outside the classroom. students will be expected to manage their own learning as far as possible. For example they must be ready to locate and repair their own weak areas and create and edit their own vocabulary lists. Students will use different language materials according to their needs.								
自己学習	It is important to schedule times every day for study. Making a vocabulary learning system that you like and that helps you learn as fast as possible is very important.								
オフィスアワー	17:00-18:00 on weekdays except Friday.								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1- Course introduction and self-study design			演習	Fawsitt					
2- Vocabulary quiz, Are you working? Have you worked? Will you work? careers and lifestyles			演習	Fawsitt					
3- Vocabulary quiz, industries businesses, and companies			演習	Fawsitt					
4- Vocabulary quiz, small and big businesses and their features			演習	Fawsitt					
5- Vocabulary quiz, departments and their functions			演習	Fawsitt					
6- Vocabulary quiz, job titles their functions			演習	Fawsitt					
7- Vocabulary quiz, paraphrasing, What do you do for a living?			演習	Fawsitt					
8- Vocabulary quiz, economies, stocks and shares			演習	Fawsitt					
9- Vocabulary quiz, the environment and sustainability			演習	Fawsitt					
10- Vocabulary quiz, professional behaviour, office exchanges			演習	Fawsitt					
11- Vocabulary quiz, work relationships and forms of address			演習	Fawsitt					
12- Vocabulary quiz, flat and vertical company structures			演習	Fawsitt					
13- Vocabulary quiz, HR and R&D			演習	Fawsitt					
14- Vocabulary quiz, sales			演習	Fawsitt					
教科書 1	Mostly online materials and printed handouts will be used.								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	専門英語Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	橋本 由紀子					NO.	FS-FS-3-312	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	TOEIC スコア550-650を目標とする。テストの形式、パターンに慣れ、テキストに従い目標スコア達成までトレーニングを継続する。							
概要	まず、模擬テストで現状のスコアを把握する。目標スコアまでの差を認識し、様々な方法論、活動、アクティビティを通して、リスニング、文法、語彙、読解スキルを高めるトレーニングをする。リスニングの練習では、聞くだけではなく、音読、シャドーイング、暗唱など「声に出す」プロセスを通じて、頻出表現や会話・トークの方法を覚えていく。リーディングの練習問題は、なぜ正解なのか、不正解なのかをしっかりと理解していくことによって、応用力を身に付けていく。							
評価方法	定期試験40%、中間試験30%、課題10%、小テスト20% 総合的に評価する							
履修条件・注意事項	辞書必携 時間厳守 遅刻、教科書忘れは認めない。必ず予習をして臨む。							
自己学習	テキストに沿って予習復習を徹底し、内容を理解し次回に備えて臨む。テキストのみならず自己が使いやすい問題集などを1冊完成してみる。							
オフィスアワー	Friday 3rd period or any lunch time @my office							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. オリエンテーション TOEICについて 2. Travel 3. Hotels 4. Dining 5. Sports and hobbies 6. Phone calls and e-mails 7. Health 8. Ecology 9. Shopping 10. Transportation 11. Computers 12. Offices 13. Jobs 14. Business 15. Mini TOEIC 16. 定期試験			1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 小テスト 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. AL 12. 演習 13. 演習 14. 小テスト 15. 演習 16. 試験	1 橋本 2 橋本 3 橋本 4 橋本 5 橋本 6 橋本 7 橋本 8 橋本 9 橋本 10 橋本 11 橋本 12 橋本 13 橋本 14 橋本 15 橋本 16. 橋本	
教科書 1	TOEIC test advantage 著者: Masayuki Teranishi 出版社: 南雲堂 ISBN: 978-4-523-17750-0							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	日本文化論			履修期	2020年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-3-401
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 lecture
テーマと到達目標	<p>Goals and Theme</p> <p>Goals: One of the main goals of this class is to explore various interpretations on Japanese culture and traditions under globalization. By studying the academic research literature and intellectual discourse on Japanese culture, students will be able to become familiar with theoretical frameworks for making sense of cultural interpretations on identities and traditions in the contemporary world.</p> <p>Theme: Japanese culture and traditions in the precarious world.</p>						
概要	<p>Course Outline</p> <p>The course consists of three units: (1) academic discourse on cultural identities, (2) theories on culture and traditions, and (3) contemporary research on Japanese culture. Students will read several academic articles and/or book chapters, participate into discussions, write short essays, and give presentations.</p>						
評価方法	<p>participation to class activities (25%), mid-term presentation (35%), final test (final presentation 40%). なお、評価のために実施した課題等については、授業においてフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>講義は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.</p>						
自己学習	<p>受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.</p>						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. Introduction: What is culture? 2. Japanology and Japanese Studies 3. Orientalism 4. Ethnicity 5. Identities 6. Otherness - we and they 7. Change and continuity 8. "High culture" in Japan 9. Japanese popular culture 10. Cultural traditions 11. Cultural hybridity 12. Multilayered perspectives 13. Japanese youth 14. Concluding discussion 15. Final test		lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture test	Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö				
教科書 1	Introduction to Japanese Culture 著者: Sosnoski, Daniel 出版社: Tuttle Publishing ISBN: 978-4805313138						
教科書 2							
参考書 1	An Introduction to Japanese Society, 4th edition, 2014 著者: Sugimoto, Yoshio 出版社: Cambridge University Press. ISBN: 978-1107626676						
参考書 2							

授業科目名	芸術文化論			履修期	2020年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-3-402
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義/lecture
テーマと到達目標	<p>Goals and Theme Goals: The students will acquire a broad overview to art and culture, including basic knowledge of aesthetics and art history essential to cultural life and personal fulfillment. Theme: Art, culture and aesthetics</p>						
概要	<p>Course Outline In this course the students will discuss developments of art history in different areas of the world, especially in the West and Asia. The students will explore how we can appreciate art with knowledge and experience of aesthetics, and how we can make sense of "art and culture" in our societies as well as in our own lives.</p>						
評価方法	<p>Participation in class activities (35%), in-class presentation (35%), and final test (30%). 評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>履修条件: 授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件である。 Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.</p>						
自己学習	<p>受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.</p>						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. Orientation 2. Researching art 3. Ancient Egyptian art 4. Ancient Greek art 5. Ancient Roman art 6. Modern age 7. Christianity and art 8. Renaissance 9. Impressionism 10. Cubism 11. Expressionism 12. Modernism 13. Post-modernism 14. Concluding discussion 15. final test	lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture test	Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö					
教科書 1	<p>The Tomb in Ancient Egypt: Royal and Private Sepulcheres from the Early Dynastic Period to the Romans 著者: Dodson, Aidan & Ikram, Salima 出版社: Thames & Hudson ISBN: 978-0500051399</p>						
教科書 2							
参考書 1	<p>Ancient Mythological Images and their Interpretation: An Introduction to Iconology, Semiotics and Image Studies in Classical Art History 著者: Lorenz, Katharina 出版社: Cambridge University Press ISBN: 978-0521195089</p>						
参考書 2							

授業科目名	国際関係論 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-3-403
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>Theme: Interdisciplinary approaches to international relations. Course goals: This course aims to analyze those global social issues that influence us in various aspects. In order to understand the dynamics of consequences of globalization students will learn such interdisciplinary approaches with social scientific orientation. Students will be able to broaden their world views to multilayered structure of international relations.</p>						
概要	<p>Course Outline The course examines different theoretical frameworks that are useful for understanding international relations. It will be discussed how human societies have been coping with different challenges of globalization at various levels and actors in international relations. Each class session will encourage students to develop their “critical thinking”.</p>						
評価方法	<p>participation to class activities (25%), mid-term presentation (35%), final presentation (40%) なお、評価のために実施した課題等については、授業においてフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>講義は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 600 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.</p>						
自己学習	<p>受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.</p>						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. Globalizing world 2. Defining globalization 3. Natural disasters and humans 4. Social and cultural minorities 5. Vulnerability and social risks 6. Social justice 7. Our life under globalization 8. Mid-term in class debates 9. International communities 10. Global social issues 11. Human well-being 12. Health issues 13. Information technology 14. Concluding discussion 15. Final test		lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture test	Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö				
教科書 1	Global Inequality: A New Approach for the Age of Globalization 著者: Milanovic, Branko 出版社: Belknap Press: An Imprint of Harvard University Press ISBN: 978-0674737136						
教科書 2							
参考書 1	Introduction to International Relations: Theories and Approaches, 2013 (5th edition) 著者: Jackson, Robert & Sorensen, Georg 出版社: Oxford University Press ISBN: 978-0198707554						
参考書 2							

授業科目名	国際関係論Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-3-404
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 lecture
テーマと到達目標	<p>Goals and Theme Goals: In this course the students will enhance their understanding on the broad range of theories of International Relations research by discussing the evolution and contending schools and theoretical approaches of International Relations. Theme: Theoretical development of International Relations research</p>						
概要	<p>Course Outline This course addresses characteristics with different theories in International Relations by discussing conventional theories such as idealism and realism as well as less conventional ones including those related to environmental issues and cultural studies.</p>						
評価方法	<p>Participation in discussion 20%, presentations 35%, and final test (written exam) 45%. なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>履修条件: 授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件であるので留意すること。Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.</p>						
自己学習	<p>受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.</p>						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. Introduction 2. Studying International Relations 3. Diplomacy and Foreign policy 4. Actors and Agencies in IR 5. Idealism, Realism, Behavioralism 6. Neoliberalism in IR 7. Interpretations of power in IR 8. Conflicts and peace in IR 9. Conventional notion of security 10. Environmental issues and IR 11. Cultural perspectives to IR 12. Social movements and IR 13. Human rights approach to IR 14. Applying hermeneutics to IR 15. Concluding discussion 16. Final test			lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture test	Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö
教科書 1	Introduction to International Relations: Theories and Approaches 著者: Robert Jackson & Georg Sorensen 出版社: Oxford University Press ISBN: 978-0198707554						
教科書 2							
参考書 1	The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations 著者: John Baylis, et al. 出版社: Oxford University Press ISBN: 978-0199656172						
参考書 2							

授業科目名	国際政治経済学				履修期	2020年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-3-405	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	国際政治経済学(International Political Economy通称IPE)に関する基礎的な理論をサーベイし、専門用語も含んだ英語による当該分野の理解力を深める。また、国際情勢について英語で議論できるよう、基礎的な知見を身につけ英語で専門性の高いディスカッションをうまくこなせるようになることを目指す。							
概要	現在の国際政治経済学の理論をまず、キーワードをもとに理解し、それらを英語でディスカッションをすることにより学習する。そのうえで、現在話題になっている国際政治経済情勢をいくつか事例として取り上げ、それぞれの課題に対する理解を深める。そして、それらの解決策などをグループディスカッションで探っていく。また、英語でのプレゼンテーションを行い、高度な表現力とディベート能力を養う。多角的に国際政治経済情勢を分析できるようになることを目指す。 実務経験教員：本講義の担当教員は、国際協力機構JICAで長年勤務し、プロジェクトの計画実施においては、国際政治経済情勢の分析をこなしている。JICA勤務の間、外務省、大使館、経済開発協力機構OECDに出向勤務を通じて、情勢分析、二国間・多国間外交交渉の経験を積んでいる。							
評価方法	クラスディスカッション&プレゼンテーション50% レポート(英語)50%							
履修条件・注意事項	特になし。							
自己学習	英字新聞や英語ニュースなどで時事問題をフォローする。							
オフィスワ-	1号棟1階の個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーとします。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
第1回～第5回 1. 政治思想基本 (ア)保守主義とリベラリズム (イ)大きい政府と小さい政府 (ウ)リアリストとリベラリストの違い 2. 「文明の衝突」 (ア)国家と宗教の関係 (イ)アメリカ大統領選挙 (ウ)反米 (エ)ISISとイスラム過激派 3. グループディスカッションとプレゼンテーション	講義・AL	畝						
第6回～第10回 1. グローバル化と世界経済 (ア)欧州連合と英国の離脱(BEXIT) (イ)TPP (ウ)世界から見るアベノミクス 2. BRICSと開発途上国 (ア)BRICSと中国の台頭 (イ)アジアと中所得者の畏 (ウ)アフリカとTICAD 3. グループディスカッションとプレゼンテーション	講義・AL	畝						
第11回～第14回 1. 地球環境問題とSDGs (ア)COP21とUN SDGs (イ)北極問題 2. ソフトパワー (ア)公共外交と科学技術外交 3. グループプレゼンテーション・ディベート	講義・AL	畝						
第15回 単位認定試験	レポート試験	畝						
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	地球環境論				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-3-406
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 lecture
テーマと到達目標	<p>Goals and Theme</p> <p>Goals: The students will acquire a broad overview to academic discourses, debates, and research approaches related to social sciences-oriented environmental studies. The students will discuss how global environmental issues have been studied in social sciences. The interdisciplinary nature of environmental studies will be addressed by discussing the links with natural sciences and other relevant approaches.</p> <p>Theme: theoretical analysis of environmental studies</p>						
概要	<p>Course Outline</p> <p>This course demonstrates that global environmental issues are manifested in different modes in different societies. The global environmental issues will be studied with comparative perspectives and with emphasis on nature protection and conservation.</p>						
評価方法	<p>Participation in discussion 20%, presentations 35%, and final test (written exam) 45%.</p> <p>なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>履修条件: 授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件であるので留意すること。</p> <p>Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.</p>						
自己学習	<p>受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。</p> <p>Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.</p>						
オフィスワ-	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Environmental issues & studies 3. Environmental issues in Europe 4. Ecology in Europe 5. The EU environmental policy 6. Environmental issues in USA 7. Environmental issues in Canada 8. Environmental issues in Asia 9. Reflexive modernisation 10. Global warming 11. Theories of ecology 12. Avian fauna and humans 13. Theories of governance 14. Environmental governance 15. Concluding discussion 16. Final test 	<p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>lecture</p> <p>test</p>	<p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p> <p>Merviö</p>		
教科書 1	<p>Earth Democracy: Justice, Sustainability, and Peace</p> <p>著者: Shiva, Vandana</p> <p>出版社: North Atlantic Books</p> <p>ISBN: 978-1623170417</p>						
教科書 2							
参考書 1	<p>Globalisation and the Quest for Social and Environmental Justice: The Relevance of International Law in an Evolving World Order</p> <p>著者: Alam, Shawkatほか</p> <p>出版社: Routledge</p> <p>ISBN: 978-0415813181</p>						
参考書 2							

授業科目名	多文化教育論				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	秀 真一郎					NO.	FS-FS-3-407
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	Goals: This course focuses on the meanings of Multicultural Education for children. It is more popular to meet multicultural situation in Japan. That means we need to think about the similarities and differences between our culture and others. We will find this course the knowledge of Multicultural Education and how important to provide Multicultural Education to children. Theme: Multicultural understandings and Educational effects for children						
概要	The American multicultural situation would be very helpful to understand it. Therefore, we will meet multicultural education in American school situations, and study the meaning of multicultural education. Then, we will think how we should understand multicultural education in Japan through activities and group discussion.						
評価方法	Semester final examination : 40%, Presentation: 40%, Participation : 20% In each practice, I will give evaluation feedback to your contents. Therefore, you would better take it for your understanding.						
履修条件・注意事項	Students will be encouraged to communicate in English, take a positive attitude. Be free to speak out what you think in a lecture's topic. Students will meet many different thoughts, so take them into yourself and know what is your thoughts.						
自己学習	Students will need not only knowledge but also theory about your own Multicultural Education. Before taking each lesson, students will need study and understand the topic. After a lesson, students will need to take back what the lecture's main point is, and understand what you got and didn't get. Before and after lessons, it would take 2hours each for understanding contents.						
オフィスアワー	30 minutes before each lecture, and 30 minutes after each lecture.						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			SESSION 01: Course introduction (What is the Culture?)			Lecture	Hide
			SESSION 02: Goals and Misconceptions			Lecture	Hide
			SESSION 03: Citizenship Education and Diversity in a Global Age			Lecture	Hide
			SESSION 04: Dimensions and School Characteristics			Lecture	Hide
			SESSION 05: Curriculum Transformation			Lecture	Hide
			SESSION 06: Knowledge Construction and Curriculum Reform			Lecture	Hide
			SESSION 07: Knowledge Components			Lecture	Hide
			SESSION 08: Teaching with Powerful Ideas			Lecture	Hide
			SESSION 09: School Reform and Intergroup Education			Lecture	Hide
			SESSION 10: Multicultural Benchmarks			Lecture	Hide
			SESSION 11: Practice: Comparing New Year's ceremony in different countries			Practice	Hide
			SESSION 12: Practice: National Flag			Practice	Hide
			SESSION 13: Practice: Language differences			Practice	Hide
			SESSION 14: Practice: Multicultural Education Evaluation Checklist			Practice	Hide
			SESSION 15: Conclusion: What does Multicultural Education mean for children?			Lecture	Hide
			Final exam			Exam	Hide
教科書 1	Give handouts appropriately						
教科書 2							
参考書 1	An Introduction to Multicultural Education 5th edition 著者: James A. Banks 出版社: Pearson Education, Inc.						
参考書 2	Lessons from Abroad: How Other Countries Educate Their Children 著者: Richard P. McAdams 出版社: Technomic Publishing Company, Inc.						

授業科目名	国際開発研究			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-3-409	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
テーマと到達目標	<p>発展する国と発展しない国があるが、なぜそのようなことが起こるのであるか？日本は世界第3位の開発援助国家である。なぜ日本は発展が遅れている、いわゆる開発途上国を支援するのであるか？その支援をする理由と目的を多角的に考えてみる。国際的なのか、国益なのか？日本の復興経験からの視点では何が言えるのであろうか？</p> <p>この講義・演習を通じて、日本のソフトパワーである開発協力について、その概念、歴史、手法などを学び、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションを経験することにより、自分のことばで、そして、簡単な英語で、国際開発の重要性を語ることを目指す。</p>						
概要	<p>世界にはまだ多くの開発途上国、地域が残されており、その開発問題は、貧困や基本的人権に関わる課題を有しており、戦争、紛争などの原因となっている。そのため、国際社会はこれまで、ミレニアム開発目標MDGsをつくり、さらに持続的開発目標SDGsをつくり全世界で取り組むことが国連で決議された。本演習では、これまでの国際社会の取組みをレビューすると共に、開発途上国の開発問題をその課題毎に、分析すると共に、多角的な視点で解決策を模索する方法を学ぶ。</p> <p>実務経験教員：担当教員は、国際協力機構で35年間勤務し、その間、外務省、在コートジボアール日本大使館、経済開発協力機構に出向した経験のある者である。二国間・多国間ベースの国際開発に関して、政策面、具体的なプログラム、プロジェクトレベルの実務面までを含め、多くの経験を有している。</p>						
評価方法	指定された課題に関するプレゼンテーション(30点)、ディスカッションなどの参加度・貢献度(30点)、最終レポートの内容(40点)で、総合的な評価を行なう。						
履修条件・注意事項	この授業はすべて英語で講義がなされ、学生同士のディスカッションもすべて英語で行なわれるので、留意すること。配布資料なども英語である。 授業の進め方の詳細に関しては、第1回授業において教員から説明を行なう。						
自己学習	英語の文献、資料の読み込みがあるので、予習に最低2時間。授業内容の理解を深めるために、復習は2時間以上必要。プレゼンテーションの準備には通常、情報検索に2時間、PPTスライド作成に3時間程度かかる。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて、金曜日5限目をオフィスアワーとする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際開発とは？国際協力？ 2. 国際開発の基本的な仕組み 3. 途上国支援アプローチの変遷 4. 21世紀の新しい潮流 5. 貧困削減への取組み 6. 平和構築と復興支援 7. 持続可能な開発への取組み 8. オーナーシップとガバナンス 9. グローバルガバナンス 10. 国際資金環流と民間資金 11. 市民社会に期待される役割 12. 日本の開発協力 13. プロジェクトの実例(M国IT人材) 14. プロジェクトの実例(DRC) 15. 国際開発再考 16. 最終試験 			講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL レポート試験	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝
教科書 1	授業テーマに応じて必要な英文資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	Japan's Development Assistance -Foreign Aid and the Post-2015 Agenda- 著者:Eds. KATO, H., PAGE, J., and Y. SHIMOMURA 出版社:palgrave macmillan ISBN:ISBN 978-1-137-50537-8						
参考書 2							

授業科目名	日本の文化経済				履修期	2020年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-3-501	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>テーマ:わが国における経済活動と日本の文化 お金も欲しいがゆとりやヒマも欲しい。否、生きがいがないと嫌だ。近年、そうした思いを持つ人が増加している。こうした意味では、これまで一般に経済学で語られてきた人間モデルは現在崩れて来ており、経済活動においても文化を考慮しなければならなくなってきた。しかも、海外の人びとから日本の文化に注目されている。そこで、この講義ではわが国における経済活動の背後に日本の文化を考慮しなければならないことをテーマとし、日本の文化と同時に今後の社会経済においてその文化と経済活動とを分離してはならないことを、学生が理解できることを到達目標とする。</p>							
概要	<p>たとえば和菓子を買ったらきれいな化粧箱を、さらに日本の文化を感じさせてくれる包装紙で包んでくれる。誰でにでも分かるように化粧箱も包装紙も和菓子の代金に含まれている。では、化粧箱を非常にシンプルなタッパーで、包装紙はいらないから代金を安くしてくれという日本人はいるだろうか。多分いない。というのも、和菓子は化粧箱や包装紙とセットであるのが当然だと日本人は考えているからである。このようにわが国では、一見当然と思われる経済活動に日本の文化が組み込まれている。もちろん、こうした文化と一体になった経済活動は、わが国だけの特徴ではない。どの地域や国でも文化がある限り経済活動にその地域や国の特色ある文化とセットになるのは避けては通れない。われわれ人間から感情や情緒という非合理的な要因を分離できないからである。</p>							
評価方法	<p>講義において問題に答え感想を書く日常的な参加態度に10点、課題テーマとして「持ち帰り試験」(小論文)に60点、期末の単位認定試験に30点の配点で、これらを総合して評価する。単位認定試験は、原則として講義の最終日に実施するが、「持ち帰り試験」(400字×10枚以上)の小論文を提出しなければ、単位を認定しないことがあるので要注意のこと。</p>							
履修条件・注意事項	<p>講義に関する意見や感想などをまとめて提出してもらい、持ち帰り試験を単位認定試験と一緒に提出することを条件とするので、講義に関する書籍等も読みまとめておくこと。また、外部から招聘講師に毎月一度来て話してもらうので、先生に対する対応(挨拶、私語の禁止、感謝の言葉など)がよくできること。</p>							
自己学習	<p>毎回の講義で配布したプリント資料をよく読んで整理しておき、仲間と討論できるようにしておくこと。また、新聞やテレビのニュースが話を聞くのに欠かせないので、それを読んだり聞いたりしてノートに整理しまとめておくこと。</p>							
オフィスワ-	1号棟2階の124研究室にて、毎週木曜日昼+3限目							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者			
1. オリエンテーション 2. 日本の文化と経済 3. 生活の中の文化経済 4. 生産の質と生活の質 5. 文化マナーと無駄な努力 6. 「見える化」と文化 7. 文化とソーシャルゲーム 8. 罰金の限界と文化 9. モノを買うor買わされる？ 10. ころをつかむ文化価値 11. 感情や情緒の文化経済 12. モノとのコミュニケーション 13. 生きがいと日本的サービス 14. 企業文化とフィランソピー 15. 単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋						
教科書 1	必要に応じて随時指定する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	産業考古学			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-3-502
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	日本および海外における産業を知り、産業の仕組みや発展あるいは産業遺産等としての活用について学ぶことをテーマとして、地域によって特徴的な産業の仕組み、各時代における発展、産業遺産等に関する知識を修得して理解し、各事象を論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。						
概要	日本および海外における産業とその発展、産業発展により生じたメリットとデメリット、産業発展の今後、観光資源として活用される産業遺産についての知識を修得し理解する。さらに、これらの知識と理解を深めるために、日本および海外の産業発展、観光資源として活用される産業遺産について、受講生らは自ら調べ考え、その内容をまとめ発表する。発表内容に関し受講生らとディスカッションする。						
評価方法	日本および海外における産業を理解し論理的に思考する力を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 産業考古学の概要 2. 日本の産業の発展 3. 海外の産業の発展 4. 産業発展によるメリットとデメリット 5. 日本および海外の産業発展の今後 6. 日本および海外における産業遺産についての紹介とディスカッション グループ1 7. 日本および海外における産業遺産についての紹介とディスカッション グループ2 8. 日本および海外における産業遺産についての紹介とディスカッション グループ3 9. 日本および海外における産業遺産についての紹介とディスカッション グループ4 10. 日本および海外の観光資源 11. 観光資源としての産業遺産 12. 日本および海外における観光資源についての紹介とディスカッション グループ1 13. 日本および海外における観光資源についての紹介とディスカッション グループ2 14. 日本および海外における観光資源についての紹介とディスカッション グループ3 15. 日本および海外における観光資源についての紹介とディスカッション グループ4 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 AL AL AL AL AL 講義 講義 AL AL AL AL 試験	大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩)
教科書 1	予習・復習しやすいように適宜資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1	予習・復習しやすいように適宜資料を配布する。						
参考書 2							

授業科目名	ソーシャル・ディベロップメント			履修期	2020年度 春学期		
担当者	橋本 由紀子					NO.	FS-FS-3-503
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>目的: 社会開発の定義を明確にし、これまでの貧困削減アプローチ(人的資本論、BHN,人間開発論)との違いや共通点を明確にできるようにする。 社会開発論のキーワードである、住民参加型、人間中心、オーナーシップ、内発的發展 などの用語を十分理解し、実際にどのような具体的なアプローチがあるのかを提案できるようにする。 Mainly this year focuses on Sustainable Development Goals by UNDP. The students learn about the Goals and suggest possible methods to achieve each goal. All English class.</p>						
概要	<p>初めに資料を提示し、その後は参加学生が調べたことを発表し、参加型方式を基本とする。 医療、保険、福祉、教育、ジェンダー、水と環境等の分野で社会開発の実践を参考に方法論を学び、各自で学んだことや疑問点をクラスで投げかけ討論する。 We learn according to the information down loaded from UNDP sustainable Development goals URL and we discuss each goals and strategies.</p>						
評価方法	<p>自発的発表30% 授業内での活発な討論への参加20%、レポート20% 定期試験30% 総合的に評価する。 自分の発表時に休んだり、発表レジメを提出できない場合はマイナス10点、良い発表を行った場合はプラス10点を加点する。 The students are required to make a presentation on world organizations.</p>						
履修条件・注意事項	<p>自主的に発表をしていただく、毎回簡単な小レポートを提出していただく、5回以上休むと受講資格なし 次回に取り扱うテーマについて各自調べておき、質問を1つ以上考え準備しておく。次回に前回の重要点を質問するので復習し理解しているかを確認しておく。発表時に欠席したり、発表レジメの提出がない場合は10点マイナスする。 Basically the discussions are required to be done in English.</p>						
自己学習	<p>予習として、各授業計画に記載されている項目について事前に資料を収集、読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出すること 予習復習として最低限1時間ずつはついでやすこと</p>						
オフィスアワー	Wednesday 2nd period and any lunch time at my office.						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション(Orientation) Social Development issues(社会開発の分野) 2. sustainable development goals UN 国連の持続可能な開発計画 3. SDGs 1 (no poverty) 貧困撲滅と方法 4. SDGs2(No hunger 飢餓ゼロ)と人間開発理論と指数 5. SDGs3 good health and well being (健康と福祉) 6. SDGs4 quality Education, 7. SDGs 5 gender equality and some index 8. SDGs 6 clean water and sanitation 9. SDGs 7 Affordable and Clean Energy discussion nuclear vs renewable energy 10. SDGs 8 Decent Work and Economic Growth 11. presentation on world organisations 12. SDGs9 Industry, Innovation and Infrastructure 13. reduced inequality SDGs 10 jini- coefficient 14. SDGs13 climate action & environment 15. 定期試験		1. discussion 2. seminar 3. seminar 4. seminar 5. seminar 6. seminar 7. seminar 8. seminar 9. presentation 10. seminar 11. seminar 12. presentation 13. presentation 14. seminar 15. test	1 橋本 2 橋本 3 橋本 4 橋本 5 橋本 6 橋本 7 橋本 8 橋本 9 橋本 10 橋本 11 橋本 12 橋本 13 橋本 14 橋本 15 橋本				
教科書 1	Sustainable Development Goals (Millenium Development Goals 2015) 著者:United Nations Development Programme http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/ 出版社: United nations 2015 Time for Global Action						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	企業戦略マーケティング概論			履修期	2020年度 春学期		
担当者	佐藤 匡					NO.	FS-FS-3-504
配当学科	外国学科			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義と演習
テーマと到達目標	戦後の経済発展の礎となったのはアメリカから導入されたマーケティングの考え方であった。その考え方の基本は、市場細分化、製品陳腐化そして製品差別化戦略の3つであった。Marketingのingは戦略を表すが、特に製品差別化のブランド戦略はごく身近な商品にまで及んで我々のすぐそばで展開されている。本講義では、題材として、マーケティングのみならず、それ以外でも幅広く応用されるオペレーションズ・リサーチ(Operations Research; OR)を取り上げる。アクティブラーニングも加えながら、ORを活用した市場戦略のおもしろさを理解する。到達目標は、経済の身近にある事象への問題意識が持て、初歩的な常識が身に付くことである。						
概要	ORはむずかしいと感じる人も多いかもかもしれないが、身近なことにORがうまく応用されて役立っていることも多い。本講義では、ORの中でも入門的な在庫管理、ABC分析、日程計画とガントチャート、PERT、乱数とシミュレーション、安定結婚問題、投票力指数、線形計画、ランチェスター戦略、散布図(相関図)、相関分析と回帰分析、相関係数を学ぶ。この科目は、企業における情報システム管理部門としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、実践的に役立つ授業を実施する。講義内容に対応してパソコンを使用して適宜演習を行う。						
評価方法	「オペレーションズ・リサーチとマーケティングの理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明を求める。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度を30%の重みづけで評価する。また、課題等の提出物30%、オペレーションズ・リサーチの理解度を問う試験の成績を40%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定(到達目標)の判断基準とする。						
履修条件・注意事項	第1回のオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認めないことがあるので十分注意すること。受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。授業計画の内容は、進捗の状況に応じて変更になることがある。2020年4月28日追記…当初は90分授業×15回で行うことにしていたが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受けて、2020年度春学期は100分授業×14回で下記の講義内容を学修する。また講義はテレビ会議システムを利用したオンライン形式で行う。						
自己学習	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の配布資料と図書館等の書籍を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明を求め、その状況を積極的な参加態度として成績評価の得点とする。						
オフィスワー	オフィスアワー 岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回 スキル確認テスト・ORの概要		講義・演習	佐藤				
第2回 フェルミ推定		講義・AL	佐藤				
第3回 Excelの応用操作		講義・演習	佐藤				
第4回 在庫管理		講義	佐藤				
第5回 在庫管理練習問題		講義・演習	佐藤				
第6回 ABC分析		講義	佐藤				
第7回 ABC分析練習問題		講義・演習	佐藤				
第8回 日程計画とガントチャート、PERT		講義	佐藤				
第9回 日程計画練習問題		講義・演習	佐藤				
第10回 乱数とシミュレーション		講義・演習	佐藤				
第11回 安定結婚問題と投票力指数		講義・AL	佐藤				
第12回 線形計画		講義・演習	佐藤				
第13回 ランチェスター戦略		講義	佐藤				
第14回 散布図(相関図)、相関分析と回帰分析		講義	佐藤				
第15回 相関係数		講義	佐藤				
第16回 単位認定試験		筆記試験	佐藤				
教科書 1	教科書は使用せず、講義内で学習資料を適宜配付する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	国際ビジネス論				履修期	2020年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-3-505	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>テーマ:わが国における経済活動と日本の文化 お金も欲しいがゆとりやヒマも欲しい。否、生きがいがないと嫌だ。近年、そうした思いを持つ人が増加している。こうした意味では、これまで一般に経済学で語られてきた人間モデルは現在崩れて来ており、経済活動においても文化を考慮しなければならなくなってきた。しかも、海外の人びとから日本の文化に注目されている。そこで、この講義ではわが国における経済活動の背後に日本の文化を考慮しなければならないことをテーマとし、日本の文化と同時に今後の社会経済においてその文化と経済活動とを分離してはならないことを、学生が理解できることを到達目標とする。</p>							
概要	<p>たとえば和菓子を買ったらきれいな化粧箱を、さらに日本の文化を感じさせてくれる包装紙で包んでくれる。誰でにでも分かるように化粧箱も包装紙も和菓子の代金に含まれている。では、化粧箱を非常にシンプルなタッパーで、包装紙はいらないから代金を安くしてくれという日本人はいるだろうか。多分いない。というのも、和菓子は化粧箱や包装紙とセットであるのが当然だと日本人は考えているからである。このようにわが国では、一見当然と思われる経済活動に日本の文化が組み込まれている。もちろん、こうした文化と一体になった経済活動は、わが国だけの特徴ではない。どの地域や国でも文化がある限り経済活動にその地域や国の特色ある文化とセットになるのは避けては通れない。われわれ人間から感情や情緒という非合理的な要因を分離できないからである。</p>							
評価方法	<p>講義は学生自身による聴講と発表とを忠臣とするが、日常的な参加態度に20点、発表には30点、期末の単位認定試験に50点で、これらを総合して評価する。単位認定試験は、原則として講義の最終日に実施するが、小論や作図を含めたレポート(400字×5枚以上)となる。発表と小論がなければ履修を放棄したものと見なすので注意のこと。</p>							
履修条件・注意事項	<p>講義に関する意見や感想などをまとめて提出してもらおう。持ち帰り試験を単位認定試験と一緒に提出することを条件とするので、講義に関する書籍等も読みまとめておくこと。また、外部から招聘講師を招いて話をしてもらおう予定なので、先生に対する対応(挨拶、私語の禁止、感謝の言葉など)がよくできること。</p>							
自己学習	<p>一度聞いたり問題を解いたりしただけではすぐに忘れるかもしれない。理解を深めて自分のものにするには復習が必要となる。また、現代の社会や経済の変化も理解できるために、新聞を読みテレビのニュースを見て、自分で気づいたことや関心をもったことをノートに整理しまとめておくこと。</p>							
オフィス	1号棟2階の124研究室にて、毎週木曜日昼+3限目							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 文章の図式化と見える化 3. ライフシフトとキャリア 4. 自分という小さな箱 5. やり抜く力とマネジメント 6. 企業と組織 7. 組織とイノベーション 8. 戦略論と確率思考 9. 市場における競争と戦略 10. 他者への配慮と人を動かす 11. 組織経営における失敗要因 12. 習慣と組織行動 13. エリートと美意識 14. プラットフォーム化する企業 15. 単位認定試験		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋					
教科書 1	必要に応じて随時指定する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	ビジネスの基礎知識				履修期	2020年度 春学期	
担当者	長光 正明					NO.	FS-FS-3-506
配当学科	外国学科			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	ビジネスの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスの意義や役割について理解するとともに、ビジネスに必要な創造的な能力と実践的なスキルを育てることを目標とする。さらにマーケティングに関する知識と技術をし、マーケティングの意義や役割について理解するとともに、企業におけるマーケティング活動を計画的、合理的に行うスキルを身に付けることを目標とする。						
概要	ビジネスの基本である売買取引の基礎編とマーケティングの基礎編からなり、企業人として必要な基礎的・実践的な課題を考察しながら、アクティブラーニング(AL)の実践として課題解決型学習(PBL)方法による各課題に対する解決について、グループ演習を主体とした授業を行う。						
評価方法	課題解決型学習における参加態度や参加頻度及び授業出席(70%)、修得知識の確認試験(30%)で評価する。						
履修条件・注意事項	授業にはPCを使用します。						
自己学習	毎回出す課題について、講師のWEBサイト(最初の授業時に説明する)にアップしているので、授業の予習・復習を各2時間程度してくること。						
オフィスワ-							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
(1) 売買取引の基礎論 第1回 売買契約の条件 第2回 売買契約の締結 第3回 売買契約の履行 第4回 代金決済 第5回 売買に関する計算 (2) マーケティングの基礎論 第6回 マーケティングの基本 第7回 戦略 第8回 SWOT分析 第9回 市場調査 第10回 販売促進 第11回 販売計画 第12回 消費者行動 第13回 製品計画 第14回 仕入計画 第15回 販売価格 第16回 単位認定試験	ALとしてPBLを採り入れた講義と演習	長光正明					
教科書 1	使用しない。講師のWEBサイトを利用する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	貿易実務				履修期	2020年度 春学期			
担当者	長光 正明					NO.	FS-FS-3-507		
配当学科	外国学科				年次	3			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	国際ビジネスの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、国際ビジネスの意義や役割について理解するとともに、国際ビジネスに必要な創造的な能力と実践的なスキルを育てることを目標とする。本科目では国際ビジネスにおける、モノの国際間移動に係る貿易を中心とする。								
概要	国際ビジネスの企業人として必要な基礎的・実践的な課題を考察しながら、アクティブラーニング(AL)の実践として課題解決型学習(PBL)方法による各課題に対する解決について、グループ演習を主体とした授業を行う。								
評価方法	課題解決型学習における参加態度や参加頻度及び授業出席(70%)、修得知識の確認試験(30%)で評価する。								
履修条件・注意事項	授業にはPCを使用します。								
自己学習	毎回出す課題について、講師のWEBサイト(最初の授業時に説明する)にアップしているので、授業の予習・復習を各2時間程度してくること。								
オフィスアワー									
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 貿易と国際売買取引 第2回 国内取引と国際取引の違い 第3回 貿易取引の全体像 第4回 輸出入の定義:関税法 第5回 貿易取引の形態:直接貿易と間接貿易 販売店と販売代理店 第6回 国際取引の輸送 第7回 国際取引の梱包 第8回 国際取引の引渡場所と価格体系 第9回 国際取引の決済と仕組み 第10回 国際取引の貨物保険 第11回 貿易取引契約を律する法律 第12回 英文価格表の構成とHSコード 第13回 船積書類ーインボイスと梱包明細書 第14回 船積書類ー保険証券 第15回 船積書類ー船荷証券 第16回 単位認定試験			ALとしてPBLを採り入れた講義と演習	長光正明					
教科書 1	使用しない。講師のWEBサイトを利用する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	社会起業論			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 朋子				NO.	FS-FS-3-508	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>社会起業論の到達目標は、次の通りである。</p> <p>①子育て、介護、失業、ひきこもり、貧困、限界集落、耕作放棄、食糧問題など、現代人の生活を取り巻くさまざまな社会問題を発見すること。</p> <p>②①で発見した社会問題を解決する「社会起業家」の取り組みとその可能性について考察し、理解し、演習科目・実習科目に取り組む基礎を学ぶことである。</p> <p>社会問題に対して、国や政府を柱とする公共原理によって解決していくことができるのか。また、市場原理に則って、必要な商品やサービスを提供する企業などの経済活動の場合はどうか。企業でも政府でも解決できない問題には誰がどのように対応してきたのか。国内・国外の具体的事例から、社会起業家と呼ばれる人々の社会問題の解決に向けた取り組みがいかなるものなのかを明らかにし、今後の可能性を探る。</p> <p>受講生は、日常生活の中で、身近な社会問題を発見し、それらを解決するためにどのような取り組みが実現できるのか自ら考え、行動する力を習得してほしい。</p>						
概要	社会起業というあたらしい仕事のあり方について概観し、このような動きがどのような社会的背景とニーズによって生じているのかについて理解することができる。社会起業の具体的事例や社会的意義についてのみならず、アメリカ、ヨーロッパ、日本の社会起業を支えるNPO・NGO、協同組合などの中間組織の取り組みについても学び、その可能性について考察する。						
評価方法	積極的な授業参加を含む平常点20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験50点、そして単位認定試験30点として、これらを総合した100点満点で評価する。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験(400字×8枚以上)のレポートを提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
自己学習	毎週の講義内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	木曜日2限目(1号館121研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. オリエンテーション 2. 現代の「食」と「農」の現状と課題① 3. 現代の「食」と「農」の現状と課題② 4. 現代の「食」と「農」の現状と課題③ 5. 社会起業とは何か 6. 社会起業の役割 7. 「食」と「農」の視点から社会起業を考える① 8. 「食」と「農」の視点から社会起業を考える② 9. 「食」と「農」の視点から社会起業を考える③ 10. 中間報告会 11. 社会起業の理論的枠組み① 12. 社会起業の理論的枠組み② 13. 社会起業の理論的枠組み③ 14. 事例発表① 15. 事例発表② 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義 講義・AL 講義 講義 講義 講義 筆記試験・レポート試験	大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下
教科書 1	毎回レジュメを配布するが、テキストは講義内容により随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1	社会起業入門ー社会を変えるという仕事ー 著者:神野直彦・牧里毎治 出版社:ミネルヴァ書房						
参考書 2							

授業科目名	調査と分析				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	佐藤 匡					NO.	FS-FS-3-601	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義と演習	
テーマと到達目標	<p>自然現象や社会現象についてのデータを、統計的にまとめたり分析したりすることは、さまざまな分野での計量的解析、計画立案、意思決定に有用なことである。</p> <p>本講義では、その分析などを行うにあたって必要な統計学の基礎的知識(記述統計)を習得する。また、それらを応用(推測統計)しうる能力を養う。</p> <p>本講義は、社会調査士取得のための標準カリキュラムD科目にほぼ相当するものである。本講義のテーマは「記述統計と推測統計の基礎的理解」であり、量的データを簡易的に統計処理ができるようになることが到達目標である。</p>							
概要	<p>導入として、まず全数調査を基本とする記述統計学について理解を深める。そこで、基本統計量や相関、標準偏差、正規分布などについて学習する。次に、記述統計学の理解の上に、標本調査を基本とする推測統計学について学ぶ。推測統計学については、確率分布や推定・検定・分散分析などについて理解を深める。</p> <p>この科目は、企業における情報システム管理部門としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、統計分析において実践的に役立つ授業を実施する。</p> <p>講義内容に対応してパソコンを使用して適宜演習を行う。</p>							
評価方法	<p>「統計学の基礎的知識の理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回専門用語の説明を求める。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度を30%の重みづけで評価する。また、課題等の提出物30%、記述統計を中心とした理解度を問う試験の成績を40%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定(到達目標)の判断基準とする。</p>							
履修条件・注意事項	<p>教科書は必ず初回の講義から持参すること。</p> <p>受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。</p> <p>第1回のオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認めないことがあるので十分注意すること。</p> <p>授業計画の内容は、進捗の状況に応じて変更になることがある。</p>							
自己学習	<p>各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。</p> <p>また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。</p> <p>授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。</p> <p>予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明を求め、その状況を積極的な参加態度として成績評価の得点とする。</p>							
オフィスアワー	<p>岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。</p>							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			第1回 スキル確認テスト・統計処理の概要 第2回 基本統計量 第3回 度数分布とヒストグラム 第4回 代表値 第5回 分散・標準偏差 第6回 相関係数・回帰直線 第7回 離散型確率分布と連続型確率分布 第8回 大数の法則と中心極限定理 第9回 区間推定 例題 第10回 区間推定 練習問題 第11回 仮説検定 例題 第12回 仮説検定 練習問題 第13回 分散分析 例題 第14回 分散分析 練習問題 第15回 まとめ 第16回 単位認定試験			講義 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義 講義 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義 筆記試験	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤	
教科書 1	統計学の図鑑 著者: 浦井良幸・浦井貞美 出版社: 技術評論社							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	モノをはかる技術 I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-3-604
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	「人間の生活や社会活動において必要な『はかる』を理解する」ことをテーマとし、「身の回りの物品の製造から供給や人や生き物、自然環境をはかるという行為をニュースなどで見つけ、目的や成果などを説明できるようになる」を到達目標とする。						
概要	「はかる」技術というのは、日常生活において表面には現れないが、公正性、安全性を保持するために使用されている。親近感を持って、「はかる」技術を探究するために、メディアで取り上げられるニュースや時事問題から日常生活への関わりを理解するところからスタートする。課題発表や討論も交える。						
評価方法	授業中の求める課題(60%)、単位認定試験(40%)						
履修条件・注意事項	各回ノートを取り、配布資料はファイルに綴じる、同じ受講学生の意見や質問にも耳を傾け、適宜記録すること。各課題の各受講学生の回答状況を共有することも大事である。						
自己学習	予習および復習は、各回2時間を必要とする。予習・復習以外にも時事問題にかかわる「はかる」技術を理解するために、メディアで取り上げられる内容を深く考察することをすすめる。						
オフィスワ-	火曜日2時限、1号棟1階114研究室で実施。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 社会活動における産業 3. 農業とはかる 4. 農業とはかるの課題発表 5. 漁業とはかる 6. 漁業とはかるの課題発表 7. 鉱業とはかる 8. 鉱業とはかるの課題発表 9. 建設業とはかる 10. 建設業とはかるの課題発表 11. ライフラインとはかる 12. ライフラインとはかるの課題発表 13. 運輸業とはかる 14. 運輸業とはかるの課題発表 15. 単位認定試験		講義 講義 講義 AL 講義 AL 講義 AL 講義 AL 講義 AL 講義 AL AL 筆記試験	高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木				
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1	中公新書1918 〈はかる〉科学 著者:阪上 孝・後藤 武 編著 出版社:中央公論新社 ISBN:978-4-12-101918-9						
参考書 2							

授業科目名	モノをはかる技術Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-3-605	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	『はかる』技術を理解するをテーマとして、歴史的な背景や有用性などを書籍・学術論文・企業の説明資料などを通して理解する。『はかる』技術を一般の人に説明できるようになるを到達目標とする。							
概要	「はかる」行為というのは、学問的にみても、他分野にわたっている。また、歴史的にさかのぼると農耕がはじまったころから「はかる」技術が確立しているようである。様々な方向から「はかる」技術やその内面にある科学的なアプローチを読み解くことができるようになる。							
評価方法	授業中の求める課題(20%)、単位認定試験(80%)							
履修条件・注意事項	各回ノートを取り、配布資料はファイルに綴じる、同じ受講学生の意見や質問にも耳を傾け、適宜記録すること。各課題の各受講学生の回答状況を共有することも大事である。							
自己学習	予習および復習は、各回2時間を必要とする。予習・復習以外にも時事問題にかかわる「はかる」技術を理解するために、メディアで取り上げられる内容を深く考察することをすすめる。							
オフィスアワー	金曜日2時限、1号棟1階114研究室で実施。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. 「はかる」の基礎 2. 「はかる」ルールの再定義 3. 環境をはかる 4. はかった結果の読み方 5. 感覚をはかる 6. 感覚と人間の動き 7. 古代の農耕と「はかる」 8. 国土をはかる 9. 空からはかる 10. 身体のサイズと「はかる」 11. 音をはかる 12. 「はかる」の時事問題 13. 時事問題を考える 14. 喩えではかる 15. はかれないもの 16. 単位認定試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 AL AL 講義 講義 筆記試験	高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木	
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1	中公新書1918 〈はかる〉科学 著者:阪上 孝・後藤 武 編著 出版社:中央公論新社 ISBN:978-4-12-101918-9							
参考書 2								

授業科目名	人と地域の社会学			履修期	2020年度 春学期		
担当者	大下 朋子				NO.	FS-FS-3-607	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義、AL
テーマと到達目標	本講義は、実際に岡山県と近県における地域を歩き、その地の食文化・伝統工芸・文化遺産の歴史を探訪する。本講義では、現代日本の「地域」が抱える課題や現状について理解を深める。受講生は「自分の生まれ育った地域」について調べ、その課題や現状、そしてその解決策などを探る。						
概要	「地域再生」をテーマに、現代わが国の地域社会が直面している課題や再生に向けた取り組みなどについて理解を深める。具体的には、工業化－都市化型の市場経済が拡張する一方で、地域が過疎化、少子高齢化、耕作放棄地の拡大、文化遺産・伝統文化の衰退などに直面している原因を探り、これらの問題に対する政府の役割、地域社会の取り組みなどについて一緒に考える。そこで発見した課題や問題を整理し、若者世代がこれらの問題とどう向き合い、どのように解決していけば良いのか一緒に考える。						
評価方法	授業態度(20%)、持ち帰り試験(50%)、単位認定試験(30%)として、これらを総合的に評価する。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験(400字×8枚以上)のレポートを提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
自己学習	教科書は指定しないが、逐一資料を配布する。授業後はその資料と、自分のノート、参考文献を元に、授業内容の復習を必ず行うこと。試験は配布資料と自分で作成したノートのみ持ち込みを許可する。						
オフィスワ-	木曜日3限目(1号館121研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.オリエンテーション 2.グローバル化とローカル化(1) 3.グローバル化とローカル化(2) 4.わたしのまちの地域文化 5.地域資源について考える 6.地域のインバウンド 7.環境と文化による地域再生(1) 8.環境と文化による地域再生(2) 9.地方の衰退×社会貢献志向 10.子どもの減少×保育所不足 11.放置された施設×非日常空間への欲求 12.廃棄物×ブランド志向 13.ローカル食×食の安全問題 14.広大な土地と自然×ツーリズム産業 15.単位認定試験	講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 試験	大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)					
教科書 1	毎回レジュメを配布するが、テキストは講義内容により随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1	地域再生の経済学―豊かさを問い直す― 著者:神野直彦 出版社:中公新書 ISBN:4-12-101657-2 C1233						
参考書 2	脱成長の地域再生 著者:神野直彦・高橋伸彰 出版社:NTT出版 ISBN:978-4-7571-4259-6 C0031						

授業科目名	インターンシップ I				履修期	2020年度 春学期			
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-2-701		
配当学科	外国				年次	2			
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	60	授業形態	実習		
テーマと到達目標	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。								
概要	<p>本学が協定を結んでいるD-INTERNSHIPの龍の仕事展に参加し、企業スタッフとなって企業文化展の会場で企業PRや物販を行う。この龍の仕事展でのインターンシップを通じて、地元を代表とする企業を知り、企業を通して地域の文化や歴史・風土を理解すると共に、地域戦略の思考を学び、社会人に求められる自己啓発力や自己教育力を育てる。</p> <p>※実務経験のある教員による授業 この科目は、地元企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>								
評価方法	実習先の担当者による評価(80%)と事前事後指導の評価(20%)をもとに評定する。								
履修条件・注意事項	インターンシップ I とインターンシップ II を必ず同時に履修すること。指定されたスケジュールに遅刻・欠席することなく出席すること。課題の提出は締め切りの期日を守ること。受講態度によっては中断することもある。								
自己学習	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。								
オフィスワ-	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
事前指導(担当者:大下浩司) 実習中の心構え等について指導する。 実習(担当者:実習先の担当者) D-INTERNSHIPの実習担当者から指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。 事後指導(担当者:大下浩司) 受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考えレポートにまとめる。 報告会にて発表する。 実習先と実習期間 龍の仕事展をインターンシップとして提供するD-INTERNSHIPのプログラムによる。					春学期授業計画を参照				
教科書 1	実習ノートおよび資料を配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	インターンシップⅡ				履修期	2020年度 春学期			
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-2-701		
配当学科	外国				年次	2			
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	60	授業形態	実習		
テーマと到達目標	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。								
概要	<p>本学が協定を結んでいるD-INTERNSHIPの龍の仕事展に参加し、企業スタッフとなって企業文化展の会場で企業PRや物販を行う。この龍の仕事展でのインターンシップを通じて、地元を代表とする企業を知り、企業を通して地域の文化や歴史・風土を理解すると共に、地域戦略の思考を学び、社会人に求められる自己啓発力や自己教育力を育てる。</p> <p>※実務経験のある教員による授業 この科目は、地元企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>								
評価方法	実習先の担当者による評価(80%)と事前事後指導の評価(20%)をもとに評定する。								
履修条件・注意事項	インターンシップⅠとインターンシップⅡを必ず同時に履修すること。指定されたスケジュールに遅刻・欠席することなく出席すること。課題の提出は締め切りの期日を守ること。受講態度によっては中断することもある。								
自己学習	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。								
オフィスワ-	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
事前指導(担当者:大下浩司) 実習中の心構え等について指導する。 実習(担当者:実習先の担当者) D-INTERNSHIPの実習担当者から指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。 事後指導(担当者:大下浩司) 受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考えレポートにまとめる。 報告会にて発表する。 実習先と実習期間 龍の仕事展をインターンシップとして提供するD-INTERNSHIPのプログラムによる。					春学期授業計画を参照				
教科書 1	実習ノートおよび資料を配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	インターンシップⅢ				履修期	2020年度 春学期			
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-3-703		
配当学科	外国				年次	3			
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	実習		
テーマと到達目標	就業体験を通じて企業が大学生に求めるスキルを身につけることをテーマとして、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を養うことを到達目標とする。								
概要	<p>本学が協定を結んだ企業・企業団体において就業体験をする。事前指導・実習・事後指導では、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の意味を考え解釈し、それらを実践できるように心掛ける。</p> <p>※実務経験のある教員による授業 この科目は、企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>								
評価方法	実習担当者の評価(80%)と事前事後指導の評価(20%)をもとに評定する。								
履修条件・注意事項	インターンシップⅠ・Ⅱの単位修得者のみ履修できる。インターンシップⅢ・Ⅳの履修方法は実習先によって異なる。これについては別途周知する。指定されたスケジュールに遅刻・欠席することなく出席すること。課題の提出は締め切りの期日を守ること。受講態度によっては中断することもある。								
自己学習	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。								
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
事前指導(担当者:大下浩司) 受講生の興味や適性に基づき実習先を決定し、受講生自らが実習先の企業について調べレポートにまとめる。実習中の心構え等についても指導する。 実習(担当者:実習先の担当者) 実習担当者の指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。 事後指導(担当者:大下浩司) 受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考えレポートにまとめる。報告会にて発表する。 実習先と実習期間 実習先は本学が協定を結んだ企業・企業団体とし、インターンシップⅢ・Ⅳでは倉敷路地市庭または協定企業における10日間の実習、インターンシップⅢのみでは協定企業5日間の実習とする。					春学期授業計画を参照				
教科書 1	実習ノートおよび資料を配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	インターンシップⅣ				履修期	2020年度 春学期	
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-3-703
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	実習
テーマと到達目標	就業体験を通じて企業が大学生に求めるスキルを身につけることをテーマとして、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を養うことを到達目標とする。						
概要	<p>本学が協定を結んだ企業・企業団体において就業体験をする。事前指導・実習・事後指導では、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の意味を考え解釈し、それらを実践できるように心掛ける。</p> <p>※実務経験のある教員による授業 この科目は、企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	実習担当者の評価(80%)と事前事後指導の評価(20%)をもとに評定する。						
履修条件・注意事項	インターンシップⅠ・Ⅱの単位修得者のみ履修できる。インターンシップⅢ・Ⅳの履修方法は実習先によって異なる。これについては別途周知する。指定されたスケジュールに遅刻・欠席することなく出席すること。課題の提出は締め切りの期日を守ること。受講態度によっては中断することもある。						
自己学習	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
事前指導(担当者:大下浩司) 受講生の興味や適性に基づき実習先を決定し、受講生自らが実習先の企業について調べレポートにまとめる。実習中の心構え等についても指導する。 実習(担当者:実習先の担当者) 実習担当者の指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。 事後指導(担当者:大下浩司) 受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考えレポートにまとめる。報告会にて発表する。 実習先と実習期間 実習先は本学が協定を結んだ企業・企業団体とし、インターンシップⅢ・Ⅳでは倉敷路地市庭または協定企業における10日間の実習、インターンシップⅢのみでは協定企業5日間の実習とする。				春学期授業計画を参照			
教科書 1	実習ノートおよび資料を配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードⅢ				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-2-708
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をししたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	1号棟1階の研究室で、毎週金曜日5限目をオフィスアワーとする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	スタディー・アブロードIV				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-2-709
配当学科	外国				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	6	時間数	180	授業形態	実習
テーマと到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間(180時間)以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。						
評価方法	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告、および実習ノートによって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。実習計画書(10%)、実習経過報告(20%)、実習ノート(60%)、報告書・プレゼンテーション(10%)を合計して総合評価する。						
履修条件・注意事項	履修条件は、世界標準の英語力テスト(TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか)を受験していることである。なお、180時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
自己学習	受け入れ先のプログラムに従うが、一般の授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. The host institution, location and locality 2. Living conditions 3. Language; local English vs your English 4. Safety; possible emergencies, and your response police and hospitals 5. Health; water, food, medicine, disease 6. Money; cost of living, common sense and etiquette 7. Nature, weather, insects, animals 8. Transport; public and private, traffic 9. Local culture art and history 10. Everyday customs 11. Social relationships and interaction, gender, age, equality 12. Values; norms, morality, religious taboos 13. Communicating about Japan How is Japan viewed by ordinary people? 14. When in Rome The travellers responsibilities 15. What you have learned and message to Japan 留学先に応じて以上の内容を学び活動する。	実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習						
教科書 1	受入れ先のプログラムに従う。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高木 秀明				NO.	FS-FS-2-804	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスワ-	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日2時限をオフィスワ-の時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木		
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 浩司				NO.	FS-FS-2-804	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩)
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-2-804
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	池上 真由美				NO.	FS-FS-2-804	
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマに関係する文献を調べ、その論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。						
概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 演習Ⅱの概説 2. 研究分野を考える 3. 研究内容を考える 4. 研究テーマを絞り込む 5. 研究テーマについて情報収集する 6. 研究テーマについて発表内容を考える 7. 研究テーマについて発表資料を作成する 8. 中間まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 9. 研究計画を立てる 10. 研究計画について話し合う 11. 研究計画を再考し修正する 12. 文献・資料の探し方を学ぶ 13. 文献・資料を探す 14. 文献・資料を読む 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅲ				履修期	2020年度 春学期			
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-3-805		
配当学科	外国				年次	3			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの見直し、関係する文献を調べ直し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。また、発表技術の向上を意識して、ゼミ活動に積極的に参画しよう。								
概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。								
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。								
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週火曜日2時限をオフィスアワーの時間とする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. 演習Ⅲの概説			演習	高木					
2. 研究テーマの見直し			演習	高木					
3. 研究テーマの見直しと発表			演習	高木					
4. 研究テーマの見直しとディスカッション			演習	高木					
5. 関係する文献の調べ直し1			演習	高木					
6. 関係する文献の調べ直しと発表1			演習	高木					
7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1			演習	高木					
8. 論点整理			演習	高木					
9. 関係する文献の調べ直し2			演習	高木					
10. 関係する文献の調べ直しと発表2			演習	高木					
11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2			演習	高木					
12. 研究計画の見直し			演習	高木					
13. 研究計画の見直しと発表			演習	高木					
14.最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する)			演習	高木					
15. 単位認定試験			試験	高木					
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	演習Ⅲ				履修期	2020年度 春学期		
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-3-805	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの見直し、関係する文献を調べ直し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。また、発表技術の向上を意識して、ゼミ活動に積極的に参画しよう。							
概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
1. 演習Ⅲの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 研究計画の見直しとディスカッション 15. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩)						
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習Ⅲ				履修期	2020年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-3-805	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの見直し、関係する文献を調べ直し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。また、発表技術の向上を意識して、ゼミ活動に積極的に参画しよう。							
概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
1. 演習Ⅲの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 研究計画の見直しとディスカッション 15. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝						
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習Ⅲ				履修期	2020年度 春学期		
担当者	池上 真由美					NO.	FS-FS-3-805	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの見直し、関係する文献を調べ直し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。また、発表技術の向上を意識して、ゼミ活動に積極的に参画しよう。							
概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1. 演習Ⅲの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 15. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上						
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習Ⅲ				履修期	2020年度 春学期		
担当者	加藤 健次					NO.	FS-FS-3-805	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの見直し、関係する文献を調べ直し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。また、発表技術の向上を意識して、ゼミ活動に積極的に参画しよう。							
概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1. 演習Ⅲの概説	演習	加藤						
2. 研究テーマの見直し	演習	加藤						
3. 研究テーマの見直しと発表	演習	加藤						
4. 研究テーマの見直しとディスカッション	演習	加藤						
5. 関係する文献の調べ直し1	演習	加藤						
6. 関係する文献の調べ直しと発表1	演習	加藤						
7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1	演習	加藤						
8. 論点整理	演習	加藤						
9. 関係する文献の調べ直し2	演習	加藤						
10. 関係する文献の調べ直しと発表2	演習	加藤						
11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2	演習	加藤						
12. 研究計画の見直し	演習	加藤						
13. 研究計画の見直しと発表	演習	加藤						
14. 研究計画の見直しとディスカッション	演習	加藤						
15. 単位認定試験	試験	加藤						
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習Ⅲ				履修期	2020年度 春学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-3-805	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの見直し、関係する文献を調べ直し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。また、発表技術の向上を意識して、ゼミ活動に積極的に参画しよう。							
概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。							
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
1. 演習Ⅲの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 研究計画の見直しとディスカッション 15. 単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋						
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	演習Ⅳ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 浩司				NO.	FS-FS-3-806	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの絞り込み、関係する文献をいくつか特定し熟読し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。卒業論文の研究計画の素案をつくることを目標に、積極的にゼミ活動への参画をしましょう。						
概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究に関する計画の素案を作る。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 演習Ⅳの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 研究計画の見直しとディスカッション 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩) 大下(浩)
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅳ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 朋子				NO.	FS-FS-3-806	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの絞り込み、関係する文献をいくつか特定し熟読し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。卒業論文の研究計画の素案をつくることを目標に、積極的にゼミ活動への参画をしましょう。						
概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究に関する計画の素案を作る。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅳの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 研究計画の見直しとディスカッション 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 レポート試験	大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅳ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-3-806
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの絞り込み、関係する文献をいくつか特定し熟読し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。卒業論文の研究計画の素案をつくることを目標に、積極的にゼミ活動への参画をしましょう。						
概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究方法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究に関する計画の素案を作る。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 演習Ⅳの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 研究計画の見直しとディスカッション 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅳ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	池上 真由美					NO.	FS-FS-3-806
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの絞り込み、関係する文献をいくつか特定し熟読し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。卒業論文の研究計画の素案をつくることを目標に、積極的にゼミ活動への参画をしましょう。						
概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究に関する計画の素案を作る。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週火曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅳの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 研究計画の見直しとディスカッション 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅳ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	加藤 健次				NO.	FS-FS-3-806	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの絞り込み、関係する文献をいくつか特定し熟読し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。卒業論文の研究計画の素案をつくることを目標に、積極的にゼミ活動への参画をしましょう。						
概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究に関する計画の素案を作る。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅳの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 研究計画の見直しとディスカッション 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅳ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-3-806
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの絞り込み、関係する文献をいくつか特定し熟読し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。卒業論文の研究計画の素案をつくることを目標に、積極的にゼミ活動への参画をしましょう。						
概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究に関する計画の素案を作る。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅳの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 研究計画の見直しとディスカッション 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	演習Ⅳ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	佐藤 匡					NO.	FS-FS-3-806
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの絞り込み、関係する文献をいくつか特定し熟読し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。卒業論文の研究計画の素案をつくることを目標に、積極的にゼミ活動への参画をしましょう。						
概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究方法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究に関する計画の素案を作る。						
評価方法	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
自己学習	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスワ-	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 演習Ⅳの概説 2. 研究テーマの見直し 3. 研究テーマの見直しと発表 4. 研究テーマの見直しとディスカッション 5. 関係する文献の調べ直し1 6. 関係する文献の調べ直しと発表1 7. 関係する文献の調べ直しとディスカッション1 8. 論点整理 9. 関係する文献の調べ直し2 10. 関係する文献の調べ直しと発表2 11. 関係する文献の調べ直しとディスカッション2 12. 研究計画の見直し 13. 研究計画の見直しと発表 14. 研究計画の見直しとディスカッション 15. 最終まとめ(自らの研究テーマについて発表する) 16. 単位認定試験			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤
教科書 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	英語科教育法Ⅲ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	竹野 純一郎					NO.	TC-FS-3-008
配当学科	外国				年次	3	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>テーマ: 現在日本の中等教育現場の教育指導 到達目標: 現在日本の中等教育現場における多様な学習志向に対応できる教育指導力の構築と、時代の要請に応じた新しい指導実践力の習得を目標とする。</p>						
概要	<p>新学習指導要領に完全準拠した英語科教科法テキストに沿って、英語教科教育指導に必要な事項を徹底的に学ぶ。これからの時代の英語教師に求められる資質を高めることを重視する。特に①学習者中心learner-centered、②インタラクションinteraction、③生徒/教員の信頼learner/teacher beliefに基づく授業を構築するために、複言語・複文化主義/行動志向/資質・能力の可視化/省察/自己評価等を取り入れ、現在日本の中等教育現場の教育指導に対応できる能力育成を目指す。</p>						
評価方法	<p>テーマ「現代日本の中等教育現場の教育指導」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、単位認定試験の成績(50%)、日頃のテストや授業態度などの平常点(50%)による総合評価を行う。 なお、日頃のテストや発表については、授業中にフィードバックを行うので、単位認定に関する定期テストまでに見直しをしておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	教職課程の履修者のみ、「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」を履修又は修得していること。						
自己学習	<p>課題が出された場合はしっかり準備をして授業に臨むこと。参加型の授業形態になるので問題意識を持って積極的に発言をし、授業後はきちんと復習をすること。発表や試験を実施するので真剣に取り組むこと。予習および復習、発表準備には、週当たり4時間以上を要する。</p>						
オフィスアワー	授業終了後						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回: はじめに—新しい時代の英語教師を目指して 第2回: 英語教育課程; 言語習得と教授法 第3回: 学習者論; 教師論 第4回: 音声と文字の指導 第5回: リスニング指導 第6回: スピーキング指導 第7回: リーディング指導 第8回: ライティング指導 第9回: 授業計画と実践(1) 授業の準備と計画 第10回: 授業計画と実践(2) 授業の形態 第11回: 授業計画と実践(3) 学習指導案 第12回: 授業計画と実践(4) 測定と診断の作成 第13回: 授業計画と実践(5) 模擬授業 第14回: 授業計画と実践(6) 教育実習 第15回: 総まとめ—英語教師に求められる力 単位認定試験	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 AL AL AL AL 発表 発表 講義 筆記試験	竹野純一郎		
教科書1	中学校指導要領・高等学校指導要領						
教科書2	<p>新しい時代の英語科教育の基礎と実践—成長する英語教師を目指して 著者: 神保尚武(監修) 出版社: 三修社 ISBN: 978-4384056822</p>						
参考書1	<p>協同学習を取り入れた英語授業のすすめ 著者: 江利川春雄(著、編集) 出版社: 大修館書店 ISBN: 978-4469245738</p>						
参考書2							

授業科目名	道徳教育の理論と方法				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	川上 はる江					NO.	TC-FS-2-011
配当学科	外国語学科			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 討論 模擬授業
テーマと到達目標	道徳教育について、基礎理論を理解し、併せて実践的指導力を養う。 基礎理論としては、道徳の本質、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳教育の役割と課題、道徳教育の授業理論について理解する。また、実践力については、道徳の時間の指導案作成、模擬授業、総合単元的な道徳学習の構想作成を通して、道徳の時間の指導法を身に付ける。						
概要	授業の概要 道徳教育の基礎知識である、道徳性の発達理論、教育理論、道徳教育の役割や意義をテキストを基に学修し、理解する。また、実践力の育成という意味から、学生の参加型授業を取り入れ、講義を行う。道徳資料を基に、道徳的価値について分析し、指導案を作成する。模擬授業後、学生の相互評価を行い、改善策を考え、指導案を修正したり、授業を練り直したりする。 ※実務経験のある教員による授業科目 教員としての実務経験を生かし、教育現場に役立つ実践的な授業を実施する。						
評価方法	理論的なものについては、テスト及びレポートで評価する。知識の習得については定期試験、実践的な目標については、発表態度、発表内容で評価する。授業では、テキストを熟読してくることを前提とする。 模擬授業(30%) 提出物(20%) 最終試験(50%) なお、実施した課題等については授業で補足説明する。						
履修条件・注意事項	毎時間の授業内容を効率的に理解し、発展できるようにするためにその時間の学習に必要な内容等について予習と復習が必須である。また、毎時間の授業の一部を使用して、その時間の学習の成果を創意・工夫を加えて、レポートとしてまとめる						
自己学習	予習 2時間 次回に学修する箇所を読んでくること 復習 2時間 学修した内容の課題を出すので要点をまとめておくこと						
オフィスワ-	木、金の4限目 昼休み(個人研究室10309)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			第1回: 道徳教育を学ぶ視点 第2回: 人間と道徳,道徳教育とは 第3回: 戦前、戦後の道徳教育 第4回: 学習指導要領と道徳教育 第5回: 発達理論 第6回: 授業理論 第7回: 学校の道徳教育の構造 第8回: 道徳資料の読み方 第9回: 指導案の書き方 第10回: 教材研究、指導案作成 第11回: 模擬授業1(演習) 第12回: 模擬授業2(演習) 第13回: 総合単元的道徳学習 第14回: 構想表作成 第15回: 道徳教育における評価 第16回: 定期試験	講義 講義 講義 講義・演習 講義 講義 演習 講義・AL 講義・AL 講義・AL 演習 講義・演習 講義 講義 筆記試験	川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上 川上		
教科書 1	道徳教育を学ぶ人のために(四訂版) 著者:小寺正一 他編 出版社:世界思想社 ISBN:978-4-7907-0						
教科書 2	中学校学習指導要領解説 道徳編 平成29年告示 著者:文部科学省 出版社:日本文教出版 ISBN:978-4-536-59004-4						
参考書 1	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる 著者:横山利弘 牧崎幸夫他 出版社:ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-07160-9						
参考書 2	私たちの道徳 著者:文部科学省 出版社:廣済堂あかつき株式会社 ISBN:978-4-331-75188-6						

教科書 1	生徒指導提要 著者:文部科学省 出版社:教育図書 ISBN:978-4-87730-274-0
教科書 2	中学校キャリア教育の手引き 著者:文部科学省 出版社:教育出版 ISBN:978-4-316-30026-9
参考書 1	中学校学習指導要領(平成29年告示) 著者:文部科学省 出版社:東山書房
参考書 2	高等学校学習指導要領(平成30年告示) 著者:文部科学省 出版社:東山書房

授業科目名	教育実習指導				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 浩司、倉知 典弘、池上 真由美、森井 康幸					NO.	TC-FS-3-015	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義・演習	
テーマと到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および自分自身の問題点の確認と克服を目標とする。							
概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の現場の先生方にも協力頂きながら進める。また、受講者は全員、正規の授業時間内だけでなく、時間外においても、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、4年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。							
評価方法	受講態度(30%)、およびレポート(70%:模擬授業も含む)により評価する。 教育実習終了後に行われる事後指導も評価の対象になる。							
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外にも模擬授業をする可能性もあるので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみの15回で終了するのではなく、実習終了後(次年度)にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。							
自己学習	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。(2時間) 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。							
オフィスワ-	金曜日昼休み事務室にて、火曜日の2限、研究室112にて							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. 教育実習の目的と心得 2. 4年生による実習経験談及び実習に向けた準備 3. 教職適性について 4. 指導案の作成と授業の展開(1)基本的な考え方 5. 指導案の作成と授業の展開(2)教材研究と板書計画 6. 指導案の作成と授業の展開(3)細案・ワークシート作成と教材準備 7. 小学校外国語教育の現状と小中連携 8. 実習生による授業DVD視聴 9. 高校における英語指導(外部) 10. 中学校の授業参観(1) 11. 中学校の授業参観(2) 12. 模擬授業(1) 13. 模擬授業(2) 14. 模擬授業(3) 15. 総括, 教育実習に向けて			講義 講義 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 見学実習 見学実習 講義・演習 講義・演習 実習 実習 実習 講義	全教員 池上 倉知 池上 池上 池上 池上 森井・外部・森井 池上 池上 全教員 全教員 全教員 全教員	
教科書 1								
教科書 2								
参考書 1	取得しようとする教科の学習指導要領(解説)							
参考書 2								

Syllabus

外国語学部

外国学科

2017 年度入学生

吉備国際大学

授業科目名	文章表現入門				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	大下 朋子					NO.	GE-CH-0-001	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	大学生や社会人に求められる日本語表現力について学び、その文章表現を身に付けることができる。レポートの書き方、就職試験向けの作文・小論文の書き方の基礎を身に付けることを目指す。とりわけ文と文、あるいは語彙と語彙との接続的な文章表現、起承転結といった文章の構成などを理解し、実際に文章を書く訓練を行う。							
概要	日本語の文章表現の基礎を身につけるだけでなく、文章の組み立て方、推敲の仕方などについて学習する。レポートや就職試験向け作文の書き方などについて学ぶ。文の構成、語と語の対応、文と文の関わりなどを意識して、論理的に文章を書く訓練を行う。また、学生は書籍、新聞、雑誌などを素材に、ブレインストーミングを行い、主題を設定し、自分でも文章化してみる。人に意見や趣旨が明確に伝わる文章表現、論理的な文章の書き方などを修得する。							
評価方法	講義への出席を含めて話の聞き方、意見の出し方などを平常点として20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験が50点、そして単位認定試験を30点として、これらを総合した100点満点で評価する。							
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験(400字×5枚以上)の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。							
自己学習	毎週の講義内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。							
オフィスワ-	木曜日2限目(1号館121研究室)							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 大学生・職業人にはどういふ日本語表現能力が求められるか 3. 明文を書くためのスキルを磨こう 4. 正確な文、明快な文を書くためには 5. 簡潔な文を書くためには 6. パラグラフ・ライティングの基本 7. パラグラフ・ライティングの練習 8. パラグラフ・ライティングからレポート作成へ 9. 観察しよう—その構成と書き方① 10. 観察しよう—その構成と書き方② 11. 準備しよう—意見と根拠① 12. 準備しよう—意見と根拠② 13. 小論文作成・総合演習① 14. 小論文作成・総合演習② 15. 手紙の書き方 16. 単位認定試験 				講義 講義 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 筆記試験・レポート試験	大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)
教科書 1	文章力・論理力を高める日本語トレーニング 著者:松谷 英明 出版社:学事出版 ISBN:978-4761919481							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	情報の分析と活用				履修期	2020年度 春学期	
担当者	佐藤 匡					NO.	GE-NM-0-004
配当学科	全学共通				年次	2	
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義と演習
テーマと到達目標	自然現象や社会現象についての量的データを統計的に整理したり分析したりすることは、計画立案や意思決定に有用なことである。つまり、社会ではデータを整理し分析する能力が求められるとも言え換えることができる。本講義では、その統計学の入門をテーマとして、目的達成のためにどのようなデータを集め、それをどのように整理して、分析結果をどのように読み取るかという能力を涵養するのが到達目標である。						
概要	統計学はむずかしいと感じる人も多いかもしれないが、身近なことに統計学がうまく応用されて役立っていることも多い。統計学の手法を使って数値データを分析することにより、あいまいな事柄に科学的な説得力を持たせることができるのである。本講義では、その分析に必要な知識である、Excelを活用してのデータの入力、度数分布表、ヒストグラム、平均と分散、仮説検定、散布図と相関係数などについて学習する。この科目は、企業における情報システム管理部門としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、現場において実践的に役立つ授業を実施する。講義内容に対応してパソコンを使用して適宜演習を行う。						
評価方法	「統計の基礎的知識の理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明を求める。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度を30%の重みづけで評価する。また、課題等の提出物30%、記述統計を中心とした理解度を問う試験の成績を40%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定(到達目標)の判断基準とする。						
履修条件・注意事項	第1回のオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認めないことがあるので十分注意すること。受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。授業計画の内容は、進捗の状況に応じて変更になることがある。2020年4月28日追記…当初は90分授業×15回で行うことにしていたが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受けて、2020年度春学期は100分授業×14回で下記の講義内容を学修する。また講義はテレビ会議システムを利用したオンライン形式で行う。						
自己学習	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明を求め、その状況を積極的な参加態度として成績評価の得点とする。						
オフィスワ-	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
第1回 スキル確認テスト・統計処理の概要		講義	佐藤				
第2回 Excelの操作		講義・演習	佐藤				
第3回 度数分布表		講義・演習	佐藤				
第4回 ヒストグラム		講義・演習	佐藤				
第5回 データの散らばり具合		講義・演習	佐藤				
第6回 平均と分散		講義・演習	佐藤				
第7回 標準偏差		講義・演習	佐藤				
第8回 乱数とシミュレーション		講義・演習	佐藤				
第9回 検定の考え方		講義・演習	佐藤				
第10回 検定の実際		講義・演習	佐藤				
第11回 いろいろなグラフ		講義・演習	佐藤				
第12回 散布図		講義・演習	佐藤				
第13回 相関関係と因果関係		講義・演習	佐藤				
第14回 相関係数		講義・演習	佐藤				
第15回 回帰分析、まとめ		講義・演習	佐藤				
第16回 単位認定試験		筆記試験	佐藤				
教科書 1	統計学の図鑑 著者: 浦井良幸・浦井貞美 出版社: 技術評論社						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	ロジカルシンキング				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-2-606	
配当学科	外国				年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	「論理思考能力を開発する。」をテーマとして、自分の持っている情報や意見を言語によって明快かつ効果的に相手に表現し、伝達できる能力を養うことを到達目標とする。							
概要	<p>論理的な思考の下に事象をとらえる論理学的方法を学ぶことで、事実関係に基づき、思考のつながり、推論の仕方や論証のつながりなどの筋道を明確にし、論理的に話す、書くことができるようになる。</p> <p>本講義では、短文などの例示を通して、論理的に思考し、それらを正確に伝える(「話す・書く」)方法を学ぶ。外部講師として招聘される、論理思考を実践している自然科学分野の研究者の講義(2回)も聴講する。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、自然科学分野の研究や教授をされている外部講師を招聘し、専門外の本学科の学生が分かりやすく、自然現象や自然科学のとらえ方を学び、論理的思考力を養う回を設けている。</p>							
評価方法	単位認定試験と参加型学習形態の授業の中での発言頻度や発言内容等、授業への参加態度、そして課題レポートにより総合評価する。成績評価は、試験(40%)、発言(40%)、課題レポート(20%)のウェイトにより評価する。ただし、議論が成立しないような他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には減点する。							
履修条件・注意事項	授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。 試験では、到達目標の理解度を見るため、特に復習が必要である。 到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。							
自己学習	事前に出した課題を元に、参加型学習形態で授業をおこなうため、課題作成の予習が必要である。具体的には教科書を先に読み、わからない用語は、参考書1「入門！論理学」あるいは図書館等で論理学の初歩的な書籍で調べる。							
オフィスワ-	1号棟1階個人研究室にて、金曜日2時限に実施。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. ロジック(論理)とは 2. 外部講師の先生のお話ーロジック思考の実践 3. 論理的推論と説得的議論の検討 4. 論理的に考えるための基本 5. 論理学と日常言語の落差 6. 推論の実際 7. 三段論法 8. 立論と反論 9. 論証の型 10. レトリック的推論 11. 論証の型 12. 準論理的論証 13. 事実に論証 14. 誤謬推理と詭弁 15. 外部講師の先生のお話ーロジック実践の解説 16. 単位認定試験			演習 AL 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 AL 筆記試験	高木 高木・外部講師 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木	
教科書 1	実践ロジカル・シンキング入門 著者:野内良三 出版社:大修館書店 ISBN:4-469-21276-8							
教科書 2								
参考書 1	入門！論理学 著者:野矢茂樹 出版社:中央公論新社 ISBN:4-12-101862-1							
参考書 2	Being Logical: A Guide to Good Thinking 著者:D. Q. McInerny 出版社: New York: Random House Trade Paperback ISBN:978-0812971156							

授業科目名	日本国憲法				履修期	2020年度 春学期			
担当者	入江 祥子					NO.	FS-FS-1-011		
配当学科	外国				年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義		
テーマと到達目標	<p><到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p><テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>								
概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>*実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>								
評価方法	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。								
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること(特に私語、授業途中の入退室等)は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。								
自己学習	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。								
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回:なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか			講義	入江					
第2回:法とは何か、法はなぜ必要か、法と道德の違い			講義	入江					
第3回:法源とは何か、成文法、不文法			講義	入江					
第4回:憲法とは何か、実質的意味の憲法、立憲的意味の憲法			講義	入江					
第5回:憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法、成立背景、特徴			講義	入江					
第6回:国民主権の意味、その役割			講義	入江					
第7回:戦争の放棄、「戦争」の意味、「戦力」の意味			講義	入江					
第8回:人権の享有主体性、外国人の人権			講義	入江					
第9回:私人間効力の問題			講義	入江					
第10回:人権保障の限界、「公共の福祉」の意味			講義	入江					
第11回:「権力分立」の意味、権力的契機、正当性の契機			講義	入江					
第12回:国会の制度意義、その構成及び役割			講義	入江					
第13回:内閣の制度意義、その構成と役割			講義	入江					
第14回:裁判所の制度意義、その構成及び役割			講義	入江					
第15回:地方自治、財政			講義	入江					
第16回:試験			試験	入江					
教科書 1	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。								
教科書 2									
参考書 1	六法								
参考書 2									

授業科目名	日本の経済			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-2-005
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>「日本経済のグローバル化と社会経済の変化」をテーマに、ここでは世界の中における日本経済の置かれた位置や立場を考える。そこで、現在の経済・財政・金融で使われている、ちょっと難しそうな言葉に慣れることから始める。経済や財政、そして金融のデータやグラフを見て、それからどんなことが読み取れるかも一緒に考えよう。また、現在、世界的に経済が不安定であるが、それはどうしてなのか、その原因はどこにあるのかなどを考える力も身に付けよう。そして、日本と世界とが経済的にどうつながっているのかを、入門編として、それを理解し考えられるのを到達目標とする。</p>						
概要	<p>経済、その言葉の人々はどんな意味で使っているのだろうか。誤解を恐れず言うならば、「食べる」である。人の生活をなり立たせることである。われわれは現代の日本に生きているので、現代日本の経済の仕組みや成り立ちの中で生活している。そのために新聞やテレビでは、財政とか金融とかの言葉が使われる。そこで前半はそれらが理解できるようにする。石油の値段とか、株の価格とか、あるいは国債の値段とか、それらがなぜニュースの話題になるかが分かるようになる。そこで後半は、日本経済のグローバル化を中心に諸君と話し合おう。</p>						
評価方法	<p>講義において問題に答え感想を書く日常的な参加態度に10点、課題テーマとして「持ち帰り試験」(小論文)に60点、期末の単位認定試験に30点の配点で、これらを総合して評価する。単位認定試験は、原則として講義の最終日に実施するが、「持ち帰り試験」(400字×10枚以上)の小論文を提出しなければ、単位を認定しないことがあるので要注意のこと。</p>						
履修条件・注意事項	<p>講義に関する意見や感想などをまとめて提出してもらおう。持ち帰り試験を単位認定試験と一緒に提出することを条件とするので、講義に関する書籍等も読みまとめておくこと。また、外部から招聘講師に毎月一度来て話してもらおうので、先生に対する対応(挨拶、私語の禁止、感謝の言葉など)がよくできること。</p>						
自己学習	<p>一度聞いたり問題を解いたりしただけではすぐに忘れるかもしれない。理解を深めて自分のものにするには復習が必要となる。また、現代の社会や経済の変化も理解できるように、新聞を読みテレビのニュースを見て、自分で気づいたことや関心をもったことをノートに整理しまとめておくこと。</p>						
オフィスワ-	1号棟2階の124研究室にて、毎週月曜日4限目。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 農業経済から工業経済へ 3. 日本と世界の経済 4. 成長経済と定常経済 5. インフレーションとデフレーション 6. 景気変動と社会変化 7. 日本経済の行へは? 8. 信用制度と日本銀行の役割 9. 日本政府の財政政策 10. 日本の金融政策と社会問題 11. 現代の社会経済の変化 12. 経済のグローバル化とは何か 13. 「ローン経済」のグローバル化 14. 今後の日本経済の歩み方 15. 現代日本の自由貿易とは何か 16. 単位認定試験 			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 レポート試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋
教科書 1	必要に応じて随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	クールジャパン論				履修期	2020年度 春学期		
担当者	イアン・ウォーナー、カルロス・ガルシア、金沢 真弓、ジョン・フォーセット					NO.	FS-FS-2-006	
配当学科	外国				年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	This course of lectures is designed to educate Japanese students how they themselves can formally and informally speak compellingly, and at length, in English, about Japan and things Japanese. Specifically, it is designed to improve student awareness in regard to 'good' and 'positive' Japan-centered topics that are likely to appeal to, interest, impress, inform, educate and potentially benefit non-Japanese English language users of all ages and backgrounds.							
概要	Each weekly lecture, and all related practical activities, will focus on one or more specific 'things Japanese' that the lecturer – drawing on his / her own personal knowledge gained inside and outside of Japan – contends to be 'positive, impressive, cool and thus noteworthy' in an objective, international comparative sense. In other words, he / she will talk about choice aspects and facets of current Japanese civilization (be they in the realm of governance, public policy, administration, business, education, R&D and / or the liberal arts, etc) that appear to be 'positive, impressive, cool and thus noteworthy' by international standards, AND which are likely to be entirely unknown or barely familiar to all but tiny minorities of non-Japanese persons.							
評価方法	100% = Coursework (Including homework and mini-tests, etc) Students will be continuously appraised regarding coursework. Each lecturer will check attendance and general student lesson-time performance. He / she will award 25% (max.) of each student's final (overall) grade score.							
履修条件・注意事項	Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus: 01) be alert, focused and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand – and successfully master – all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with – and listen to – their teacher and classmates, in English.							
自己学習	Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING in English regularly and as much as possible.							
オフィスワ-	In Ian Warner's office – Room 133 Mondays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Tuesdays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Wednesdays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Thursdays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Fridays* – Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings – and meetings after 6:20pm – are also possible.							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者			

<p>Week 01 – Fawsitt – Lecture and related activities; Landscape</p> <p>Week 02 – Fawsitt – Lecture and related activities; Animals</p> <p>Week 03 – Fawsitt – Lecture and related activities; Fruit</p> <p>Week 04 – Fawsitt – Lecture and related activities; Flowers</p> <p>Week 05 – Kanazawa – What’s ‘Cool Japan’?</p> <p>Week 06 – Kanazawa – Do you agree these things are cool or not? – Service at a restaurant, Capsule Hotels;</p> <p>Week 07 – Kanazawa – Discussion: Let’s find out ‘Cool Japan’ around us;</p> <p>Week 08 – Kanazawa – Group presentation;</p> <p>Week 09 – Garcia – People and Customs</p> <p>Week 10 – Garcia – Items Unique to Japan</p> <p>Week 11– Garcia – Technology</p> <p>Week 12 – Garcia – Group Presentations</p> <p>Week 13 – Warner – Transportation [Lecture and related activities]</p> <p>Week 14 – Warner – Places & Environment [Lecture and related activities]</p> <p>Week 15 – Warner – Products, Companies and additional Cool Things [Lecture and related activities]</p>	<p>Lecture Lecture Lecture Lecture</p> <p>Lecture Lecture Lecture Lecture</p> <p>Lecture Lecture Lecture Lecture</p> <p>Lecture Lecture Lecture Lecture</p> <p>Lecture Lecture Lecture Lecture</p>	<p>Fawsitt Fawsitt Fawsitt [Fawsitt]</p> <p>Kanazawa Kanazawa Kanazawa [Kan.]</p> <p>Garcia Garcia Garcia [Garcia]</p> <p>Warner Warner Warner [Warner]</p>			
<p>教科書 1</p>	<p>Each instructor will supply students with all necessary study materials and information on a weekly basis, before, during and / or after each lesson. 出版社: Please see opposite. ISBN: See above, left.</p>				
<p>教科書 2</p>	<p>出版社: See above, left. ISBN: See above, left.</p>				
<p>参考書 1</p>	<p>DK Eyewitness Travel Guide: Japan Paperback (June 2019 or earlier / older)</p> <p>Students do NOT have to BUY this book. This book is in the KIU Okayama Campus Library.</p> <p>出版社: Publisher: DK Eyewitness Travel;</p> <p>Revised Edition: /06/2019 ISBN: ISBN-10: 978-0241256756 ISBN-13: 978-0241256756 ASIN: 0241256755</p>				
<p>参考書 2</p>					

授業科目名	人間科学への招待			履修期	2020年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-4-020	
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>心理学、教育学、社会学、動物学などの分野を中心とした学際的アプローチで、「人間とは何か」を学ぶ。人間をどのように科学することができるだろうか？これまで、人間は生物として「自然」に参加し、文化的主体として「人間世界」に参加するものとして、人間研究は二つに引き裂かれてきた。「人間全体」を科学的に研究する方法はないものだろうか？多くの研究成果が発表されている。本講義では、人間を科学することにまつわる根本的な問題について、基礎的概念を学びつつ、多面的な議論をする。</p> <p>「人間とは何か」を自分のことばで説明できるようになることを目標とする。</p>						
概要	<p>What is Man? What is human being? Through this lecture, we try to respond to such question/s. We review disciplinary-specific approach/es and look into a multi-disciplinary approach re human sciences. 「人間とは何か」という根本的な問に対して、心理学、教育学、社会学、動物学などの学問領域がどのような考えを提示してきたかを概説する。その上で、人間を包括的な視点で見直すための議論を、グループワークなどを通じて学修する。</p> <p>この講義は、「人間行動研究演習」、「人間学習研究演習」、「こころと環境」の科目を履修する基礎的な知識と考え方を提供するもの。また、学際的アプローチを学ぶ科目でもある。</p> <p>授業は講義、グループワーク、レポートなど、すべて英語で行う。</p> <p>Jacob Bronowski (1973) "The Ascent of Man" Little, Brown and Companyを基本図書として読む。</p>						
評価方法	<p>レポートや課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。参加態度も評価となるので注意すること。</p> <p>最終評価は、学期末に提出してもらい理解度を確認するためのレポート(40%)、課題に基づく発表(30%)、毎回の授業参加度(20%)、授業態度(10%)に基づき総合的に判断します。</p> <p>レポート、授業での発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。</p>						
履修条件・注意事項	<p>本講義はすべて英語で行われること。</p> <p>予習課題については授業時に提示されるので、担当教員の指示に従うこと。</p>						
自己学習	<p>授業に出席するだけでは単位を取得するための十分な学修とはいえません。</p> <p>そのため、1) 指定する参考書、資料を事前に読み込み、自分の考えをまとめておくこと、2) 指示に従って、必ずノートを取り、その内容を復習すること、3) レポートを最後に提出してもらい、予習復習を怠らず、準備すること。</p> <p>なお、基本的な概念などは、日本語の参考図書、資料を読み込んで理解に努めること。</p> <p>目安として、予習・復習には、最低各2時間が必要です。</p>						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日3限目、4限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
<p>4月はじめに担当教員から詳細な授業計画を聞いて下さい。</p> <p>1. Basic question "What is man?"</p> <p>2. Lower than the Angels</p> <p>3. The Harvest of the Seasons</p> <p>4. The Grain in the Stone</p> <p>5. The Hidden Structure</p> <p>6. The Music of the Spheres</p> <p>7. The Starry Messenger</p> <p>8. The Majestic Clockwork</p> <p>9. The Drive for Power</p> <p>10. The Ladder of Creation</p> <p>11. World within World</p> <p>12. Knowledge or Certainty</p> <p>13. Generation upon Generation</p> <p>14. The Long Childhood</p> <p>15. 単位認定試験</p>	<p>1. 講義</p> <p>2. 講義・AL</p> <p>3. 講義・AL</p> <p>4. 講義・AL</p> <p>5. 講義・AL</p> <p>6. 講義・AL</p> <p>7. 講義・AL</p> <p>8. 講義・AL</p> <p>9. 講義・AL</p> <p>10. 講義・AL</p> <p>11. 講義・AL</p> <p>12. 講義・AL</p> <p>13. 講義・AL</p> <p>14. 講義・AL</p> <p>15. レポート</p>	<p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p> <p>畝</p>					
教科書 1	担当教員がその都度参考図書の指定をし、予習資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	こころと環境				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-4-022
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	この授業では、人間の「こころ」について、「こころー環境」系として包括的にとらえる視点を学ぶ。こころにとって「環境」とはなんだろうか？人間は地上に生まれ、この環境内で進化してきた種である。当然のことながら、人間の「こころ」もまた、それが機能する環境と切り離せない側面をもつ。そのため、自然、社会、経済などの環境において、ちょっとした変化で、人間のこころはどのように影響を受けるのか。具体的な事例を通して学ぶ。						
概要	こころにとって「環境」とはなんだろうか？人間は地上に生まれ、この環境内で進化してきた種である。当然のことながら、人間の「こころ」もまた、それが機能する環境と切り離せない側面をもつ。本講義では「こころ」について、「こころー環境」系として包括的にとらえる視点を学ぶ。 人間のこころは多様である。環境も人間にとっては多様である。それぞれの状態における「こころと環境」に関する事例を、自然科学、社会科学、経営学などの研究領域の成果を活用しつつ、学んでいく。その学修の中で、人間の社会生活におけるサバイバル術、リスク認識などの技術を受講生は学ぶことになる。 Sheena Iyengar (2010) "The Art of Choosing", Hachetteを教科書として用いる。						
評価方法	レポートや課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。参加態度も評価となるので注意すること。 最終評価は、学期末に提出する理解度を確認するためのレポート(30%)、課題に基づく発表(40%)、毎回の授業参加度(20%)、授業態度(10%)に基づき総合的に判断します。 レポート、授業での発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
履修条件・注意事項	本講義はすべて英語で行われること。 予習課題については授業時に提示されるので、担当教員の指示に従うこと。						
自己学習	授業に出席するだけでは単位を取得するための十分な学修とはいえません。 そのため、1)指定する参考書、資料を事前に読み込み、自分の考えをまとめておくこと、2)指示に従って、必ずノートを取り、その内容を復習をすること、3)レポートを最後に提出してもらうので、予習復習を怠らず、準備すること。 なお、基本的な概念などは、日本語の参考図書、資料を読み込んで理解に努めること。 目安として、予習・復習には、最低各2時間が必要です。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			10月はじめに担当教員から詳細な授業計画を聞いて下さい。 1. Introductory lecture 2. Past is Pologue 3. The Call of the Wild 4. A Stranger in Strange Lands(1) 5. A Stranger in Strange Lands(2) 6. Song of Myself (1) 7. Song of Myself (2) 8. Song of Myself (3) 9. Lesson review 10. Senses and Sensibility 11. I, Robot? (1) 12. I, Robot? (2) 13. Lord of the Things (1) 14. Lord of the Things (2) 15. And Then There Were None 16. Term paper			1. 講義 2. 講義・AL 3. 講義・AL 4. 講義・AL 5. 講義・AL 6. 講義・AL 7. 講義・AL 8. 講義・AL 9. 講義・AL 10. 講義・AL 11. 講義・AL 12. 講義・AL 13. 講義・AL 14. 講義・AL 15. 講義・AL 16. レポート	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝
教科書 1	担当教員がその都度参考図書の指定をし、予習資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	デズモンド・モリス(藤田統訳)『マンウオッチング』 著者:ダニエル・ゴールマン(土屋京子訳)『EQ こころの知能指数』 出版社:小学館文庫 ISBN:講談社プラスα文庫						
参考書 2	山岸俊男『社会的ジレンマ 「環境破壊」から「いじめ」まで』 出版社:PHP新書						

授業科目名	基礎演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	高橋 正己					NO.	FS-FS-1-802
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科の基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き、大学生として学習するために必要な知識や技能、大学生の心得を学びますが、特に、オムニバス形式で先生方の研究について話を聞き、自らの研究テーマについて考えましょう。2年生になると、ゼミに所属し、自分の研究テーマを決めたり、文献を読んで発表したりと、卒業研究に向けた演習(ゼミ)が始まります。本格的に始まる卒業研究に向けての準備となる科目です。						
概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見しましょう。大学ではグループディスカッションもあり、自分の意見を発言する機会も増えます。自分の研究テーマに関する情報を収集したり、文献や論文の要旨をまとめたりする技術だけでなく、自分の意見を伝える力も身に付けます。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指しましょう。						
評価方法	大学での「学び」に必要な基礎的な知識や技能の修得を確認するための単位認定試験(50%)、主体的に受講する姿勢を授業態度(50%)として評価します。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になります。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のようなものと思って下さい。チューター担当の教員と共に、大学の歩き方を考えましょう。オムニバス授業は、教員の研究紹介となりますが、その講義終了後は必ず、チューターの研究室に行き、基礎知識の確認と振り返りを行うこと。						
自己学習	予習として、各担当教員の『基礎演習テキスト』を読み、事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、授業の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の124研究室にて、毎週木曜日昼+3限目						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1.オリエンテーション 2.私の研究テーマ「育てる！」 3.絵画・染織品の科学調査 4.トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー 5.君にお似合いの国 6.No attack, no chance. 7.化学→コンピュータ→電気工作 8.「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン 9.会計検査院に外向して 10.Art, as I see it 11.ゼミ分け説明会(全体)／研究テーマの発見(チューター) 12.大学生活の見直し 13.研究テーマに関する情報収集(各研究室) 14.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 15.文献や論文の要旨のまとめ方(各研究室) 16.単位認定試験	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	全員 池上真由美 大下 浩司 大下 朋子 加藤 健次 佐藤 匡 高木 秀明 高橋 正己 畝 伊智朗 メルヴィオ、ミカ・マルクス 全員 外部講師 高橋 高橋 高橋 高橋		
教科書 1	基礎演習テキストを配布する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	英語学 I			履修期	2020年度 春学期			
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-1-101	
配当学科	外国			年次	1			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	<p>テーマ:英語学的見地から「英語」を理解し、英語の未来を考察する。 到達目標:1)わたしたちが使っている現代英語は、どこからきて、どのようにして変化してきたのかを探究し、理解できるようにする。2)英語が発展してきた背景を学ぶとともに、英語学的見地から、英語の音、スペル、文法の変化を学習し、説明できるようにする。3)様々な国で使われている英語の違いを理解できるようにする。</p>							
概要	<p>国際語としての英語は、どのようにして生まれ変化してきたのか、その社会的・文化的背景から探っていくと共に幅広い知識を身につける。また、音声記号や文字記号と意味の生成についても考察する。テキスト以外の資料を読むことが必要であり、受講者は英語学におけるテーマを決めて発表する。</p>							
評価方法	学期末試験(50%),発表(30%),授業参加度(20%)							
履修条件・注意事項	<p>予習・復習 授業計画の内容は進捗状況に応じて変更が生じる場合がある</p>							
自己学習	テーマに関する資料を読むこと。							
オフィスアワー	火曜日 4時限目(15:10 - 16:40)							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス(授業の目標、進め方について説明) 英語学とは 言葉の起源と言語研究 英語の発音とスペリング 英語の語彙の多様性と標準英語の成立 英語のバリエーション 言葉と音声 単語ができるしくみ 文ができるしくみ 意味の拡張 ことばの意味とコンテキスト 英語と文化、ことばと社会 日本の英語教育と教授法 発表 発表 試験 		講義	金沢真弓					
教科書 1	はじめての英語学 出版社: 研究社							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	英語学Ⅲ				履修期	2020年度 春学期			
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-2-103		
配当学科	外国				年次	2			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習		
テーマと到達目標	<p>テーマ： 英語の多文化性の需要と相互理解を図る</p> <p>到達目標： 1) 英語の国際的普及がもたらした英語文化の多様化について理解し、またそれによって生じた新しい問題の提起と解決策を見つけ出していく。2) 世界の英語に関する事情や情報を知り、英語による円滑なコミュニケーションの方法を考えることができるようにする。</p>								
概要	現代の英語の国際性や多様性に関するデータや事例、エピソードを英語で読み、内容理解だけでなく、使用されている語句を学習する。テーマに基づいて、ペアやグループによるディスカッションによる意見交換、または口頭で発表する。								
評価方法	プレゼンテーション(40%),レポート(30%), 課題(30%)								
履修条件・注意事項	<p>受講に際し予習・復習が必要。</p> <p>課題の期限は守る。</p> <p>授業計画の内容は進捗状況に応じて変更が生じる場合がある。</p>								
自己学習	配布資料を前もって読んでおくこと。								
オフィスアワー	火曜日 4時限目(15:10 - 16:40)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. English as an International Language 2. What is English as an International Language? 3. Why is English so important? 4. World Englishes 5. More non-native speakers than native speakers 6. English as an Asian Language 7. The official language of Singapore is Singlish 8. English in India 9. Internationalization and Diversification 10. English as a multicultural language and diversity management 11. Different Communication Style 12. English as a Japanese Language for international communication 13. Discussion 14. Presentation 15. Presentation			講義と演習	金沢真弓					
教科書 1									
教科書 2									
参考書 1	Understanding English across Cultures 出版社: Kinseido								
参考書 2									

授業科目名	英語学IV			履修期	2020年度 秋学期			
担当者	ジョン・フォーセット					NO.	FS-FS-2-104	
配当学科	外国			年次	2			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	日本語と英語の文法もしくは言語的特徴を比較し、それぞれの言語がどのように異なるかを考察する。英語を第2言語として使用する日本および日英語圏の人にとって、何が理解しやすく、また逆に難しいかについて学習する。							
概要	毎回の授業において、英語の言語特徴を調べる(例えば単数形、複数形など)。その特徴は英語学習者の英語学習にどのような影響があるのかを考える。							
評価方法	定期試験の成績(40%)、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢(60%)							
履修条件・注意事項	学生達が自分で言語的な特徴を調べるからインターネットを使いながら積極的にメモをとるの必要がある。							
自己学習	学生がほとんどの授業に前の授業の課題のしらべの結果を發表しますので、学生が書いたメモの整理とまとめることが大事。							
オフィスアワー	1700~1800~ generally evenings are best, except for Friday when I sometimes go home earlier.							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
				授業計画 第1回:本の英語 第2回:米英語対英語? 第3回:五十音対アルファベット 第4回:単数形と複数形 第5回:「You」は日本語で? 第6回:感情をどう示すか 第7回:アクセント・ピッチ 第8回:中国の英語 第9回:呼吸とリズム 第10回:インドの英語 第11回:転音とシュワ 第12回:ヨーロッパのまちまちな英語 第13回:冠詞 第14回:時制 第15回:プレゼン「私と英語」 定期試験			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット フォーセット
教科書 1	授業中に適宜資料を配付する							
教科書 2								
参考書 1	WORDS on the MOVE 著者:John McWhorter 出版社:PICADOR ISBN:978-1-250-14378-5							
参考書 2								

授業科目名	英語音声学 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-1-107
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>Theme: Maximizing student English language pronunciation competency by ensuring thorough basic phonological understanding (and - in so doing - enhancing listening comprehension / aural competency).</p> <p>Aim: To make student pronunciation of English language words 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' vis-a-vis 1 and 2-way oral communication and especially the reading of familiar and unfamiliar (typed / printed) common words (both aloud and silently, to oneself).</p>						
概要	<p>The course will center on the study of English vowel and consonant sounds in order to help students become effective and efficient English language users. It will necessarily entail optimally extensive and intensive weekly pronunciation practice intended to bring student pronunciation performance as near as possible to 'received' and / or internationally accepted pronouncing 'norms', 'best practices' and 'ideals'. 'Sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' - pronunciation, in line with such norms, best practices and 'ideals', is a vital skill that all 'non-native' students of English must strive to acquire and develop to an advanced degree. Those who fail to pronounce words in a 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' - manner will frequently not be understood (in full or part) - and be misunderstood by their interlocutors - especially by non-compatriot users of English. Moreover, such a failing - in the worst scenario - is likely to impede and limit the general development of all 4 core language skills (Listening, Reading, Speaking and Writing). In sum, English as foreign language (EFL) students must develop and retain the capacity to 'correctly' identify and produce the component syllable sounds of most commonly used words (regardless of whether their definitional meanings are known or unknown), whenever they are 'correctly' or 'acceptably' i) typed and printed or ii) pronounced by others. In other words, such students must be assisted in their efforts to become competent and proficient (visual and aural) identifiers and (oral) utterers of individual whole words, their component speech sounds (i.e. phonemes) and respective corresponding grapheme representations.</p>						
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or recording assignment, depending on student numbers). [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p>						
履修条件・注意事項	<p>Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.</p> <p>Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus:</p> <p>01) be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with - and listen to - their teacher and classmates, in English; 05) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, often at some length; 06) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 07) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 08) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 09) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 10) strive to complete all classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well AND to finish and submit them 'on time', before specified deadlines; 11) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 12) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 13) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 14) tell the teacher immediately if they think that any lesson-related activity is / was too easy or difficult; 15) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times;</p> <p>自己学修</p> <p>In addition to completing all homework assignments , students SHOULD: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;</p> <p>The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.</p>						
自己学習	<p>In addition to completing all homework assignments , students SHOULD:</p>						

- a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently;
 b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible';
 c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible;
 d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible;
 e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible;
 f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is;
 g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;
- The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.

<p>オフィスワ-</p>	<p>In Ian Warner's office - Room 133</p> <p>Mondays - 3, 4, 5, 6, 7 Tuesdays - 4, 5, 6, 7 Wednesdays - N/A Thursdays - 3, 4, 5, 6, 7 Fridays - Periods 4, 5, 6, 7</p> <p>* = Unless at staff meetings</p> <p>Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.</p>
---------------	---

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
第1回:母音vowels 1~3[æ][ʌ][ɑ] 第2回:母音vowels 4~6[a:][a:r][ə: :r] 第3回:母音vowels 7~9[ə][ər][i] 第4回:母音vowels 10~12[i:][u][u: :] 第5回:母音vowels 13~15[e][ɔ:][ɔ: :r] 第6回:母音vowels 16~18[ai][aiər] [au] 第7回:母音vowels 19~21[auər][ei] [ɔi] 第8回:母音vowels 22~24[ou]「ju:」[i ər] 第9回:母音vowels 25~26 [uər][eər] 第10回:子音 consonants 1~5[l][r] [p][b][t] 第11回:子音 consonants 6~10[d] [k][g][m][n] 第12回:子音 consonants 11~15[n] [f][v][h][s] 第13回:子音 consonants 16~20[z] [e][ʒ][ʃ][ʒ] 第14回:子音 consonants 21~24[ʃ] [dʒ][j][w] 第15回:定期試験 Final Exam.	Lecture 01 Lecture 02 Lecture 03 Lecture 04 Lecture 05 Lecture 06 Lecture 07 Lecture 08 Lecture 09 Lecture 10 Lecture 11 Lecture 12 Lecture 13 Lecture 14 Final Exam.	Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner Warner			

<p>教科書 1</p>	<p>a) Clear Speech [4th Edition] (2012) b) English Pronunciation in Use - Intermediate (2014) 著者: 1) Judy B. Gilbert</p> <p>===</p> <p>2) Martin Hewings</p> <p>出版社:Cambridge University Press ISBN: ISBN-10: 1107682959 ISBN-13: 978-1107682955 === ISBN-10: 1108403697 ISBN-13: 978-1108403696 </p>
--------------	---

<p>教科書 2</p>	<p>Pronouncing Dictionary [18th Edition] (2011) Students do NOT need to buy this book. Certain specific pages will be used in lesson time.</p> <p>著者: Daniel Jones</p> <p>出版社: Cambridge University Press</p> <p>ISBN: ISBN-10: 0521152550 ISBN-13: 978-0521152556 </p>
--------------	---

<p>参考書 1</p>	<p>Ship or Sheep? [3rd Edition] (2006) Certain specific pages will be used in lesson time.</p>
--------------	---

著者:Ann Baker
出版社:Cambridge University Press
ISBN:ISBN-10: 052160673X||ISBN-13: 978-0521606738

参考書 2

A large number of suitably challenging English language news reports and journalistic articles – sourced mainly from major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines – will be utilized on a weekly basis.
著者:Additional supplementary reading, listening (audio) and speaking materials and activities will be supplied (weekly) by the teacher.

授業科目名	英語リーディングⅢ			履修期	2020年度 春学期		
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-2-307
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	The main goal of this class will be to give students the chance to use English in various media platforms. Students will use the four English skills (reading, writing, listening, speaking) to present their ideas and interact with each other.						
概要	Students will use websites, apps, blogs, video, social media, and others forms of media to react and interact with each other and share ideas. Depending on the experience, interest, and capability of students, we will decide what types of projects and activities we want to do or learn in class. The hope is that students learn to use English across different platforms to communicate with others.						
評価方法	Students will be evaluated by class participation, assignments, and projects. 1) 80%: assignments, homework, participation. 2) 20%: Final Project						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, make good use of class time, and do all assignments. The in-class activities and activities will require both in-class and out of class time, so it is advised that students keep up with assignments. Students are encouraged to ask questions in class or visit office hours to get help if needed. Students should engage in kind, courteous, and respectful netiquette.						
自己学習	Because many projects and activities may require time outside of class, it is best if students start early and ask questions often. Dealing with technology always has the chance to encounter problems, so practicing and experimenting with apps and websites is encouraged.						
オフィスアワー	Wednesday: 9:30 am - 11:00 am						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1) Course Overview 2) Creating a blog 3) Making a teaching video 4) Print ad 5) Product commercial 6) Webpage design 7) Slide presentation 8) Interview video 9) Chain story 10) Action story 11) Voice over 12) Voice thread 13) Creating an interactive survey 14) Creating game review 15) Project planning 16) Final Project	Lecture	Garcia					
教科書 1	No Book						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	英語リーディングⅣ			履修期	2020年度 秋学期			
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-2-308	
配当学科	外国			年次	2			
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	One goal of this course is to expose students to different types of reading material they may encounter in the real world. Students should become familiar with and understand different kinds of material, and have a high level of comprehension. Another goal is to help students become faster and more fluid readers.							
概要	Students will be introduced to various materials and have to understand the content enough to answer detailed questions about it. Students may be asked to verbally summarize an article, or write their opinion of the reading material. The focus will be reading, but other skills will be integrated as well.							
評価方法	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam							
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and do all homework. The in class activities and homework serve as practice, so it is advised that students do these to help improve their writing skills. Asking questions in class or visiting office hours to get help will also be very beneficial. Extra reading for pleasure is encouraged to help become a faster, more confident, and better overall reader.							
自己学習	Reading for pleasure at an appropriate level will be very beneficial. Also, review the material before and after class to help you retain the information from class. Doing the exercises in the digital book will also help as you can check your answers and try them repeatedly.							
オフィスアワー	Wednesday: 9:30 am - 11:00 am							
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
				1) Course overview 2) Creating a concept map 3) Compound sentences 4) Paraphrasing 5) Supporting details 6) Complex sentences 7) Recognizing prepositions 8) Identifying text types 9) Identifying cause and effect 10) Active and passive sentences 11) Organizing information on a chart 12) Supporting ideas with examples 13) Understanding prefixes and suffixes 14) Compound nouns 15) Course review 16) Final Exam			Lecture	Garcia
教科書 1	Reading Explorer (Foundations) 著者:Becky Tarver-Chase and David Bohlke 出版社:Cengage							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	英語オーラルコミュニケーションⅡ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-1-210
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	The goal of this class will be to develop confidence with conversation skills. Communicating with confidence means expressing yourself accurately, fluently, and appropriately. Students will do various speaking tasks in class to maximize speaking opportunities.						
概要	Students will participate in a variety of speaking activities and assignments that will help improve speaking speed, understandability, and fluidity. Worksheets, videos, online practice, websites, computer apps, games, and partner activities will all serve to give students plenty of practice. Other skills include, but are not limited to, pronunciation, intonation, rhythm, stress, and speed. Emphasis will be placed on overcoming shyness and hesitation to communicate clearly.						
評価方法	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, activities, participation. 2) 20%: Final Exam						
履修条件・注意事項	Students are expected to be ready and willing to speak and communicate in English. Because there will be a lot of pair work in this class, students are expected to participate and give their best effort at all times. Unwillingness to participate will affect other students.						
自己学習	Speaking is hard to “study”, but you can practice by speaking as much as possible in class, and stop by office hours of any native teacher a few times a week to practice speaking. The more you speak, the better you will become.						
オフィスワ-	Wednesday: 9:30 am - 11:00 am						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1) Formal and informal language 2) Reduction of ‘to’ 3) Asking for repetition 4) Intonation in question tags 5) Expressing preferences 6) Contrastive stress in returning questions 7) Talking about time 8) asking/giving opinions 9) Final ‘s’ sounds 10) Personality traits 11) giving/receiving compliments 12) Listen for descriptions 13) Reduction of ‘do you’ 14) Asking follow-up questions 15) Sequence markers 16) Final Exam			Lecture	Garcia
教科書 1	No Book						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	英語オーラルコミュニケーション演習 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-3-211
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate.</p> <p>Target: This course is intended to improve student English speaking ability. Students who enroll on this course will therefore receive progressively more advanced – and demanding / challenging – briefs, instruction.</p> <p>At the end of the course, students should be:</p> <p>a) better able to more communicate effectively in all 'real-life' situations and; b) have more confidence regarding communicating effectively in all 'real-life' situations; c) better prepared to enroll on the similar but more advanced English Oral Communication Exercise II course.</p>						
概要	<p>English Oral Communication Exercises I will give students more time to practice Oral Communication. It will therefore compliment the main English Oral Communication courses.</p> <p>Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent oral communication competency.</p>						
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or monologue) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p> <p>Students should try to speak as much as possible, constantly think about 'what more' than can say / add, and give due consideration to pronunciation, vocabulary and syntax / sentence structure.</p>						
履修条件・注意事項	<p>Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.</p> <p>Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus:</p> <p>01) be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand – and successfully master – all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with – and listen to – their teacher and classmates, in English; 05) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, often at some length; 06) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 07) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 08) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 09) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 10) strive to complete all classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well AND to finish and submit them 'on time', before specified deadlines; 11) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 12) communicate with – and request help from – their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 13) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 14) tell the teacher immediately if they think that any lesson-related activity is / was too easy or difficult; 15) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times;</p>						
自己学習	<p>1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor.</p> <p>2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face.</p> <p>3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments.</p> <p>In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently;</p>						

b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible';
 c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible;
 d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible;
 e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible;
 f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is;
 g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;

The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.

オフィスワ-

In Ian Warner's office - Room 133

Mondays - 3, 4, 5, 6, 7
 Tuesdays - 4, 5, 6, 7
 Wednesdays - N/A
 Thursdays - 3, 4, 5, 6, 7
 Fridays - Periods 4, 5, 6, 7

* = Unless at staff meetings

Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp
 Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.

春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者
Week 01 = Various Topics	Lecture 01	Warner			
Week 02 = Various Topics	Lecture 02	Warner			
Week 03 = Various Topics	Lecture 03	Warner			
Week 04 = Various Topics	Lecture 04	Warner			
Week 05 = Various Topics	Lecture 05	Warner			
Week 06 = Various Topics	Lecture 06	Warner			
Week 07 = Various Topics	Lecture 07	Warner			
Week 08 = Various Topics	Lecture 08	Warner			
Week 09 = Various Topics	Lecture 09	Warner			
Week 10 = Various Topics	Lecture 10	Warner			
Week 11 = Various Topics	Lecture 11	Warner			
Week 12 = Various Topics	Lecture 12	Warner			
Week 13 = Various Topics	Lecture 13	Warner			
Week 14 = Various Topics	Lecture 14	Warner			
Week 15 = Final Exam.	Final Exam.	Warner			

教科書 1

Various Oral Communication textbooks, other textbooks and printed matter, photographs and visual materials (provided by the teacher), as and when needed during each lesson.

[Students should often select speaking topics of their own choosing.]

教科書 2

参考書 1

参考書 2

授業科目名	英語オーラルコミュニケーション演習Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	イアン・ウォーナー					NO.	FS-FS-3-212
配当学科	外国			年次	1		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	<p>Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate.</p> <p>Target: This course is intended to improve student English speaking ability. Students who enroll on this course will therefore receive progressively more advanced – and demanding / challenging – briefs, instruction.</p> <p>At the end of this course, students should:</p> <p>a) better able – and more willing – to communicate effectively in all 'real-life' situations; b) have more confidence regarding communicating effectively in all 'real-life' situations;</p> <p>This 'English Oral Communication Exercise II' course is intended primarily for students who have already completed the 'English Oral Communication Exercise I' course. Students who enroll on this 'English Oral Communication Exercise II' course will therefore receive more advanced and demanding / challenging briefs, instruction and advice compared to that given at the end of 'English Oral Communication Exercise I' course.</p>						
概要	<p>English Oral Communication Exercises II will give students more time to practice Oral Communication. It will therefore compliment the main English Oral Communication courses.</p> <p>Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to broaden and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and improve their existing key skills; ii) learn numerous new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand and participate in authentic, real-life, everyday English language conversation anywhere in the world. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining shortcomings.</p>						
評価方法	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or monologue) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p> <p>Students should try to speak as much as possible, constantly think about 'what more' than can say / add, and give due consideration to pronunciation, vocabulary and syntax / sentence structure.</p>						
履修条件・注意事項	<p>Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.</p> <p>Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus:</p> <p>01) be alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand – and successfully master – all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with – and listen to – their teacher and classmates, in English; 05) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, often at some length; 06) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 07) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 08) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 09) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 10) strive to complete all classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well AND to finish and submit them 'on time', before specified deadlines; 11) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 12) communicate with – and request help from – their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 13) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 14) tell the teacher immediately if they think that any lesson-related activity is / was too easy or difficult; 15) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times;</p>						
自己学習	<p>In addition to completing all homework assignments, students SHOULD:</p> <p>a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) Listen to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;</p>						

The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.

オフィスアワー

In Ian Warner's office - Room 133

Mondays* - Periods 6

Tuesdays* - Period 5

Wednesdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5

Thursdays* - Period 5

Fridays* - Period 6

* = Unless at staff meetings

Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp

Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.

春学期授業計画**授業方法****担当者****秋学期授業計画****授業方法****担当者**

Week 01 = Various Topics
 Week 02 = Various Topics
 Week 03 = Various Topics
 Week 04 = Various Topics
 Week 05 = Various Topics
 Week 06 = Various Topics
 Week 07 = Various Topics
 Week 08 = Various Topics
 Week 09 = Various Topics
 Week 10 = Various Topics
 Week 11 = Various Topics
 Week 12 = Various Topics
 Week 13 = Various Topics
 Week 14 = Various Topics
 Week 15 = Various Topics
 Week 16 = Final Exam.

Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Lecture
 Final Exam.

Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner
 Warner

教科書 1

Various Oral Communication textbooks, other textbooks and materials (provided by the teacher), as and when needed.

[Students should often select speaking topics of their own choosing.]

教科書 2**参考書 1****参考書 2**

授業科目名	アクティブ英語Ⅳ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	カルロス・ガルシア					NO.	FS-FS-2-404
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	To teach listening, speaking, reading, writing, viewing, and presenting skills to prepare students for success in academic and professional life. This course aims to give a wide variety of activities and help students use all their skills together in order to be a better overall communicator.						
概要	In addition to the skills listed above, this course will use a textbook with digital exercises and videos for use and analysis. There are also a lot of listening passages for comprehension and discussion.						
評価方法	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, homework, participation. 2) 20%: Final Assignment						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and turn in homework. We will do in class activities, presentations, and group work, so students are expected to participate in order to improve their overall skills. Asking questions in class or visiting office hours to get help will also be very beneficial.						
自己学習	Students are encouraged to be active outside of class and take control of their learning. Listening to English music, writing English emails, watching English TV shows and movies, speaking English with friends or teachers, reading English books, reading English websites, etc., are all useful ways to engage with English in a fun way.						
オフィスワ-							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1) Using stress, intonation, and pauses 2) Describing details 3) Conversations and mingling 4) Understanding clues in text 5) Using phonetics 6) Live action skit 7) Listening with music 8) Using English for an interview 9) Listening dictation 10) Using follow-up questions 11) Asking the right questions 12) Making a music video 13) Understanding word analogies 14) Word games for quick recall 15) Accurate descriptions 16) Final Project	Lecture	Garcia		
教科書 1	No Book						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	TOEFL英語IV				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-2-310
配当学科	外国			年次	2		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	lecture and active learning (AL)
テーマと到達目標	Theme: research methods and methodology Goals: The students will acquire the basic knowledge about various research methods and methodology in order to conduct research by themselves.						
概要	This course introduces various alternatives for conducting research by studying distinctive features with respective research methods and methodology. This course will help the students to learn how different world views as methodological basis affect selection of specific method(s) in research activities.						
評価方法	Participation in discussion 20%, presentations 35%, and final test (written exam) 45%. なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修条件:授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件であるので留意すること。Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
自己学習	受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. introduction 2. variations of research methods 3. qualitative research 4. interviewer and interviewees 5. text analysis 6. discourse analysis 7. interpretations and analysis 8. quantitative research 9. questionnaires 10. statistical interpretations 11. what is methodology? 12. our worldview(s) 13. research questions 14. reflective research 15. concluding discussion 16. final test			lecture lecture AL AL AL lecture lecture AL AL lecture lecture AL AL AL test	Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio Mervio
教科書 1	Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods Approaches 著者:Creswell, John W. & Creswell, J. David 出版社:SAGE Publications ISBN:978-1506386768						
教科書 2							
参考書 1	How to Write a Research Proposal and Thesis: A Manual for Students and Researchers 著者:Hamid, Mohamed E. 出版社:Createspace Independent Publishing Platform ISBN:978-1482675054						
参考書 2							

授業科目名	TOEIC英語 I				履修期	2020年度 春学期			
担当者	ジョン・フォーセット					NO.	FS-FS-3-311		
配当学科	外国				年次	3			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	The goal is to boost our professional communicative ability as much as possible. To do this we will try to find and repair our weak areas in grammar and vocabulary . We will analyse typical interactions and target the vocabulary needed.								
概要	In class students will create and practice their own vocabulary lists. They will prepare to do listenings at home by practicing grammar structures and vocabulary. Training and vocabulary tests will be frequent.								
評価方法	Term-end exams 40% Coursework 60% Coursework grades will be awarded on scores in homework, mini-tests, off-task behaviour, and teamwork								
履修条件・注意事項	As far as possible the class will be used for practice and preparation. Production and completion will be done outside the classroom. students will be expected to manage their own learning as far as possible. For example they must be ready to locate and repair their own weak areas and create and edit their own vocabulary lists. Students will use different language materials according to their needs.								
自己学習	It is important to schedule times every day for study. Making a vocabulary learning system that you like and that helps you learn as fast as possible is very important.								
オフィスアワー	17:00-18:00 on weekdays except Friday.								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1- Course introduction and self-study design			演習	Fawsitt					
2- Vocabulary quiz, Are you working? Have you worked? Will you work? careers and lifestyles			演習	Fawsitt					
3- Vocabulary quiz, industries businesses, and companies			演習	Fawsitt					
4- Vocabulary quiz, small and big businesses and their features			演習	Fawsitt					
5- Vocabulary quiz, departments and their functions			演習	Fawsitt					
6- Vocabulary quiz, job titles their functions			演習	Fawsitt					
7- Vocabulary quiz, paraphrasing, What do you do for a living?			演習	Fawsitt					
8- Vocabulary quiz, economies, stocks and shares			演習	Fawsitt					
9- Vocabulary quiz, the environment and sustainability			演習	Fawsitt					
10- Vocabulary quiz, professional behaviour, office exchanges			演習	Fawsitt					
11- Vocabulary quiz, work relationships and forms of address			演習	Fawsitt					
12- Vocabulary quiz, flat and vertical company structures			演習	Fawsitt					
13- Vocabulary quiz, HR and R&D			演習	Fawsitt					
14- Vocabulary quiz, sales			演習	Fawsitt					
			演習	Fawsitt					
			演習	Fawsitt					
			演習	Fawsitt					
教科書 1	Mostly online materials and printed handouts will be used.								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	TOEIC英語Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	橋本 由紀子					NO.	FS-FS-3-312	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	TOEIC スコア550-650を目標とする。テストの形式、パターンに慣れ、テキストに従い目標スコア達成までトレーニングを継続する。							
概要	まず、模擬テストで現状のスコアを把握する。目標スコアまでの差を認識し、様々な方法論、活動、アクティビティを通して、リスニング、文法、語彙、読解スキルを高めるトレーニングをする。リスニングの練習では、聞くだけではなく、音読、シャドーイング、暗唱など「声に出す」プロセスを通じて、頻出表現や会話・トークの方法を覚えていく。リーディングの練習問題は、なぜ正解なのか、不正解なのかをしっかりと理解していくことによって、応用力を身に付けていく。							
評価方法	定期試験40%、中間試験30%、課題10%、小テスト20% 総合的に評価する							
履修条件・注意事項	辞書必携 時間厳守 遅刻、教科書忘れは認めない。必ず予習をして臨む。							
自己学習	テキストに沿って予習復習を徹底し、内容を理解し次回に備えて臨む。テキストのみならず自己が使いやすい問題集などを1冊完成してみる。							
オフィスワ-	Friday 3rd period or any lunch time @my office							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			1. オリエンテーション TOEICについて 2. Travel 3. Hotels 4. Dining 5. Sports and hobbies 6. Phone calls and e-mails 7. Health 8. Ecology 9. Shopping 10. Transportation 11. Computers 12. Offices 13. Jobs 14. Business 15. Mini TOEIC 16. 定期試験			1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 小テスト 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. AL 12. 演習 13. 演習 14. 小テスト 15. 演習 16. 試験	1 橋本 2 橋本 3 橋本 4 橋本 5 橋本 6 橋本 7 橋本 8 橋本 9 橋本 10 橋本 11 橋本 12 橋本 13 橋本 14 橋本 15 橋本 16. 橋本	
教科書 1	TOEIC test advantage 著者:Masayuki Teranishi 出版社:南雲堂 ISBN:978-4-523-17750-0							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	TOEIC英語Ⅲ				履修期	2020年度 春学期			
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-4-413		
配当学科	外国				年次	4			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習		
テーマと到達目標	Theme: Improving your proficiency in English Goals : To improve listening and reading skills To develop wide range of vocabulary Target TOEIC score : over 650								
概要	You will learn essential words and phrases that are often used on the TOEIC test. These words are that used frequently in general English and in business English contexts. You will read a wide variety of readings involved in contracts, business letters, e-mails, advertisement, schedule, notice, different kinds of forms and so on to develop your reading skill. You will get used to the grammar pattern in the test by doing a lot of exercises. To improve listening skill, you will listen to the conversations and monologues that are heard in business situations and general situations. You will have two review tests and the final test.								
評価方法	Final Test(40%), Weekly test (30%), Assignment (30%)								
履修条件・注意事項	辞書持参 学内TOEIC IPを受験すること 第1回目のガイダンスには必ず出席すること 授業計画の内容は進捗状況に応じて変更が生じる場合がある								
自己学習	予習・復習をすること。								
オフィスワ-	火曜日 4時限目(15:10 - 16:40)								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
1. Course Guidance, Pre-Test 2. Listening Part2, 品詞問題 3. Listening Part3, 動詞問題 4. Listening Part4, 接続詞・前置詞 5. Listening Part2, 関係詞 6. Listening Part3, 語法・比較 7. Listening Part3, 不定詞・動名詞 8. Listening Part4, 分詞 9. Listening Part3, Reading 10. Listening Part4, Reading 11. Listening Part3, Reading 12. Listening Part4, Reading 13. Listening Part4, Reading 14. Listening test 15. Final test			演習	金沢真弓					
教科書 1	新TOEICテスト文法問題1000問 出版社:アスク出版								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	TOEIC英語IV				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	金沢 真弓					NO.	FS-FS-4-414	
配当学科	外国				年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	Theme: Improving your proficiency in English Goals : To improve listening and reading skills To develop wide range of vocabulary Target TOEIC score : over 650							
概要	You will learn essential words and phrases that are often used on the TOEIC test. These words are that used frequently in general English and in business English contexts. You will read a wide variety of readings involved in contracts, business letters, e-mails, advertisement, schedule, notice, different kinds of forms and so on to develop your reading skill. You will get used to the grammar pattern in the test by doing a lot of exercises. To improve listening skill, you will listen to the conversations and monologues that are heard in business situations and general situations. You will have two review tests and the final test.							
評価方法	Final Test(40%), Weekly test (30%), Assignment (30%)							
履修条件・注意事項	TOEIC IIIを履修していること。 辞書持参							
自己学習	予習・復習をしておくこと。							
オフィスアワー	月曜日5時限目(16:50-18:20)							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			1. Listening Part2 Part 5 主語と述語の一致 2. Reading レター 3. Listening Part 3 Part 5 時制問題 4. Reading 受注書 5. Listening Part 4 Part5 代名詞 6. Reading スケジュール 7. Review Test 8. Listening Part 2 Part 5 形容詞・副詞 9. Reading E-Mail 10. Listening Part 3 Part 5 動名詞・不定詞 11. Readingダブル・パッセージ 12. Listening Part 4 13. Reading ダブル・パッセージ 14. Listening Part 2-4 Part 5 関係詞 15. Review Test 16. Final Test				演習	金沢真弓
教科書 1	新TOEICテスト文法問題1000問 出版社:アスク出版							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	日本文化論			履修期	2020年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-3-401
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 lecture
テーマと到達目標	<p>Goals and Theme</p> <p>Goals: One of the main goals of this class is to explore various interpretations on Japanese culture and traditions under globalization. By studying the academic research literature and intellectual discourse on Japanese culture, students will be able to become familiar with theoretical frameworks for making sense of cultural interpretations on identities and traditions in the contemporary world.</p> <p>Theme: Japanese culture and traditions in the precarious world.</p>						
概要	<p>Course Outline</p> <p>The course consists of three units: (1) academic discourse on cultural identities, (2) theories on culture and traditions, and (3) contemporary research on Japanese culture. Students will read several academic articles and/or book chapters, participate into discussions, write short essays, and give presentations.</p>						
評価方法	<p>participation to class activities (25%), mid-term presentation (35%), final test (final presentation 40%). なお、評価のために実施した課題等については、授業においてフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>講義は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.</p>						
自己学習	<p>受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.</p>						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. Introduction: What is culture? 2. Japanology and Japanese Studies 3. Orientalism 4. Ethnicity 5. Identities 6. Otherness - we and they 7. Change and continuity 8. "High culture" in Japan 9. Japanese popular culture 10. Cultural traditions 11. Cultural hybridity 12. Multilayered perspectives 13. Japanese youth 14. Concluding discussion 15. Final test		lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture test	Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö				
教科書 1	Introduction to Japanese Culture 著者: Sosnoski, Daniel 出版社: Tuttle Publishing ISBN: 978-4805313138						
教科書 2							
参考書 1	An Introduction to Japanese Society, 4th edition, 2014 著者: Sugimoto, Yoshio 出版社: Cambridge University Press. ISBN: 978-1107626676						
参考書 2							

授業科目名	地域文化論			履修期	2020年度 春学期		
担当者	大下 朋子				NO.	FS-FS-3-607	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義、AL
テーマと到達目標	本講義は、実際に岡山県と近県における地域を歩き、その地の食文化・伝統工芸・文化遺産の歴史を探訪する。本講義では、現代日本の「地域」が抱える課題や現状について理解を深める。受講生は「自分の生まれ育った地域」について調べ、その課題や現状、そしてその解決策などを探る。						
概要	「地域再生」をテーマに、現代わが国の地域社会が直面している課題や再生に向けた取り組みなどについて理解を深める。具体的には、工業化－都市化型の市場経済が拡張する一方で、地域が過疎化、少子高齢化、耕作放棄地の拡大、文化遺産・伝統文化の衰退などに直面している原因を探り、これらの問題に対する政府の役割、地域社会の取り組みなどについて一緒に考える。そこで発見した課題や問題を整理し、若者世代がこれらの問題とどう向き合い、どのように解決していけば良いのか一緒に考える。						
評価方法	授業態度(20%)、持ち帰り試験(50%)、単位認定試験(30%)として、これらを総合的に評価する。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験(400字×8枚以上)のレポートを提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
自己学習	教科書は指定しないが、逐一資料を配布する。授業後はその資料と、自分のノート、参考文献を元に、授業内容の復習を必ず行うこと。試験は配布資料と自分で作成したノートのみ持ち込みを許可する。						
オフィスワ-	木曜日3限目(1号館121研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1.オリエンテーション 2.グローバル化とローカル化(1) 3.グローバル化とローカル化(2) 4.わたしのまちの地域文化 5.地域資源について考える 6.地域のインバウンド 7.環境と文化による地域再生(1) 8.環境と文化による地域再生(2) 9.地方の衰退×社会貢献志向 10.子どもの減少×保育所不足 11.放置された施設×非日常空間への欲求 12.廃棄物×ブランド志向 13.ローカル食×食の安全問題 14.広大な土地と自然×ツーリズム産業 15.単位認定試験	講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 試験	大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)					
教科書 1	毎回レジユメを配布するが、テキストは講義内容により随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1	地域再生の経済学―豊かさを問い直す― 著者:神野直彦 出版社:中公新書 ISBN:4-12-101657-2 C1233						
参考書 2	脱成長の地域再生 著者:神野直彦・高橋伸彰 出版社:NTT出版 ISBN:978-4-7571-4259-6 C0031						

授業科目名	地域文化演習			履修期	2020年度 春学期		
担当者	大下 朋子					NO.	FS-FS-3-607
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義、AL
テーマと到達目標	本演習は、実際に岡山県と近県における地域を歩き、その地の食文化・伝統工芸・文化遺産の歴史を探訪する。地域文化論で考察した現代日本の「地域」が抱える課題や現状についてさらなる理解を深める。受講生は「自分の生まれ育った地域」について調べ、その課題や現状、そしてその解決策などを探る。						
概要	「地域再生」をテーマに、現代わが国の地域社会が直面している課題や再生に向けた取り組みなどについて理解を深める。具体的には、工業化－都市化型の市場経済が拡張する一方で、地域が過疎化、少子高齢化、耕作放棄地の拡大、文化遺産・伝統文化の衰退などに直面している原因を探り、これらの問題に対する政府の役割、地域社会の取り組みなどについて一緒に考える。そこで発見した課題や問題を整理し、若者世代がこれらの問題とどう向き合い、どのように解決していけば良いのか一緒に考える。						
評価方法	授業態度(20%)、持ち帰り試験(50%)、単位認定試験(30%)として、これらを総合的に評価する。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験(400字×8枚以上)のレポートを提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
自己学習	教科書は指定しないが、逐一資料を配布する。授業後はその資料と、自分のノート、参考文献を元に、授業内容の復習を必ず行うこと。試験は配布資料と自分で作成したノートのみ持ち込みを許可する。						
オフィスワ-	木曜日3限目(1号館121研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 地域社会が抱える社会問題 3. 地域資源について考える 4. 地域の食文化や産業について調べる(1) 5. 地域の食文化や産業について調べる(2) 6. 地域再生の取り組み(地方自治体の事例) 7. 地域再生の取り組み(民間組織の事例) 8. 実習の企画・立案(1) 9. 実習の企画・立案(2) 10. 実習の企画・立案(3) 11. 中間報告 12. 英語で通訳案内(1) 13. 英語で通訳案内(2) 14. 英語で通訳案内(3) 15. 最終報告(プレゼンテーション)	授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 試験	大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)					
教科書 1	毎回レジュメを配布するが、テキストは講義内容により随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1	地域再生の経済学―豊かさを問い直す― 著者:神野直彦 出版社:中公新書 ISBN:4-12-101657-2 C1233						
参考書 2	脱成長の地域再生 著者:神野直彦・高橋伸彰 出版社:NTT出版 ISBN:978-4-7571-4259-6 C0031						

授業科目名	地域文化実習			履修期	2020年度 春学期		
担当者	大下 朋子					NO.	FS-FS-3-607
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義、AL
テーマと到達目標	本演習は、実際に岡山県と近県における地域を歩き、その地の食文化・伝統工芸・文化遺産の歴史を探訪する。地域文化論で考察した現代日本の「地域」が抱える課題や現状についてさらなる理解を深める。受講生は「自分の生まれ育った地域」について調べ、その課題や現状、そしてその解決策などを探る。						
概要	「地域再生」をテーマに、現代わが国の地域社会が直面している課題や再生に向けた取り組みなどについて理解を深める。具体的には、工業化－都市化型の市場経済が拡張する一方で、地域が過疎化、少子高齢化、耕作放棄地の拡大、文化遺産・伝統文化の衰退などに直面している原因を探り、これらの問題に対する政府の役割、地域社会の取り組みなどについて一緒に考える。そこで発見した課題や問題を整理し、若者世代がこれらの問題とどう向き合い、どのように解決していけば良いのか一緒に考える。						
評価方法	授業態度(20%)、持ち帰り試験(50%)、単位認定試験(30%)として、これらを総合的に評価する。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験(400字×8枚以上)のレポートを提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
自己学習	教科書は指定しないが、逐一資料を配布する。授業後はその資料と、自分のノート、参考文献を元に、授業内容の復習を必ず行うこと。試験は配布資料と自分で作成したノートのみ持ち込みを許可する。						
オフィスワ-	木曜日3限目(1号館121研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 地域社会が抱える社会問題 3. 地域資源について考える 4. 地域の食文化や産業について調べる(1) 5. 地域の食文化や産業について調べる(2) 6. 地域再生の取り組み(地方自治体の事例) 7. 地域再生の取り組み(民間組織の事例) 8. 実習の企画・立案(1) 9. 実習の企画・立案(2) 10. 実習の企画・立案(3) 11. 中間報告 12. 英語で通訳案内(1) 13. 英語で通訳案内(2) 14. 英語で通訳案内(3) 15. 最終報告(プレゼンテーション)	授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 授業・AL 試験	大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋) 大下(朋)					
教科書 1	毎回レジュメを配布するが、テキストは講義内容により随時指定する。						
教科書 2							
参考書 1	地域再生の経済学―豊かさを問い直す― 著者:神野直彦 出版社:中公新書 ISBN:4-12-101657-2 C1233						
参考書 2	脱成長の地域再生 著者:神野直彦・高橋伸彰 出版社:NTT出版 ISBN:978-4-7571-4259-6 C0031						

授業科目名	国際関係論 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-3-403
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>Theme: Interdisciplinary approaches to international relations. Course goals: This course aims to analyze those global social issues that influence us in various aspects. In order to understand the dynamics of consequences of globalization students will learn such interdisciplinary approaches with social scientific orientation. Students will be able to broaden their world views to multilayered structure of international relations.</p>						
概要	<p>Course Outline The course examines different theoretical frameworks that are useful for understanding international relations. It will be discussed how human societies have been coping with different challenges of globalization at various levels and actors in international relations. Each class session will encourage students to develop their “critical thinking”.</p>						
評価方法	<p>participation to class activities (25%), mid-term presentation (35%), final presentation (40%) なお、評価のために実施した課題等については、授業においてフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>講義は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 600 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.</p>						
自己学習	<p>受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.</p>						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. Globalizing world 2. Defining globalization 3. Natural disasters and humans 4. Social and cultural minorities 5. Vulnerability and social risks 6. Social justice 7. Our life under globalization 8. Mid-term in class debates 9. International communities 10. Global social issues 11. Human well-being 12. Health issues 13. Information technology 14. Concluding discussion 15. Final test		lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture test	Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö				
教科書 1	Global Inequality: A New Approach for the Age of Globalization 著者: Milanovic, Branko 出版社: Belknap Press: An Imprint of Harvard University Press ISBN: 978-0674737136						
教科書 2							
参考書 1	Introduction to International Relations: Theories and Approaches, 2013 (5th edition) 著者: Jackson, Robert & Sorensen, Georg 出版社: Oxford University Press ISBN: 978-0198707554						
参考書 2							

授業科目名	国際関係論Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス					NO.	FS-FS-3-404
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義 lecture
テーマと到達目標	<p>Goals and Theme Goals: In this course the students will enhance their understanding on the broad range of theories of International Relations research by discussing the evolution and contending schools and theoretical approaches of International Relations. Theme: Theoretical development of International Relations research</p>						
概要	<p>Course Outline This course addresses characteristics with different theories in International Relations by discussing conventional theories such as idealism and realism as well as less conventional ones including those related to environmental issues and cultural studies.</p>						
評価方法	<p>Participation in discussion 20%, presentations 35%, and final test (written exam) 45%. なお、評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。</p>						
履修条件・注意事項	<p>履修条件: 授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件であるので留意すること。Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.</p>						
自己学習	<p>受講生の予習(30時間)と復習(30時間)のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.</p>						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. Introduction 2. Studying International Relations 3. Diplomacy and Foreign policy 4. Actors and Agencies in IR 5. Idealism, Realism, Behavioralism 6. Neoliberalism in IR 7. Interpretations of power in IR 8. Conflicts and peace in IR 9. Conventional notion of security 10. Environmental issues and IR 11. Cultural perspectives to IR 12. Social movements and IR 13. Human rights approach to IR 14. Applying hermeneutics to IR 15. Concluding discussion 16. Final test			lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture lecture test	Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö Merviö
教科書 1	Introduction to International Relations: Theories and Approaches 著者: Robert Jackson & Georg Sorensen 出版社: Oxford University Press ISBN: 978-0198707554						
教科書 2							
参考書 1	The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations 著者: John Baylis, et al. 出版社: Oxford University Press ISBN: 978-0199656172						
参考書 2							

授業科目名	国際政治経済学			履修期	2020年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-3-405	
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	国際政治経済学(International Political Economy通称IPE)に関する基礎的な理論をサーベイし、専門用語も含んだ英語による当該分野の理解力を深める。また、国際情勢について英語で議論できるよう、基礎的な知見を身につけ英語で専門性の高いディスカッションをうまくこなせるようになることを目指す。						
概要	<p>現在の国際政治経済学の理論をまず、キーワードをもとに理解し、それらを英語でディスカッションをすることにより学習する。そのうえで、現在話題になっている国際政治経済情勢をいくつか事例として取り上げ、それぞれの課題に対する理解を深める。そして、それらの解決策などをグループディスカッションで探っていく。また、英語でのプレゼンテーションを行い、高度な表現力とディベート能力を養う。多角的に国際政治経済情勢を分析できるようになることを目指す。</p> <p>実務経験教員：本講義の担当教員は、国際協力機構JICAで長年勤務し、プロジェクトの計画実施においては、国際政治経済情勢の分析をこなしている。JICA勤務の間、外務省、大使館、経済開発協力機構OECDに出向勤務を通じて、情勢分析、二国間・多国間外交交渉の経験を積んでいる。</p>						
評価方法	クラスディスカッション&プレゼンテーション50% レポート(英語)50%						
履修条件・注意事項	特になし。						
自己学習	英字新聞や英語ニュースなどで時事問題をフォローする。						
オフィスワ-	1号棟1階の個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーとします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
第1回～第5回 1. 政治思想基本 (ア)保守主義とリベリズム (イ)大きい政府と小さい政府 (ウ)リアリストとリベリストの違い 2. 「文明の衝突」 (ア)国家と宗教の関係 (イ)アメリカ大統領選挙 (ウ)反米 (エ)ISISとイスラム過激派 3. グループディスカッションとプレゼンテーション	講義・AL	畝					
第6回～第10回 1. グローバル化と世界経済 (ア)欧州連合と英国の離脱(BEXIT) (イ)TPP (ウ)世界から見るアベノミクス 2. BRICSと開発途上国 (ア)BRICSと中国の台頭 (イ)アジアと中所得者の畏 (ウ)アフリカとTICAD 3. グループディスカッションとプレゼンテーション	講義・AL	畝					
第11回～第14回 1. 地球環境問題とSDGs (ア)COP21とUN SDGs (イ)北極問題 2. ソフトパワー (ア)公共外交と科学技術外交 3. グループプレゼンテーション・ディベート	講義・AL	畝					
第15回 単位認定試験	レポート試験	畝					
教科書 1							
教科書 2							

参考書 1	
参考書 2	

授業科目名	ソーシャル・ディベロップメント			履修期	2020年度 春学期		
担当者	橋本 由紀子					NO.	FS-FS-3-503
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	<p>目的: 社会開発の定義を明確にし、これまでの貧困削減アプローチ(人的資本論、BHN,人間開発論)との違いや共通点を明確にできるようにする。 社会開発論のキーワードである、住民参加型、人間中心、オーナーシップ、内発的發展 などの用語を十分理解し、実際にどのような具体的なアプローチがあるのかを提案できるようにする。 Mainly this year focuses on Sustainable Development Goals by UNDP. The students learn about the Goals and suggest possible methods to achieve each goal. All English class.</p>						
概要	<p>初めに資料を提示し、その後は参加学生が調べたことを発表し、参加型方式を基本とする。 医療、保険、福祉、教育、ジェンダー、水と環境等の分野で社会開発の実践を参考に方法論を学び、各自で学んだことや疑問点をクラスで投げかけ討論する。 We learn according to the information down loaded from UNDP sustainable Development goals URL and we discuss each goals and strategies.</p>						
評価方法	<p>自発的発表30% 授業内での活発な討論への参加20%、レポート20% 定期試験30% 総合的に評価する。 自分の発表時に休んだり、発表レジメを提出できない場合はマイナス10点、良い発表を行った場合はプラス10点を加点する。 The students are required to make a presentation on world organizations.</p>						
履修条件・注意事項	<p>自主的に発表をしていただく、毎回簡単な小レポートを提出していただく、5回以上休むと受講資格なし 次回に取り扱うテーマについて各自調べておき、質問を1つ以上考え準備しておく。次回に前回の重要点を質問するので復習し理解しているかを確認しておく。発表時に欠席したり、発表レジメの提出がない場合は10点マイナスする。 Basically the discussions are required to be done in English.</p>						
自己学習	<p>予習として、各授業計画に記載されている項目について事前に資料を収集、読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出すること 予習復習として最低限1時間ずつはついでやすこと</p>						
オフィスアワー	Wednesday 2nd period and any lunch time at my office.						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション(Orientation) Social Development issues(社会開発の分野) 2. sustainable development goals UN 国連の持続可能な開発計画 3. SDGs 1 (no poverty) 貧困撲滅と方法 4. SDGs2(No hunger 飢餓ゼロ)と人間開発理論と指数 5. SDGs3 good health and well being (健康と福祉) 6. SDGs4 quality Education, 7. SDGs 5 gender equality and some index 8. SDGs 6 clean water and sanitation 9. SDGs 7 Affordable and Clean Energy discussion nuclear vs renewable energy 10. SDGs 8 Decent Work and Economic Growth 11. presentation on world organisations 12. SDGs9 Industry, Innovation and Infrastructure 13. reduced inequality SDGs 10 jini- coefficient 14. SDGs13 climate action & environment 15. 定期試験	1. discussion 2. seminar 3. seminar 4. seminar 5. seminar 6. seminar 7. seminar 8. seminar 9. presentation 10. seminar 11. seminar 12. presentation 13. presentation 14. seminar 15. test	1 橋本 2 橋本 3 橋本 4 橋本 5 橋本 6 橋本 7 橋本 8 橋本 9 橋本 10 橋本 11 橋本 12 橋本 13 橋本 14 橋本 15 橋本					
教科書 1	Sustainable Development Goals (Millenium Development Goals 2015) 著者:United Nations Development Programme http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/ 出版社: United nations 2015 Time for Global Action						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	多文化教育論				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	秀 真一郎					NO.	FS-FS-3-606
配当学科	外国			年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
テーマと到達目標	Goals: This course focuses on the meanings of Multicultural Education for children. It is more popular to meet multicultural situation in Japan. That means we need to think about the similarities and differences between our culture and others. We will find this course the knowledge of Multicultural Education and how important to provide Multicultural Education to children. Theme: Multicultural understandings and Educational effects for children						
概要	The American multicultural situation would be very helpful to understand it. Therefore, we will meet multicultural education in American school situations, and study the meaning of multicultural education. Then, we will think how we should understand multicultural education in Japan through activities and group discussion.						
評価方法	Semester final examination : 40%, Presentation: 40%, Participation : 20% In each practice, I will give evaluation feedback to your contents. Therefore, you would better take it for your understanding.						
履修条件・注意事項	Students will be encouraged to communicate in English, take a positive attitude. Be free to speak out what you think in a lecture's topic. Students will meet many different thoughts, so take them into yourself and know what is your thoughts.						
自己学習	Students will need not only knowledge but also theory about your own Multicultural Education. Before taking each lesson, students will need study and understand the topic. After a lesson, students will need to take back what the lecture's main point is, and understand what you got and didn't get. Before and after lessons, it would take 2hours each for understanding contents.						
オフィスアワー	30 minutes before each lecture, and 30 minutes after each lecture.						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			SESSION 01: Course introduction (What is the Culture?)			Lecture	Hide
			SESSION 02: Goals and Misconceptions			Lecture	Hide
			SESSION 03: Citizenship Education and Diversity in a Global Age			Lecture	Hide
			SESSION 04: Dimensions and School Characteristics			Lecture	Hide
			SESSION 05: Curriculum Transformation			Lecture	Hide
			SESSION 06: Knowledge Construction and Curriculum Reform			Lecture	Hide
			SESSION 07: Knowledge Components			Lecture	Hide
			SESSION 08: Teaching with Powerful Ideas			Lecture	Hide
			SESSION 09: School Reform and Intergroup Education			Lecture	Hide
			SESSION 10: Multicultural Benchmarks			Lecture	Hide
			SESSION 11: Practice: Comparing New Year's ceremony in different countries			Practice	Hide
			SESSION 12: Practice: National Flag			Practice	Hide
			SESSION 13: Practice: Language differences			Practice	Hide
			SESSION 14: Practice: Multicultural Education Evaluation Checklist			Practice	Hide
			SESSION 15: Conclusion: What does Multicultural Education mean for children?			Lecture	Hide
			Final exam			Exam	Hide
教科書 1	Give handouts appropriately						
教科書 2							
参考書 1	An Introduction to Multicultural Education 5th edition 著者: James A. Banks 出版社: Pearson Education, Inc.						
参考書 2	Lessons from Abroad: How Other Countries Educate Their Children 著者: Richard P. McAdams 出版社: Technomic Publishing Company, Inc.						

授業科目名	人間行動研究演習			履修期	2020年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-4-607	
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	人間はいつも同じ事をしているわけではなく、行動は変化し発達する。ヒトの行動はその周囲の状況と深く関わっている。人間と環境の出会いに創発する行動という出来事を追うためには、周囲を含めて人間のふるまいをとらえる観察が必要となる。本演習では近年の行動科学、認知科学の知見を概観的に学ぶ。その上で、グループワークを通して、実社会で活用できる、人間の行動について研究する方法を学ぶ。						
概要	人間はいつも同じ事をしているわけではなく、行動は変化し発達する。なぜ、人間は特定の行動をとるのであろうか？なぜ、個人ではないことを、グループとなると行動してしまうのか？そして、時代と共に、環境変化に応じて、人間の行動変容もおきる。これらの原因は何であるのかを、事例毎に検証していく。 人間の行動はその周囲の状況と深く関わっている。人間と環境の出会いに創発する行動という出来事を追うためには、周囲を含めて人間のふるまいをとらえる観察が必要となる。本演習では近年の行動科学、認知科学の知見を概観する。特定テーマに関し、受講者でロールプレイなどをグループワークを通して行う。それらを通じて、人間行動研究に必要な方法を具体的に指導する。						
評価方法	レポートや課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。参加態度も評価となるので注意すること。専門科目の演習であるので、課題に基づく発表を特に評価する。最終評価は、学期末に提出する理解度を確認するためのレポート(30%)、課題に基づく発表(40%)、毎回の授業参加度(20%)、授業態度(10%)に基づき総合的に判断します。レポート、授業での発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
履修条件・注意事項	本講義はすべて英語で行われること。 予習課題については授業時に提示されるので、担当教員の指示に従うこと。						
自己学習	授業に出席するだけでは単位を取得するための十分な学修とはいえません。 そのため、1)指定する参考書、資料を事前に読み込み、自分の考えをまとめておくこと、2)指示に従って、必ずノートを取り、その内容を復習をすること、3)レポートを最後に提出してもらうので、予習復習を怠らず、準備すること。 なお、基本的な概念などは、日本語の参考図書、資料を読み込んで理解に努めること。 目安として、予習・復習には、最低各2時間が必要です。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日3限目、4限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
4月はじめに担当教員から詳細な授業計画を聞いて下さい。 1. 人間はなぜ行動する？ 2. 自然科学的アプローチ 3. 生態学・動物学の視点 4. 生態学・動物学の研究手法 5. 研究論文を読んでみる(1) 6. 研究論文を読んでみる(2) 7. 社会科学的アプローチ 8. 心理学の視点(a) 9. 行動分析学の研究手法 10. 論文を読んでみる(3) 11. 論文を読んでみる(4) 12. 心理学の視点(b) 13. 社会心理学の研究手法 14. 論文を読んでみる(5) ふりかえり 15. 単位認定試験	1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習 14. 演習 15. レポート	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝					
教科書 1	担当教員がその都度参考図書の指定をし、予習資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	人間学習研究演習			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-4-608
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	人間の学習は、何か特定の断片的な知識の獲得というよりは、さまざまな場面において状況を柔軟に探索することを学ぶ、つまり、「学ぶことを学ぶ」という側面をもつ。 このような学習プロセスには、さまざまな要素がきわめて複雑に絡み合っている。本演習では近年の学習心理学、発達心理学の知見の概略を学ぶ。簡易な実験、グループワークを通して、人間の学習について多面的な研究をする方法を学ぶ。						
概要	人間の学習は、究極的には、「学ぶことを学ぶ」learn to learnである。一般論としては、そのとおりであるが、具体的にはどういうことなのか、それを、最近の学習心理学、発達心理学などの研究成果を読み解くことにより、人間の学習の環境、メカニズム、インパクトなどを受講生が学ぶことになる。 人間の学習に関する一般的な言説は、科学的な研究によれば、合理的なのか、どうか。研究論文を読んでみることにより、担当教員の指導の下、受講生が考察を進める。基本的な概念、理論などは、担当教員が配付資料を基に講義を行ない、理解を醸成する。また、研究倫理に関するガイダンスも行う。 授業では、論文毎に受講生をアサインし、受講生は自分の担当論文を読み、その論文の目的、方法、結果、考察をPPTスライド数枚(またはA4版1頁)にとりまとめて授業で発表を行う。その発表をもとにグループディスカッションを行う。						
評価方法	レポートや課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。参加態度も評価となるので注意すること。この授業は専門科目の演習であるため、課題に基づく発表を特に評価する。最終評価は、年度末に提出する理解度を確認するためのレポート(30%)、課題に基づく発表(40%)、毎回の授業参加度(20%)、授業態度(10%)に基づき総合的に判断します。 レポート、授業での発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
履修条件・注意事項	本演習はすべて英語で行われること。 予習課題については授業時に提示されるので、担当教員の指示に従うこと。						
自己学習	授業に出席するだけでは単位を取得するための十分な学修とはいえません。 そのため、1)指定する参考書、資料を事前に読み込み、自分の考えをまとめておくこと、2)指示に従って、必ずノートを取り、その内容を復習をすること、3)レポートを最後に提出してもらうので、予習復習を怠らず、準備すること。 なお、基本的な概念などは、日本語の参考図書、資料を読み込んで理解に努めること。 目安として、予習・復習には、最低各2時間が必要です。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			10月はじめに担当教員から詳細な授業計画を聞いて下さい。 1. 人間の学習とは？ 2. 学習理論(1) 3. 学習理論(2) 4. 研究論文を読んでみる(1) 5. 研究論文を読んでみる(2) 6. 研究論文を読んでみる(3) 7. 発達理論 8. 研究論文を読んでみる(4) 9. 研究論文を読んでみる(5) 10. 研究論文を読んでみる(6) 11. 教育経済学 12. 研究論文を読んでみる(7) 13. 研究論文を読んでみる(8) 14. 経営学における学習 15. 研究論文を読んでみる(9) ふりかえり 16. 単位認定試験			1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習 14. 演習 15. 演習 16. レポート	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝
教科書 1	担当教員がその都度参考図書の指定をし、予習資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	中室牧子『「学力」の経済学』 出版社: ディスカバー・トゥエンティワン						
参考書 2							

授業科目名	ポスタープレゼンテーション			履修期	2020年度 春学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-4-609	
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	スタディ・アブロードやインターンシップなどで自ら体験した問題や課題を、図表やマトリックスなどを活用しビジュアル化する技術を学ぶ。ポスターセッションで使う発表用ポスターを作ることを通じて、プレゼンテーションの構造や論理構成を学ぶ。						
概要	研究成果を英語で発表することは重要な経験である。発表においては効果的な発表技術があり、これを習得することは学会発表のみならず、様々な場面で有用となる。実社会においては、効果的な発表技術を有する人材が求められている。この授業では、ポスターセッションを中心にプレゼンテーションの構造や論理構成を理解した上で、スタディ・アブロード、インターンシップなどで自ら体験した問題や課題を理解した上で、図表やマトリックスなどを活用しビジュアル化し、実際に発表ポスターを作成する。春学期においては、卒業論文の執筆を秋学期に行うことを前提として、卒業論文研究の研究計画を作成し、それを発表ポスターにとりまとめる。そして、ポスターを使って、研究計画の発表を行う。						
評価方法	課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。最終評価は、発表ポスターの作成過程(50%)、ポスター発表(30%)、毎回の授業参加度(20%)に基づき総合的に判断します。提出課題、ポスター発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
履修条件・注意事項	この授業はすべて英語で行われること。 各自の研究内容に応じて、参考図書、論文などを指定する。進捗状況の報告、相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。 プレゼンテーションの英語は、英語教員の協力を得て、チェックを怠らないこと。						
自己学習	各自の研究テーマにしたがって、計画的にポスター作成の準備を行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日3限目、4限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
4月はじめに担当教員から詳細な授業計画を聞いて下さい。 1. 授業計画、研究とは？ 2. 発表事例(1) 3. 発表事例(2) 4. 個別研究指導 5. 個別研究指導 6. 個別研究指導 7. 個別研究指導 8. 中間発表 9. 個別研究指導 10. 個別研究指導 11. 個別研究指導 12. 個別研究指導 13. 個別研究指導 14. 個別研究指導 15. 研究計画ポスター発表	1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習 14. 演習 15. 試験	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝					
教科書 1	担当教員が受講生の研究内容に応じ参考図書の指定をし、予習資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション』 著者:酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』 出版社:中公新書 ISBN:共立出版						
参考書 2	木下是雄『理科系の作文技術』 出版社:中公新書						

授業科目名	ポスタープレゼンテーション			履修期	2020年度 春学期		
担当者	池上 真由美				NO.	FS-FS-4-609	
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	スタディ・アブロードやインターンシップなどで自ら体験した問題や課題を、図表やマトリックスなどを活用しビジュアル化する技術を学ぶ。ポスターセッションで使う発表用ポスターを作ることを通じて、プレゼンテーションの構造や論理構成を学ぶ。						
概要	研究成果を英語で発表することは重要な経験である。発表においては効果的な発表技術があり、これを習得することは学会発表のみならず、様々な場面で有用となる。実社会においては、効果的な発表技術を有する人材が求められている。この授業では、ポスターセッションを中心にプレゼンテーションの構造や論理構成を理解した上で、スタディ・アブロード、インターンシップなどで自ら体験した問題や課題を理解した上で、図表やマトリックスなどを活用しビジュアル化し、実際に発表ポスターを作成する。春学期においては、卒業論文の執筆を秋学期に行うことを前提として、卒業論文研究の研究計画を作成し、それを発表ポスターにとりまとめる。そして、ポスターを使って、研究計画の発表を行う。						
評価方法	課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。最終評価は、発表ポスターの作成過程(50%)、ポスター発表(30%)、毎回の授業参加度(20%)に基づき総合的に判断します。提出課題、ポスター発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
履修条件・注意事項	この授業はすべて英語で行われること。 各自の研究内容に応じて、参考図書、論文などを指定する。進捗状況の報告、相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。 プレゼンテーションの英語は、英語教員の協力を得て、チェックを怠らないこと。						
自己学習	各自の研究テーマにしたがって、計画的にポスター作成の準備を行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、火曜日3限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
4月はじめに担当教員から詳細な授業計画を聞いて下さい。 1. 授業計画、研究とは？ 2. 発表事例(1) 3. 発表事例(2) 4. 個別研究指導 5. 個別研究指導 6. 個別研究指導 7. 個別研究指導 8. 中間発表 9. 個別研究指導 10. 個別研究指導 11. 個別研究指導 12. 個別研究指導 13. 個別研究指導 14. 個別研究指導 15. 研究計画ポスター発表	1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習 14. 演習 15. 試験	池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上					
教科書 1	担当教員が受講生の研究内容に応じ参考図書の指定をし、予習資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション』 著者:酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』 出版社:中公新書 ISBN:共立出版						
参考書 2	木下是雄『理科系の作文技術』 出版社:中公新書						

授業科目名	ポスタープレゼンテーション				履修期	2020年度 春学期	
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス				NO.	FS-FS-4-609	
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	スタディ・アブロードやインターンシップなどで自ら体験した問題や課題を、図表やマトリックスなどを活用しビジュアル化する技術を学ぶ。ポスターセッションで使う発表用ポスターを作ることを通じて、プレゼンテーションの構造や論理構成を学ぶ。						
概要	研究成果を英語で発表することは重要な経験である。発表においては効果的な発表技術があり、これを習得することは学会発表のみならず、様々な場面で有用となる。実社会においては、効果的な発表技術を有する人材が求められている。この授業では、ポスターセッションを中心にプレゼンテーションの構造や論理構成を理解した上で、スタディ・アブロード、インターンシップなどで自ら体験した問題や課題を理解した上で、図表やマトリックスなどを活用しビジュアル化し、実際に発表ポスターを作成する。春学期においては、卒業論文の執筆を秋学期に行うことを前提として、卒業論文研究の研究計画を作成し、それを発表ポスターにとりまとめる。そして、ポスターを使って、研究計画の発表を行う。						
評価方法	課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。最終評価は、発表ポスターの作成過程(50%)、ポスター発表(30%)、毎回の授業参加度(20%)に基づき総合的に判断します。提出課題、ポスター発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
履修条件・注意事項	この授業はすべて英語で行われること。 各自の研究内容に応じて、参考図書、論文などを指定する。進捗状況の報告、相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。 プレゼンテーションの英語は、英語教員の協力を得て、チェックを怠らないこと。						
自己学習	各自の研究テーマにしたがって、計画的にポスター作成の準備を行うこと。						
オフィスワ-	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
4月はじめに担当教員から詳細な授業計画を聞いて下さい。 1. 授業計画、研究とは？ 2. 発表事例(1) 3. 発表事例(2) 4. 個別研究指導 5. 個別研究指導 6. 個別研究指導 7. 個別研究指導 8. 中間発表 9. 個別研究指導 10. 個別研究指導 11. 個別研究指導 12. 個別研究指導 13. 個別研究指導 14. 個別研究指導 15. 個別研究指導 16. 研究計画ポスター発表	1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習 14. 演習 15. 演習 16. 試験	MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ					
教科書 1	担当教員が受講生の研究内容に応じ参考図書の指定をし、予習資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション』 著者:酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』 出版社:中公新書 ISBN:共立出版						
参考書 2	木下是雄『理科系の作文技術』 出版社:中公新書						

授業科目名	卒業プレゼンテーション			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	畝 伊智朗				NO.	FS-FS-4-610	
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	この授業は、卒業論文を書き、そのプレゼンテーションを行うもの。 春学期のポスタープレゼンテーションで作成した研究計画をもとに研究を進め、1) 卒業論文を書き、提出すること、2) その研究成果を発表するPPTスライドを作成すること、3) 学内の発表会で、卒業研究の成果をPPTをもとに発表することである。						
概要	受講学生がスタディ・アブロード、インターンシップ、英語専攻の専門科目などを通じて見出した問題や課題をテーマとして卒業論文(英語10頁以上を目安)を作成し、英語による成果発表を行う。研究成果を発表する機会を2回設け、ポスタープレゼンテーションで学修した発表技術をもとに、英語で研究発表を行う。英語で自らの見解や議論を明確に伝達、説明する力を身につけ、卒業論文を英語で発表できるまでを指導する。						
評価方法	課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。最終評価は、卒業論文の作成過程(50%)、卒業論文の発表(30%)、毎回の授業参加度(20%)に基づき総合的に判断します。提出課題、卒業論文、その発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
履修条件・注意事項	この授業はすべて英語で行われる。 各自の研究内容に応じて、参考図書、論文などを指定する。進捗状況の報告、相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。 卒業論文の英語は、英語教員の協力を得て、チェックを怠らないこと。						
自己学習	各自の研究テーマにしたがって、計画的に研究を行い、卒業論文の執筆を行うこと。論文執筆にあわせ、発表用PPTの作成も行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			10月はじめに担当教員から詳細な授業計画を聞いて下さい。 1. 論文とは？執筆計画 2. 英語論文を読む(1) 3. 英語論文を読む(2) 4. 個別指導 5. 個別指導 6. 個別指導 7. 中間発表 8. 個別指導 9. 個別指導 10. 個別指導 11. 個別指導 12. 個別指導 13. プレ最終発表 14. 個別指導 15. 個別指導 16. 卒業論文発表	1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習 14. 演習 15. 演習 16. 試験	畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝 畝		
教科書 1	担当教員が受講生の研究内容に応じ参考図書の指定をし、参考資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション』 著者:酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』 出版社:中公新書 ISBN: 共立出版						
参考書 2	木下是雄『理科系の作文技術』 出版社:中公新書						

授業科目名	卒業プレゼンテーション			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	池上 真由美				NO.	FS-FS-4-610	
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	この授業は、卒業論文を書き、そのプレゼンテーションを行うもの。 春学期のポスタープレゼンテーションで作成した研究計画をもとに研究を進め、1) 卒業論文を書き、提出すること、2) その研究成果を発表するPPTスライドを作成すること、3) 学内の発表会で、卒業研究の成果をPPTをもとに発表することである。						
概要	受講学生がスタディ・アブロード、インターンシップ、英語専攻の専門科目などを通じて見出した問題や課題をテーマとして卒業論文(英語10頁以上を目安)を作成し、英語による成果発表を行う。研究成果を発表する機会を2回設け、ポスタープレゼンテーションで学修した発表技術をもとに、英語で研究発表を行う。英語で自らの見解や議論を明確に伝達、説明する力を身につけ、卒業論文を英語で発表できるまでを指導する。						
評価方法	課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。最終評価は、卒業論文の作成過程(50%)、卒業論文の発表(30%)、毎回の授業参加度(20%)に基づき総合的に判断します。提出課題、卒業論文、その発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
履修条件・注意事項	この授業はすべて英語で行われる。 各自の研究内容に応じて、参考図書、論文などを指定する。進捗状況の報告、相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。 卒業論文の英語は、英語教員の協力を得て、チェックを怠らないこと。						
自己学習	各自の研究テーマにしたがって、計画的に研究を行い、卒業論文の執筆を行うこと。論文執筆にあわせ、発表用PPTの作成も行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、火曜日3限目をオフィスアワーにします。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			10月はじめに担当教員から詳細な授業計画を聞いて下さい。 1. 論文とは？執筆計画 2. 英語論文を読む(1) 3. 英語論文を読む(2) 4. 個別指導 5. 個別指導 6. 個別指導 7. 中間発表 8. 個別指導 9. 個別指導 10. 個別指導 11. 個別指導 12. 個別指導 13. プレ最終発表 14. 個別指導 15. 個別指導 16. 卒業論文発表			1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習 14. 演習 15. 演習 16. 試験	池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上 池上
教科書 1	担当教員が受講生の研究内容に応じ参考図書の指定をし、参考資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション』 著者: 酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』 出版社: 中公新書 ISBN: 共立出版						
参考書 2	木下是雄『理科系の作文技術』 出版社: 中公新書						

授業科目名	卒業プレゼンテーション			履修期	2020年度 秋学期		
担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス				NO.	FS-FS-4-610	
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	この授業は、卒業論文を書き、そのプレゼンテーションを行うもの。 春学期のポスタープレゼンテーションで作成した研究計画をもとに研究を進め、1) 卒業論文を書き、提出すること、2) その研究成果を発表するPPTスライドを作成すること、3) 学内の発表会で、卒業研究の成果をPPTをもとに発表することである。						
概要	受講学生がスタディ・アブロード、インターンシップ、英語専攻の専門科目などを通じて見出した問題や課題をテーマとして卒業論文(英語10頁以上を目安)を作成し、英語による成果発表を行う。研究成果を発表する機会を2回設け、ポスタープレゼンテーションで学修した発表技術をもとに、英語で研究発表を行う。英語で自らの見解や議論を明確に伝達、説明する力を身につけ、卒業論文を英語で発表できるまでを指導する。						
評価方法	課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。最終評価は、卒業論文の作成過程(50%)、卒業論文の発表(30%)、毎回の授業参加度(20%)に基づき総合的に判断します。提出課題、卒業論文、その発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
履修条件・注意事項	この授業はすべて英語で行われる。 各自の研究内容に応じて、参考図書、論文などを指定する。進捗状況の報告、相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。 卒業論文の英語は、英語教員の協力を得て、チェックを怠らないこと。						
自己学習	各自の研究テーマにしたがって、計画的に研究を行い、卒業論文の執筆を行うこと。論文執筆にあわせ、発表用PPTの作成も行うこと。						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			10月はじめに担当教員から詳細な授業計画を聞いて下さい。 1. 論文とは？執筆計画 2. 英語論文を読む(1) 3. 英語論文を読む(2) 4. 個別指導 5. 個別指導 6. 個別指導 7. 中間発表 8. 個別指導 9. 個別指導 10. 個別指導 11. 個別指導 12. 個別指導 13. プレ最終発表 14. 個別指導 15. 個別指導 16. 卒業論文発表	1. 演習 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習 9. 演習 10. 演習 11. 演習 12. 演習 13. 演習 14. 演習 15. 演習 16. 試験	MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ MERVIÖ		
教科書 1	担当教員が受講生の研究内容に応じ参考図書の指定をし、参考資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1	黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション』 著者:酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』 出版社:中公新書 ISBN: 共立出版						
参考書 2	木下是雄『理科系の作文技術』 出版社:中公新書						

授業科目名	国際ビジネス実習				履修期	2020年度 春学期			
担当者	長光 正明、高木 秀明					NO.	FS-FS-3-507		
配当学科	外国学科				年次	3			
必修・選択	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	実習		
テーマと到達目標	国際ビジネスの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、国際ビジネスの意義や役割について理解するとともに、国際ビジネスに必要な創造的な能力と実践的なスキルを育てることを目標とする。本科目では国際ビジネスにおける、モノの国際間移動に係る貿易を中心とする。								
概要	国際ビジネスの企業人として必要な基礎的・実践的な課題を考察しながら、アクティブラーニング(AL)の実践として課題解決型学習(PBL)方法による各課題に対する解決について、グループ演習を主体とした授業を行う。								
評価方法	課題解決型学習における参加態度や参加頻度及び授業出席(70%)、修得知識の確認試験(30%)で評価する。								
履修条件・注意事項	授業にはPCを使用します。								
自己学習	毎回出す課題について、講師のWEBサイト(最初の授業時に説明する)にアップしているので、授業の予習・復習を各2時間程度してくること。								
オフィスアワー	火曜日2時限、1号棟1階114研究室で実施。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
第1回 貿易と国際売買取引 第2回 国内取引と国際取引の違い 第3回 貿易取引の全体像 第4回 輸出入の定義:関税法 第5回 貿易取引の形態:直接貿易と間接貿易 販売店と販売代理店 第6回 国際取引の輸送 第7回 国際取引の梱包 第8回 国際取引の引渡場所と価格体系 第9回 国際取引の決済と仕組み 第10回 国際取引の貨物保険 第11回 貿易取引契約を律する法律 第12回 英文価格表の構成とHSコード 第13回 船積書類ーインボイスと梱包明細書 第14回 船積書類ー保険証券 第15回 船積書類ー船荷証券 第16回 単位認定試験 第17回 QC活動と品質マネジメント 第18回 ABC分析の実習 第19回 回帰分析の実習 第20回 レーダーチャートとZグラフの実習			ALとしてPBLを採り入れた講義と演習	1-16回:長光正明 17-20回:高木秀明					
教科書 1	使用しない。講師のWEBサイトを利用する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	グローバル人材論				履修期	2020年度 秋学期		
担当者	畝 伊智朗					NO.	FS-FS-3-510	
配当学科	外国				年次	3		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	
テーマと到達目標	この講義では、どこでも活躍できる「グローバルな人材となること」をテーマとする。そもそも、グローバル人材とは何か？どのような資質、資格、経験を持った人材のことなのであろうか？どのような学修、経験を積みばそのような人材になれるのであろうか。多角的に学修を進める。いくつかの分野で活躍している「グローバル人材」を外部講師として招聘し、いろいろな角度から講義をしてもらい、それをもとに全体ディスカッションを行なう。これらを通じて、自分なりのグローバル人材の姿を持つことを目標とする。また、英文履歴書が書けるようになる。							
概要	<p>グローバル人材に関しては、さまざまな考え、見方、理解がなされており、概念が確立していない用語であることは間違いがない。グローバル人材と一般的に見做される人たちは、自分たちのことをそのように呼ばれることに違和感を覚えている。なぜ、そのような違和感を覚えるのか、などに関し、教員の講義とそれに基づく学生間でのディスカッションを進めることにより、理解を深める。外部講師の講義とそれに基づくディスカッションも多角的な理解を進める上で、重要となる。グローバルに活躍できる人材とは何か、この授業を通じて常に考えてもらう。</p> <p>実務経験教員：担当教員は、35年間、国際協力機構で勤務をし、その間、外務省、大使館、国際機関勤務の経験もしているグローバル人材である。また、招聘する外部講師は特定分野で秀でた海外経験などを有する人材である。</p>							
評価方法	各回の講義で実施するミニ・テストの結果(30点)、ディスカッションの参加度・発表(40点)、最終レポートの内容(30点)を総合して評価する。							
履修条件・注意事項	講義を聴き、ディスカッションに積極的に参加すること。新聞、テレビ、WEB情報などを通じて、グローバルに活躍できる人材とは何か、常に考えてもらいたい。次の授業までに調べる課題を出したりするので、教員の指示に従って準備すること。指定され垂読むべき図書については授業前に読んでくること。講義の詳細は、第1回目授業において説明する。							
自己学習	復習を重視する。授業後、配付資料を読み返したり、ディスカッションの結果を振り返り、理解を深めること。復習には最低2時間必要。自分の関心に従い、グローバル人材と見做される人たちの自伝や著作を読むこと。							
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて、金曜日5限目をオフィスアワーとします。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
			<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル人材とは？ 2. グローバル人材を調べる 3. 調査結果のプレゼンテーション 4. JICAボランティア 5. JICAボランティア(2) 6. 英文履歴書を書いてみよう 7. グローバルに働くとは？ 8. 開発コンサルタントの仕事 9. 国際協力専門家の仕事 10. 国際機関で働く 11. 商社など海外業務 12. 地元での就職を考える 13. 地域おこし 14. 地域おこし(2) 15. グローバル人材再考 16. 単位認定試験 			講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL 講義・AL レポート試験	畝 畝 畝 外部講師 外部講師 畝 畝 外部講師 外部講師 講義・AL 外部講師 外部講師 畝 外部講師 外部講師 外部講師 外部講師 畝	
教科書 1	資料を配付する。必要に応じて図書を指定する。							
教科書 2								
参考書 1								
参考書 2								

授業科目名	インターンシップⅡ				履修期	2020年度 春学期			
担当者	大下 浩司					NO.	FS-FS-3-703		
配当学科	外国				年次	3			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	実習		
テーマと到達目標	就業体験を通じて企業が大学生に求めるスキルを身につけることをテーマとして、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を養うことを到達目標とする。								
概要	<p>本学が協定を結んだ企業・企業団体において就業体験をする。事前指導・実習・事後指導では、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の意味を考え解釈し、それらを実践できるように心掛ける。</p> <p>※実務経験のある教員による授業 この科目は、企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>								
評価方法	実習担当者の評価(80%)と事前事後指導の評価(20%)をもとに評定する。								
履修条件・注意事項	インターンシップⅠの単位修得者のみ履修できる。インターンシップⅡの履修方法は実習先によって異なる。これについては別途周知する。指定されたスケジュールに遅刻・欠席することなく出席すること。課題の提出は締め切りの期日を守ること。受講態度によっては中断することもある。								
自己学習	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。								
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。								
春学期授業計画			授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
事前指導(担当者:大下浩司) 受講生の興味や適性に基づき実習先を決定し、受講生自らが実習先の企業について調べレポートにまとめる。実習中の心構え等についても指導する。 実習(担当者:実習先の担当者) 実習担当者の指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。 事後指導(担当者:大下浩司) 受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考えレポートにまとめる。報告会にて発表する。 実習先と実習期間 実習先は本学が協定を結んだ企業・企業団体とし、インターンシップⅡでは倉敷路地市庭または協定企業(10日間)の実習または2か所の協定企業(5日間)の実習とする。					春学期授業計画を参照				
教科書 1	実習ノートおよび資料を配布する。								
教科書 2									
参考書 1									
参考書 2									

授業科目名	卒業研究 I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	大下 朋子					NO.	FS-FS-4-809
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科では、留学、インターンシップ、本専攻の専門科目を通して感動、関心をもったことをテーマ設定し、先行研究や論文などを調査し、成果を卒業論文にまとめる。卒業研究 I では、各自のテーマを決定する。また、そのテーマに沿って、論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定を行う。調査を必要とする場合には質問紙法、面接法、参与観察法などから適切な方法を選定しなければならない。研究の一連の過程を経験することで、問題発見力、主体的に解決する行動力、論理的思考、問題解決力、実社会に有用なスキル等を習得する。						
概要	受講生には、研究テーマを決定した上で、論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを講読し、レジュメにまとめ発表してもらう。研究のみならず、企業においても、文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書く力が必要となるだろう。本演習では、必要に応じて、課題文献の講読報告、グループディスカッション、グループワークなどを行う。受講生は互いに学び合い、様々な知識を共有しながら、卒業論文の完成を目指してもらいたい。						
評価方法	「卒業論文題目・計画書」の内容(40%)、計画書の発表(30%)、演習への参加態度(30%)で総合的に評価する。春学期は、卒業論文の執筆が秋学期に本格的に始まることを前提に、「卒業論文題目・計画書」を作成し、6月上旬に中間報告を行う。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した「卒業論文題目・計画書」は学期末に提出すること。本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。						
履修条件・注意事項	指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。各自の研究テーマに応じて、文献や資料を指定する。進捗状況の報告・相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。「卒業論文題目・計画書」は、本演習の成果物となるので、必ずゼミ担当の先生に見てもらい作成し、指示に従って提出すること。卒論の計画書や卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。						
自己学習	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスワ-	毎週火曜日4限目(1号棟2階 212研究室)						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 研究テーマの設定 3. 文献・資料の収集 4. 論文の構成 5. 卒業論文題目・計画書の作成 (1) 題目の決定 6. 卒業論文題目・計画書の作成 (2) 問題設定 7. 卒業論文題目・計画書の作成 (3) 論文執筆の手順 8. 卒業研究計画書の発表(中間報告) 9. 研究テーマの再設定 10. 課題文献の講読報告(1) 11. 課題文献の講読報告(2) 12. 模範的論文を読む(1) 13. 模範的論文を読む(2) 14. 卒業論文題目・計画書の見直し模範的論文を読む(3) 15. 卒業論文題目・計画書の提出		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	大下 大下 大下 大下 大下 大下 大下 全員 大下 大下 大下 大下 大下				
教科書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
参考書 2							

授業科目名	卒業研究 I			履修期	2020年度 春学期		
担当者	加藤 健次				NO.	FS-FS-4-809	
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科では、留学、インターンシップ、本専攻の専門科目を通して感動、関心をもったことをテーマ設定し、先行研究や論文などを調査し、成果を卒業論文にまとめる。卒業研究 I では、各自のテーマを決定する。また、そのテーマに沿って、論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定を行う。調査を必要とする場合には質問紙法、面接法、参与観察法などから適切な方法を選定しなければならない。研究の一連の過程を経験することで、問題発見力、主体的に解決する行動力、論理的思考、問題解決力、実社会に有用なスキル等を習得する。						
概要	受講生には、研究テーマを決定した上で、論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを講読し、レジュメにまとめ発表してもらおう。研究のみならず、企業においても、文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書く力が必要となるだろう。本演習では、必要に応じて、課題文献の講読報告、グループディスカッション、グループワークなどを行う。受講生は互いに学び合い、様々な知識を共有しながら、卒業論文の完成を目指してもらいたい。						
評価方法	「卒業論文題目・計画書」の内容(40%)、計画書の発表(30%)、演習への参加態度(30%)で総合的に評価する。春学期は、卒業論文の執筆が秋学期に本格的に始まることを前提に、「卒業論文題目・計画書」を作成し、6月上旬に中間報告を行う。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した「卒業論文題目・計画書」は学期末に提出すること。本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。						
履修条件・注意事項	指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。各自の研究テーマに応じて、文献や資料を指定する。進捗状況の報告・相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。「卒業論文題目・計画書」は、本演習の成果物となるので、必ずゼミ担当の先生に見てもらい作成し、指示に従って提出すること。卒論の計画書や卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。						
自己学習	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスワ-	毎週水曜日3限目(1号棟2階 123研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
1. オリエンテーション 2. 研究テーマの設定 3. 文献・資料の収集 4. 論文の構成 5. 卒業論文題目・計画書の作成 (1) 題目の決定 6. 卒業論文題目・計画書の作成 (2) 問題設定 7. 卒業論文題目・計画書の作成 (3) 論文執筆の手順 8. 卒業研究計画書の発表(中間報告) 9. 研究テーマの再設定 10. 課題文献の講読報告(1) 11. 課題文献の講読報告(2) 12. 模範的論文を読む(1) 13. 模範的論文を読む(2) 14. 模範的論文を読む(3) 15. 卒業論文題目・計画書の提出	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 全員 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤					
教科書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
参考書 2							

授業科目名	卒業研究 I				履修期	2020年度 春学期	
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-4-809
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科では、留学、インターンシップ、本専攻の専門科目を通して感動、関心をもったことをテーマ設定し、先行研究や論文などを調査し、成果を卒業論文にまとめる。卒業研究 I では、各自のテーマを決定する。また、そのテーマに沿って、論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定を行う。調査を必要とする場合には質問紙法、面接法、参与観察などから適切な方法を選定しなければならない。研究の一連の過程を経験することで、問題発見力、主体的に解決する行動力、論理的思考、問題解決力、実社会に有用なスキル等を習得する。						
概要	受講生には、研究テーマを決定した上で、論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを講読し、レジュメにまとめ発表してもらう。研究のみならず、企業においても、文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書く力が必要となるだろう。本演習では、必要に応じて、課題文献の講読報告、グループディスカッション、グループワークなどを行う。受講生は互いに学び合い、様々な知識を共有しながら、卒業論文の完成を目指してもらいたい。						
評価方法	「卒業論文題目・計画書」の内容(40%)、計画書の発表(30%)、演習への参加態度(30%)で総合的に評価する。春学期は、卒業論文の執筆が秋学期に本格的に始まることを前提に、「卒業論文題目・計画書」を作成し、6月上旬に中間報告を行う。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した「卒業論文題目・計画書」は学期末に提出すること。本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。						
履修条件・注意事項	指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。各自の研究テーマに応じて、文献や資料を指定する。進捗状況の報告・相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。「卒業論文題目・計画書」は、本演習の成果物となるので、必ずゼミ担当の先生に見てもらい作成し、指示に従って提出すること。卒論の計画書や卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。						
自己学習	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスワ-	1号棟1階個人研究室にて、火曜日2時限に実施する。						
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
1. オリエンテーション 2. 研究テーマの設定 3. 文献・資料の収集 4. 論文の構成 5. 卒業論文題目・計画書の作成(1) 題目の決定 6. 卒業論文題目・計画書の作成(2) 問題設定 7. 卒業論文題目・計画書の作成(3) 論文執筆の手順 8. 卒業研究計画書の発表(中間報告) 9. 研究テーマの再設定 10. 課題文献の講読報告(1) 11. 課題文献の講読報告(2) 12. 模範的論文を読む(1) 13. 模範的論文を読む(2) 14. 卒業論文題目・計画書の見直し 15. 卒業論文題目・計画書の提出		演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	高木 高木 高木 高木 高木 高木 全員 高木 高木 高木 高木 高木 高木				
教科書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
参考書 2							

授業科目名	卒業研究Ⅱ			履修期	2020年度 秋学期			
担当者	大下 浩司				NO.	FS-FS-4-810		
配当学科	外国			年次	4			
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	
テーマと到達目標	外国学科では、留学、インターンシップ、本専攻の専門科目を通して感動、関心をもったことをテーマ設定し、先行研究や論文などを調査し、成果を卒業論文にまとめる。卒業研究Ⅱでは、受講生は、卒業研究Ⅰにおいて設定した研究テーマについて、論文の書き方、発表の仕方、議論の運び方などを学ぶ。また、自らの見解や議論を簡潔に分かりやすく説明する力や論理的思考、問題解決力、実社会に有用なスキル等を習得できる。							
概要	卒業論文の執筆と同時並行して、口頭発表の方法や技法についても指導する。研究のみならず、企業においても、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、分かりやすい説明で発表したりする力が求められるだろう。実際に、日本と世界を取り巻く社会的問題と自己の生活の中にある諸問題とその解決を研究課題として理解し、図表やマトリックスなどを活用しながら、卒業論文を完成させる。本演習では、必要に応じて、課題文献の講読報告、グループディスカッション、グループワークなどを行う。受講生は互いに学び合い、様々な知識を共有しながら、卒業論文の完成を目指してもらいたい。							
評価方法	研究内容の充実度(40%)、中間報告・口頭試問(30%)、演習への参加態度(30%)で総合的に評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月中旬に、本専攻の教員が主査・副査となり卒業論文審査会(口頭試問)を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。							
履修条件・注意事項	指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。各自の研究テーマに応じて、文献や資料を指定する。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒業論文審査会(2月中旬)に必ず出席すること。							
自己学習	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日5限をオフィスアワーの時間とする。							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画				授業方法	担当者
			1. 研究テーマと学術的背景	演習	大下(浩)			
			2. 先行研究・課題文献の講読報告(1)	演習	大下(浩)			
			3. 先行研究・課題文献の講読報告(2)					
			4. 文献・資料・データの収集と分析(1)	演習	大下(浩)			
			5. 文献・資料・データの収集と分析(2)	演習	大下(浩)			
			6. 文献・資料・データの収集と分析(3)	演習	大下(浩)			
			7. 文献・資料・データの収集と分析(4)	演習	大下(浩)			
			8. 卒業研究の中間報告	演習	大下(浩)			
			9. 論文の見直し(1) はじめと結語	演習	大下(浩)			
			10. 論文の見直し(2) 本論の推敲	演習	大下(浩)			
			11. 論文の見直し(3) 結論の推敲	演習	大下(浩)			
			12. 口頭発表の資料作成	演習	大下(浩)			
			13. 研究発表(1)	演習	全員			
			14. 研究発表(2)	演習	大下(浩)			
			15. プレゼンテーション予行・口頭試問対策	演習	大下(浩)			
			16. 卒論審査(口頭試問)	演習	大下(浩)			
				演習	大下(浩)			
				演習	大下(浩)			
				演習	大下(浩)			
				演習	大下(浩)			
				演習	大下(浩)			
				試験	全員			
教科書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。							
教科書 2								
参考書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。							
参考書 2								

授業科目名	卒業研究Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	加藤 健次					NO.	FS-FS-4-810
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科では、留学、インターンシップ、本専攻の専門科目を通して感動、関心をもったことをテーマ設定し、先行研究や論文などを調査し、成果を卒業論文にまとめる。卒業研究Ⅱでは、受講生は、卒業研究Ⅰにおいて設定した研究テーマについて、論文の書き方、発表の仕方、議論の運び方などを学ぶ。また、自らの見解や議論を簡潔に分かりやすく説明する力や論理的思考、問題解決力、実社会に有用なスキル等を習得できる。						
概要	卒業論文の執筆と同時並行して、口頭発表の方法や技法についても指導する。研究のみならず、企業においても、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、分かりやすい説明で発表したりする力が求められるだろう。実際に、日本と世界を取り巻く社会的問題と自己の生活の中にある諸問題とその解決を研究課題として理解し、図表やマトリックスなどを活用しながら、卒業論文を完成させる。本演習では、必要に応じて、課題文献の講読報告、グループディスカッション、グループワークなどを行う。受講生は互いに学び合い、様々な知識を共有しながら、卒業論文の完成を目指してもらいたい。						
評価方法	研究内容の充実度(40%)、中間報告・口頭試問(30%)、演習への参加態度(30%)で総合的に評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月中旬に、本専攻の教員が主査・副査となり卒業論文審査会(口頭試問)を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
履修条件・注意事項	指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。各自の研究テーマに応じて、文献や資料を指定する。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒業論文審査会(2月中旬)に必ず出席すること。						
自己学習	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスワ-	毎週水曜日3限目(1号棟2階 123研究室)						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			1. 研究テーマと学術的背景 2. 先行研究・課題文献の講読報告(1) 3. 先行研究・課題文献の講読報告(2) 4. 文献・資料・データの収集と分析(1) 5. 文献・資料・データの収集と分析(2) 6. 文献・資料・データの収集と分析(3) 7. 文献・資料・データの収集と分析(4) 8. 卒業研究の中間報告 9. 論文の見直し(1)はじめと結語 10. 論文の見直し(2)本論の推敲 11. 論文の見直し(3)結論の推敲 12. 口頭発表の資料作成 13. 研究発表(1) 14. 研究発表(2) 15. プレゼンテーション予行・口頭試問対策 16. 卒論審査(口頭試問)	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 全員 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 全員		
教科書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
参考書 2							

授業科目名	卒業研究Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	佐藤 匡					NO.	FS-FS-4-810
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科では、留学、インターンシップ、本専攻の専門科目を通して感動、関心をもったことをテーマ設定し、先行研究や論文などを調査し、成果を卒業論文にまとめる。卒業研究Ⅱでは、受講生は、卒業研究Ⅰにおいて設定した研究テーマについて、論文の書き方、発表の仕方、議論の運び方などを学ぶ。また、自らの見解や議論を簡潔に分かりやすく説明する力や論理的思考、問題解決力、実社会に有用なスキル等を習得できる。						
概要	卒業論文の執筆と同時並行して、口頭発表の方法や技法についても指導する。研究のみならず、企業においても、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、分かりやすい説明で発表したりする力が求められるだろう。実際に、日本と世界を取り巻く社会的問題と自己の生活の中にある諸問題とその解決を研究課題として理解し、図表やマトリックスなどを活用しながら、卒業論文を完成させる。本演習では、必要に応じて、課題文献の講読報告、グループディスカッション、グループワークなどを行う。受講生は互いに学び合い、様々な知識を共有しながら、卒業論文の完成を目指してもらいたい。						
評価方法	研究内容の充実度(40%)、中間報告・口頭試問(30%)、演習への参加態度(30%)で総合的に評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月中旬に、本専攻の教員が主査・副査となり卒業論文審査会(口頭試問)を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
履修条件・注意事項	指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。各自の研究テーマに応じて、文献や資料を指定する。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒業論文審査会(2月中旬)に必ず出席すること。						
自己学習	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスワ-	岡山キャンパス131研究室:春 月曜日2時限目 秋 火曜日4時限目 高梁キャンパス254研究室:春 火曜日4時限目 秋 金曜日2時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマと学術的背景 2. 先行研究・課題文献の講読報告(1) 3. 先行研究・課題文献の講読報告(2) 4. 文献・資料・データの収集と分析(1) 5. 文献・資料・データの収集と分析(2) 6. 文献・資料・データの収集と分析(3) 7. 文献・資料・データの収集と分析(4) 8. 卒業研究の中間報告 9. 論文の見直し(1) はじめと結語 10. 論文の見直し(2) 本論の推敲 11. 論文の見直し(3) 結論の推敲 12. 口頭発表の資料作成 13. 研究発表(1) 14. 研究発表(2) 15. プレゼンテーション予行・口頭試問対策 16. 卒論審査(口頭試問) 	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 全員 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 全員		
教科書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							

授業科目名	卒業研究Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	高木 秀明					NO.	FS-FS-4-810
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科では、留学、インターンシップ、本専攻の専門科目を通して感動、関心をもったことをテーマ設定し、先行研究や論文などを調査し、成果を卒業論文にまとめる。卒業研究Ⅱでは、受講生は、卒業研究Ⅰにおいて設定した研究テーマについて、論文の書き方、発表の仕方、議論の運び方などを学ぶ。また、自らの見解や議論を簡潔に分かりやすく説明する力や論理的思考、問題解決力、実社会に有用なスキル等を習得できる。						
概要	卒業論文の執筆と同時並行して、口頭発表の方法や技法についても指導する。研究のみならず、企業においても、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、分かりやすい説明で発表したりする力が求められるだろう。実際に、日本と世界を取り巻く社会的問題と自己の生活の中にある諸問題とその解決を研究課題として理解し、図表やマトリックスなどを活用しながら、卒業論文を完成させる。本演習では、必要に応じて、課題文献の講読報告、グループディスカッション、グループワークなどを行う。受講生は互いに学び合い、様々な知識を共有しながら、卒業論文の完成を目指してもらいたい。						
評価方法	研究内容の充実度(40%)、中間報告・口頭試問(30%)、演習への参加態度(30%)で総合的に評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月中旬に、本専攻の教員が主査・副査となり卒業論文審査会(口頭試問)を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
履修条件・注意事項	指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。各自の研究テーマに応じて、文献や資料を指定する。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒業論文審査会(2月中旬)に必ず出席すること。						
自己学習	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスワ-	金曜日2時限114研究室にて実施。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			1. 研究テーマと学術的背景 2. 先行研究・課題文献の講読報告(1) 3. 先行研究・課題文献の講読報告(2) 4. 文献・資料・データの収集と分析(1) 5. 文献・資料・データの収集と分析(2) 6. 文献・資料・データの収集と分析(3) 7. 文献・資料・データの収集と分析(4) 8. 卒業研究の中間報告 9. 論文の見直し(1) はじめと結語 10. 論文の見直し(2) 本論の推敲 11. 論文の見直し(3) 結論の推敲 12. 口頭発表の資料作成 13. 研究発表(1) 14. 研究発表(2) 15. プレゼンテーション予行・口頭試問対策 16. 卒論審査(口頭試問)			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 高木 全員
教科書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
参考書 2							

授業科目名	卒業研究Ⅱ				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	高橋 正巳					NO.	FS-FS-4-810
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	外国学科では、留学、インターンシップ、本専攻の専門科目を通して感動、関心をもったことをテーマ設定し、先行研究や論文などを調査し、成果を卒業論文にまとめる。卒業研究Ⅱでは、受講生は、卒業研究Ⅰにおいて設定した研究テーマについて、論文の書き方、発表の仕方、議論の運び方などを学ぶ。また、自らの見解や議論を簡潔に分かりやすく説明する力や論理的思考、問題解決力、実社会に有用なスキル等を習得できる。						
概要	卒業論文の執筆と同時並行して、口頭発表の方法や技法についても指導する。研究のみならず、企業においても、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、分かりやすい説明で発表したりする力が求められるだろう。実際に、日本と世界を取り巻く社会的問題と自己の生活の中にある諸問題とその解決を研究課題として理解し、図表やマトリックスなどを活用しながら、卒業論文を完成させる。本演習では、必要に応じて、課題文献の講読報告、グループディスカッション、グループワークなどを行う。受講生は互いに学び合い、様々な知識を共有しながら、卒業論文の完成を目指してもらいたい。						
評価方法	研究内容の充実度(40%)、中間報告・口頭試問(30%)、演習への参加態度(30%)で総合的に評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月中旬に、本専攻の教員が主査・副査となり卒業論文審査会(口頭試問)を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
履修条件・注意事項	指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。各自の研究テーマに応じて、文献や資料を指定する。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒業論文審査会(2月中旬)に必ず出席すること。						
自己学習	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスワ-	1号棟2階の124研究室にて、毎週月曜日4限目。						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマと学術的背景 2. 先行研究・課題文献の講読報告(1) 3. 先行研究・課題文献の講読報告(2) 4. 文献・資料・データの収集と分析(1) 5. 文献・資料・データの収集と分析(2) 6. 文献・資料・データの収集と分析(3) 7. 文献・資料・データの収集と分析(4) 8. 卒業研究の中間報告 9. 論文の見直し(1) はじめと結語 10. 論文の見直し(2) 本論の推敲 11. 論文の見直し(3) 結論の推敲 12. 口頭発表の資料作成 13. 研究発表(1) 14. 研究発表(2) 15. プレゼンテーション予行・口頭試問対策 16. 卒論審査(口頭試問) 			演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 試験	高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 全員 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 全員
教科書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
教科書 2							
参考書 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。						
参考書 2							

授業科目名	教育実習 I				履修期	2020年度 春学期～秋学期	
担当者	池上 真由美、大下 浩司、倉知 典弘、森井 康幸					NO.	TC-FS-4-916
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	実習
テーマと到達目標	テーマは「学校における教育実習」であり、到達目標は、教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。						
概要	<p>教育実習は、教員免許取得のための必修科目であり、中学校、または高等学校での実習を通して、大学で学んできた知識や技術を現場における実際の教育活動と結びつけるためのものである。そのために、2週間にわたる実数期間中に、授業実習のみならず、学校はどんな活動をするところか、教師はどんな仕事をしているのか、生徒の実態はどうか、授業はどのように行われているのかなどについて、観察したり、参加したりしなくてはならない。</p> <p>実習期間は実習校によって違いがあるが、基本的には6月を中心とした3週間である。</p> <p>学校での実習終了後、大学で事後指導としての授業もあるので、実施日時・場所についての掲示には注意すること。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	実習校からの成績評価(70%)、実習日誌・最終レポート(20%)、事前説明会及び事後反省会等への出席態度(10%)により評価する。						
履修条件・注意事項	3年次に行われる「教育実習指導」の単位の他、学生便覧で指示してある授業科目の単位を取得していない者は実習に参加できない。また、教職志望意識の低い者、大学での学業成績が全般に著しく低い者も実習を辞退していただく。実習校での事前打ち合わせがある場合もあるので注意しておくこと。						
自己学習	実習前から、しっかりと教材研究等を行っておくこと。 また、模擬授業・マイクロティーチングなども経験しておくこと。						
オフィスワ-	木曜3限						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
6月を中心に2週間。	実習	各実習校の指導担当教諭 (森井・池上・倉知)					
教科書 1							
教科書 2							
参考書 1	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編 著者:文部科学省 出版社:開隆館出版販売 ISBN:4304051784						
参考書 2	中学校学習指導要領解説 外国語編 著者:文部科学省 出版社:開隆館出版販売 ISBN:978-4304042102						

授業科目名	教育実習Ⅱ				履修期	2020年度 春学期～秋学期		
担当者	池上 真由美、大下 浩司、倉知 典弘、森井 康幸					NO.	TC-FS-4-917	
配当学科	外国				年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	60	授業形態	実習	
テーマと到達目標	テーマは「学校における教育実習」であり、到達目標は、教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。							
概要	<p>教育実習は、教員免許取得のための必修科目であり、中学校、または高等学校での実習を通して、大学で学んできた知識や技術を現場における実際の教育活動と結びつけるためのものである。そのために、2週間にわたる実数期間中に、授業実習のみならず、学校はどんな活動をするところか、教師はどんな仕事をしているのか、生徒の実態はどうか、授業はどのように行われているのかなどについて、観察したり、参加したりしなくてはならない。</p> <p>実習期間は実習校によって違いがあるが、基本的には6月を中心とした3週間である。</p> <p>学校での実習終了後、大学で事後指導としての授業もあるので、実施日時・場所についての掲示には注意すること。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>							
評価方法	実習校からの成績評価(70%)、実習日誌・最終レポート(20%)、事前説明会及び事後反省会等への出席態度(10%)により評価する。							
履修条件・注意事項	<p>中学校の教員免許状取得希望者には必修である。</p> <p>教育実習Ⅰと併せて、連続3週間となることが多い。</p> <p>3年次に行われる「教育実習指導」の単位の他、学生便覧で指示してある授業科目の単位を取得していない者は実習に参加できない。また、教職志望意識の低い者、大学での学業成績が全般に著しく低い者も実習を辞退していただく。</p> <p>実習校での事前打ち合わせがある場合もあるので注意しておくこと。</p>							
自己学習	実習前から、しっかりと教材研究等を行っておくこと。 また、模擬授業・マイクロティーチングなども経験しておくこと。							
オフィスワ-	木曜日3限							
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画			授業方法	担当者	
6月下旬を中心に2週間。	実習	各実習校の指導担当教諭 (森井・池上・倉知)						
教科書1								
教科書2								
参考書1	<p>高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編 著者:文部科学省 出版社:開隆館出版販売 ISBN:4304051784</p>							
参考書2	<p>中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 著者:文部科学省 出版社:開隆館出版販売 ISBN:4304051695</p>							

授業科目名	教職実践演習(中・高)				履修期	2020年度 秋学期	
担当者	池上 真由美、大下 浩司、金沢 真弓、森井 康幸					NO.	TC-FS-4-918
配当学科	外国			年次	4		
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
テーマと到達目標	これまでの学生の履修状況をふまえ、教師として必要な知識、技能の補完がテーマである。到達目標は、教師らしくなることである。						
概要	<p>以下の3点を中心に、学校や教育委員会の先生方の協力のもと、講義、討議、ロールプレイングなどを行いながら演習を進める。なお、学外見学を実施することもあり得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習を振り返り、総括するとともに、教師として必要な資質能力、自分に不足している資質能力等について討議・検討する。 2. クラス運営やPTA活動などの学校教育の諸活動のあり方について実践的に学ぶ。 3. 教科の指導に必要な知識・技能などを見直し、力量向上のための取り組みを検討する。 <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、学校教育において教員としての実務経験を持つ方々が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
評価方法	評価は受講態度(討議などへの参加状況など;30%)と課題レポート・模擬授業(70%)の評価による。						
履修条件・注意事項	教育実習を終えていることが基本要件であり、将来、教職に就くという強い意志を持っている学生のみが対象の演習である。外部講師の方の都合により、授業日程が変わることもあるので、注意すること。教職カルテを持参すること。						
自己学習	教職に就こうとする自覚と向上心を高めるべく、すべての面での学修に真剣に取り組むこと。4月から教師として勤められるように、自分に不足する資質・能力を向上させるように自己陶冶に努めること。課題レポート等の作成(4時間以上必要)により、教育現場での活動についての理解を深めること。						
オフィスワ-	金曜昼休み、事務室または113研究室						
春学期授業計画	授業方法	担当者	秋学期授業計画	授業方法	担当者		
			(1) オリエンテーション (2) 教師の職務と学校現場の課題(外部) (3) 学校の安全管理(外部) (4) 学級づくりと生徒への対応(外部) (5) 教育実習を振り返る (6) 学級経営案の作成(外部) (7) 特別支援教育の現状と実際(外部) (8) いじめ・不登校への対策 (9) 教材研究(外部) (10) 国際バカロレア(外部) (11) 進路指導(外部) (12) 道徳教育の問題 (13) 模擬授業と授業研究1 (14) 模擬授業と授業研究2 (15) 自己教育課題の総括 (16) レポート試験	講義 講義 講義 講義演習・AL 講義 講義 講義 講義 講義 講義 演習 演習 演習 演習 試験	全担当者 外部・森井 外部・森井 森井・大下 森井 外部・森井 外部・森井 森井・学内 外部・森井 外部・森井 外部・森井 森井・学内 全担当者 全担当者 全担当者 池上		
教科書 1	適宜、資料を配付する。						
教科書 2							
参考書 1							
参考書 2							